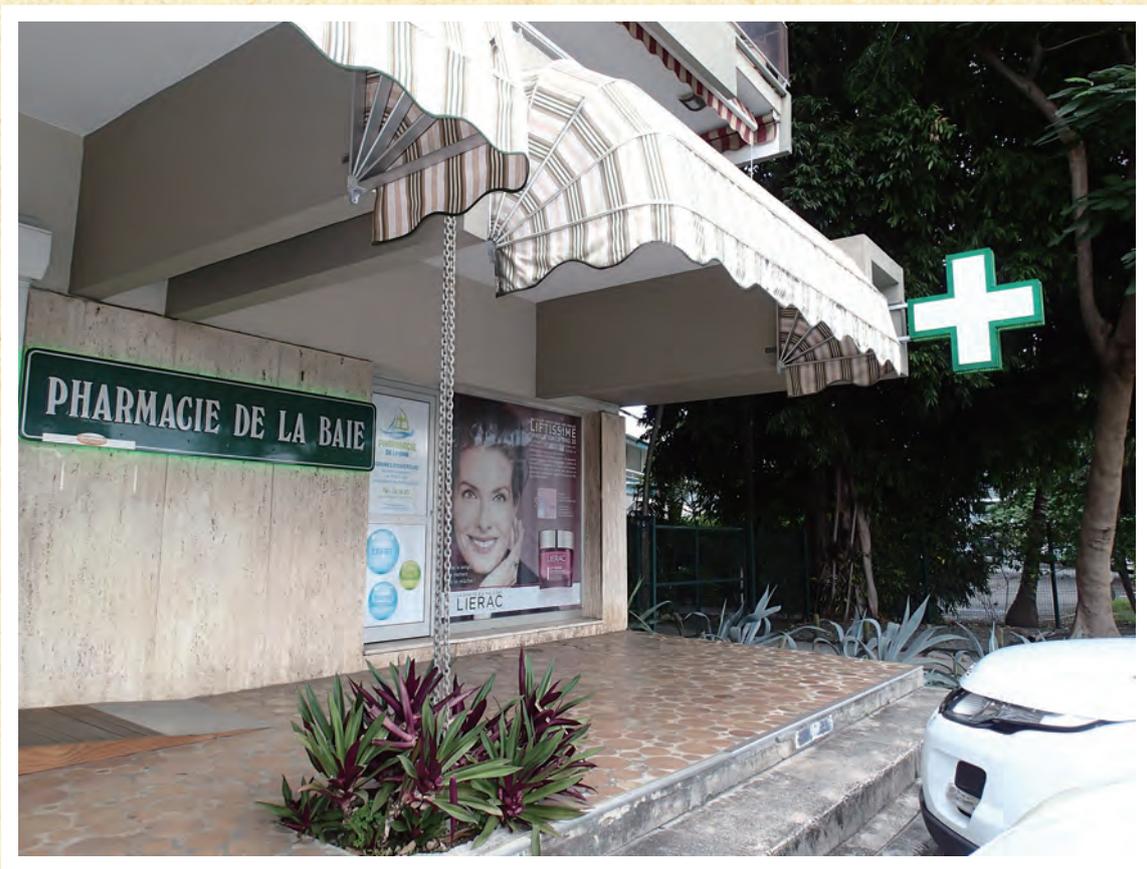




沖縄県薬剤師会報

No.293. 2018(平成30年) 6・7・8月号



沖縄県薬剤師会

転載記事	琉球大に薬学部創設を要望 沖縄県薬など4師会が連名で	(16)
	薬学部創設へ10万筆 県薬剤師会 琉大に署名提出	(17)
	県内国公立大に薬学部創設 署名10万筆余提出 県薬剤師会、琉球大に	(18)
	地元薬学部を！～創設求め署名活動～	(19)
	沖縄県薬、琉球大に薬学部新設を求める署名提出	(20)
	人工10万人当たり薬剤師数が全国最下位の沖縄県	(21)
	理想に向かう薬剤師	吉田 洋史 (150)
	従軍の祖父思い追悼 殉職医療人碑で参拝	(151)
	薬剤師や医師ら 殉職医療人追悼	(151)
	後発薬、沖縄使用1位 厚労省、医療費抑制狙う	(152)
会員作品	利用前に医師・薬剤師へ相談 健康食品を服用 体に合わず返品	(152)
	誌上ギャラリー（裏表紙）について	(153)
編集後記		(153)
お知らせ	地区・支部・部会からの原稿をお寄せ下さい！	(69)
	会報原稿募集のご案内	(133)
	会員にかかる弔事に関する薬剤師会への連絡について	(141)

薬剤師綱領

一 薬剤師は国から付託された資格に基き、医薬品の製造、調剤、供給において、その固有の任務を遂行することにより、医薬水準の向上に資することを本領とする

一 薬剤師は広く薬事衛生をつかさどる専門職としてその職能を発揮し、国民の健康増進に寄与する社会的責務を担う

一 薬剤師はその業務が人の生命健康にかかわることに深く思いを致し、絶えず薬学、医学の成果を吸収して、人類の福祉に貢献するよう努める。

日本薬剤師会

沖縄県内の国公立大学に薬剤部の創設を求める署名活動 御 礼

会 長 亀 谷 浩 昌
役 員 一 同

この度は、沖縄県内の国公立大学に薬学部の創設を求める署名活動にご協力賜り厚く感謝申し上げます。寄せられた署名は目標の5万を大きく超えて10万2千筆余りになりました。短期間にこれほどの筆数が集ったのは会員の皆様をはじめ多くの企業・団体、県民の皆様の思いを示したものでないでしょうか。集った署名は要望書と共に6月13日に多くのマスコミ関係者の見守る中、医療4団体同席の下、本会から琉球大学学長にお届けしました。

医薬分業が始まった頃と比較して、薬物治療における薬剤師の役割は大きく広がると共に重要になっています。高度な薬物治療に対応出来るレベルの高い薬剤師を市中に多く供給する策が必要と考えます。これにより、くすりを安全・効率的に使う薬物治療学の発展が加速され、医療の質向上に繋がるものと想われます。また、くすりを上手に使うことは医療費の節減にもなります。

国公立大学の新学部創設には規制緩和の声が高まっている昨今の状況とは逆に高い壁がありますが、県民が要望し、行政、議会、大学当局と関係団体が力を合わせて国に働きかければ道は必ず拓けると思っています。

これからも、応援の程どうぞよろしくお願い致します。

沖縄県内の国公立大学への薬学部創設を求める署名活動報告

県内への薬学部創設を求め活動する中、平成29年12月9日の理事会にて「沖縄県内の国公立大学への薬学部の創設を求める署名活動」を行うことが決議された。沖縄県医師会、沖縄県歯科医師会、沖縄県看護協会より連名での同署名活動の賛同を得て、当初は5万筆の署名目標を掲げて平成30年1月15日から3月30日までを署名活動期間として署名の呼びかけを開始した。その後、関係団体・企業より決算等の繁忙期のため署名活動期限を4月以後まで延ばしてほしい旨の要望が多かったことから期限を4月27日まで延長した。

一般県民を始めとして県内の大手・中小企

業、経営者協会、幼小中高、PTA連合会、各自治体・自治会、各種団体等に対して署名の協力依頼を行った。すべての訪問先からは子供たちのためであり沖縄県の医療発展のために協力することを約束して頂いた。

当初は目標の5万筆の達成に不安を感じていたが、亀谷会長、前濱副会長が地元新聞の論壇へ薬学部県内設置の必要性を訴えた投稿に加え本会の署名活動がマスコミ等に取り上げられると、高い学費と生活費で子供に薬学部進学を断念させたことのあるご父兄や県内に薬学部が無いことを知らなかった方等から応援と協力したい旨の電話が多く寄せられ、

署名が4万筆を超えてきた。

4月10日に沖縄県庁記者会見室にて三師会（薬剤師会、医師会、歯科医師会）会長が「沖縄県内の国公立大学への薬学部創設に向けて」記者発表をしたことで、一気に目標の5万筆を超えて倍の10万筆を超えた。

平成30年6月13日に琉球大学本館第一会議室にて四師会（薬剤師会、医師会、歯科医師会、看護協会）で、琉球大学への薬学部創設を求める署名用紙10万1,660筆をマスコミ各

社が同席する中、琉球大学大城学長に要請書とともに提出した。

本会会員で、一人で5000筆余り集めた会員や一般県民で1000筆余り集めて頂いた方もいた。

あらためてご協力頂いた本会会員、沖縄県医師会、沖縄県歯科医師会、沖縄県看護協会をはじめ各企業・団体等そして県民の皆様に厚く感謝を申し上げます。

（文：事務局次長 山城 英人）

<署名活動詳細>

平成29年12月9日

沖縄県薬剤師会理事会にて、「沖縄県内の国公立大学への薬学部の創設を求める署名」を行っていくことが決議された。

平成29年12月下旬

沖縄県医師会、沖縄県歯科医師会、沖縄県看護協会に、同署名活動への協力を依頼。

平成29年12月21日

亀谷会長執筆の薬学部創設に向けての広報文が琉球新報に掲載された。

平成30年1月13日

沖縄県薬剤師会理事会にて、沖縄県医師会、沖縄県歯科医師会、沖縄県看護協会が連名にて同署名活動を賛同する旨が報告された。署名活動期間を3月30日までと設定。

平成30年1月15日

署名の呼びかけ開始。

平成30年3月8日

前濱副会長執筆の薬学部創設に向けての広報文が沖縄タイムスに掲載された。

平成30年 3月

署名協力の関係団体・企業より、決算等の忙しい時期のため署名活動期限を4月以後に延ばしてほしい旨の要望が多かったことから、4月27日に再設定。

平成30年4月10日

沖縄県庁記者会見室にて三師会（薬剤師会、医師会、歯科医師会）会長が「沖縄県内の国公立大学への薬学部創設に向けて」記者発表。

平成30年6月13日

琉球大学本館第一会議室にて四師会（薬剤師会、医師会、歯科医師会、看護協会）で、琉球大学への薬学部創設を求める署名用紙10万1,660筆を大城学長に要請書とともに提出。

平成30年7月13日時点

署名10万2,876筆

転載記事

琉球新報 2017年12月21日

計画の中には「沖縄の天然資源利用による創薬研究」がある。琉球大学に薬学部（科）が創設されれば「医薬協働」により相乗効果が得られ、効率的な研究体制ができると考えられる。全人口のうち高齢者が21%を超え「超高齢社会」を迎

西普天間返還跡地に検討されている国際医療拠点構想の中に「高度医療・研究機能の拡充」「地域医療水準の向上」「国際研究交流・医療人材育成」の三つの柱が掲げられている。同地区への琉球大学医学部および同付属病院移転整備基本



亀谷 浩昌

論壇

え、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができれば、地域の包括的な支援・サービス提供を目的とした「地域包括ケアシステム」の整備を国は急いでおり、その

琉球大学に薬学部を

人材不足補い学術向上へ

の中で薬物療法を支える薬剤師の役割は大きい。しかし、離島県である本県の薬剤師数は人口10万人当たり全国平均の170人に対し、沖縄県は131人であり、これは全国平均の76%であり全国最下位

662人に対し、国公立大学は17校で定員746人である。九州には国立大学は3校しか無く、定員はわずかに125人である。大多数が私立大学に進学するが、ネット調べると6年間の平均授業料は国公立大学の350万円に対し、私立大学は1200万円と高額である。

その他に生活費などもかかるので、県民所得が低い沖縄の保護者にとって負担は相当に重いものと思われる。県内に薬学部（科）があれば保護者の経済的な負担が軽くなるだけでなく、逆に、県外から優秀な人材が入り沖縄県の学術水準の向上につながるのではないだろうか。

（那覇市、沖縄県薬剤師会会長、68歳）

転載記事

平成30年3月8日(木) 沖縄タイムス

論壇



前濱 朋子

諸外国に例を見ないスピードで高齢化が進んでいる日本ですが、沖縄県も例外ではありません。2025年には約4人に1人が65歳以上高齢者となり、高齢化率が21%を超える超高齢化社会になると予想されています。県民の医療・介護の需要がさらに増加することが見込まれ

に示された「かかりつけ」としての機能と役割を発揮し、地域包括ケアシステムの構築に貢献していくことが求められています。具体的な薬剤師の役割は、多職種（医師・看護師・介護士など）や関連機関と連携を取りつつ患者宅へ向き、薬に関するあらゆる業務（残薬の整理、

答えるのが困難であるというのが本県の状況です。近年、薬物療法の発展はめざましく、医療の中で重要度を増しています。しかし、効果が良くなる反面、副作用や飲み合わせによる弊害もあるので注意深く使わなければなりません。お薬は服用した後が大事な

安心・安全な薬物療法に貢献していきたいと考えています。そのためにも、薬剤師の人材をしっかりと確保していただくよう県行政に積極的に訴えています。薬剤師確保策の一つとして、県内に薬剤師養成校の設置があります。県薬剤師会では琉球大学に薬学部（科）創設を最優先目標に、県内国公立大学への薬学部（薬学科）の創設を強く要望しています。その手段の一つとして、県民の熱意を示すべく署名活動を展開しています。署名用紙は薬剤師会ほか地域の薬局に備え付けてあります。

薬剤師養成校 設置願う 県内医療支える人材確保へ

る中、高齢者単独世帯も増加し続け、家庭内介護力は弱まっていくことが予想されています。このため、厚生労働省では25年をめどに、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進しています。

重複投与薬の整理、処方提案など）を行います。このような業務を担う薬剤師ですが、離島県である本県は、人口10万人当たりの薬剤師数は全国最低であり、本島北部地域や離島においてはさらに深刻です。地域包括ケアでの役割をしっかりと果たしたいのですが、薬剤師の確保が難しく、要請にお

です。薬局でお薬をもらってから次の受診日まで、しっかりと見守られなければなりません。この役割を果たすのにぴったりなのが「かかりつけ薬剤師」です。私たち薬剤師は、日進月歩の薬剤の進化に対応すべく、もっと生涯教育に時間を割き、薬局の内外において職能を発揮し、

離島県であるがための医療の地域格差をなくすため、また、県内の高校生の進路の選択の幅を広げることにもなります。薬剤師養成校の県内設置へのご理解、ご協力をお願いします。（那覇市、県薬剤師会副会長、54歳）

「患者のための薬局ビジョン」

この中で、薬剤師と薬局には

この中で、薬剤師と薬局には

この中で、薬剤師と薬局には

転載記事

平成30年7月31日(火) 沖縄タイムス

論壇



大浦 孝

琉球大学に薬学部を創設する機運が高まり、関係分野で署名運動が完了し目標の5万人を突破し10万人以上に達しました。斯界に身を置き重大な関心を持つ者として若干の私見を述べたい。関係者の参考となり、建設的な意見が続出して、世論が国を動かす構図を展望するものです。沖縄にその潜在能力(ポテ

われた、1804年の紀州和歌山の医師、華岡青洲の乳がん手術よりさかのぼること115年前になります。全身麻酔下で口唇裂の形成手術を行いました。麻酔薬は朝鮮朝顔より抽出した秘薬ですが、恩師である中国人医師・黄会友との約束で一代限りの秘術であったためその処方

でひそかに教えを受けました。国禁を犯しても習得する価値があると彼は分かっていたのです。紀仁は教えられた通り雌牛の腫瘍からワクチンを作り、48年に島民の子供に接種して天然痘の予防に成功しました。

現在製薬業界は世界的規模で熾烈な競争時代にあります。多国籍企業が莫大な資本を投入し新薬の開発にしのぎを削っています。一例として遺伝子操作によるバイオ製剤が毎年、多種類開発され、さらに進化させ、古きは消えて行きます。超高価格製剤は国家予算にも影響を及ぼしてあります。国家百年の計は教育にあり。薬学部を創設することにより、薬剤師を育て、研究者を育て、沖縄の天然資源を活用した創薬へ発展させるシステムを構築することにより日本の拠点になりうるものと信じます。医薬連携研究拠点整備により、①医療人材の確保・医療レベルの向上②医療費の抑制③健康寿命の回復④特許等による財源の確保⑤海外への輸出等による国際貢献と循環します。

薬学部設立 沖縄に貢献

天然資源生かし創薬を

ンシャリテイ)があり、創設、維持、管理、発展、成果が期待できるか歴史をひもときました。

1981年、弘前大学・松本明知氏は、日本最初の全身麻酔医手術は、1689年、琉球の医師、高嶺徳明によって行われたと発表し、医学会の注目を浴びました。これまで日本初とい

1846年に来琉した英国の宣教師ベッテルハイムは西洋医学を伝授しようとしたが、王府はキリスト教布教を固く禁じていたため、彼を監視下に置き島民と接触させないようにしました。しかし彼が種痘法を知っていると聞いた仲地紀仁は、監視の目をくぐってベッテルハイムに会いに行き、海岸の洞窟

来の医学部の一部署、病院内一薬局であり、特定の研究テーマを追求したり、医師が発行した処方箋を確認し調査する日常業務に留まります。大規模基盤的最先端研究を行うには財源、人材、設備、情報伝達が不十分で限界に達しています。医学部に並列した薬学部が創設されれば新しい医学・薬学・医療環境が

沖縄県の社会資源となります。現在製薬業界は世界的規模で熾烈な競争時代にあります。多国籍企業が莫大な資本を投入し新薬の開発にしのぎを削っています。一例として遺伝子操作によるバイオ製剤が毎年、多種類開発され、さらに進化させ、古きは消えて行きます。超高価格製剤は国家予算にも影響を及ぼしてあります。国家百年の計は教育にあり。薬学部を創設することにより、薬剤師を育て、研究者を育て、沖縄の天然資源を活用した創薬へ発展させるシステムを構築することにより日本の拠点になりうるものと信じます。医薬連携研究拠点整備により、①医療人材の確保・医療レベルの向上②医療費の抑制③健康寿命の回復④特許等による財源の確保⑤海外への輸出等による国際貢献と循環します。

(那覇市、おおうらクリニック理事長、内科医、72歳)

※発行元が記事利用を許諾しています。

転載記事

平成30年3月6日(火) 沖縄タイムス

薬学部求め署名活動 県薬剤師会、人材定着図る



自治会長の会合で、薬学部創設の意義を訴える県薬剤師会の亀谷浩昌会長（後方中央）ら。2日、那覇市役所首里支所



琉球大学を念頭に薬学部
の県内創設を訴えてきた県
薬剤師会（亀谷浩昌会長）

は県医師会、県歯科医師会、
県看護協会との4者連名で
県内国公立大学への薬学部
(科)創設を求める署名活
動を1月下旬から行ってい
る。沖縄は人口10万人当
りの薬剤師数が都道府県別
で最も少なく、薬剤師会は
「地元での薬剤師養成が、
人材の定着や創薬研究企業
の進出にもつながる」と強
調する。

2月末までに集まった署
名は約6千筆で、さらに幅
広い賛同を得た上で国や
県、大学機関などへ要請す
る方針だ。

会が学部創設の効果とす
るのは①医学・薬学の研究
に相乗効果が得られ、医療
水準の向上や医療関連企業
の創設・進出が活発化②県
外からも優秀な人材が入学
し、薬学研究水準の向上に
寄与③などの6項目。

厚生労働省の2年ごとの
調査によると、2016年
12月末現在の人口10万人当
りの薬剤師数は134人
で全国平均181人の7割
余。徐々に増えているとは
いえ、調査では3回連続で
全国最少だ。

現状では県外の薬学系大
学を卒業するとそのまま県
外で就職するケースが多
く、離島や本島北部地域の
人材不足はさらに深刻とい
う。

「薬学部の6年間の学費
は県外私立大学で平均12
00万円だが、県内の国公
立大学に学部ができれば3
60万円。親や本人の負担
も軽減する」。2日、那覇
市役所首里支所であった自
治会長約40人の会合で、亀
谷会長は資料を基に署名へ
の協力を要望。「優秀な人
材を県内で養成し、定着し
てもらうことが医療水準の
地域格差解消や医療費抑
制の近道にもなる」と訴え
た。

署名は3月末締め切り。
問い合わせは県薬剤師会、
電話098(963)89
30、ファクス098(9
63)8932。

転載記事

平成30年4月9日(月) 琉球新報



県PTA連合会理事会で、薬学部創設の意義を訴える県薬剤師会の亀谷浩昌会長(3月)(同会提供)

薬剤師全国最少

「薬学部創設を」 署名活動延長

薬剤師不足解消のため、県内に薬学部を。県内の国公立大学への薬学部・学科の創設を求め、県薬剤師会が県医師会、県歯科医師会、県看護協会と連名で1月から署名活動を行っている。署名期間は当初、3月末を予定していたが、4月末まで延長した。沖縄には薬剤師養成の大学はなく、人口10万人当たりの薬剤師数が全国で最も少ない。同会は学部創設で人材確保だけでなく、さまざまな効果があると賛同を呼び掛ける。

「かかりつけ薬剤師が地域で活躍すれば、病気を防いで医療費を抑えられる。超高齢社会を迎えると、役割はますます大きくなる」。県薬剤師会の亀谷浩昌会長が強調する。国は、高齢になっても住み慣れた地域で暮らし続けられるよう「地域包括ケアシステム」の構築を進める。薬剤師の役割は重視されるものの、県内では慢性的な人材不足に悩まされている。

厚生労働省によると、2016年12月末時点で、人口10万人当たりの薬剤師数は全国平均が181人に対し、沖縄は134人と最も少ない。同会は薬剤師を対象に無料職業

不足解消し医療費抑制

紹介を実施しているが、求職に訪れる人は慢性的に少ないという。責任者の大城喜仁さんによると、県出身者が県外大学を卒業し薬剤師になると、そのまま本土で就職するケースが多い。大城さんは「ここ10年は特に人材不足で、離島や本島北部地域はさらに深刻だ」と危機感を募らせる。

国公立にこだわるのは、経済的な負担を考慮しているためだ。亀谷会長によると、私立大学の学費は6年間で平均1200万円にもなる。一方で、国公立大はその3分の1以下といい「県外からも優秀な人材が入り、県内の研究水準向上にもつながる」と期待を寄せる。

県も、人材不足の認識を持つ。県議会2月定例会で、県内に薬剤師を養成する大学がないことを問われ、県保健医療部の砂川靖部長は「薬学部設置は、薬剤師不足解消のための一助となる可能性がある」と答弁。県薬剤師会などの動向を注視し、課題の洗い出しをしていく考えを示した。

同会は医療や教育関係者らを取り、4月4日時点で約4万筆が集まった。問い合わせは同会 ☎098(963)8930。

平成30年2月19日(月) 琉球新報

県内に薬学部創設を 県薬剤師会が署名運動

県内の国公立大学への薬学部・学科の創設を求め、県薬剤師会が1月下旬から署名活動を行っている。同会によると、沖縄は人口10万人当たりの薬剤師数が全国最下位で、北部や離島は特に人材確保が難しい。県内で薬剤師の養成ができれば、県外からも優秀な人材が入ってくるなどの効果が

あると期待する。医療団体や医療関係者を中心に署名を集めており、それ以外にも賛同する人へ広く呼び掛けている。3月まで署名を募り、琉球大と名桜大、県に届ける方針。

県薬剤師会の亀谷浩昌会長は「県外私大の薬学部に進学すると、経済的な負担が大きい。地元で養成できれば、優秀な人材を確保しやすい」と述べた。問い合わせは同会 ☎098(963)8930。

※発行元が記事利用を許諾しています。

転載記事

平成30年5月21日(月) 薬事日報

沖縄県内への薬学部設置

「進めることもやむを得ない」

日薬・会長協議会

沖縄県薬剤師会の亀谷浩昌会長は、日本薬剤師会が16日に都府県会長協議会で、沖縄県内で薬学部を新設する動きがあることを明らかにした上で、薬学部新設に対する日薬のスタンスを資した。

厚生労働省の2016年「医師・歯科医師・薬剤師調査」で、人口10万人当たりの薬剤師数が都道府県別で最も少なかった沖縄県では、薬剤師不足の問題を抱えており、課題解消に向けて県の医師会、歯科医師会、看護協会などと県内国

公立大学への薬学部設置を求める署名活動を行っているという。

日薬の石井甲一副会長は、薬学部新設については、「日薬としては、総論反対の立場を示してきた」としつつも、「各地域で偏在による薬剤師不足の問題があり、地域で賛成ならそのまま反対しないという形で、認めてきた経緯があるの

で、進めてもらうこともやむを得ない」との認識を示した。

ただ、「薬学部の定員が1万2000人を超えている状況の中で20〜30年後を考えると、本当に大丈夫なのか」と、薬剤師の供給過剰を懸念。厚生労働科学研

究などで、薬剤師の偏在問題と薬剤師需給問題に関する研究が「始まるような動きがある」ことから、「そ

の中で日薬としての考えをもう一度練って、対応していきたい」と応じた。

亀谷氏は、設置計画では、「私学を作ろうとしているわけではない」とし、あくまで国公立大学での新設を考えていることを強調した上で、一定のレベルが担保される国公立の薬学部が新設されれば、定員割れた。

県立医科大学に薬学部を新設する計画を進めている和歌山県薬の稲葉真也会長は、「薬剤師が多いからといって固定してしまうとレベルアップは見込めない」とし、「大学間で競争して質の高い薬剤師を育ていく」ことの重要性を強調した。

※発行元が記事利用を許諾しています。

沖縄県内の国公立大学への薬学部創設に向けて共同記者会見

日時：平成30年4月10日（火）15:00～15:30

会場：沖縄県庁記者会見室



平成30年4月10日（火）午後3時より沖縄県庁記者会見室にて、「沖縄県内の国公立大学への薬学部創設に向けて」の共同記者会見を行った。多くのマスコミ社から取材を受けた。

早速、翌朝の地元2紙（沖縄タイムス社、琉球新報社）にも掲載され、テレビ放送では当日、NHK「おきなわH0Teye」、OTV「プライムニュース」、RBC「ザ・ニュース」

で放送された。

報道の主な内容は次のとおり。

『亀谷浩昌県薬剤師会会長、安里哲好県医師会会長、真境名勉県歯科医師会会長が、県内に薬剤師養成の大学が無く人材不足に陥っている現状を訴え、創設に向けてさらなる賛同を呼びかけた。3団体と県看護協会は4者連名で1月下旬から署名活動を行っており、現



沖縄県薬剤師会
亀谷 浩昌 会長



沖縄県医師会
安里 哲好 会長



沖縄県歯科医師会
真境名 勉 会長



司会進行
前濱 朋子 副会長



在4万5千筆を上回っている。厚生労働省の調査では2016年12月末時点で人口10万人あたりの薬剤師数は全国平均が181人に対し、沖縄は134人と全国で最も少なく、沖縄本島北部や離島ではさらに深刻である。亀谷会長は「地元で薬学部ができれば薬剤師のレベル向上、さらに琉球大学にできれば医学部との医薬研究等による相乗効果が得られる。人材流出も防ぐことができ、保護者や学生の負担軽減にもなる。多くの県民の賛同を得て琉球大学を最優先に関係各方面に署名を届けたい。」と述べた。安里会長は「多くの病院で薬剤師の確保に苦労している。薬物療法は日進月歩で進んでおり、薬学部開設は地域医療にも寄与する。国は地域包括ケアシステムを2025年ま

で構築することを掲げており、これを実現・充実させるためには多職種連携による地域医療のサービスが重要であるが、薬剤師をはじめ他医療人の確保が課題となっている。」と述べ、真境名会長からは「患者をいかに地域でみるかを考えると、歯科医師としてもかかりつけ薬剤師の力は大きいと感じる。」とし、県民にも大きなメリットになるとした。』

また、NHKでは同記者会見とともに、地域包括ケアシステムにおける多職種連携による薬局の在宅医療サービスが取り上げられ、このサービスが充実するためには薬剤師の確保が課題であるとの内容が放送された。

(文：事務局 大城 喜仁)



多くのマスコミ社からの取材を受けた

転載記事

平成30年4月11日(水) 琉球新報

県内に薬学部創設を

医療3団体が訴え



県内の国公立大学への薬学部・学科の創設を求めて署名活動をしている県薬剤師会の亀谷浩昌会長、県医師会の安里哲好会長、県歯科医師会の真境名勉会長は10日、県庁で記者会見した。県内に薬剤師養成の大学がなく人材不足に陥っている現状を訴え、創設に向けてさらなる賛同を呼び掛けた。

3団体と県看護協会は、4者連名で1月から署名活動を行っており、現在4万5千筆を超えているという。厚生労働省によると、2016年12月末時点で、人口10万人当たりの薬剤師数は全国平均が181人に対し、沖縄は134人と最も少ない。

安里会長は多くの病院では薬剤師の確保に苦労しているとし、「薬物療法は日進月歩で進んでいる。薬学部開設は地域医療にも寄与する」と述べた。真境名会長は「道はまだ見えていない。さらに多くの署名を集めて関係各方面に届きたい」とPRした。

琉球大学を念頭に県内への薬学部創設を目指している県薬剤師会の亀谷浩昌会長と県医師会の安里哲好会長は10日、県庁で合同記者会見を開き、薬学部創設に賛同を求める署名への協力を呼び掛けた。

亀谷会長は「地元で薬学部ができれば薬剤師のレベル向上や医薬研究による相乗効果が得られ、製薬企業の誘致にもつながる。人材不足は約7割の134人に対し、全国最下位となっている。署名に関する問い合わせは県薬剤師会、電話098(963)8930、ファクス098(963)8932。同会のホームページから署名用紙が取得できる。」

薬学部創設「協力を」

県薬剤師会署名呼び掛け



琉球大学を念頭に県内への薬学部創設を目指している県薬剤師会の亀谷浩昌会長と県医師会の安里哲好会長は10日、県庁で合同記者会見を開き、薬学部創設に賛同を求める署名への協力を呼び掛けた。

亀谷会長は「地元で薬学部ができれば薬剤師のレベル向上や医薬研究による相乗効果が得られ、製薬企業の誘致にもつながる。人材不足は約7割の134人に対し、全国最下位となっている。署名に関する問い合わせは県薬剤師会、電話098(963)8930、ファクス098(963)8932。同会のホームページから署名用紙が取得できる。」

琉球大学を念頭に県内への薬学部創設を目指している県薬剤師会の亀谷浩昌会長と県医師会の安里哲好会長は10日、県庁で合同記者会見を開き、薬学部創設に賛同を求める署名への協力を呼び掛けた。

亀谷会長は「地元で薬学部ができれば薬剤師のレベル向上や医薬研究による相乗効果が得られ、製薬企業の誘致にもつながる。人材不足は約7割の134人に対し、全国最下位となっている。署名に関する問い合わせは県薬剤師会、電話098(963)8930、ファクス098(963)8932。同会のホームページから署名用紙が取得できる。」

平成30年4月11日(水)

沖縄タイムス

※発行元が記事利用を許諾しています。

国立大学法人 琉球大学
学長 大城 肇 殿

琉球大学への薬学部の創設を求める要請文

沖縄県薬剤師会は、沖縄県医師会、沖縄県歯科医師会、沖縄県看護協会の賛同を得て、琉球大学を最優先とした沖縄県内の国公立大学に薬学部の創設を求める活動をしております。この度、県民の要望を知るために署名活動を行ったところ、当初目標の5万筆をはるかに超える10万1660筆の署名が集まりました。これは、薬学部の創設についての県民の強い要望の表れだと確信しております。

ここに、集まった署名を提出すると共に、改めて琉球大学に薬学部の創設を強く要請致します。

西普天間返還跡地に検討されている国際医療拠点構想の中に「高度医療・研究機能の拡充」「地域医療水準の向上」「国際研究交流・医療人材育成」の三つの柱が掲げられています。同地区への琉球大学医学部および同附属病院移転整備基本計画の中には「沖縄の天然資源利用による創薬研究」があり、琉球大学に薬学部が創設されれば「医薬協働」により相乗効果が得られ、効率的な研究体制ができると考えられます。

全人口のうち高齢者が21%を超え「超高齢社会」を迎え、「地域包括ケアシステム」の整備を国は急いでおり、その中で薬物療法を支える薬剤師の役割は大きくなっています。しかし、離島県である本県の薬剤師数は人口10万人当たり全国平均の181人に対し沖縄は134人で、これは全国平均の74%で全国最下位です。北部や離島についてはさらに深刻な状況で、全国平均の50%程度となっています。地域間格差の無い県民医療水準の向上のために薬剤師の確保に力を入れる必要があります。

沖縄県内だけでなく日米、アジアを含め世界でも活躍できる、医療の担い手としての質の高い薬剤師を養成しつつ地域医療の水準を向上させるためにも、本会は、沖縄県医師会、沖縄県歯科医師会、沖縄県看護協会の賛同を得て、琉球大学への薬学部の創設を要請します。

平成30年6月13日

一般社団法人 沖縄県薬剤師会
会長 亀谷 浩昌

一般社団法人 沖縄県医師会
会長 安里 哲好

一般社団法人 沖縄県歯科医師会
会長 真境名 勉

公益社団法人 沖縄県看護協会
会長 仲座 明美

琉球大学へ薬学部の創設を求める要請

日時：平成30年6月13日（木）14:00～14:30

会場：琉球大学 本部 第一会議室



平成30年6月13日（水）午後2時より、琉球大学 本部 第一会議室において、琉球大学へ薬学部の創設を求める要請を行った。

要請席側には、亀谷浩昌沖縄県薬剤師会会長、安里哲好沖縄県医師会会長、真境名勉沖縄県歯科医師会会長、島袋富美子沖縄県看護協会専務理事、他、当会三副会長が着席し、琉球大学席側には、大城肇学長、他、関係者7名が着席した。当会の前濱朋子副会長が司会進行し、出席者の紹介がなされた。

次に、亀谷会長と大城学長を中心に出席者

が前壇へ並び、多くのマスコミ社の前で要請書および署名の提出が行われた。亀谷会長が読み上げた要請文は前頁の通りである。

この要請に対し大城学長は、「皆様方のご尽力により、多くの署名が集まりましたことに対して敬意を表します。また、この署名の重さについても真摯に受け止めたいと思っています。平成27年5月に私個人の意見で薬学部、獣医学部、醸造学科の新設を検討していると申し上げたところ、大きな反響があり、その後、沖縄県薬剤師会から薬学部設置



多くのマスコミ社の前で亀谷浩昌会長から大城肇学長に要請書および署名の提出が行われた



薬学部創設要請者席

琉球大学関係者席



亀谷浩昌会長



会議場前方に設置された署名（当時101,660筆）



大城肇学長

に関する要望書を承っております。それを受けて、国の担当者に相談したところ、今時新しい学部の新設はスクラップ・アンド・ビルドで、学内で1学部を新設すると1学部を潰さないといけないと言われ、この検討を棚上げしていたところです。西普天間住宅地区跡地での沖縄県健康医療拠点構想があり良い機会だと思っておりますが、新学部設置にはまだまだハードルが高くて大学運営そのものも厳しい面があります。しかし今回、多くの県民の皆様のご要望を受けまして、今後、沖縄県をはじめ、今日要請を頂いた医療関係者の皆様のご意見を賜りながら、検討していければと思います。」と述べられた。

このあと、マスコミ各社は会場から一旦退出させ、両席側向かい合っでの懇談が行われた。15分程度の短い間に活発な意見が交わされた。大城学長が次に控えている公務のため琉球大学側が退席し、改めてマスコミ各社を入場させ取材を受けた。

これらのマスコミ取材は、各テレビ局のニュース、紙面等で大いに報道された。

国立大学への薬学部新設は非常に難しい見解を示しているが、他県では公立大学において薬学部創設を実現させており、当会においても薬学部創設実現のためにあらゆる方法を用いて今後も取り組んでいくこととしている。（文：事務局 大城 喜仁）

転載記事

平成30年6月15日(金) 薬事日報

琉球大に薬学部創設を要望

沖縄県薬など4師会が連名で

琉球大学を最優先とした県内の国公立大学への薬学部創設を訴えてきた沖縄県薬剤師会（亀谷浩昌会長）は13日、県医師会、県歯科医師会、県看護協会との4者連名で行っていた署名活動で、10万1660筆の署名が集まったことを受け、薬学部新設を求める要望書と署名を琉球大学の大城肇学長に提出した。大城学長は、10万筆を超える署名について、「重く受け止めて

いる」と語った。亀谷氏は、当初目標としていた「5万筆をはるかに超える」数の署名が集まったことを強調。「薬学部創設に対する県民の強い要望の現れだと確信している」とし、琉球大への薬学部創設を「強く要請する」と語った。

琉球大医学部と同附属病院の西普天間住宅地区跡地への移転に伴う基本計画の中に、「沖縄の天然資源利

用による創業研究」が盛り込まれていることに触れ、「琉球大に薬学部が創設されれば、医と薬の協働により、効率的な研究体制が構築できる」とのメリットも示した。

国が進める「地域包括ケアシステム」においても、薬物療法を支える薬剤師の役割に期待が寄せられているが、沖縄は人口10万人当たりの薬剤師数が全国の都道府県の中で最も少なく、

薬剤師の確保に力を入れていくものの、現状では県外の薬学系大学を卒業するケースが多い点も指摘。県内に私学ではなく、国公立大学の薬学部を創設することにより、「学生や親の負担軽減につながるだけでなく、県外から優秀な頭脳が集まる」とし、琉球大を最優先とした薬学部創設を求めた。

これに対し、大城氏は「県

内医療職種の尽力によって、多くの署名が集まったことに敬意を表したい」としつつも、文部科学省は新たに学部を創設する際には、他の学部を一つ廃止する「スクラップアンドビルド」が必要になるとの認識を示しており、「まだまだハードルが高い」との認識も示した。

ただ、「多くの県民の要望がある」ともし、「学内で検討していきたい」と語った。



亀谷沖縄県薬業会長（左）が大城琉球大学長に要望書と署名を手渡した

※発行元が記事利用を許諾しています。

転載記事

平成30年6月14日(木) 沖縄タイムス

薬学部創設へ10万筆

県薬剤師会 琉大に署名提出

県内の国公立大学への薬学部創設を目指している県薬剤師会の亀谷浩昌会長らが13日、琉球大学に大城肇学長を訪ね、同大学への薬学部創設を求める10万1660人分の署名を提出した。県医師会や県歯科医師

会、県看護協会との連名で1月から署名活動を開始し、目標の5万筆の2倍以上の署名が集まった。亀谷会長は、県内の大学に薬学部がなく、人口10万人当たりの薬剤師数も全国最下位であるとし「薬剤師



になるには本土の大学に進学しなければならず、県民所得の低い本県の保護者の

琉球大学の大城肇学長(右)に要請書と署名を手渡す県薬剤師会の亀谷浩昌会長(右から2人目)ら13日、西原町の同大……負担は相当重い。県内への薬学部創設は負担軽減だけでなく、県外から優秀な学生が集まり、学術レベルの向上に寄与する文化的振興策になる」と強調した。大城学長は「署名の重さを真摯に受け止めたい。西

大城学長は「署名の重さを真摯に受け止めたい。西原大間住宅地区跡地での沖縄健康医療拠点構想があり、いいチャンスだと思っている」としながらも「新学部設置はハードルが高い。県や医療関係者の意見を聞きながら学内で検討していきたい」と述べるにとどめた。県医師会の安里哲好会長や県歯科医師会の真境名勉会長、県看護協会の島袋富美子専務理事らも同席した。

※発行元が記事利用を許諾しています。

転載記事

平成30年6月14日(木) 琉球新報

県内国公立大に薬学部創設

署名10万筆余提出

県薬剤師会、琉球大に



琉球大への薬学部創設を求め、同大の大城肇学長(右)に要請文を手渡す県薬剤師会の亀谷浩昌会長(13日、西原町の琉球大学)

琉球大を最優先に県内の国公立大学への薬学部創設を求めている県薬剤師会の亀谷浩昌会長らは13日、西原町の琉球大を訪れ、署名10万1660筆と要請文を提出した。大城肇学長は「署名の重さを真摯に受け止めたい」と述べた。県薬剤師会は県医師会と県歯科医師会、県看護協会の4者連名で1月から署名活動をしてきた。西晋大間住宅地区跡地で琉球大医学部と同付属病院移転を中心とした「沖縄健康医療拠点」の整備が計画されているこ

とから、同大に薬学部ができれば効率的な研究体制ができるとしている。

文部科学省によると、国立大学に薬学科が設置されたのは、1969年4月の岡山大と広島大が最後。大城学長は、新学部設置はハードルが高いとしながらも「多くの県民の要望を受け、今後県や医療関係者の意見も聞きながら検討していけたらと思う」と述べた。

署名提出後、亀谷会長は「県民の要望は非常に高い。いろんな方の力を結集して堅い壁を突破したい」と意気込んだ。

※発行元が記事利用を許諾しています。

＜琉大学生記者より取材を受ける＞

琉球大学では学生新聞「琉大ジャーナル」を毎年7月に発行しており、今年発行の69号で『沖縄県に薬学部が無い、薬剤師不足』に関する記事を掲載したいとのことで、琉大学生記者が亀谷浩昌会長を訪れた。

記者は、同大学法文学部人間科学科社会学専攻マスコミ学コースの奥田史彦氏で、岐阜県のご出身。今年3月に帰郷の際、当会が沖縄県内の国公立大学に薬学部創設を求める署名活動をしていることをNHKのニュースで知り、沖縄県内に薬学部の創設が実現できるような内容の記事にしたいとのこと。

琉大ジャーナル69号は、7月中旬に発行される。(文：事務局 大城 喜仁)

日時：平成30年5月23日(水) 15:30～16:30
場所：沖縄県薬剤師会館 会長室



※琉大ジャーナル第69号は、次頁に掲載されています。

転載記事

平成30年7月14日(土) 琉大ジャーナル第69号

地元で薬学部を！

創設求め署名活動



沖縄県薬剤師会亀谷浩昌会長から琉球大学大城肇学長に 薬学部創設の要請書を手渡す。=西原町

沖縄県の薬剤師をとりまく環境は危機に陥っている。人口10万人に対する薬剤師の数は全国平均の181人に対し、沖縄県は134人と全国最下位である。北部地域や離島は

さらに薬剤師が少ない。沖縄県内には薬学部が無く他県へ進学する必要がある。その上、進学先の都道府県で就職する人が多く、優秀な人材の流出につながっていることも薬剤師不足の要因だ。

一方で、ICU(集中治療室)や手術室などで使われる薬物の管理や、病棟での入院患者への服薬指導など病院薬剤師の業務が拡大している。国が目指す、地域の



6月13日に提出された琉球大学への薬学部の創設を求める署名。目標の5万筆を大きく上回る10万筆を集めた。=西原町

包括的な支援・サービス提供を目的とした「地域包括ケアシステム」では、在宅服薬指導などの薬物療法を支える薬局薬剤師の役割は大きくなっていく。「地域包括医療システム」とは、可能な限り住み慣れた地域で目

分らしい暮らしを最期まで続けられるように地域の包括的な支援・サービス提供を目的としたものである。薬の専門家である薬剤師が患者の薬をチェックし副作用や効果を確認することで患者のリスクを回避できるメリットがある。

琉球大学は米軍西普天間住宅地返還跡地への医学部及び附属病院移転を進めている。それに合わせ、沖縄県薬剤師会は同大学に薬学部の創設を求める活動をしている。同会の亀谷浩昌会長は「地元志向の強い沖縄で地元枠を設け、県内に薬学生を増やしつつ、また他県からの志願者も含め、レベルの高い薬剤師を育てたい」とし、「日本で唯一の亜熱帯気候を生かした創薬で、沖縄だけでなく世界で活躍できる人材育成を中長期的に行うためにも国公立大学薬学部が必要」とも話した。

6月13日、沖縄県薬剤師会は琉球大学に薬学部の創設を求める署名10万1660筆を提出し、創設の要請をした。署名を依頼しに行くと喜んで署名する人が多く、電話で自分も協力したいと申し出る県民の方も多かった。「署名活動を始めた当初は5万筆が目標であったが、これだけ多くの署名が集まったということは、県民の薬学部創設の要望が高いと自覚している」と亀



谷会長は話した。「薬学部創設の道は険しく、ハードルも高いが、地域間格差のない県民医療水準向上のためにも、効果的な薬物療法を目指しこれからも活動していく」と亀谷会長は語った。
(奥田史彦)

※発行元が記事利用を許諾しています。

転載記事

2018年（平成30年）6月14日木曜日

PHARMACY NEWSBREAK 1198号



薬局・薬剤師のためのニュースメディア

©じほう2018

HARMACY NEWSBREAK

株式会社じほう

この通信は会員が直接利用される以外、コピー等による第三者への提供は固くお断りいたします

■大学側「ハードル高い」

沖縄県薬、琉球大に薬学部新設を求める署名提出

沖縄県薬剤師会（亀谷浩昌会長）は13日、地域の薬剤師不足の解消に向け、琉球大（中頭郡西原町）に対して薬学部新設を求める10万人超の署名を提出した。琉球大の大城肇学長は受け取った署名に対し「身が引き締まる思いであり重く受け止める」と答える一方、実現に向けたハードルは高いとの認識を示した。

薬学部がない沖縄県内では現在、薬剤師不足が深刻になっている。県薬剤師会は今年1月15日から4月27日まで薬学部の新設を求める署名活動を実施し、当初の目標5万人を超える10万1660人分の署名を集めた。薬学部の新設には県医師会、県歯科医師会、県看護協会も賛同している。

●県医師会長らも同席

この日の署名提出は琉球大キャンパス内で行われ、県医師会の安里哲好会長、県歯科医師会の真境名勉会長、県看護協会の島袋富美子専務理事らも同席。亀谷会長は「人口10万人当たりの薬剤師数は全国平均181人だが、沖縄県は全国平均の74%の134人と全国最下位。北部や離島においてはさらに深刻な状況で全国平均の50%程度」と薬剤師不足の深刻さを訴えた。

大城学長は10万1660人分の署名の重さを「真摯に受け止めたい」と応じたが、「文部科学省の担当者に（以前）相談したところ、学内で1学部をつくるとすると、1学部をつぶさないといけないということだった」と説明。「新学部設置はハードルが高い」と漏らし、学内で検討したいと述べるにとどめた。

署名提出後、亀谷会長は大城学長の反応に「最初から全員賛成なんてことはあり得ない」とし、粘り強く働き掛けていきたいとの考えを述べた。

※発行元が記事利用を許諾しています。

転載記事

2018年（平成30年）6月21日木曜日

PHARMACY NEWSBREAK 1203号



薬局・薬剤師のためのニュースメディア

HARMACY NEWSBREAK

株式会社 じほう

©じほう2018

この通信は会員が直接利用される以外、コピー等による第三者への提供は固くお断りいたします

診療所が開院しているのに…開けられない薬局 人口10万人当たり薬剤師数が全国最下位の沖縄県



薬剤師数が30万人を突破する一方で、にわかにクローズアップされている地域偏在。全国的には学生の定員割れを起こす私立薬科大学・薬学部が増加する中、薬剤師不足にあえぐ地域では新設に向けた計画や要望が相次いでいる。現場の実態を報告する。

●家賃や引っ越し費用は薬局負担、車も貸し出し

沖縄県久米島。沖縄本島の西方約100キロに位置し、人口は約8000人。島内に調剤薬局は2軒しかない。公立久米島病院前の「たいよう薬局本店」と、球美（くみ）の島診療所前の「たいよう薬局東店」。どちらもマンツーマンで、島内で唯一の調剤薬局「たいよう」（久米島町）が運営する。

しかし東店では、月曜日を除く開局日の火曜日から土曜日は、目の前の診療所が開院しているにもかかわらず午前9時から午後1時までしか開局できていない。薬剤師が足りないためだ。（写真1）

「薬剤師不足は長年も続いていて、自分たちにとっては当たり前のことになっている」と、たいよ山の山城晶代表取締役。特に2年前は退職が重なったことで薬剤師を3人しか確保できず、東店を5カ月間ほど閉めざるを得なかった。閉店中は診療所の処方箋を本店まで持って来てもらい調剤していたという。

現在、両店舗に勤める薬剤師は、正社員4人と派遣1人の計5人。3件の施設在宅も行っているため、現員で手いっぱいなのが実情だ。長期勤務が可能な正社員か契約社員の薬剤師がもう1人いれば東店も1時以降開局できるようになるが、今のところそのめどは付いていない。

常時求人している薬剤師の待遇は、まさに至れり尽くせり。月給35万～45万円で、面接にかかる交通費などの費用や島内転居後の家賃、引っ越し代は薬局が負担。島内を移動する車も貸し出す。「そこまでしないと人が集められない」。たいよう薬局では新しい薬剤師の家を探すのも重要な“仕事”で、山城代表取締役は不動産業者とも懇意になったと笑う。同社のホームページの中では、恵まれた自然の中で充実した公私の日々を送る県外出身の薬剤師が笑顔を見せる。

〈次頁へ続く〉

転載記事

●薬剤師いなければ院内に戻すという話ではない

沖縄県内の薬剤師不足は、久米島や宮古島などの離島に限ったことではなく、本島でも問題になっている。

宮古島で3店舗、本島で4店舗の薬局を経営する「かわみつ」(宮古島市)。沖縄県薬剤師会の常務理事も務める川満直紀常務取締役は、慢性的な薬剤師不足のため日常の調剤業務に忙殺され、在宅まで十分に手が回らないとぼやく。在宅業務は薬の配達程度で、医師とのカンファレンスやケアマネジャーと連携をする余裕はない。那覇市で薬剤師が辞めたと聞けば、すぐにその人へのアプローチを試みるような日々だ。

沖縄県薬によると、人口10万人当たりの薬剤師数が全国平均181人なのに対し、沖縄県は最下位の134人。県北部や離島ではさらに深刻で、全国平均の50%程度という。その理由として挙げられるのが、本土から離れた地理的環境のほか、沖縄県内の大学には医学部があっても薬学部がないことだ。県薬が今年13日、琉球大(西原町)に提出した薬学部新設を求める10万人超の署名には、地域の願いが込められている。

地元薬剤師の間には「そもそも今まで琉大に薬学部がなかったことの方が不自然」(公立久米島病院の熊谷義徳氏)という思いもある。たいようの山城代表取締役は「小学校を訪れて積極的に職業体験なども行うようにしているが、薬剤師に興味を持ってもらえたとしても県内に薬学部がなく、本土で1人暮らしをすると金銭的なハードルが高い。県内に薬学部が新設されれば、そのような障害が解消されるのではないか」と期待する。(写真2)

医師も薬学部新設を後押しする。球美の島診療所の吉村純院長は「薬剤師がいなかったら院内で出せばよいと言う人もいるが、院外に出して薬剤師にサポートしてもらっていると、院内で出すのは怖い」と医薬分業の恩恵を実感している。薬剤師確保のために県内に薬学部は絶対に必要と強調する。

●求人広告掲載、ガイダンス…効果実感できず

県薬剤師会もこれまで、薬剤師不足に手をこまねいていたわけではない。

2014年から県と共同で薬剤師確保対策事業を実施しており、17年度には▽求人広告の掲載▽沖縄県U・Iターンガイダンス▽県外の薬学生を対象にした採用ムービーの制作一などを手掛けた。求人広告は薬剤師向け専門誌のほか、離島や本島のリゾート地ではダイビングを目的に県外から移住してきた薬剤師も多いことから、マリンスポーツやダイビング関連雑誌にも載せている。

U・Iターンガイダンスは、沖縄県出身の薬学生が多く在籍するという徳島文理大(徳島市)と北陸大(金沢市)で開催した。沖縄の薬剤師の現状も説明した上で、沖縄県で働く意味や意義、県薬剤師会における薬剤師活動とサポート体制、県内で働く薬剤師の声などを伝えた。

しかし、沖縄県薬剤師会で薬剤師無料職業紹介所責任者を務める大城喜仁課長によ

転載記事

ると、薬局薬剤師の確保という面では手応えはあまり感じられていない。対照的に学生の病院薬剤師人気は高く、県内病院に勤務する薬剤師は増加傾向にあるという。県薬剤師会では薬剤師無料職業紹介所として薬剤師の求人紹介事業も行っているが、常時約100件の求人が出ているのに対して年間20件程度しか決まらない。

県は薬剤師不足の解消を目的に今年から「沖縄県奨学金返還助成制度」を設けた。県内の薬局や病院での就業実績がある薬剤師に対して、奨学金返済額の一部を助成する内容で、既に5～6人から申請がある。

県薬剤師会の亀谷浩昌会長は「県内に国立大薬学部ができれば、県内外の質の高い学生が集まり、高いところを望む空気ができてくるという期待がある。地元薬剤師が学位や認定薬剤師の取得に取り組みやすい環境になり、薬剤師のレベル向上が望める。ひいては優秀な薬剤師が集まってくる可能性がある」との見方を示す。(写真3)

なかなか特効薬が見つからない薬剤師不足問題。すぐに結果を求めない長期的な視野も必要なのかもしれない。(久保 駿太郎)



【写真1】 薬剤師不足のため、午後1時以降は閉局するたいよう薬局東店



【写真2】 沖縄県内の薬学部設置を期待するたいようの山城代表取締役



【写真3】 左から沖縄県薬の亀谷会長、川崎常務理事、大城課長

※発行元が記事利用を許諾しています。

第78回 通常総会 会長挨拶



会長 亀谷 浩昌

沖縄県薬剤師会第78回定時総会の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。代議員の皆様におかれましては、何かとご多忙のところ本総会にご出席を賜り、誠にありがとうございます。また、日頃から当会の事業活動・運営にご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて、本会は薬剤師の職能を生かして社会に貢献することを念頭に事業を進めてきました。かかりつけ薬剤師・薬局の推進、「健康サポート薬局100軒実現に向けて」をテーマとした健康サポート薬局事業を始めとして、本会の各委員会、部会の活動をしてきました。

次に、単独事業が多かった本会の事業を、行政・その他の団体と共同して行う事業を少しずつ増やしてきました。他の団体にくらべると数や規模に於いてまだスケールが小さく、更に力を入れていくべきものと考えています。

また、薬剤師不足によって職能発揮が十分にできないことによる様々な悪影響がバッシングを呼び、ひいては薬剤師の権利の縮小に繋がりがねないことが危惧されます。この対策の一つでもあり、地域医療水準の向上等のためとして、琉球大学を最優先とした県内の国公立大学への薬学部創設を求めています。

更には、本会の事業の実現に人的ネットワークが大きな力を発揮するとの認識から、その強化に取り組んでいます。この意味で来年の参議院選挙は極めて重要と認識しています。

この総会では事業報告、決算、事業計画、予算などについて審議をお願いしています。本会の今後の活動がより良きものになるように、会員の皆様のご指導ご協力をお願い致します。役員、職員と共に頑張ってまいります。宜しくお願い致します。

第78回定時総会開催

日時：平成30年6月17日（日）13:30～16:20

会場：沖縄県薬剤師会館 ホール

西川裕常務理事の進行で通常総会を開催する旨の案内が定刻の午後1時30分にアナウンスされ開会する。通常総会は、代議員以外の会員が傍聴できる席も特別に用意された。開会挨拶の前に、会員物故者5名（上原盛和、大城勲、喜瀬乗惟、金城保景、具志堅博一）の先生方のご冥福を祈るため、起立黙祷した。

江夏京子副会長が、第78回通常総会開会を告げる。

定款第15条の規定により、議長、副議長を選出。議長は糸満支部の名嘉紀勝代議員、副議長に宜野湾支部の新垣慶朗代議員が選出された。両氏の挨拶の後、議長が事務局に出席人数を確認するよう指示。事務局より報告を受けた副議長が、代議員総数48名に対し出席代議員が47名で、過半数以上の出席により定款第17条の社員総会成立要件を満たしていることが述べられ、総会の成立を宣言した。

村田美智子常務理事より同会の日程を資料に基づいて説明し、続いて亀谷浩昌会長が挨拶をした。

議題に入り、報告事項第1号から第3号、議案事項第1号から第3号までの報告と説明を各担当理事、監事が滞りなく行った。



物故会員への黙祷

休憩を挟み、再び議長と副議長が登壇して質疑応答の時間に入った。質疑応答は、前半に地区薬剤師会代表質問、後半に一般関連質問という構成である。地区薬剤師会代表質問の順番は、去る5月の定例理事会にて地区代表理事によるクジ引きにより決定されたこと、1地区あたりの代表質問は質疑応答を含め計7分であること、時間超過で質問できなかった事項に関しては、一般関連質問の際に質疑応答の時間を設けることが議長より説明された。代表質問は、

- ① 宮古地区（古謝真己：平良支部代議員）
 - ② 中部地区（村田成夫：嘉手納支部代議員）
 - ③ 那覇地区（宮本直樹：那覇北支部代議員）
 - ④ 八重山地区（荒谷敏巳：石垣支部代議員）
 - ⑤ 北部地区（屋嘉比康作：名護支部代議員）
 - ⑥ 南部地区（川上善久：南風原支部代議員）
- の順で代表質問が行われ、これらの質問に対し各担当理事が順次答弁を行った。

続けて、一般関連質問の時間に入った。同時間は前述の議案及び地区代表質問に関連する質疑応答の時間として設けられている。これら地区代表質問ならびに一般関連質問の質疑応答内容については後頁を参照していただきたい。

最後に、議案第1号から第3号の採決に入った。議長が一議案毎読み上げ、挙手にて議決していった。

議案第1号、第2号、第3号ともに全員賛成で承認された。

最後に、外間惟夫副会長より、更なる会発展のために尽力することが述べられ、閉会した。

（報告：事務局 大城喜仁）

<第78回定時総会次第> ○物故会員への黙祷 ○開会の辞 ○議長・副議長登壇挨拶 (点呼・宣告) ○日程説明 ○会長あいさつ ○報告 第1号 平成29年度会務並びに事業経過報告 第2号 平成29年度会務並びに会計監査報告 第3号 会営薬局とよみ移転について ○議案 第1号 平成29年度決算承認の件 第2号 一般社団法人沖縄県薬剤師会会員規程の一部改正について 第3号 一般社団法人沖縄県薬剤師会会費規程の一部改正について ○地区薬剤師会代表質問 順番：①宮古地区 ②中部地区 ③那覇地区 ④八重山地区 ⑤北部地区 ⑥南部地区 ○一般関連質問 ○採決 (議案第1号～3号の採決) ○閉会の辞		司会 常務理事 西川 裕 副 会 長 江夏 京子 議 長 名嘉 紀勝 副 議 長 新垣 慶朗 常務理事 村田美智子 会 長 亀谷 浩昌 副 会 長 前濱 朋子 監 事 友利 弘一 会 長 亀谷 浩昌 常務理事 山里 勇 常務理事 山里 勇 常務理事 山里 勇 副 会 長 外間 惟夫
--	--	---

<懇親会>

日時：平成30年6月17日（日）16:30～18:00

会場：沖縄県薬剤師会館 研修室



定時総会を無事に終え、会場を研修室に移し懇親会が催された。司会の上原卓朗理事により、会が進められた。

江夏京子副会長の開会の辞に続き、亀谷浩昌会長の挨拶、砂川靖沖縄県保健医療部長が来賓の挨拶をされ、神村武之相談役の乾杯の音頭で歓談に入った。

歓談が落ち着いた頃、来賓の紹介がなされた。

大いに盛り上がった懇親会は、前濱朋子副会長の挨拶で閉会となった。

(報告：事務局 大城喜仁)



開会の辞
江夏 京子 副会長



会長あいさつ
亀谷 浩昌 会長



来賓あいさつ
砂川 靖 沖縄県保健医療部長



乾杯の音頭
神村 武之 相談役



閉会の辞
前濱 朋子 副会長



司 会
上原 卓朗 理事

第78回定時総会資料

報告第1号 平成29年度会務並びに事業経過報告

1. 平成29年度 会員・薬局等の業態現況報告

(1) 会 員 数

平成30年3月末現在

① 正 会 員	1,204 人	(A会員 591人、B会員 563人、特別会員A 8人、特別会員B 19人、特別会員C 23人)
(内 訳)	総会員数 47人増、A会員 3人減、B会員 26人増、特別会員A 増減無、特別会員B 3人増、特別会員C 21人増	
名 誉 会 員	2 人	中村昌義、金城保景
薬 局 開 設 者	223 人	
一 般 販 売 業	13 人	
卸 売 一 般 販 売 業	23 人	
勤 務 薬 剤 師	787 人	薬局(711)、病院(74)、製輸(2)
そ の 他	156 人	行政(4)、教研(2)、他職勤務者(19)、無職(108)、学生 (23)
② 賛 助 会 員	68 人	
合 計	1,272 人	① (1,204人) + ② (68人)

(2) 薬局開設者等 (前年度との比較)

平成30年3月末現在

	平成28年度	平成29年度	増 減
薬 局 開 設 者	226 人	223 人	-3 人
一 般 販 売 業	14 人	13 人	-1 人
卸 売 一 般 販 売 業	22 人	23 人	1 人
勤 務 薬 剤 師	755 人	787 人	32 人
保 険 薬 剤 師	1,001 人	1,031 人	30 人
そ の 他	138 人	156 人	18 人

(3) 保険薬局等 (前年度との比較)

平成30年3月末現在

	平成28年度	平成29年度	増 減
保 険 薬 局	540 軒	539 軒	-1 軒
処 方 箋 応 需 薬 局	533 軒	533 軒	0 軒

第78回定時総会資料

平成29年度事業経過報告

1. 沖縄県内の国公立大学への薬学部創設に向けて

米軍施設「西普天間住宅地区」返還跡地に検討されている沖縄健康医療拠点構想の中で「高度医療・研究機能の拡充」、「地域医療水準の向上」、「国際研究交流・医療人材育成」の3つの柱が掲げられている。その具体的な取り組み案の中には、産業利用や感染症対策に関する創薬の研究や開発等が記されており、また、同地区への琉球大学医学部及び同附属病院移転整備基本計画（概要）の先端医学研究センターの基本計画には「沖縄の天然資源利用による創薬研究」があり、6つの研究部門にも「創薬部門」について記されていることから、これを機に琉球大学に薬学部を創設し、薬剤師不足の解消とともに、沖縄を中心とした日米・アジアを含め海外でも活動できる医療の担い手として質の高い薬剤師養成の実現に向け、本会は琉球大学を最優先とした薬学部創設を求め活動を始めた。

平成29年度の活動は以下のとおりである。

平成29年 9月25日 ～ 9月26日	琉球大学医学部への薬学科設置に関する要望書を、文部科学大臣、内閣府特命担当大臣、財務大臣、厚生労働大臣に提出。
平成29年11月15日 ～ 11月16日	平成33年4月に薬学部開学を予定している和歌山県立医科大学の情報収集および視察を行う。
平成29年12月 9日	沖縄県薬剤師会理事会にて、「沖縄県内の国公立大学への薬学部の創設を求める署名」を行っていくことが決議された。
平成29年12月下旬	沖縄県医師会、沖縄県歯科医師会、沖縄県看護協会に、同署名活動への協力を依頼。
平成29年12月21日	亀谷会長執筆の薬学部創設に向けての広報文が琉球新報に掲載された。
平成30年 1月13日	沖縄県薬剤師会理事会にて、沖縄県医師会、沖縄県歯科医師会、沖縄県看護協会が連名にて同署名活動を賛同する旨が報告された。署名活動期間を3月30日と設定。
平成30年 1月15日	署名の呼びかけ開始。
平成30年 3月 8日	前濱副会長執筆の薬学部創設に向けての広報文が沖縄タイムスに掲載された。
平成30年 3月	署名協力の関係団体・企業より、決算等の忙しい時期のため署名活動期間を4月以後に延ばしてほしい旨の要望が多かったことから、4月27日に再設定。
平成30年 4月10日	沖縄県庁記者会見室にて三師会（薬剤師会、医師会、歯科医師会）会長が「沖縄県内の国公立大学への薬学部創設に向けて」記者発表。
平成30年 6月5日現在	署名10万321筆

2. 医薬分業対策

医療連携の形は時代とともに変わりつつあり、地域包括ケア推進を背景に、医療職種同士の連携にとどまらず、介護職や患者・家族らも巻き込んで患者をフォローすることが不可欠となった。さらに、医師の負担軽減が求められる中、医療チームメンバーには従来よりも一歩踏み込んだ関わりが期待されている。地域包括ケアシステムの中で多職種との間での協働・連携チーム医療を推進していくためには、「病院」や「薬局」を問わず薬剤師職同士の連携の必要性を改めて感じさせられる年であった。

9月10日に、医薬分業対策委員会主催研修会として、京都大学医学部附属病院の尾崎淳子氏を招き、『京大病院における院外処方せん疑義照会簡素化プロトコル～地域におけるチーム医療の実践』と題して講演して頂いた。続けて、県内広域病院薬局長と各地区薬剤師会長、分業担当者が参加し医薬分業対策会議を開催した。テーマを「疑義照会について」とし、尾崎淳子氏にも参加して頂いて、今後の薬薬連携についてのディスカッションを行うことができた。

11月19日の医薬分業対策委員会主催研修会には、津田沼中央総合病院内科医長の佐仲雅樹氏を招き、「やってみよう！薬局トリアージ:スタートアップの手引き“患者をみる力”～健康サポート・かかりつけ薬局～保険薬局・保険薬剤師の今後の方向性と期待」、11月23日には日本健康食品・サプリメント情報センター理事の宇野文博氏を招き、「健康食品の現状と医薬品との相互作用」と題して講演して頂いた。

この他にも、平成29年度は認知症対応力向上研修を2回（講師：中尾滋久委員）、管理機器販売業の継続研修（講師：吉田洋史委員、中尾滋久委員）を実施した。11月1日～12月25日にはDEM事業を実施。不動産在庫・備蓄ネットワークシステムの運用は9年目になり、本年は学術大会においてブースを設置し啓蒙活動を実施した。2月には医師会のおきなわ津梁ネットワーク説明会を開催した。

(1) 健康サポート薬局

平成29年度は「健康サポート薬局県内100件実現に向けて」を大きなテーマとして、12月7日には「健康サポート薬局実現のための届出・申請について」（講師：大城由希子氏、平良恭子氏、西川裕常務理事）、2月3日には「健康サポート薬局実現のためのOTC導入について」（講師：盛本直也氏）、2月25日には「沖縄の街に根差した健康サポート薬局立ち上げと持続のノウハウについて」（講師：宮原富士子氏）の研修会を実施した。

また、『健康サポートのための多職種連携研修会A（以下研修会A）』及び『健康サポートのための薬剤師の対応研修会B（以下研修会B）』を沖縄本島2回（7月23日、9月24日）、宮古（1月28日）・八重山（8月11日）にて各1回実施した。実施は、午前中に研修会Aを行い、昼食をはさみ研修会Bを連続して行った。内容は、研修会Aの講義はあらかじめ日本薬剤師会より許可をいただきビデオ撮影した昨年度の研修会映像を視聴してもらい、研修会Bについてはグループワークを実施した。参加者のグループは地域ごとに分けて編成し、地域の社会資源について効果的に討論できるよう配慮した。受講者人数は7月23日（研修会A：34名 内学生1名、研修会B：33名 内学生1名）、9月24日（研修会A：30名 内学生1名、研修会B：29名 内学生1名）、宮古地区：（研修会A：8名、研修会B：5名）・八重山地区：（研修会A：4名）の受講があった。昨年度から実施しているAB研修の累積修了者人数は355名、沖縄県内における健康サポート薬局の件数は3件となった。（平成30年3月末現在）。

健康サポート薬局についての県民向け啓発活動として、薬と健康の週間中に開催される「くす

りと健康フェア」において『知らなきや損する薬局の活用法』（講師：西川裕常務理事）と題して、「かかりつけ薬局」や「健康サポート薬局」の活用方法について講演を実施した。今後、更なる申請と承認に向けて、会員薬局のサポートや当会会営薬局においてモデル薬局事業などを予定している。

(2) 一般用医薬品等

本年度は、日本薬剤師会から「セルフメディケーションハンドブック（日本一般用医薬品連合会）」100部の無料配布があったため、残りは沖縄県薬剤師会が費用負担し会員薬局へ配布した。同ハンドブックにはセルフメディケーションを実践するためのOTC医薬品の適切な使い方がイラストや図表を多用し分かり易く解説されている。

3. 生涯学習

新任・新人薬剤師研修会は7月16日に沖縄県薬剤師会館ホールで開催され66名の参加があった。研修会では「医薬品情報業務について」を沖縄県立中部病院伊波寛史氏が担当し、D I 業務紹介、情報検索の基本、検索サイト紹介や事例Q & Aなど多岐にわたる有益な講義であった。「薬歴の書き方について」は、昨年引き続き浦添総合病院の浜元善仁氏が薬歴の必要性、目的、より良い薬物治療を提供するツールであることなどの具体例を示しながらの講義であった。また昨年まで「フィジカルアセスメント」を講義していたが、今回より新しい試みで「疑義照会について」を琉球大学医学部附属病院の潮平英郎氏に依頼した。内容は関連する法制度、薬剤師のフィロソフィー、疑義照会事例、そしてロールプレイでは参加者に質問しながらの実践的な講義であった。学校薬剤師部会から新垣紀子氏、青年薬剤師部会の上原卓朗氏、女性薬剤師部会の村田美智子氏から各部会活動について紹介があった。新人薬剤師や薬学生の参加も見受けられ、講師やテーマを工夫することにより、各講義を連続聴講しても実りのある研修会となるよう今後も努力したい。

第31回沖縄県薬剤師会学術大会は「健康長寿を取り戻せ 薬剤師の底力で！」をテーマに11月12日に沖縄県看護協会館で開催し、参加者は今年も300名を超え、名嘉紀勝大会実行委員の司会進行のもと、開会の辞、会長挨拶と続いた。会員発表の部では、琉球大学医学部附属病院の石井岳夫氏、ぴいぷる薬局の中尾滋久氏、ハーブ薬局の照屋勇人氏、浦添総合病院の浜元善仁氏が座長を務め、病院薬剤師関連から12演題、保険薬局関連から3演題、その他部会・委員会関連5演題の合計20演題の発表が行われた。大会奨励賞として、病院診療所部門はおもろまちメディカルセンターの梅窪倫子氏による「当院におけるポリファーマシーの現状と薬剤部の取り組み」、保険薬局・その他関連部門は学校薬剤師部会の上原卓郎氏の「専門性を活かした薬物乱用防止教室への取り組み」が選ばれた。ランチョンセミナーは、アストラゼネカとの共催で中頭病院呼吸器内科の伊志嶺朝彦氏を講師として「喘息治療の話題と吸入指導」を、特別講演Ⅰでは兵庫県薬剤師会の三宅圭一副会長から「病院薬剤師と薬局薬剤師の協働で拓く薬剤師の未来」と題して、特別講演Ⅱでは沖縄県立中部病院感染症内科・地域ケア科医長の高山義浩氏から「沖縄県の地域包括ケアシステム構築と薬剤師への期待」と題して、高齢者のライフスタイルに合わせた最適な医療の選択に向けて地域に密着した医療職である薬剤師の役割が大きいこと、また病院医療に依存し過ぎず住み慣れた地域で安心して人生の最期を迎える環境整備に対しても薬剤師参画により実効性が高まると熱い期待をいただいた。今大会からCOI・倫理的配慮の公表や審査アドバイザーなどを導入したが、一部運営面の不手際も見られ、今後、運用スタッフや審査委員への事前説明やさらに審査規定の明確化や委員の選考方法なども改善していきたい。

その他としては、学術研修委員会の阪本崇彰氏を講師として臨床薬理学に関する研修会を「高血圧症治療薬の種類と選択」「脂質代謝治療薬」「睡眠障害とその治療薬」をテーマとして3回開催した。また、福岡県薬剤師会と共催している認定資格取得セミナーでは、昨年すでに腎臓病薬物療法、臨床腫瘍薬学会認定がスタートしているが、最後の緩和ケア薬学会認定セミナーの募集が今年3月に終了した。平成24年4月からスタートしている日本薬剤師会生涯学習支援システム(JPALS)は、昨年CLレベル5.6のCPC認定制度への移行に伴い自己学習の成果として、そして、かかりつけ薬剤師の要件として今後もさらに推進したい。我々薬剤師は、薬の専門家として国民の健康の保持・増進に寄与する責任があり、生涯にわたり研修・研鑽に取り組む事は重要である。さらに、医薬分業に対する国民からの理解・支持を得るために薬物治療への貢献を「目に見える形」で、学会発表や論文として示す必要もあり、そのための県薬剤師会への倫理委員会設置の検討など、今後も多岐に亘って生涯学習支援活動を継続していきたい。

4. 医療安全対策

(1) 平成29年度医療安全講習会を開催

平成30年2月4日(日)に本会館ホールで、「医薬品の安全使用のための業務手順書作成塾」と題して、鹿児島県薬剤師会医療安全委員会の今出唯史氏にご講義いただいた。参加者は134名。同講習会は「参加型」で進められた。開催後のアンケートによると、内容に関して満足は43.2%(41/95)で、やや満足も含めると90.5%(86/95)であった。一方で「スライドが見づらかった」との意見もあり、今後の課題となった。また、使用した資料を後日県薬ホームページに掲載し、参加できなかった会員にも提供することができた。

(2) 自動調剤機器・監査システムについてのアンケートを実施

平成30年1月に、施設で使用している調剤システムや監査システムの長所・短所を収集し、情報を共有することが会員の「より安全で正確な調剤」を行える手助けになると考え、アンケートを実施し、132軒から回答を得た。平成30年の九州山口薬学大会シンポジウムで発表する予定。

5. 医療保険

平成29年度の個別指導は、集団的個別指導が23件、新規個別指導が40件、既存薬局が21件と例年とほぼ変わりはない。個別指導における指摘事項も、薬歴簿の指導要点記載が不十分な例が多く見受けられた。また、誤った調剤報酬請求も散見された。8月には浦添市てだこホールにおいて、保険薬剤師・医療事務を対象に平成29年度「調剤報酬請求業務」及び「共同指導・個別指導における指摘事項」の講習会を開催した。平成30年度は診療報酬の改定があり、その説明会を3月25日に浦添市てだこホールにおいて、九州厚生局の「集団指導」と「平成30年度調剤報酬改定等説明会」を共同で開催した。今年度も2部に分けての開催とした。1部には約930名、2部に約780名の参加者であった。

一方、おきなわ薬剤師会報にも引き続き「調剤報酬Q&A」を掲載した。

6. 地域保健

(1) 患者のための薬局ビジョン

平成28年度に引き続き、平成29年度も国より沖縄県が委託を受けた当該事業の再委託を県より受けてこれを実施した。内容は、「薬局・薬剤師によるアウトリーチ型健康づくり推進事業」であった。概略は、沖縄県の離島・へき地において、以下①～⑥に配慮し各島で実施した。

- ① 健康相談のために身体の状態を測定する。すなわち、体脂肪率・筋肉量などの体成分の測定、骨密度測定、動脈硬化度測定、血圧測定、血糖値ならびに糖化ヘモグロビン(HbA1c)の測定など、主に生活習慣病に係る指標の測定を行い、標準値等について解説する。これは、診断の目的ではなく、当該地域住民が自分の身体の変化を知り、それをきっかけに正しい生活習慣を身につけ、生活改善のきっかけとなると同時に自分の健康を自分で守るというセルフメディケーションの考えを醸成することである。
- ② 薬を使用している住民に対しては、薬の使用法等の相談に応じる。特に高齢者に多い多剤併用(polypharmacy)に対処するために、“お薬手帳”の利用及び効果的な活用を促進する等により薬の適正使用を促すこと、ならびにサプリメントや“健康食品”などの正しい情報を提供し、その適正使用を促すことをめざす。
- ③ 薬を使用していない住民に対しては、サプリメントや“健康食品”などの正しい情報を提供し、適正使用を促すことを通して、将来薬を使用しないための健康づくりの指導・助言を行う。
- ④ 身体情報のデータについては、個人情報の管理に該当するため本人の同意のもとに慎重に扱い、指導・助言の内容のみならず、健康状態の変化(測定値)については過去のデータも含め一覧できるようにする。また、地域課題は、あらかじめ市町村との問題点について検討した上で、指導の内容に結びつける。
- ⑤ 当該離島・へき地において、服薬のアドヒアランスが良くない患者さんについては、市町村保健師または診療所医師等に聴き取りをして、健康相談会あるいは医療機関等に残薬を持参してもらい、残薬数の把握ならびに薬の適正使用について個別に指導する(平成26年度の事業の“お薬整理お薬立ちバッグ”を活用する)。効果については、アドヒアランスの改善と、薬剤費の削減の指標で評価する。
- ⑥ 離島の選択としては、沖縄県企画開発部資料に基づいた分類より下記に示す3つの異なる形態の離島を選択した。これらの離島のうち久米島のみが島内に薬局を有する。

(開催場所・日程)

- 久米島(沖縄県島尻郡久米島町):平成29年12月3日(日)
西表島(沖縄県八重山郡竹富町):平成30年2月4日(日)
南大東島(沖縄県島尻郡南大東村):平成30年2月11日(日)

具体的内容としては、島に住む住民の健康に対する意識を高めるため、協会としては、各種機器(骨密度計、体成分測定器、血管脈波測定器、HbA1c測定器などを使用する)による健康測定を行い、そのデータから必要な指導を計画した。すなわち、標準値を超えるような値が出た場合の受診勧奨、または診療所の医師並びに保健師への健康相談の促しを行い、測定値に何ら異常のない場合には、健康増進の為に(または薬を使わないようにするために)心がける内容を指導した。また、今回、久米島のみであったが、“ブラウンバッグ事業(飲み残しおくすりの整理等を主体とした薬の適正使用の推進)”の結果を示すことができた。

データは、記述統計処理すなわちそれぞれの測定値の平均値を求め、沖縄県民のデータと比較した。また、島民の主観的健康観ならびに啓発活動実施前後における健康に関する意識変容などのデータを聞き取り、アンケートを集計した。参加した地区薬剤師会の薬剤師はもちろん、連携した多職種各団体からは初めての企画に対する参加の感想並びに意見を聴取することにより、離島で引き続きこのような取り組みを実施するための計画に資する方策を検討した。

以上を「患者のための薬局ビジョン推進事業報告書」にまとめた。

(2) 自殺予防・対策事業

平成10年以来全国の自殺者が毎年3万人を越える中、平成18年に国は自殺対策基本法を成立、自殺予防総合対策センターを設置した。平成21年地域自殺対策緊急強化基金（100億円）設置に伴い、沖縄県も自殺対策連絡協議会を立ち上げ、本会も同協議会に参加し自殺予防事業に協力してきた。

県内における自殺者は平成10年以降300人を超えたが、全国の自殺者が3万人を切った平成24年、沖縄県も15年ぶりに300人を下回ることができた。その後、全国も沖縄県も徐々に減少してきたが、社会的損失の大きい自殺が依然深刻であることに変わりはない。沖縄県自殺対策連絡協議会における活動は今後も取り組んでいく事業として位置づけられ、平成18年度県内死亡率の30%以上減を目標としている。

地域保健委員会が取り組んだ平成29年度の自殺予防対策事業は、例年通り、会員店舗における自殺予防啓発ポスターの掲示と、ゲートキーパーとしてのスキルアップ研修会の開催であった。

研修会は平成30年3月4日に37人の参加によって行われた。講演Ⅰでは沖縄県保健医療部地域保健課精神保健班の知花誠氏より、自殺の現状（国・県）、自殺総合対策推進の枠組み（国・県）、県および市町村の取り組みについての報告と説明を頂いた。講演Ⅱにおいては、沖縄県教育庁保健体育課健康体育班の東由美子氏から、「子ども達に命をどう伝えるか～学校現場の事例を通して～」という演題でお話を頂いた。両親の離婚をきっかけに始まる貧困、学業の中断、命の軽視という負の連鎖にいかにか学校の先生方が関わっているか、その現実とご苦勞を垣間見ることができた。今回、大人の自殺を防ぐためには子供時代からの「命のとらえ方」も大事と考え、学校薬剤師部会と協働した企画であった。学校薬剤師が「お薬の使い方」や「薬物乱用」を指導する際にも、「子どもの命」を念頭に心して取り組むべきことと再認識できた講演会であった。

(3) 禁煙事業について

平成19年に発足した禁煙支援薬局・薬剤師の認定制度（3年毎更新）は、現在、認定薬剤師は74名、禁煙サポート薬局は9軒である。以前より、禁煙支援に携わる薬剤師のモチベーションを高く維持するための工夫が必要であることが本年度も確認された。また、平成29年度も、禁煙サポート薬局支援継続事業として「第231回全国禁煙アドバイザー育成講習会」と共同開催で実施した。

本年度より、九州山口薬学大会（宮崎）における禁煙協議会が中止された。また、全国での連携としては、日本禁煙科学会学術総会（松江）に5年前の沖縄大会から継続して参加しており、全国の禁煙に関わる多職種間での情報交換を行った。県内における他職種との連携としては、県内に5年前より設立された“こどもの禁煙研究会”へ継続して参加し、同事業の推進に県薬剤師会として貢献した。

また、県内の禁煙事業を多職種で集まって報告を行う“沖縄県禁煙協議会総会”に継続して参加し、県薬剤師会の取り組みを報告した。

一方、学校薬剤師を中心とした教育現場における防煙（はじめの1本をすわせない）活動については継続して行われた。これらの活動が小学校から高等学校の児童・生徒に対して継続して展開していることは、喫煙防止に大いに貢献するものである。未成年の禁煙支援に対しては、継続して県に対してその補助事業を申請しているところである。ブリンクマン指数の廃止により、未成

年をはじめとしてあまり多くない本数の喫煙者の禁煙治療が、保険を使用できるようになったことの意義は大きいと考える。さらに、「新型タバコ（加熱式タバコ等）」については、健康被害についてのデータが徐々に明らかになってきており、今後、教育現場での指導も含めこれらの評価が課題となる段階であると考ええる。

(4) フィジカルアセスメント

BLS（一次救命処置）は、平成27年度に実施した当該事業の基本となっているアメリカ心臓協会(AHA)のガイドラインがBLS2015に更新されたことを受けて、国内での対応に時間を要したがほぼ落ち着いたことから、本年度は会員向けの講習会を再開した。需要は多いと思われるのでBLS2015に基づいた離島も含めた継続した講習の実施が望まれる。

一方、“薬剤師のためのフィジカルアセスメント”は、平成29年度で6年連続となり当会が県病院薬剤師会と共同で行っている継続事業である。受講生の人数構成は、病院薬剤師約20名に対し、開局の薬剤師5名とほぼ定着している。最近では、那覇、中部からの受講生がほとんどであり開催場所である沖縄クリニカルシミュレーションセンターからの距離に依存した受講生の分布となっている。また、受講を終了した者が次年度以降のインストラクターとして講習の実施運営を引き継いでいく仕組みが必ずしも新陳代謝につながっているわけではない。さらに、講習修了者が、自分が勤務する薬局での業務に講習内容を生かしているのかは未知数である。

(5) 地域ケア会議

平成30年度より全面実施の運びとなっている地域包括ケアに基づく地域ケア会議において、薬剤師は“専門職メンバー”として参加が要請される。本年度は、那覇市、浦添市、沖縄市、宮古島市、宜野湾市、嘉手納町、読谷村等に薬剤師の派遣を行った。これら会議への参加報告は可能な限り当会で集約するようにしている。

また、沖縄県内における当事業の専門職アドバイザーの養成には、沖縄県リハビリテーション専門職協会が県よりの委託を受けた事業を行っており、当会は当初よりこの協力メンバーの団体の一つである。本年度もこれらの事業の研修会等に薬剤師の参加を促しているが、かかりつけ薬剤師・健康サポート薬局の普及が遅れていると同様に、こちらも参加する薬剤師の数があまり増えていないという実状がある。今後は、各市町村で地域ケア会議が実施された場合に、参加を断ることのないように、指導に必要な事項等の講習会の開催が望まれる。

7. 在宅医療

在宅医療を担う薬剤師の養成・支援を目的として以下の3つの事業を行なった。

(1) 在宅医療支援薬局の啓発活動

当会ホームページに在宅医療を支援できる85ヶ所の薬局一覧を地区別に掲載した。在宅担当薬剤師名、受け入れ可能な担当地域、施設（患者宅、介護施設など）、疾病（高齢者、緩和ケア、重度心身障がい児など）、注射薬の無菌調製などと一般の方々にもわかりやすく、細やかな掲載を心がけた。

また、病院の地域連携室への啓発運動も行なった。

【在宅医療支援薬局の掲載内容】

	H29/3/14 現在	H30/4/2 現在
1) 登録薬局数	7 4 薬局	8 5 薬局

2) 受入可能な施設

①患者宅	69 薬局	93%	80 薬局	94%
②介護施設	70 薬局	95%	80 薬局	94%
③グループホーム	66 薬局	89%	77 薬局	91%

3) 受入可能な疾病

①高齢者	69 薬局	93%	81 薬局	95%
②がん	64 薬局	87%	64 薬局	75%
③緩和ケア	49 薬局	66%	59 薬局	69%
④重症心身障がい児	42 薬局	57%	52 薬局	61%
⑤TPNの無菌調製	10 薬局	14%	11 薬局	13%
⑥医療用麻薬の無菌調製	9 薬局	12%	9 薬局	11%
⑦抗がん剤の無菌調製	4 薬局	5%	4 薬局	5%

4) 医療材料の取扱	56 薬局	76%	56 薬局	66%
------------	-------	-----	-------	-----

5) 無菌調製のために設置している設備

①クリーンルーム	4 薬局	4 薬局
②クリーンベンチ	7 薬局	8 薬局
③安全キャビネット	1 薬局	1 薬局
④他薬局設備を共同利用	20 薬局	14 薬局

(2) 在宅医療支援のための講演会

【薬剤師のための在宅医療教育セミナー】

第1回 3月31日 (土) 「実績ゼロからの在宅のはじめ方」 県薬剤師会館

(3) 無菌調製の実践講座

クリーンベンチの設置及び共同利用の推進を目的として、会営薬局うえはらの無菌調剤室共同利用およびTPN、医療用麻薬注射剤の無菌調製の実践講座を開催した。現在、県内では8ヶ所の薬局がクリーンベンチを設置しており、その中でも、会営薬局うえはら、北部地区薬剤師会会営薬局では共同利用を目的として設置されている。患者の要望に応えられるような体制が整いつつある。

【無菌調剤室共同利用講習会および無菌調製実践講座】

1月26日 (日) 参加者12名 会営薬局うえはら

8. 薬学生実務実習受入

実習生受け入れ8年目になるこの年は、12大学より1期17名、2期17名の合計34名の実習受入を行った。大学の内訳は以下の通りである。九州保健福祉大学5名、福岡大学1名、長崎国際大学4名、崇城大学2名、徳島文理大学7名、明治薬科大学1名、神戸学院大学3名、姫路獨協大学3名、同支社女子大学1名、福山大学4名、武蔵野大学2名、広島国際大学1名。

薬局において、昨年に引き続き平成31年度開始を想定しての新コア対応トライアル実習・評価が行われた。その結果については、9月に宮崎県で開催された「九州山口薬学大会」に於いて宮城幸枝委員がシンポジストとして発表を行った。

認定実務実習指導薬剤師養成のための講座は、新規2回、更新3回開催した。新コアカリキュラム、ガイドライン周知のための研修会（日薬伝達講習会）も開催した。他に、早期体験実習4名を受け入れた。また認定実務実習指導薬剤師の養成のためのワークショップへは6名派遣した。

各指導薬剤師の更新状況も順調ではあるが、一方ではライセンスを取得したにも関わらず更新にいたらなかった指導薬剤師、また実習生受入に難色を示す指導薬剤師もいるという残念な現状もあり、それが今後の課題となっている。

9. 災害支援対応

沖縄県災害医療コーディネート研修へ参加。チームに分かれて災害状況を情報収集し対応を検討し指示していく内容であった。沖縄県災害医療マニュアルの改正検討会議・防災会議へ参加。沖縄県地域防災計画に沖縄県災害医療本部の組織体制を明確化。これにより本会も計画に明記された。沖縄県薬剤師会BCP（事業継続計画）を継続作成中。九州山口薬学大会災害対策協議会に参加し、研修内容や災害訓練、備蓄状況について情報交換を行った。11月7日（火）県との新型インフルエンザ等対策連絡訓練、役員・地区会長等への連絡通知や事務局での対応を行った。BLS講習会を3回開催した。12月14日（木）参加者8名、1月24日（水）参加者9名、2月8日（木）参加者9名であった。

10. 関連事業

毎年度、継続して行った事業は次のとおりである。

- | | |
|------------------------------------|-------------------------------------|
| (1) 「薬と健康の週間」事業
(10月17日～10月23日) | (5) 日薬年金及び賠償責任保険・個人情報漏えい
保険の加入促進 |
| (2) 各種関連協議会への参加協力 | (6) 県薬会報の発行 |
| (3) 関連機関団体との協議及び懇談 | (7) 求人求職斡旋事業 |
| (4) 関係行政当局との定期的連絡協議会 | (8) 麻薬覚せい剤及び薬物乱用防止対策行事への
参加協力 |

11. 健康とおくすり相談会（月例）

回	開催日	担当	開催場所	相談員数	参加者数
第145回	6月11日	那覇地区	サンエー那覇メインプレイス	10	40
第146回	8月27日	那覇地区	サンエー那覇メインプレイス	7	20
第147回	10月20日	南部地区	パレット久茂地	6	30
第148回	10月21日	北部地区	イオン名護店前	6	5
第149回	11月12日	南部地区	西崎総合体育館	6	50
第150回	11月12日	那覇地区	沖縄セルラースタジアム	9	105
第151回	11月19日	中部地区	うるみん健康福祉センター	20	102
第152回	11月26日	宮古地区	JTAドーム宮古島	15	112
第153回	12月 3日	那覇地区	久米島ホテルドーム	11	105
第154回	2月 4日	八重山地区	竹富町離島振興総合センター	10	40
第155回	2月11日	那覇・中部地区	南大東村保健センター	11	33

平成29年度 薬事情報センター事業報告

(質問集計については2017.1.1～2017.12.31)

1. 情報提供業務

- (1) 質疑応答業務 (集計内容の詳細は別紙参照)
 - ・ 調査件数：602件／年 (医療関係者221、医療関係者以外381) 50件／月
 - ・ 質問者数：476人／年 40人／月
 - (2) WEBサイト (ホームページ) による情報提供
 - ・ ホームページ利用状況 アクセス件数：29,635
(3/31現在23,1138) (月平均2,469アクセス、1日平均82アクセス)
- 本年度追加・更新した主な項目
- | | | | |
|--------|------------|------------------|-------------|
| (一般向け) | ・ 研修会カレンダー | ・ 薬局マップ | ・ 沖縄県薬剤師会会報 |
| | ・ 在宅支援薬局一覧 | ・ 薬剤師会Facebook開設 | |
| (会員向け) | ・ 便利なリンク集 | ・ 新聞報道事例集 | |
| | ・ 安全性情報等 | ・ 通知文書掲載 | |
- (3) 会報「薬事情報おきなわ」の編集 ・ 発行 (隔月刊・年6回) No. 243～No. 248を発行
 - (4) 会員向けメール配信業務

2. 情報収集業務

- (1) 新規図書総数35冊 (購入：9冊)
- (2) 購読雑誌：20誌
- (3) 各都道府県薬剤師会機関誌：37誌
- (4) 業界新聞：4紙 (薬事日報、薬局新聞、薬事ニュース、国保新聞)
- (5) メーカー・卸機関誌：10誌
- (6) 厚生労働省および日薬からの各種情報・通知
- (7) 製薬企業からの情報

3. 情報管理業務

- (1) 当センターで独自に入力・管理を行なっているデータベース
 - ① 沖縄県薬事情報センター質疑応答事例(ファイルメーカー Pro)
(平成30年3月31日現在10,185件)
 - ② 購読雑誌、文献データベース：378件 (2016年1月分～)
- (2) 日薬と協同作成を行なっているデータベース (文献書誌情報検索システム：Bunsaku)
 - ・ 入力データ：448,888件 (平成30年3月31日現在)
 - 沖縄県薬担当雑誌 (「新薬と臨床」「総合診療」「臨床薬理」「おきなわ県薬会報」「産科と婦人科」)

4. 学会・日薬関連研修会等

- (1) 平成29年度都道府県薬剤師会スポーツファーマシスト担当者合同研修会
日時：平成29年11月30日（金）（於：日本薬剤師会）（参加：吉田典子・平良恭子）
- (2) 平成29年度 第1回日本薬剤師会 薬事情報センター実務担当者研修会
日時：平成30年2月23日（金）（於：日本薬剤師会）（参加：吉田典子）

5. 沖縄県体育協会関連研修会・会議等

- (1) 沖縄県スポーツ指導者協議会助成事業「スポーツ現場におけるドーピングの知識」
（主催：沖縄アスレティックトレーナー協議会）
日時：平成29年5月20日（土）琉球リハビリテーション学院（講師：笠原）
- (2) 平成29年度 第1回スポーツ医・科学委員会（主催：沖縄県体育協会）
日時：平成29年5月25日（木）沖縄県体協スポーツ会館会議室（参加：笠原・吉田）
- (3) (公財)日本体育協会公認「指導員」養成講習会（主催：沖縄県野球連盟）
日時：平成29年11月4日（土）沖縄セルラースタジアム那覇会議室（講師：笠原・吉田）
- (4) 平成29年度第2回加盟団体連絡会兼ドーピング防止研修会（主催：日本アンチ・ドーピング機構）
日時：平成29年12月15日（金）ベルサール飯田橋ファースト（参加：笠原）
- (5) スポーツにおけるドーピングの防止に向けたインテリジェンス活動に係る共同学習セミナー
（主催：独立行政法人日本スポーツ振興センター）
日時：平成30年1月19日（金）国立スポーツ科学センター（参加：笠原）
- (6) 平成29年度 沖縄県競技力向上対策研修会（主催：沖縄県体育協会）
日時：平成30年1月29日（木）県立総合教育センター（参加：吉田）
- (7) 平成29年度 第2回スポーツ医・科学委員会（主催：沖縄県体育協会）
日時：平成30年3月15日（木）沖縄県体協スポーツ会館会議室（参加：笠原・吉田）

6. その他

- (1) 琉球新報社発行・新報生活マガジン「うない」の掲載原稿審査
（化粧品、健康食品等の広告表現の審査：薬事法、健康増進法等）
平成29年4月～平成30年3月（31件）
- (2) DI業務支援
 - ・平良 恭子：平成29年4月～平成30年3月（1日／週）
 - ・金城みどり：平成29年4月～平成30年3月（平日：8時半～17時半）
 - ・赤嶺 朝健：平成29年4月～平成30年3月（2～3日／月：1日2時間）
- (3) 会営薬局とよみへ出向
 - ・吉田 典子（週5回：平成29年4月～平成30年3月：798時間）
- (4) 引用
 - ・福島労働局雇用環境・均等室よりホームページ『子どもの誤飲誤食110番』へのリンク
依頼

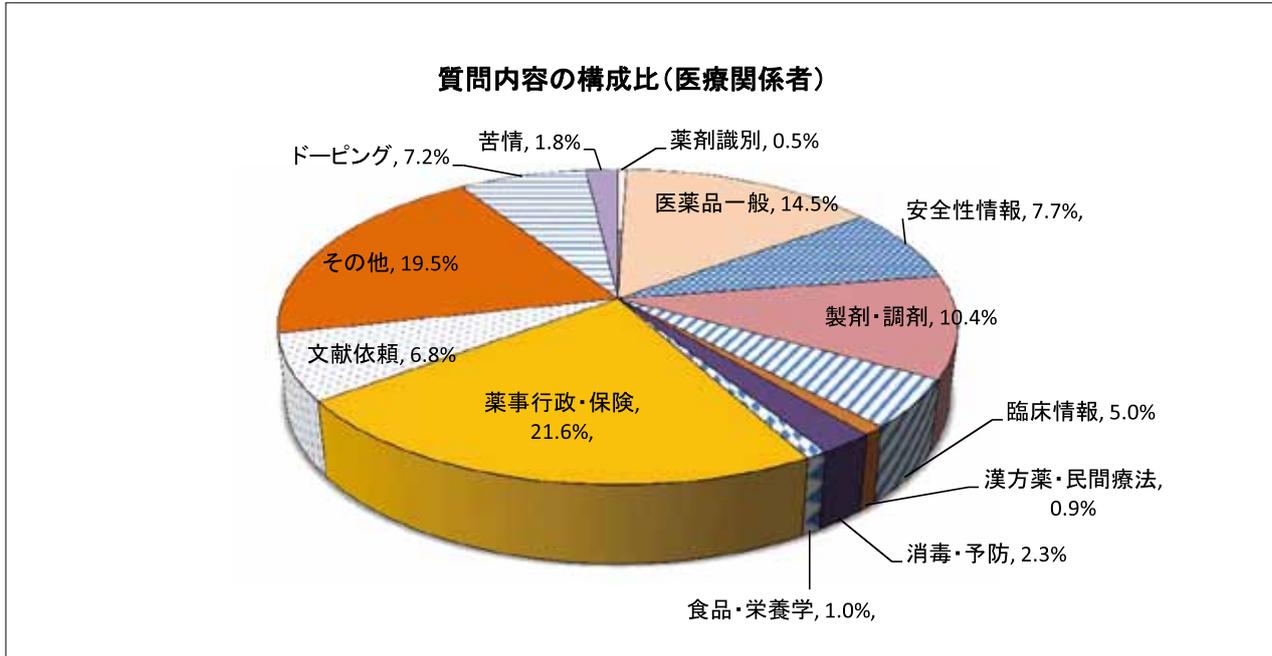
2017年度(平成29年度)：調査件数集計

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	%
薬剤識別	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.5%
医薬品一般	3	3	2	4	7	2	2	1	2	0	3	3	32	14.5%
安全性情報	3	2	5	1	1	0	1	0	2	0	1	1	17	7.7%
製剤・調剤	6	2	1	4	2	1	2	3	1	0	1	0	23	10.4%
臨床情報	1	0	0	0	3	2	3	0	2	0	0	0	11	5.0%
漢方薬・民間療法	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.9%
消毒・予防	0	0	0	1	0	0	1	0	0	3	0	0	5	2.3%
食品・栄養学	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0.9%
薬事行政・保険	2	1	7	4	4	5	8	1	8	2	3	5	50	22.6%
文献依頼	0	3	2	3	1	0	1	0	0	1	0	4	15	6.8%
その他	2	6	10	4	2	1	6	1	3	2	3	3	43	19.5%
ドーピング	0	0	0	2	0	3	2	0	2	7	0	0	16	7.2%
苦情	0	0	2	0	1	0	0	0	0	1	0	0	4	1.8%
合計	17	17	33	23	21	14	26	6	21	16	11	16	221	100.0%

医療関係者以外(件数)	32	32	23	40	30	34	23	26	30	30	36	45	381
(ドーピング)	0	7	0	6	0	1	6	8	3	1	14	6	52

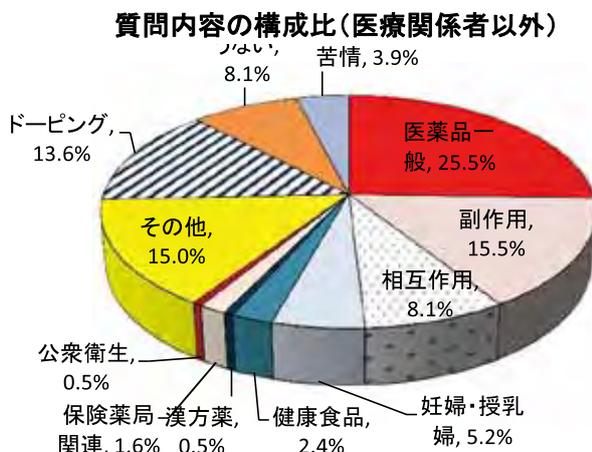
2017年：年間総調査件数 602 件

2017年：月平均調査件数 50 件



2017年(平成29年)：医療関係者以外からの質問の内訳

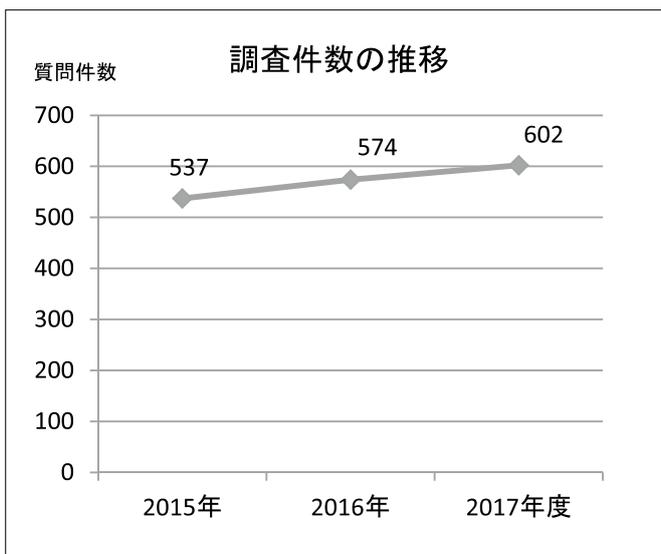
	合計	(%)
医薬品一般	97	25.5%
副作用	59	15.5%
相互作用	31	8.1%
妊婦・授乳婦	20	5.2%
健康食品	9	2.4%
漢方薬	2	0.5%
保険薬局関連	6	1.6%
中毒	0	0.0%
公衆衛生	2	0.5%
その他	57	15.0%
ドーピング	52	13.6%
うない	31	8.1%
苦情	15	3.9%
合計	381	100.0%



件数の推移

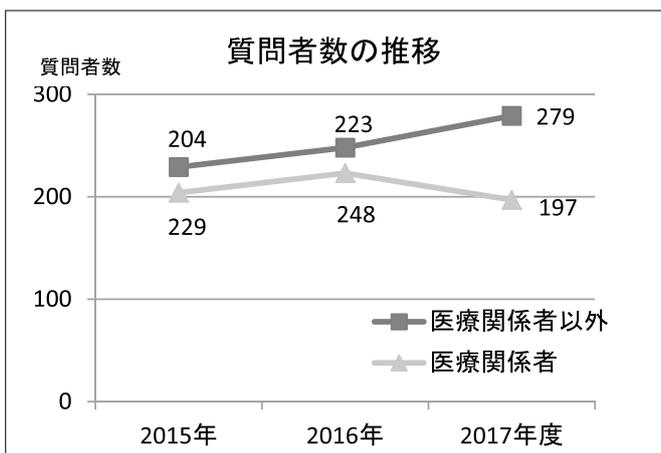
○全調査件数

	2015年	2016年	2017年度
薬剤識別	3	2	1
医薬品一般	40	33	32
安全性情報	27	14	17
製剤・調剤	18	21	23
臨床情報	7	27	11
漢方薬・民間療法	1	7	2
消毒・予防	1	4	5
食品・栄養学	1	3	2
薬事行政・保険	108	115	50
文献依頼	24	13	15
その他	54	57	43
PL相談	0	0	-
ドーピング	15	27	16
苦情	-	-	4
医療関係者以外	238	251	381
合計	537	574	602



○質問者数の推移

	2015年	2016年	2017年度
薬局	146	156	149
病・医院(薬剤師)	9	15	10
病・医院(医師)	4	3	8
病・医院(看護師・その他)	2	5	6
卸・製薬会社	14	8	4
行政・団体・他の薬剤師会等	25	24	16
その他の薬剤師	4	12	4
医療関係者以外	229	248	279
合計	433	471	476

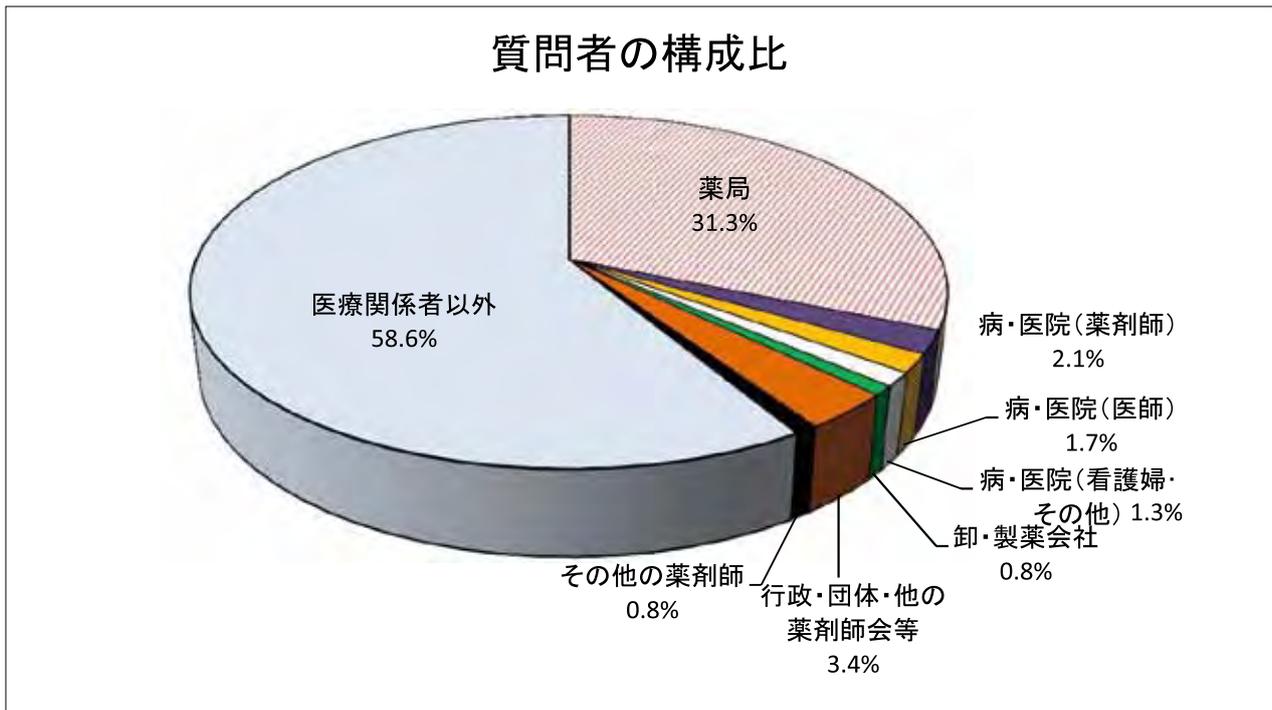


2017年度(平成29年度)：質問者数集計

分類		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	%
医療関係者	薬局	12	9	19	15	18	8	19	6	16	6	9	12	149	31.30%
	病・医院(薬剤師)	0	2	2	1	1	1	1	0	0	2	0	0	10	2.10%
	病・医院(医師)	0	1	0	0	0	0	1	0	3	2	1	0	8	1.68%
	病・医院(看護婦・その他)	0	0	2	1	1	1	0	0	0	0	0	1	6	1.26%
	卸・製薬会社	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0.84%
	行政・団体・他の薬剤師会等	1	2	7	2	0	1	1	0	1	0	0	1	16	3.36%
	その他の薬剤師	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	1	4	0.84%
医療関係者以外		25	27	22	27	18	18	17	18	23	17	26	41	279	58.61%
合計		38	44	52	48	38	30	40	24	43	27	36	56	476	100.0%

2017年：年間総質問者数 476 人

2017年：月平均質問者数 40 人



平成29年度 試験検査センター事業報告

I. 医薬品検査について

1) 計画的試験

*平成29年度の計画的試験検査については、平成29年12月11日に試験検査センター委員会で討議され、1) ラニチジン錠の溶出試験、2) カフェインの定量試験及び3) 漢方薬の細菌試験が選定された。検体の提出は171検体であった。

検査対象	検査項目	検体数
ラニチジン錠	溶出試験	62
カフェイン含有製剤	定量試験	15
漢方薬	細菌試験	94
		171

また、漢方薬の細菌試験については第17改正日本薬局方「参考情報」を結果判定の参考とした。

2) 統一試験（日薬）；平成29年度医薬品精度管理試験

*日薬より試験実施要領及び検体が配布され、下記の試験を行った。

*カフェインの定量試験（分析法）HPLC法

平成30年2月26日提出

3) 外部精度管理（厚生労働省）；平成29年度登録試験検査機関技能試験

*国立医薬品食品研究所より検体及び試験法が配布され、下記の試験を行った。

*イプリフラボン錠の定量試験及び純度試験（分析法）HPLC法

平成30年3月12日提出

4) 依頼医薬品・化粧品検査

*依頼検査の実績は以下のとおりである。

化粧品の細菌検査及び医薬品の規格試験等の依頼を受けた。

	検査料金	検査料金
依 頼	17	255,080

II. 水質検査について

1) 学校関係水質検査

*学校関係の水質検査は以下のとおりである。

県立学校及び市町村の水質検査、また、琉球大学附属小学校・中学校等の水質検査を行った。

	検査数		検査料金
	飲料水	プール水	
県立学校	78	84	2,414,016
市町村	497	239	8,137,098
その他 琉大附属小学校等	13	4	215,352
計	588	327	10,766,466

2) 依頼水質検査

*依頼検査は以下のとおりである。八重瀬町営プール、認定こども園等の水質検査等を行った。

	検査数	検査料金
一般依頼	110	1,115,424

Ⅲ. 空気環境検査について

1) ホルムアルデヒド及び揮発性有機化合物の検査

*県立学校及び那覇市等より空気環境検査の委託を受け、検体を取りまとめ、財団法人東京顕微鏡院へ分析を依頼した。

ただし、東京顕微鏡院への外注費は、1,832,200円。

	検査数	検査料金
県立学校	82	1,045,008
那覇市立小・中学校	72	909,360
与那原町立小・中	3	50,544
浦添市立幼・小・中	10	95,040
豊見城市立幼・小・中	20	411,696
その他 国立高専 等	13	231,984
計	200	2,743,632

2) ダニ又はダニアレルゲン検査

*県立学校、那覇市及び国立沖縄工業高等専門学校での検査を行った。

	検査数	検査料金
県立学校	231	632,016
那覇市立幼・小・中	316	703,944
与那原町立小・中	9	22,680
浦添市立幼・小・中	16	51,840
豊見城市立幼・小・中	41	109,080
宮古島市立幼・小・中	107	355,320
その他 国立高専 等	55	145,584
計	775	2,020,464

Ⅳ. 随時の調査等依頼への対応

○学校環境衛生や医薬品等の検査に関する問い合わせについて、下記の事項等について資料提供を行った。

- 1) プールの白濁の原因と対処について
- 2) 照度計の機種について など 7件

Ⅴ. 研修

1) 日薬技術講習会

講習日 平成29年12月14日
講習会場 日本薬剤師会 会議室
出席者 小泉 宝之

～研修内容～

- 1 医薬品の品質に関する試験検査と信頼性確保
- 2 平成30年度新規事業紹介
～粘着力試験パイロットスタディ～
- 3 試験検査センター委員会報告
- 4 日本薬局方における吸入剤関連試験法の概要
- 5 経皮吸収型製剤の粘着特性

講習日 平成29年12月15日
講習会場 日本薬剤師会 会議室
出席者 小泉 宝之

～研修内容～

- 1 学校環境衛生基準に基づく学校環境衛生活動
- 2 学校給食の衛生管理について

Ⅵ. 試験検査センター委員会

【第1回試験検査センター委員会】 日時：平成29年12月11日 場所：沖縄県薬剤師会 会議室

1 報告事項

- 1) 平成28年度実績報告（医薬品検査・水質検査等）
- 2) 平成29年度中間報告（医薬品検査・水質検査等）
- 3) 試薬の廃棄について経過報告

2 議題

- 1) 平成29年度計画的試験について 2) 平成30年度事業計画（案）について

【第2回試験検査センター委員会】 日時：平成30年3月15日 場所：沖縄県薬剤師会 会議室

1 報告事項

- 1) TOC計及び濁色度計の購入の報告及び学校環境衛生基準に関するパブリックコメントについて
2) 平成28年度 試験検査機関間比較による技能試験（厚労省）の結果報告

2 議題

- 1) 平成30年度の新たな取り組みについて
～在宅支援の個人宅、老健施設などへ「ダニ又はダニアレルゲン検査」の実施～

[第78回定時総会出席者]

<理事・監事>

敬称略

- | | | |
|----------------|----------------|-----------------|
| ○亀谷 浩昌（会長） | ○江夏 京子（副会長） | ○前濱 朋子（副会長） |
| ○外間 惟夫（副会長） | ○山里 勇（常務理事） | ○川満 直紀（常務理事） |
| ○村田美智子（常務理事） | ○笠原 大吾（常務理事） | ○西川 裕（常務理事） |
| ○成川 賢一（北部地区代表） | ○佐藤 雅美（中部地区代表） | ○渡具知一枝（那覇地区代表） |
| ○新垣 秀幸（南部地区代表） | ○下地 仁（宮古地区代表） | ○幸地 良信（八重山地区代表） |
| ○我喜屋美香（実務実習担当） | ○荒井 千春（在宅医療担当） | ○吉富 弓江（医療安全担当） |
| ○吉田 洋史（災害対策担当） | ○上原 卓朗（青年部会） | |
| ○友利 弘一（監事） | ○神谷 朝雄（監事） | |

<代議員>

☆：議長、◎副議長

- | | | |
|---------------|----------------|---------------|
| ○玉城 純（名護支部） | ○上原 幸代（那覇東支部） | ○武富 弘記（浦添支部） |
| ○屋嘉比康作（名護支部） | ○入月 健（那覇東支部） | ○西田 久（浦添支部） |
| ○江夏 恭範（うるま支部） | ○真崎しのぶ（那覇東支部） | ○日高久美子（浦添支部） |
| ○福地 健治（うるま支部） | ○上江洲美由紀（那覇東支部） | ☆名嘉 紀勝（糸満支部） |
| ○新江 裕貴（うるま支部） | ○吉田 英樹（那覇東支部） | ○松本 圭五（糸満支部） |
| ○阿嘉 貫哲（沖縄支部） | ○平良 博文（那覇北支部） | ○小湾 勝敏（糸満支部） |
| ○玉城 武範（沖縄支部） | ○松原 茂綱（那覇北支部） | ○伊敷松太郎（糸満支部） |
| ○普久原 隆（沖縄支部） | ○宮本 直樹（那覇北支部） | ○上原 陽子（南風原支部） |
| ○諸見里めぐみ（沖縄支部） | ○座安 雄一（那覇中央支部） | ○川上雄一郎（南風原支部） |
| ○長濱 照美（沖縄支部） | ○服部 大（那覇中央支部） | ○川上 善久（南風原支部） |
| ○阿嘉 貫哲（沖縄支部） | ○吉田 和子（那覇中央支部） | ○金城絵理子（南風原支部） |
| ○村田 成夫（嘉手納支部） | ○仲里すが子（那覇中央支部） | ○楠見 康夫（南風原支部） |
| ◎新垣 慶朗（宜野湾支部） | ○國吉 直子（小禄支部） | ○城間 盛伸（南風原支部） |
| ○仲座 方利（宜野湾支部） | ○具志堅興信（小禄支部） | ○古謝 真己（平良支部） |
| ○大塚成一郎（首里支部） | ○池間 正（浦添支部） | ○荒谷 敏巳（石垣支部） |
| ○吉村 瑞枝（首里支部） | ○大城 博次（浦添支部） | |

第78回定時総会資料

正味財産増減計算書

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

一般社団法人 沖縄県薬剤師会

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特 定 資 産 運 用 益	1,232	3,292	△ 2,060
特 定 資 産 受 取 利 息	1,232	3,292	△ 2,060
受 取 入 会 金	880,000	1,300,000	△ 420,000
受 取 入 会 金	880,000	1,300,000	△ 420,000
受 取 会 費	101,844,020	102,144,276	△ 300,256
正 会 員 受 取 会 費	52,645,650	54,736,388	△ 2,090,738
賛 助 会 員 受 取 会 費	48,913,370	47,327,888	1,585,482
特 別 会 員 会 費	285,000	80,000	205,000
事 業 収 益	1,712,557,713	1,686,032,420	26,525,293
出 版 物 事 業 収 益	3,611,889	6,079,170	△ 2,467,281
広 告 料 事 業 収 益	430,000	540,000	△ 110,000
そ の 他 事 業 収 益	11,733,450	10,570,073	1,163,377
調 剤 報 酬 収 入	1,460,605,017	1,441,098,983	19,506,034
一 部 負 担 金 収 入	182,797,597	176,105,288	6,692,309
小 分 治 療 剤 収 入	13,259,092	14,717,277	△ 1,458,185
保 険 外	16,542,516	11,889,781	4,652,735
受 取 手 数 料	7,395,936	4,783,947	2,611,989
保 険 等 調 整 増 減	△ 2,748,832	813,254	△ 3,562,086
新 規 契 約 賦 課 金	40,000	60,000	△ 20,000
利 用 契 約 金	2,490,000	2,570,000	△ 80,000
医 薬 品 検 査 手 数 料	250,080	330,759	△ 80,679
水 質 検 査 手 数 料	10,655,388	11,550,060	△ 894,672
空 気 検 査 手 数 料	5,495,580	4,923,828	571,752
受 取 補 助 金 等	7,677,758	4,854,181	2,823,577
受 取 地 方 公 共 団 体 補 助 金	5,516,000	2,375,000	3,141,000
受 取 補 助 金 等 振 替 額	2,161,758	2,479,181	△ 317,423
受 取 寄 付 金	329,592	537,720	△ 208,128
寄 付 金 収 入	10,000	200,000	△ 190,000
寄 付 金 等 振 替 額	319,592	337,720	△ 18,128
貸 倒 引 当 金 戻 入 益	180,000	480,000	△ 300,000
雑 収 益	4,141,883	3,741,131	400,752
受 取 利 息	2,819	7,827	△ 5,008
雑 収 入	198,318	337,712	△ 139,394
事 務 受 託 金 収 益	3,940,746	3,395,592	545,154
経常収益計	1,827,612,198	1,799,093,020	28,519,178

科 目				当年度	前年度	増 減		
(2) 経常費用								
事	業	費		1,746,761,048	1,733,207,642	13,553,406		
期	首	棚	卸	高	71,509,511	84,036,116	△ 12,526,605	
仕		入		高	1,390,263,274	1,370,763,924	19,499,350	
期	末	棚	卸	高	△ 65,095,335	△ 73,547,032	8,451,697	
役	員		報	酬	5,031,600	5,017,140	14,460	
給	料		手	当	92,250,462	107,152,976	△ 14,902,514	
雑				給	77,634,408	66,392,771	11,241,637	
賞				与	14,678,920	16,994,715	△ 2,315,795	
退	職	給	付	用	2,698,815	3,703,969	△ 1,005,154	
法	定	福	利	費	24,181,578	25,405,708	△ 1,224,130	
福	利	厚	生	費	1,009,949	973,659	36,290	
会		議		費	3,066,905	3,387,246	△ 320,341	
旅	費	交	通	費	18,807,386	17,454,446	1,352,940	
通	信	運	搬	費	6,500,250	6,444,343	55,907	
減	価	償	却	費	15,719,623	13,973,861	1,745,762	
消	耗		品	費	9,211,232	8,558,799	652,433	
修		繕		費	891,822	323,419	568,403	
研		修		費	11,000	42,000	△ 31,000	
出	版	物	印	刷	費	8,484,275	9,469,184	△ 984,909
地	代		家	賃	21,824,125	21,931,658	△ 107,533	
光	熱	水	料	費	6,256,122	5,895,403	360,719	
賃		借		料	1,873,519	2,213,886	△ 340,367	
広		報		費	7,887,344	3,234,870	4,652,474	
保		險		料	890,928	941,205	△ 50,277	
諸		謝		金	619,343	574,548	44,795	
租	税		公	課	3,211,144	3,276,093	△ 64,949	
支	払	負	担	金	966,300	1,190,191	△ 223,891	
支	払	補	助	金	6,000,000	6,000,000	0	
支	払	寄	附	金	343,000	130,000	213,000	
外		注		費	1,998,216	3,017,088	△ 1,018,872	
支	払	手	数	料	7,343,167	6,544,152	799,015	
交		際		費	38,350	576,914	△ 538,564	
管	理	維	持	費	5,855,767	5,620,234	235,533	
新	聞	函	書	費	1,077,101	1,338,644	△ 261,543	
貸	倒	引	当	金	30,000	0	30,000	
雑				費	8,000	0	8,000	
支	払		利	息	1,703,678	1,852,130	△ 148,452	
商	品	廃	棄	損	1,971,289	2,037,521	△ 66,232	
雑		損		失	7,980	285,861	△ 277,881	
管		理		費	35,638,939	35,322,433	316,506	
役	員		報	酬	1,948,400	1,962,860	△ 14,460	
給	料		手	当	7,008,515	6,216,462	792,053	
退	職	給	付	費	306,311	463,367	△ 157,056	
法	定	福	利	費	1,190,406	1,017,265	173,141	

科 目	当年度	前年度	増 減
福 利 厚 生 費	35,662	28,306	7,356
会 議 費	1,052,634	571,522	481,112
旅 費 交 通 費	3,558,512	3,393,096	165,416
通 信 運 搬 費	742,287	736,326	5,961
減 価 償 却 費	1,081,204	1,162,653	△ 81,449
消 耗 品 費	290,215	115,450	174,765
修 繕 費	267,444	117,050	150,394
出 版 物 印 刷 費	0	161,400	△ 161,400
光 熱 水 料 費	594,019	526,780	67,239
賃 借 料 費	292,351	294,569	△ 2,218
広 報 費	39,240	0	39,240
保 險 料	130,076	94,109	35,967
租 税 公 課	432,406	443,457	△ 11,051
支 払 負 担 金	14,467,074	15,459,460	△ 992,386
支 払 寄 附 金	0	6,000	△ 6,000
支 払 手 数 料	1,307,727	1,255,413	52,314
交 際 費	338,622	766,883	△ 428,261
管 理 維 持 費	310,224	262,994	47,230
支 払 利 息	245,610	267,011	△ 21,401
経常費用計	1,782,399,987	1,768,530,075	13,869,912
評価損益等調整前当期経常増減額	45,212,211	30,562,945	14,649,266
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	45,212,211	30,562,945	14,649,266
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
固 定 資 産 除 却 損	2,844	1	2,843
什 器 備 品 除 却 損	2,844	1	2,843
経常外費用計	2,844	1	2,843
当期経常外増減額	△ 2,844	△ 1	△ 2,843
税引前当期一般正味財産増減額	45,209,367	30,562,944	14,646,423
法人 税 等	16,344,300	1,571,800	14,772,500
当期一般正味財産増減額	28,865,067	28,991,144	△ 126,077
一般正味財産期首残高	684,447,787	655,456,643	28,991,144
一般正味財産期末残高	713,312,854	684,447,787	28,865,067
II 指定正味財産増減の部			
一般正味財産への振替額	△ 2,481,350	△ 2,816,901	335,551
一般正味財産への振替額	△ 2,481,350	△ 2,816,901	335,551
当期指定正味財産増減額	△ 2,481,350	△ 2,816,901	335,551
指定正味財産期首残高	29,435,986	32,252,887	△ 2,816,901
指定正味財産期末残高	26,954,636	29,435,986	△ 2,481,350
III 正味財産期末残高	740,267,490	713,883,773	26,383,717

貸借対照表

平成30年3月31日現在

一般社団法人 沖縄県薬剤師会

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現 金 預 金	298,345,224	282,273,144	16,072,080
未 収 入 金	270,990,835	278,956,959	△ 7,966,124
商 品	63,124,046	71,509,511	△ 8,385,465
立 替 金	753,434	17,000	736,434
前 払 費 用	1,160,764	742,892	417,872
仮 払 金	502,385	690,022	△ 187,637
貸 倒 引 当 金	△ 2,880,000	△ 3,030,000	150,000
流動資産合計	631,996,688	631,159,528	837,160
2. 固定資産			
(2) 特定資産			
退 職 給 付 引 当 資 産	67,379,464	69,132,360	△ 1,752,896
九 山 積 立 預 金	11,614,560	11,614,462	98
法 務 対 策 積 立 預 金	5,002,542	5,002,500	42
会 館 修 繕 積 立 預 金	38,748,336	35,748,034	3,000,302
災 害 対 策 積 立 預 金	3,001,645	3,001,621	24
移 転 積 立 預 金	40,003,326	30,003,081	10,000,245
特定資産合計	165,749,873	154,502,058	11,247,815
(3) その他固定資産			
建 物	142,785,075	147,923,535	△ 5,138,460
造 作 物	2,306,879	2,711,005	△ 404,126
建 物 付 属 設 備	12,444,134	14,798,108	△ 2,353,974
構 築 物	5,207,312	6,358,371	△ 1,151,059
車 両 運 搬 具	4	4	0
什 器 備 品	5,531,744	6,863,776	△ 1,332,032
土 地	157,097,850	157,097,850	0
電 話 加 入 権	2,765,413	2,765,413	0
ソ フ ト ウ ェ ア	1,717,605	3,168,269	△ 1,450,664
敷 金	1,250,000	1,250,000	0
差 入 保 証 金	5,081,850	5,081,850	0
その他固定資産合計	336,187,866	348,018,181	△ 11,830,315
固定資産合計	501,937,739	502,520,239	△ 582,500
資産合計	1,133,934,427	1,133,679,767	254,660
II 負債の部			
1. 流動負債			
買 掛 金	176,611,626	207,557,720	△ 30,946,094
未 払 金	24,119,537	28,369,004	△ 4,249,467
前 受 金	310,000	336,700	△ 26,700

科 目	当年度	前年度	増 減
前 受 会 費	8,300	0	8,300
預 り 金	2,811,740	1,367,662	1,444,078
賞 与 引 当 金	4,443,300	4,257,600	185,700
未 払 法 人 税 等	16,344,300	1,571,800	14,772,500
流動負債合計	224,648,803	243,460,486	△ 18,811,683
2. 固定負債			
長 期 借 入 金	109,203,000	119,199,000	△ 9,996,000
退 職 給 付 引 当 金	59,815,134	57,136,508	2,678,626
固定負債合計	169,018,134	176,335,508	△ 7,317,374
負債合計	393,666,937	419,795,994	△ 26,129,057
Ⅲ 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
地 方 公 共 団 体 補 助 金	19,527,139	21,688,897	△ 2,161,758
寄 付 金	7,427,497	7,747,089	△ 319,592
指定正味財産合計	26,954,636	29,435,986	△ 2,481,350
2. 一般正味財産	713,312,854	684,447,787	28,865,067
(うち特定資産への充当額)	98,370,409	85,369,698	13,000,711
正味財産合計	740,267,490	713,883,773	26,383,717
負債及び正味財産合計	1,133,934,427	1,133,679,767	254,660

報告第3号 会営薬局とよみ移転について

平成32年度に予定されている豊見城中央病院の移転に伴い当院から本会宛てに発出された「調剤薬局運営事業における優先交渉権」について応募申込書を応募期限の6月30日までに提出する。
(平成30年5月26日開催の臨時理事会にて承認)

理由：新豊見城中央病院の敷地は、市街化調整区域であることから、今後、豊見城市与根西部土地区画整理組合が区画整理事業を行うことになる。しかし現時点では、敷地内での区画整理地の位置や面積等が決定していないことから、今回、優先交渉権に応募し、今後の状況を見極めながら、交渉していくこととする。

＜議案第2号 一般社団法人沖縄県薬剤師会会規程の一部改正について＞

改正前		改正後	
「別表」資格基準（第3条第2項）		「別表」資格基準（第3条第2項）	
会員名称	資格基準	会員名称	資格基準
正会員	① 薬剤師の免許を取得していること。（薬剤師法第2条） ② 薬剤師関係法規に違反した者で、処分の終了した者 ③ この法人が承認した地域の薬剤師会の会員であること。	正会員	① 薬剤師の免許を取得していること。（薬剤師法第2条） ② 薬剤師関係法規に違反した者で、処分の終了した者 ③ この法人が承認した地域の薬剤師会の会員であること。
賛助会員	① この法人の目的及び事業に賛同し、事業に賛助するため入会を希望する薬剤師でない個人及び企業・団体。 ② 薬局。	賛助会員	① この法人の目的及び事業に賛同し、事業に賛助するため入会を希望する薬剤師でない個人及び企業・団体。 ② 薬局。
特別会員 A	・年齢が満80才以上の薬剤師で薬剤師業務に携わっていない者	特別会員 A	・年齢が満80才以上の薬剤師で薬剤師業務に携わっていない者
特別会員 B	・年齢が満75才以上の薬剤師で薬剤師業務に携わっていない者	特別会員 B	・年齢が満75才以上の薬剤師で薬剤師業務に携わっていない者
特別会員 C	・正会員、賛助会員以外の個人で、薬学を専攻する学生その他薬学及びそれに関連する知識・業務経験を有し、この法人の目的、事業に賛同するため入会を希望する者。	特別会員 C	・正会員、賛助会員以外の個人で、薬学を専攻する学生その他薬学及びそれに関連する知識・業務経験を有し、この法人の目的、事業に賛同するため入会を希望する者。
名誉会員	・薬学又は薬業の進歩発展に特に顕著な功労があった者のうちから、理事会で名誉会員とすることを決議した者。	名誉会員	・薬学又は薬業の進歩発展に特に顕著な功労があった者のうちから、理事会で名誉会員とすることを決議した者。
		※名誉会員推薦前に特別会員Aであった者は、県薬会員のみを有するものとする。	

＜議案第3号 一般社団法人沖縄県薬剤師会会費規程の一部改正について＞

＜改正前＞

種 別		金 額	備 考	摘 要
正会員	A会員	54,000円	内 日薬会費 18,000円	
	B会員	39,400円	内 日薬会費 7,000円	
	C会員	12,000円	内 日薬会費 7,000円	
賛助会員A		15,000円		
特別会員	特別会員A	10,000円		県薬会員資格のみ 有する
	特別会員B	17,000円	内 日薬会費 7,000円	
	特別会員C	0円	(会報発送なし)	研修会等の案内



＜改正後＞

種 別		金 額	備 考	摘 要
正会員	A会員	54,000円	内 日薬会費 18,000円	
	B会員	39,400円	内 日薬会費 7,000円	
	C会員	12,000円	内 日薬会費 7,000円	
賛助会員A		15,000円		
特別会員	特別会員A	10,000円		県薬会員資格のみ 有する
	特別会員B	17,000円	内 日薬会費 7,000円	
	特別会員C	0円	(会報発送なし)	研修会等の案内
名誉会員		0円		

＜地区薬剤師会代表質問＞

宮古地区薬剤師会

古謝 真己 代議員質問①

沖縄県薬剤師会で推奨する電子お薬手帳はありますか？

様々な電子お薬手帳のアプリが存在する中、種類によっては患者さんから提供していただくお薬情報が読みとれない、送信できないなどの問題も出ているようです。スマートフォンは、災害時に必ず持ち出すであろうアイテムの一つとなっています。互換性が高い将来性のあるアプリが有望かと思えます。沖縄県薬剤師会として、多種あるアプリを検討し、特定の電子お薬手帳アプリを推奨する予定はありますか？

西川 裕 常務理事答弁

現時点において、沖縄県薬剤師会として推奨しているのは、日本薬剤師会が提供している「e薬Link」対応している電子お薬手帳アプリです。機能面や互換性などを検討しても将来性の高いアプリであり、今後も推奨していく予定です。また、平成30年度患者のための薬局ビジョン推進事業において、「電子版お薬手帳の導入助成事業」が採択されました。事業では、「e薬Link」以外にも将来性のあるアプリの業者などの選定も検討し、県民が広く電子お薬手帳を活用できる体制を整えていく事業を行っていく予定です。

古謝 真己 代議員質問②

学校薬剤師活動について

1)薬品の廃棄について

離島の特性上、薬品の廃棄は沖縄本島に輸送して廃棄するため費用がかさみます。市立の小中学校の理科室の薬品処理は教育委員会管轄ですが、なかなか動いてくれないので、沖縄県薬剤師会からも文書ではたらきかけてもらえないでしょうか？

2)認定こども園への県薬の対応

宮古島市では、小学校内に併設された幼稚園が認定こども園になるケースが出ています。学校薬剤師は、小学校と認定こども園に一人ずつ配置するのと考えてよいのでしょうか？その際、検体採取キットなどは別々で用意していただけるのでしょうか？また、他支部ではどのように対応しているのか教えてください。

前濱 朋子 副会長答弁

薬品の廃棄については、学校の薬品処理は教育委員会で行うべきものと考えます。学校薬剤師から、理科室等の医薬品の点検の指導助言として廃棄が必要である事を校長へ報告し、校長から教育委員会へ廃棄医薬品の回収・廃棄の依頼をお願いしてもらって下さい。また、支部より教育委員会へ出向き、状況報告、回収・廃棄の依頼をしていただく方がより効果的かと思われます。その際、早期実施の実現に向けて、2～3年に1回の回収等で調整するのも一つの方法ではないかと思えます。

認定こども園への当会の対応については、小学校と認定こども園にはそれぞれ学校薬剤師を配置します。幼稚園から認定こども園に移行した場合は、幼稚園の担当者が継続の場合、新たに別の薬剤師を配置する場合があります。その際、小学校の担当者と認定こども園の担当者が兼任でも問題はありません。各地区の状況に合わせて対応してもらっています。料金の発生する検査については、公立の認定こども園では従来通りの市町村が多いようです。私立の認定こども園では、認定こども園と試験検査センターとの契約になるため、当会ホームページに掲載されている依頼

書のひな型を利用して契約を進めてもらっています。その際、学校薬剤師は園に検査内容を説明してください。詳細はホームページをご覧ください。

古謝 真己 代議員質問③

教育委員会と試験検査センターの契約について、飲料水やプール水の水質検査において、プールの授業が始まっているにもかかわらず、宮古島市教育委員会と試験検査センターとの間で契約が交わされていない状況があるようです。小さな学校では3週間ほどで水泳の授業が終わってしまう場合もあります。宮古島市特有のものなのか、他支部でもそうなのか。また、どうすれば改善すると考えられますか？水質検査の試薬にかかる費用は沖縄県薬剤師会と教育委員会のどちらが負担するのでしょうか？これも契約による取り決めがあるのでしょうか？

前濱 朋子 副会長答弁

県市町村の担当が変わると、契約が遅くなる場合があります。このような状況を回避するには、支部と教育委員会の関係を密にすることが大事です。4月、新年度がスタートしたら、支部から教育委員会へ連絡し、契約の進捗状況を確認しています。各学校のプールに配置している定期検査のための塩素濃度、PH測定の試薬は教育委員会から配布されています。宮古島市では現在、定期検査を試験検査センターで行っているため、それにかかる試薬代は費用に含まれていると思います。契約は毎年行われるので、その内容についてはお問い合わせください。

中部地区薬剤師会

村田 成夫 代議員質問①

薬学部設置活動の進捗状況について、現在、10万人以上の署名が集まり、日夜、設置活動に頑張っている中、琉球大学への薬学部設置の感触はどうでしょうか？名桜大学への設置がよいのではないかという意見もありますが、どう思いますか？署名活動のために動いている薬剤師会員が3割程度だとお聞きしましたが、このことをどう思いますか？

亀谷 浩昌 会長答弁

薬学部設置の感触については、全く分かりません。薬剤師会としてやるべきことはやっていると感があります。あとは琉球大学がどう動くかですが、政治力なくして琉球大学及び文科省・国を動かすことはできないと思います。

名桜大学への設置については、琉球大学には医学部があり、医と薬の共存は研究面、臨床面、教育面への相乗効果が期待できます。国立大学には全国から優秀な学生が集まり、本県の薬剤師のレベルアップにつながります。また、教職員の募集が名桜大学に比べて有利に働きます。卒業学生は全国に散らばると思われ、本県の薬剤師増につながると同時に、薬剤師過剰にも繋がりにくいと思われれます。

署名活動に動いている薬剤師会員が3割程度をどう思うかとのことですが、薬剤師会の活動は一部の人がするのではなく会員で取り組むべきものです。会員全員が一丸となって行えば、その効果は大きな成果につながると同時に、会員の団結力・実行力を対外的にも示すことになると思っています。本会の活動がどのような状況であるかを知るために署名活動に関わっている会員数と獲得した署名の数を分析してみました。理事会では署名活動の実施を決議したにもかかわらず、各地区薬剤師会での盛り上がりには欠ける結果となっています。執行部の考えが末端の会員と共有できていないと考えられます。組織決定した行動計画が結果を伴う形で実行できないと、外部から軽く見られるし、今後の薬剤師会の活動に不安を感じます。活動の低迷は政治力の低下につな

がり兼ねないし、薬のインターネット販売に始まる薬剤師会の主張と反する結果の続出も当然かなと思われま。この先、遠隔服薬指導が議論されますが、普段から結束できない組織には明日はないと思います。一つ一つの課題に会員が結束して当たり、ちゃんとした結果を残していくことを積み重ねることが大事です。会員一人一人が薬剤師の未来について考え、会の活動に協力する意義を考えて欲しいと思います。

村田 成夫 代議員質問②

実務実習指導薬剤師の実動状況について、実習生を受け入れている指導薬剤師が不足している中、今後どのように対応していくのでしょうか？指導薬剤師の資格をもっているが、実習生を受け入れてない人に対して、どう対処していくのでしょうか？ワークショップへの参加人数枠の増加はできないのでしょうか？実習薬学生の沖縄への就職率はどのくらいでしょうか？

我喜屋 美香 理事答弁

薬学生実務実習はこの3月でまる8年を経過し、当会で受け入れた学生は合計188名になります。指導薬剤師は、毎年増えてはきていますが、宮古、八重山地区をはじめとする地域では人数不足、また、毎年、実習生を受けている薬局の負担を減らすための地域の十分な指導薬剤師の数の確保は必要です。指導薬剤師になるためにはワークショップの参加は必須で、沖縄からは業務上2泊3日をさくのはかなり厳しい状況でもあります。今後はぜひ地区薬剤師会のご協力を得て、ワークショップへ行ける環境をつくり（人数的）、地域格差を是正したいと思います。ワークショップの参加枠は、1年間で（九州地区9県の開局分で）126名。これは、各県の会員薬局数と実習生の受け入れ人数で決まります。（平成29年データで福岡県2,500薬局あり373名の実習生受け入れ。沖縄県は490薬局で35名の受け入れ）一番多い福岡県のワークショップ参加枠44名からすると、沖縄県の6名は妥当な数となります。今後、実習生が増えるようであれば（山口県の例にもあるように）枠を増やす働きかけをしたいと思います。

実習薬学生を受け入れてない指導薬剤師の件について、指導薬剤師の更新条件に指導実績として最低1名が必要ですが、残念ながら実習生を受けてないため更新に至らなかった例もありました。現在は、ワークショップへ参加する場合は必ず実習を受け入れるという条件をつけていますので、今後は一度も実習を受け入れないといったケースはなくなると思われま。

実習生の県内就職率は、平成29年現在で約31%です。病院薬剤師を合わせて算出しています。国家試験の合格にも左右されますが、この数値は大きいと思われま。一度、沖縄県で実習をすると、県外にいても帰って来やすい環境が生まれます。（実習生は、ふるさと実習を通して生まれ育った地域の医療提供体制に触れ、薬局は実習生を受入れることで、10年後20年後の薬剤師像、薬局の新たな展開が見え、なによりも職員全体の意識レベルが変わります。）今後も皆様のご理解ご協力をよろしくお願い致します。

那覇地区薬剤師会

宮本 直樹 代議員質問①

沖縄県病院薬剤師会と沖縄県薬剤師会の統合について、具体的な進捗状況を教えていただけないでしょうか？

亀谷 浩昌 会長答弁

沖縄県病院薬剤師会会員を対象とした日本薬剤師会負担金7,000円＋日本病院薬剤師会薬負担金8,000円＋5,000円の計20,000円とする新会費案を策定しました。但し、沖縄県病院薬剤師会会

員の大量入会が伴わなければ新会費の実現は困難です。沖縄県病院薬剤師会会員の当会への入会に関する中村克徳沖縄県病院薬剤師会会長との話の中で、沖縄県病院薬剤師会会員にとって現在支出している1万円の年会費以上の支出は、学会費等の負担もあることから困難であり、沖縄県病院薬剤師会として会員に当会への大量加入を働きかけることは難しいことと、当会入会のメリットを感じにくい等の意見があることをお聞きしました。沖縄県病院薬剤師会会員の当会への大量加入は、薬剤師の団体としての組織強化の他にも両会の会員にとってメリットがあると思っておりますが、理解が深まらない限りこの提案は受け入れられ難いと判断し、現在は機の熟するのを待っている状態です。

宮本 直樹 代議員質問②

沖縄県薬剤師会会館使用料について、詳しい規程を教えてくださいませんか？メーカーを講師に、薬局（薬剤師）支援のための講演会を開催した場合、会館使用料を会員価格にしてくださいませんか？

山里 勇 常務理事答弁

会館貸し出しスタート時は、地区薬剤師会使用の場合、メーカーが協賛であっても会員料金でした。しかし、その後メーカーが会館を安く借用するために地区薬剤師会を利用するケースが頻繁に生じました。そのため、平成23年11月理事会にて、メーカー協賛時は地区薬剤師会主催であっても非会員料金とすることが決まったという経緯があります。今回の件を検討した結果、会員支援のための講演内容（調剤報酬、薬局経営関係等）でメーカーから講師を招くということであれば、条件付きながら地区薬剤師会使用で対応する事としました。（条件：製品紹介、製品資材の配布、芳名録提供などは全て禁止）

宮本 直樹 代議員質問③

各病院・薬局でトレーシングレポートが違うため、沖縄県全体統一のトレーシングレポートを作成するか、または各病院のトレーシングレポートを沖縄県薬剤師会のホームページに掲載していただけないでしょうか？

西川 裕 常務理事答弁

医療機関によっては必要とする情報が異なる点から、沖縄県全体統一のトレーシングレポートを作成するのは困難であると考えます。しかし、厚生労働省が提供している「服薬情報提供料に係る情報提供書」のテンプレートがあるため、これを当会の推奨するトレーシングレポートとしてホームページに掲載し対応致します。また、指定の書式がある医療機関に関しては、各病院のトレーシングレポート書式をダウンロード、ページへのリンクも当会ホームページに掲載していく予定です。指定の書式がある医療機関がありましたら、ご連絡いただければ随時掲載していきたいと思っております。

宮本 直樹 代議員質問④

薬局が在宅医療へ取り組めるように、今後、沖縄県薬剤師会で実践的な研修システムの支援を行っていただけないでしょうか？

荒井 千春 理事答弁

在宅医療を実施している薬局は、現在、全国平均約2割といわれています。一方、沖縄県では2割弱で年々増加傾向ではありますが、まだまだというのが現状です。在宅医療委員会では、今年

度の事業計画として在宅医療薬剤業務の体験事業を計画しております。具体的には在宅医療未経験者に対して、①訪問薬剤管理・多職種との連携などの一連を体験するコース、②現在、在宅医療を経験している薬剤師に対しても、より質の高い在宅医療を実現するためのコースの2つのコースを計画しています。ご指摘のとおり少しでも多くの会員が在宅医療に取り組めるための支援体制を企画して参ります。

八重山地区薬剤師会

荒谷 敏巳 代議員質問①

全国チェーン展開している大規模な薬局から私達個人経営の小規模薬局に対して頻繁にM&Aの勧誘があります。大規模薬局は「経営」に関してよりシビアであり、接遇やマナー等のノウハウがあり、スタッフもその教育を受けています。今後、経営的に弱く顧客満足度の低い薬局は淘汰されていくことが予想されます。そこで、当会には学術的な勉強会だけではなく、会員のほとんどである個人経営の小規模薬局に向けた経営支援セミナーや接遇、マナー講習会の定期的な開催を望みます。

江夏 京子 副会長答弁

全く同感であります。経営が健全でなければ、薬局ビジョンに代表される薬剤師職能を継続的に発揮することは不可能です。薬剤師としては薬剤に関する知識・技能の向上は薬の専門家として不可欠ですが、薬局・薬剤師はサービス業でもあり、顧客満足度を高めることも同様に必要です。大規模チェーン薬局は多くの専門の部署を持ち、豊富なノウハウのもと、社員教育の充実を図っています。人材が不足している個店や中小の薬局は結集し協力しなければ、学び向上する環境を得ることは困難です。この役割を果たすことが当会に求められています。当会の各委員会に於いて、会員の皆様が何を求めているか把握し、会員のための企画・活動を目指したいと思います。

荒谷 敏巳 代議員質問②

昨年に引き続いての要望ですが、観光客や他県から来島される方々への取り組みで、沖縄県衛生薬務課、観光課などに対しアプローチされたということでしたが、今なお常用薬不携帯での来島者が多いのが現状です。今年は啓蒙活動をより強化し、多くの人目に触れるようなポスターやパンフレット等の作成と、それを活用しより多くのルートを通じた常用薬携帯の啓発、感染症などに対する注意の呼びかけをお願いできないでしょうか？

江夏 京子 副会長答弁

昨年、質問を受け早速、観光振興課に現状を説明し提案を申し上げましたが、まだパンフレット等への掲載はされていません。改めてお願いするとともに、今年は掲載案を提示し、沖縄観光コンベンションビューローやJAL、ANA、大手旅行代理店等にも働きかけて参ります。

荒谷 敏巳 代議員質問③

毎年、宮古地区薬剤師会は島内または離島の公民館を訪問し、沖縄県薬剤師会より貸し出してもらった測定器を用いて相談会を行っています。しかしながら、私達地区薬剤師会会員は健康とおくすり相談会の時にしか測定器に触れる機会がないので、設置や操作方法に時間がかかっていました。一昨年、昨年度と、国の事業ということもあり、笠原理事には2年連続、昨年度は亀谷会長をはじめ事務局職員の方々にも参加いただきました。お陰様で例年より充実した相談会が実施することができました。今後、国の事業から外れても継続して沖縄県薬剤師会事務局職員の方々

を派遣して頂くことはできないでしょうか？

笠原 大吾 常務理事答弁

八重山地区薬剤師会の皆様には大変お世話になりました。地区の会員の皆様が、離島住民へのセルフメディケーションを含めた“健康とおくすり相談会”を継続して行っていただけることのご支援のため、当会より薬剤師または事務局職員の派遣をすることを検討させていただきたいと考えております。

北部地区薬剤師会

屋嘉比 康作 代議員質問①

沖縄県薬剤師会は、新沖縄県立八重山病院の敷地内薬局誘致に対し、「到底容認できるものではない」として陳情書を提出しておりますが、今回の会営薬局とよみの移転に伴い、敷地内薬局への優先交渉権獲得の意向は相反していると思います。整合性が取れていないように思えますが、それに対して説明をください。

また、今後、医療機関側から敷地内薬局の要望が増えて来た場合、沖縄県薬剤師会はどのように対応していくのか等、考えを聞かせてください。

亀谷 浩昌 会長答弁

豊見城中央病院の移転に伴う会営薬局とよみの移転については、優先交渉権の行使を申し出ます。今の段階では、敷地内か門前になるかについては決定していません。今後の経過を見ながら最終決定をしていきます。

敷地内薬局に対する当会の考え方を説明します。厚労省の患者のための薬局ビジョンや薬局のあるべき姿を指導する日本薬剤師会の考え方からも、敷地内薬局より住民地域に立地する薬局が望ましいことは明らかです。特に、公立病院には国・厚労省の進める健康サポート薬局構想に反する敷地内薬局を選択して欲しくありません。「利便性」の名の下に、敷地内薬局を進めようとしています。薬は「早く手に入れ早く家に帰れば良い」だけのものではありません。薬を使用している間は、「かかりつけ薬剤師・薬局」による薬学的管理がなされなければなりません。しかも、弱者救済を言いながら、無原則にすべての患者を対象とするのは詭弁であります。しかし、残念なことに、条件を満たせば敷地内薬局は合法です。強行する相手に力を持って反対することはできません。「患者のための薬局ビジョンに反するから敷地内に参入しない」というのも有りですが、では、患者を病院敷地内で抱え込む薬局が参入するのを黙って見ているべきでしょうか？薬剤師会の敷地内薬局への対応には2段階の考え方であっても良いのではないのでしょうか？第一段階では、理屈・道理に基づいて敷地内薬局に反対する。それでも説得に応じない場合、第二段階の考え方として、あえて当会、地区薬剤師会が敷地内に入り、患者の地域薬局への紹介を行って、「かかりつけ薬剤師・薬局」の実現を図ります。また、高度薬学管理を実施し、地域薬局へその知識・技術の拡散、薬の小分け支援等など、会営薬局が参入するメリットは多いと思います。地域の小規模薬局と会営薬局が組んで、「患者のための薬局ビジョン」を実現する考えがあっても良いと思います。会営薬局の参入は、例えて言えば「反基地ではあっても敢えて軍雇用に入り、そこでの収入で反基地運動をする」ようなものではないのでしょうか？「苦渋の選択」と言いたい。

今後の対応ですが、国公立病院に敷地内薬局開設の動きが出てきた場合、沖縄県薬剤師会は医療機関側に厚労省の進める患者のための薬局ビジョンを説明し、考え方を改めるような説得活動をしていくことになるでしょう。

南部地区薬剤師会

川上 善久 代議員質問①

次期診療報酬改定を見据えての対策について、日本薬剤師会、当会から具体的な対策はありますか？また、沖縄県薬剤師会として何か方策は考えていますか？

川満 直紀 常務理事答弁

平成30年度の診療報酬改定が出たばかりなので、次期診療報酬に関しては、確実な情報がないのが現状です。しかしながら、国の患者のための薬局ビジョンでは、2025年までには全ての薬剤師がかかりつけ薬剤師であることを掲げているので、次期診療報酬に関しても、それに向けた改定がなされるものと思われます。また、健康サポート薬局に関しても、何らかの方向性が見えてくると思われます。

当会としては、次期診療報酬に関して情報が入り次第、会員の先生方に伝達し、当会ができる対策をしていきたいと思えます。また、診療報酬改定前には、日本薬剤師会に沖縄県薬剤師会として本件に関しての意見書や要望書を提出しています。

ちなみに、前回の改定前に提出した意見・要望としては、ハイリスク薬について、適応症によって算定が認められていないが薬局では病名がわからないので、処方箋への病名記載が実現するまでその適応症に限らず算定できるようにしていただきたいこと、もう一つは、処方箋の有効期間が交付の日を含めて4日以内となっているが、振替休日等で月曜日が休日になると患者に不便をきたしてしまうため日曜・祝日を除くように改めてほしいと要望書を提出した経緯があります。

川上 善久 代議員質問②

健康サポート薬局について、更なる推進事業について沖縄県薬剤師会の考えを聞かしてください。

笠原 大吾 常務理事答弁

当会としては2025年までに“健康サポート薬局”沖縄県内100軒設置をめざしております。昨年度は、届け出に必要なA、B研修会（沖縄本島ならびに宮古、八重山地区）の開催、e-ラーニングの援助、また、届出の際に役に立つ内容（届出書類の書き方について、揃えるべきOTC薬について、健康サポート薬局の内容の充実について）の3回の講習会、など情報提供にも取り組んでまいりました。さらに、アンケートも行い、会員が健康サポート薬局を届け出る際の障壁となっている点の把握も行いました。今年度は、上記事業に加え、「沖縄県地域医療介護総合確保基金（医療分）」の予算を使用した“沖縄県薬剤師会会営薬局を活用した“健康サポート薬局”のモデル薬局の構築と活用の充実のための研修”を申請中です。こちらも合わせて、会員の届け出推進に寄与するものとして活用していただきたいと思えます。

川上 善久 代議員質問③

移転先の豊見城中央病院に、沖縄県薬剤師会はFAXコーナーの設置をどうお考えでしょうか？高度薬学管理機能、地域支援薬局をコンセプトとした会営薬局の近隣への展開を含め、沖縄県薬剤師会の考えを聞かしてください。

江夏 京子 副会長答弁

移転先の豊見城中央病院からの院外処方せんを地域拡散させるためには、当会としてFAXコーナーは必要であると考えます。原則、FAXコーナーの設置は地区薬剤師会の判断に任されています。他の地区薬剤師会では、その考えに基づいて行動しています。南部地区薬剤師会でも会員で良く話し合い、より良い選択をしていただきたいと思えます。

会営薬局が地域の薬局に貢献する方略は、この前の回答でもご説明しておりますが、会営薬局が患者の地域薬局への紹介を行って「かかりつけ薬剤師・薬局」の実現を図ります。また、高度薬学管理を実施し、地域薬局へその知識・技術を伝え、薬の小分け支援など、会営薬局の役割は多いと思います。

地域の小規模薬局と会営薬局が組んで、「患者のための薬局ビジョン」を実現する方向性で当会としても取り組むべきではないかと思っています。

<地区薬剤師会代表質問演説>

<地区薬剤師会代表質問回答>



古謝 真己
平良支部代議員
(宮古地区代表)



村田 成夫
嘉手納支部代議員
(中部地区代表)



宮本 直樹
那覇北支部代議員
(那覇地区代表)



荒井 千春 理事
(在宅医療関連質問回答)



川満 直紀 常務理事
(医療保険関連質問回答)



荒谷 敏巳
石垣支部代議員
(八重山地区代表)



屋嘉比 康作
名護支部代議員
(北部地区代表)



川上 善久
南風原支部代議員
(南部地区代表)



我喜屋 美香 理事
(実務実習関連
質問回答)



笠原 大吾 理事
(健康とおくすり相談会関連
質問回答)

第78回通常総会スナップ写真



役員席側



代議員席側



開会の辞
江夏 京子 副会長



日程説明
村田 美智子 常務理事



報告第1号
前濱 朋子 副会長



報告第2号
友利 弘一 監事



議案第1号～第3号
山里 勇 常務理事



議長
名嘉 紀勝 代議員

副議長
新垣 慶朗 代議員



閉会の辞
外間 惟夫 副会長



司会
西川 裕 常務理事

医療保険

平成30年度調剤報酬改定等説明会報告

会期：平成30年3月25日（日）13:00～15:00（南・中・北部地区）
16:00～18:00（那覇地区）

会場：浦添市てだこホール

＜プログラム＞	司会：沖縄県薬剤師会 医療保険委員会 照屋林一郎
第1部 九州厚生局集団指導	
1. 開会の挨拶	九州厚生局沖縄事務所 所長 大石 一也
2. 施設基準等について	九州厚生局沖縄事務所医療事務専門官 與儀 善哉
3. 調剤報酬改定概要について	九州厚生局沖縄事務所保険指導薬剤師 仲真 良重
第2部	
1. 開会の挨拶	沖縄県薬剤師会会長 亀谷 浩昌
2. 平成30年度調剤報酬改定等について	
調剤報酬改定	医療保険委員会 宮城 幸枝
在宅医療（医療保険・介護保険）	医療保険委員会 荒井 千春
3. 閉会の辞	沖縄県薬剤師会常務理事 川満 直紀

＜第1部 九州厚生局による集団指導＞

- 変更事項：提出する届出書は正副2通から1通のみになりました。届出書の写しは必ず保管してください。
- 提出先：〒900-0022 那覇市樋川1-15-15 那覇第一地方合同庁舎西棟2F 九州厚生局 沖縄事務所 九州厚生局長宛。
- 期日：4月16日までに届いた届出は4月1日に遡って算定可、それ以降は通常の手続きとなります（月の最初の開庁日に届出を受理した場合は当該月の1日から算定可、それ以降は翌月から算定）。
- 施設基準適合の確認：厚生労働省又は九州厚生局のHPを参照して下さい。 <http://www.mhlw.go.jp/> > 「政策について」 > 「分野別の政策一覧」 > 「健康・医療」 > 「医療保険」 > 「平成30年度診療報酬改定について」
- 届出書の様式：九州厚生局HP (<http://kouseikyoku.mhlw.go.jp/kyushu/>) 「知りたい分野から探す」 > 「保険医療機関、保険医等」 > 「保険医療機関・保険薬局の方へ」



医療保険委員会
新江 裕貴

＞「届出様式等」＞「平成30年度診療報酬改定に係る施設基準の届出等」＞「特掲診療料の届け出一覧」

＜調剤報酬改定の概要について＞

1. ①かかりつけ薬剤師の推進

患者が選択したかかりつけ薬剤師が処方医と連携して患者の服薬状況を一元的かつ継続的に把握した上で服薬指導等を行う業務を薬学管理料として評価されています。かかりつけ薬剤師指導料を算定した場合には疑義照会の割合が算定していない場合の約3倍高く、薬学的な観点から必要とされる疑義照会の割合も約3倍高かった報告（診療報酬改定の結果検証に係る特別調査H29かかりつけ薬剤師

調査) のようにかかりつけ薬剤師が医師との連携が図れていることが評価されました。

①- i プラス改正

かかりつけ薬剤師指導料 70点→73点

かかりつけ薬剤師包括管理料 270点→280点

①- ii かかりつけ薬剤師の同意書に以下の記載事項が追加

○当該患者がかかりつけ薬剤師を必要とする理由

○かかりつけ薬剤師に希望する事項

○かかりつけ薬剤師に関する情報

公費単独患者等に一律にかかりつけ薬剤師指導料を算定する薬局が散見されたことが背景にあり、適切な推進のために改定されました。

①- iii かかりつけ薬剤師の要件の変更

○平成30年10月からは当該保険薬局に1年以上在籍していること(それ以前は6ヶ月で可)

○週32時間以上勤務の条件は育児・介護休業法の規定により労働時間が短縮された場合は週24時間以上に短縮(かつ週4日以上勤務)

② 地域医療に貢献する薬局の評価

(新) 地域支援体制加算35点

これからの薬局には以下イ～ハの取組み等により地域支援等に積極的に貢献することが求められています。これを踏まえ、地域包括ケアの中で地域医療に貢献する薬局を評価する地域支援体制加算が新設されました。基準調剤加算は廃止されました。

イ かかりつけ薬剤師による適切な薬学的管理の提供

ロ あらゆる処方箋に対していつでも調剤サービスを提供できる体制の整備

ハ 安全向上に資する事例の共有(プレアボイドへの取組み)

②- i 地域支援体制加算の施設基準

(1) 地域医療に貢献する体制を有することを示す相当の実績

(2) 患者ごとに、適切な薬学的管理を行いかつ服薬指導をしている。

(3) 患者の求めに応じて投薬に係る薬剤に関する情報を提供している

(4) 一定時間以上の開局

(5) 十分な数の医薬品の備蓄、周知

(6) 薬学的管理・指導の体制整備、住宅に係る体制の情報提供

(7) 24時間調剤、在宅対応体制の整備

(8) 在宅療養を担う医療機関、訪問看護ステーションとの連携体制

(9) 保健医療・福祉サービス担当者との連携体制

(10) 医療安全に資する取組実績の報告(新)

(11) 集中率85%超の薬局は、後発品の調剤割合50%以上

調剤基本料1を算定している薬局は下記a～c全てを満たせば(1)を満たすとする。

a 麻薬小売業者の免許を受けていること

b 在宅患者薬剤管理の実績を有していること

c かかりつけ薬剤師指導料等に係る届出を行っていること

調剤基本料1を算定していない薬局は1年に常勤薬剤師1人当たり以下A～Hの全ての実績を有すること

A 夜間・休日等の対応 400回

B 麻薬指導管理加算 10回

C 重複投薬・相互作用等防止加算等 40回

D かかりつけ薬剤師指導料等 40回

E 外来服薬支援料 12回

F 服用薬剤調整支援料 1回

G 単一建物診療患者が1人の在宅薬剤管理 12回

H 服薬情報等提供料 60回

(7)は、地方公共団体、保健医療機関及び福祉関係者に対して、24時間調剤及び在宅業務に対応できる体制に係る周知を自ら又は地域の薬剤師会等を通じて十分に行って

いること。

(10)は、前年1年間(1/1-12/31)に、疑義照会により処方変更がなされた結果、患者の健康被害や医師の意図した薬効が得られないことを防止するに至った事例を提供した実績を有し、薬局機能情報提供制度において「プレアボイド事例の把握・収集に関する取組みの有無」を「有」としていること(平成31年4月以降適用)。副作用報告に係る手順書を作成し、報告を実施する体制を有していること(平成30年10月適用)。

2. 薬局における対人業務の評価の充実

日本の多剤投薬の実態については、7種類以上薬を服用している割合は65歳以上で約4割、80歳以上では6割(診療報酬改定の結果検証に係る特別調査H29かかりつけ薬剤師調査)や6剤以上の投薬が有害事象と関連(GeriatrGerontol Int 12:761-2, 2012)などが報告されております。また、海外の報告ではありますが、服用回数が多いほど正しく服用されなくなる(N Engl J Med 353:487-97, 2005)、服薬数が多いほど、正しく服用されにくくなる(Am J Med 120:713-9, 2007)ことも示唆されています。このような多剤投薬の問題や他の新しいニーズにも対応でき、安心・安全で納得できる質の高い医療の実現・充実されるよう対人業務が評価される改訂となりました。

2-① 服用薬剤調整支援料 125点(新設)

4週間以上服用を続けている薬が6種類以上ある患者を対象に減薬を文書で処方医に提案し(必要に応じて対面相談)2種類以上減り(うち1種類は提案した薬)、その状態が4週間継続した場合に月に1回まで算定

2-② 服薬情報提供料20点の細分化、プラス改定

服薬情報提供料1 30点(医療機関からの求めによる情報提供)

服薬情報提供料2 20点(それ以外の理由による場合)

2-③(在宅患者)重複投薬・相互作用等防止加算30点の細分化、プラス改定

(在宅患者)重複投薬・相互作用等防止加算
ロ 30点(残薬調整に係るもの場合)

(在宅患者)重複投薬・相互作用等防止加算
イ 40点(その他の場合)

2-④ 乳幼児服薬指導加算プラス改定(10点→12点)

2-⑤ 薬剤服用歴管理料

2-⑤-i プラス改正

○6ヶ月以内の再度来局時にお薬手帳を持参した患者、または特別養護老人ホーム入居者に算定した場合 38点→41点

○上記以外の患者に対して行った場合 50点→53点

2-⑤-ii 薬歴記載事項の変更

「継続的な薬学的管理及び指導の留意点」、「薬学的管理に必要な患者の生活象等」が追加され整理されました。他にも服薬指導にはお薬手帳の指導と説明をすること、「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照するなど、変更がありますので、各会員様においてはよく確認するようお願いいたします。

2-⑤-iii 薬剤服用歴管理料の特例 13点(新設)

手帳の活用実績が少ない薬局に対して当管理料が減算される区分ができました。6ヶ月以内に再度処方箋を持参した患者のうち、お薬手帳を持参していない患者が50%を上回った場合(直近3ヶ月で)に適応となってしまいます。分母には初回の患者や再来局の間隔が6ヶ月以上の患者は含まれないことにご留意ください。平成31年4月1日より適用

2-⑥ 内服薬の調剤料 マイナス改定

・15日分～21日 70点→67点

・22日分～30日 80点→78点

・31日分以上 70点→67点

対物業務から対人業務への構造的な転換を進めるためマイナス改定となりました。

3. 後発医薬品の使用促進

全国の後発医薬品の調剤割合は平成29年2月において68.6%であり2年間で約10%上昇しています。国の目標（平成32年9月までに80%）を達成するべく今回の改訂では後発品医薬品調剤体制加算1と2の算定要件である後発品数量シェアの引上げとシェア85%以上に加算3が新設されました。また、後発品数量シェアの低い薬局には報酬が少なくなるようになりました。

3-① 後発品医薬品調剤体制加算1 18点
後発品数量シェア 65% → 75%以上

3-② 後発品医薬品調剤体制加算2 22点
後発品数量シェア 75% → 80%以上

3-③ 後発品医薬品調剤体制加算3 26点
(新設) 後発品数量シェア 85%以上

3-④ 後発品数量シェア20%以下で調剤基本料が2点減算（ただし、処方箋受付回数が月600回以下の薬局と直近1ヶ月の処方箋受付回数の5割以上が先発医薬品変更不可の薬局を除く）

3-⑤ 後発品数量シェア50%未満かつ集中度85%超である場合は地域支援体制加算が算定不可

4. いわゆる門前薬局の評価の見直し

調剤基本料2および3の施設基準に該当する処方箋集中度が下がりました。大型の門前薬局が対象となる基本料2は処方箋受付月2千回超かつ集中度90%超→85%超となりました。大型の薬局グループが対象になる基本料3は集中度95%超→85%超へ変更、更にグループの大きさによって分けられ超大型のグループは20点→15点へ減点改正となっています。他には敷地内薬局に対する特別調剤基本料が新設されました。医療資源が少ない地域の薬局は調剤基本料1を算定する特例も定められました。また、処方箋集中度の算定方法が変更され今回から歯科も同じ医療機関として計算されることになりました。

調剤基本料1 41点 調剤基本料2, 3, 特別

調剤基本料に該当しない

調剤基本料2 25点 処方箋受付回数月2千回超かつ集中度85%超

または 処方箋受付回数月4千回超かつ集中度70%超（変更なし）

または特定の医療機関からの処方箋受付回数が4000回超（変更なし）

調剤基本料3-イ 20点 集中度85%超（グループ全体の受付が月4万超～40万回以下）

調剤基本料3-ロ 15点 集中度85%超（グループ全体の受付が月40万超）

特別調剤基本料 10点（新設）医療機関と不動産の賃貸借取引関係を有し、集中度95%超

<第2部 沖縄県薬剤師会による調剤報酬改定等説明会>

【調剤報酬改定】

一部省略

分割調剤に係る留意事項

①分割の回数は3回まで

②患者に対し調剤を受ける度に処方箋全てを提出するよう指導する

③患者に対し同じ保険薬局で調剤を受けるべきであることを説明する

④患者の次回の調剤を受ける予定を確認し、来局しない場合は電話等により状況を確認、来局を促す

⑤患者が他の薬局で調剤を受ける場合は、当該薬局の調剤状況等を提供する

⑥1枚目の処方箋が有効期間内に受け付けられたことが確認できない場合は無効とする

【在宅医療（医療保険・介護保険）】

1. 訪問薬剤管理指導

医療保険（在宅患者訪問薬剤管理指導料）

同一建物居住者以外 650点 →

単一建物診療患者が1人 650点

同一建物居住者 300点 →

単一建物診療患者が2-9人 320点

単一建物診療患者が10人以上 290点

介護保険（居宅療養管理指導料）

- 同一建物居住者以外 503単位→
- 単一建物診療患者が1人 507単位
- 同一建物居住者 352単位→
- 単一建物診療患者が2-9人 376単位
- 単一建物診療患者が10人以上 344単位

改定前の「同一建物居住者」とは同一日に訪問薬剤管理指導を実施する人数、改正後の「単一建物診療患者」とは月に訪問薬剤管理指導を実施する人数です。ただし、以下の場合の「単一建物診療患者が1人」を算定します。

- 同居する同一世帯に算定する患者が2人以上いる場合
- 算定する患者が当該建築物の戸数の10%以下の場合
- 当該建築物の戸数が20戸未満、かつ算定する患者が2人以下の場合

2. 在宅乳幼児服薬指導加算の新設

在宅乳幼児服薬指導加算 100点

在宅で療養している通院が困難な6歳未満の乳幼児に対して、訪問し直接患者または家族に対して薬学的管理及び指導を行った場合に所定点数に加算されます。

3. 在宅患者重複投薬・相互作用等防止管理料 (省略)

4. 無菌製剤処理加算 プラス改正

※6歳未満の乳幼児の場合

中心静脈栄養法用輸液

65点→67点 ※130点→135点

抗悪性腫瘍剤

75点→77点 ※140点→145点

麻薬

65点→67点 ※130点→135点

5. 特定保健医療材料の材料価格基準

調 008 携帯型ディスプレイ用ポンプ

- (1) 化学療法用 3,500円→3,490円
- (2) 標準型 3,420円→3,210円
- (3) PCA型 4,450円→4,430円

6. 介護保険：ケアマネージャーとの連携

ケアマネージャーは訪問介護事業所から伝達された服薬状況、モニタリング等の利用者の状況等について薬剤師に必要な情報伝達を行うことが義務づけられました (省令改正)

最後に、ここに記載されていることは今回の改正についての一部です。各会員様においては、よく確認するようお願いいたします。



医療保険委員会
左より、川満直紀氏、照屋林一郎氏、仲真良重氏、宮城幸枝氏、荒井千春氏

在宅医療

平成29年度 在宅医療委員会主催研修会 「実績ゼロからの在宅のはじめ方」の講演を聞いて

日時：平成30年3月31日（土）18:30～20:00

会場：沖縄県薬剤師会館 ホール

<式次第>

○あいさつ

○講演

「実績ゼロからの在宅のはじめ方」

講師 山口県薬剤師会理事 地域医療・保健委員会 委員長 戸田 康紀

座長 在宅医療委員会 石田 浩

○質疑応答

司会 在宅医療委員会 副委員長 阪本 嵩彰

在宅医療委員会 委員長 荒井 千春

あなたは療養の場所としてどこを選びますか？と聞かれたらほとんどの方は「自宅」と答えると思います。自分の家ほど、落ち着いて心休まる場所はないかと思えます。実際私の祖父も数十年前にがんの末期で宮古病院に入院した際、こっそり抜け出し自宅に帰ってきたことがあります。しかし患者さんは様々な事情により、病院や、施設で過ごされる方が多くいらっしゃいます。「自宅」で療養することができる患者さんへのお手伝いとして、我々薬剤師が出来ることの一つとして訪問薬剤管理指導があります。患者さんお宅へ訪問し、薬がきちんと服用が来ているか、来ていないのであれば出来るようにするにはどうすればよいのか。患者さんが不安なく安心して「自宅」で過ごせることを手助けすることだと考えます。

平成30年3月31日に在宅医療委員会主催研修会を受講しました。演者は、山口県薬剤師会理事の戸田康紀先生で、物腰が柔らかく、丁寧な話し方でとても分かりやすい講演でした。

現在、私の所属している薬局では、訪問薬剤管理指導を算定したことはありません。宮古地区においては訪問診療をしている医療機関が3か所あり、医師の指示で患者さん宅へ



コジャ薬局 東店
古謝 真己

服薬指導に行くことがあります。その多くは高齢者のみの世帯であり、本当に説明が理解できているのか不安に感じることもあります。まれにターミナルケアの処方箋を調剤した際には、できるだけ訪問看護師のいる時間に合わせて患者さん宅へ伺うこともあります。しかし実際に訪問薬剤管理指導の保険点数を算定したことはありません。理由としては、患者さんや家族の同意を得ることや、医師への情報提供など保険点数算定のネックとなる事務作業が負担となることです。かかり



講師：戸田 康紀氏



座長：石田 浩氏

つけ薬剤師指導料や薬剤師包括管理料などもよい視点で点数がつけられていると感じることもあります。患者さんの同意を得る条件が果たして正解なのか疑問に感じることもあります。

薬局には様々な相談事の電話がかかってきます。クリニックで院内調剤された薬の相談や、他薬局で調剤された薬の相談、市販の薬の相談、服薬時間を間違えて飲んでしまった等、例を挙げればきりがありません。他薬局で調剤された薬に関しては、当然調剤をした薬局に相談するよう患者さんに伝えるのですが、ひどい場合は「調剤した薬局の緊急連絡先に電話したら、店舗は時間外で薬剤師不在のため、開局している薬局に相談しなさいと言われた」など、我々薬剤師に問題がある場合もあります。しかし基本的にその患者さんの、かかりつけ薬剤師になっていようが、いまい出来る限り患者さんの身になってアドバイスをしています。「私は、あなたのかかりつけ薬剤師でないからお話しすることはできません」「あなたからかかりつけ薬剤師指導料はいただいておりますから」などと口が裂けても言えません。おそらくは訪問薬剤管理指導の点数も患者さんに理解していただき、いただけたところからだけ点数を頂いてください（理解していただけない場合は無償で行いなさい）という点数なのではないかと個人的には解釈しました。

今後、沖縄県も高齢化がどんどん進み、介護を受ける方はどんどん増えてくることでしょう。また認知力の低下した患者さんも増えてくるかと思えます。それでも患者さんが「自宅」での療養を希望するのであれば、我々薬剤師も協力をしなければなりません。薬剤師が出来ることは、患者さんを取り巻く環境を理解し「医師」「看護師」「介護支援専門員」「介護士」「作業療法士」「理学療法士」「作業療法士」など様々な職種の方と連携しながら一端を担っていくことではないかと思えます。「地域ケア会議」などに参加すると、多職種からは、薬剤師には考えもつかないような意見があり勉強させられることが多々あります。最近では栄養士も検査値を読み介護士にアドバイスをしています。我々薬剤師も常に向上心をもって勉強しなければ、多職種との会話もままならなくなるという事態に陥りかねません。これからの薬剤師は介護分野を避けて通ることは出来ないと考えています。

最後になりますが、誰でも、「知らない事」は、「教えてもらう」又は「自ら学ぶ」しかありません。訪問薬剤管理指導を算定するにしろ、しないにしろ、現場ではどのようなことが行われているのかをまずは知ってみるといふ観点で受講してみました。

この研修会をDVDに録画をしているとのことですので、興味のある先生は、ぜひ薬剤師会に問い合わせてみてはどうでしょうか。



青年部会

平成30年度青年薬剤師部会主催実践薬学講演会報告

日時：平成30年6月10日（日）12：00～13：30

会場：株式会社アトル 沖縄営業部

<式次第>

○あいさつ

○講演「沖縄県薬剤師会青年部会にソクテラスがやってきた

～最高の患者ケアを目指す薬歴とひのくにノ薬局薬剤師の勉強方～

○閉会あいさつ

司会 青年薬剤師部会 座覇 里奈

会長 亀谷 浩昌

(有) アップル薬局 代表取締役 山本 雄一郎

青年薬剤師部会 部会長 上原 卓朗

去る6月10日に青年薬剤師部会主催実践薬学講演会に参加したので報告いたします。

病院薬剤師を行っていた頃、自身の書いた薬歴はカルテに掲載し、常に他職種スタッフの目に晒されるものでした。少しでも治療に役立つ記録を残そうと思い、調べながら書くために、アセスメントが長くなってしまうことが悩みでした。そして現在勤務している薬局では、患者からの信頼を獲得しようとコミュニケーションに注力するがあまり、情報量の多さからごちゃごちゃとまとまりのない薬歴になりやすく、解決案を探していました。また薬局では、薬歴が他者の目に触れる事はなく、自身と患者のみで完結してしまいがちであることから、私の行った薬学的ケアや考え方は果たして正しかったのだろうか、とことなく不安も感じておりました。

そんな矢先に日経DIでもおなじみのソクテラス山本先生による、薬歴の書き方についてのご講演の案内が届き、参加を致しました。

先生によると、薬歴にまつわる苦悩としてよくあがるのは、①時間がかかる、②ごちゃごちゃする、③④に記載することがない（検査値等患者データが薬局では得られにくいという理由から）、④Doばかりで代わり映えない。といったお声が多いそうです。皆さんも思い当たる部分はありますか？



いしみね薬局
山内 優香

これらの解説をここでお伝えしようと試みたのですが、残念ながら字数が足りませんでした。ご興味がお有りの方は、スライド資料がありますのでご連絡下さい。症例を交えてわかりやすくご解説されております。若しくは山本先生のブログや、著書「薬局で使える実践薬学」のほうも是非ご活用下さい。

この講習会では、薬歴の書き方のみならず、私の抱える様々な不安に対する解決の糸口を見つけることができました。特に、山本先生の「育成・共有・発信」を大切に考えていらっしゃる点については大変感銘を受けました。というのも、先生の実践なさっている人材育成の方法は、知識経験のあるものからの一方的な伝達を受けるような受け身の授業ではなく、皆それぞれに課題を与え調査・発表させ、ディスカッションを行うといった勉強法でした。山本先生は指導者として、後輩の育成の為にこのような勉強会を定期的に設け、アウトプットの機会を作り、表現する場をもたせることで力が生まれると考えて取り組まれていると聞いています。この育成方法に強く感銘

を受けることとなりました。

また、幸いにも、この講義にて感化された薬剤師が実は私だけではなかったことから、このような薬剤師が数名集まり、月1度の症例検討会を開催する運びとなりました。おそらく大きな薬局グループチェーンでは、社内にてそのような教育や研修制度をお持ちであると思いますが、調剤薬局業界の実態として、市場のほとんどは個人薬局で構成されている現状があります。私の勤務している薬局もその一つです。個人薬局それぞれの自己完結型の経営スタイルや教育環境では、せっかく素晴らしい医療を行っていたとしても、そ

の技術を伝導できる範囲が限られてしまいやすく、それは大変もったいないことだと思います。今回、このように多施設の薬剤師が集まり、お互いの情報を共有し学び合う場を設けることができたのはそれを打破する第一歩だと考えております。

話は大きく逸れてしまいましたが、山本先生の講演会・懇親会に参加したことにより、さまざまな事を学び、仲間を見つけ、行動を起こすきっかけとなったことを大変嬉しく感じております。もし、同じようなお気持ちを持つ薬剤師の先生がいらっしゃいましたら是非、お気軽にご連絡下さい。



沖縄県薬剤師会青年部会にソクテラスがやってきた
～最高の患者ケアを目指す薬歴とひのくにノ薬局薬剤師の勉強方～



あいさつ
亀谷 浩昌 会長



閉会の辞
上原 卓朗 青年部会長



司会
座覇 里奈 氏



講師：山本 雄一郎 氏

お知らせ

地区・支部・部会からの原稿をお寄せ下さい！

年々、地区（支部）、部会の活動が活発化しております。

ぜひ“おきなわ薬剤師会報”へ活動・状況報告等を投稿して下さい。活動報告以外の情報も歓迎します！

学薬部会

平成30年度学校薬剤師新人研修 および 学校環境衛生一部改正説明会参加報告

日時：平成30年4月15日（日）10:00～12:45

会場：沖縄県薬剤師会館 研修室

<研修項目>

1. 学校薬剤師の役割について（変更項目の説明含む）

講師：学校薬剤師部会 副部会長 知名 博樹

2. 学校環境検査について

講師：試験検査センター 主任技師 小泉 宝之

<参加報告1>

くはら薬局
伊集 智英



学校環境衛生基準の一部改正が平成30年4月1日に施行されたそうです。改正の概要については次に示します。

1. 温度の基準

○10℃以上、30℃以下であることが望ましい。→17℃以上、28℃以下であることが望ましい。

2. 温度、相対湿度及び気流の検査方法

○温度：「アスマン通風乾湿計を用いて測定する。」→「0.5度目盛の温度計を用いて測定する。」

○相対湿度：「アスマン通風乾湿計を用いて測定する。」→「0.5度目盛の乾湿球湿度計を用いて測定する。」

○気流：「カタ温度計又は微風速計を用いて測定する。」→「0.2m/秒以上の気流を測定することができる風速計を用いて測定する。」

3. 浮遊粉塵の検査方法の備考

○（追加）「検査の結果が著しく基準値を下回る場合には、教室等の環境に変化がない限り、新たに浮遊粉じんの原因となる物質は生じないことから、次回からの検査について省略することができる。」

○目安は、（基準値0.10mg/立方メートル以下）の1/2以下の場合に省略可となるそうです。検査を一度行い0.05mg/立方メートル以下であれば、以後は環境の変化のない限り省略できる可能性があるということです。検査を一度行うために学校に予算をつけていただく必要があります。

4. 照度の基準

○「コンピュータ教室等の机上の…」→「コンピュータを使用する教室等の机上の…」

○タブレット端末等を使用する教室も該当します。

○ホワイトボードや電子黒板については、改訂される学校環境衛生管理マニュアルにおいて参考情報を記載する予定とのことです。

5. 飲料水の水質（有機物等）の検査項目

○飲料水において、検査項目：「エ、全有機炭素（TOC）の量又は過マンガン酸カリウム消費量（…）」→「エ、有機物（全有機炭素（TOC）の量）、基準：（削除）「エ、の項目中、過マンガン酸カリウム消費量は、10mg/l以下とする。」

○専用水道等他の水源に関しても、過マンガン酸カリウム消費量の基準が削除されています。

○上記に伴い県検査センターの水質検査も全有機炭素の測定へと変更され、採水ビンが1つ増えることとなります。

○沖縄県薬剤師会試験検査センターにおいて、検査方法の変更による検査料金の変更はない予定とのこと。

6. 机、いすの高さの検査項目

○項目削除となっています。

○定期検査の項目として一律に定めるより日常的に個別対応することが適切として削除されました。

7. 水泳プールの水質（有機物等）の検査項目及び基準

○検査項目：「有機物等」→「有機物等（過マンガン酸カリウム消費量）」

8. 水泳プールの水質（総トリハロメタン）の検査方法の備考

○（追加）備考：「検査項目（7）については、プール水を1週間に1回以上全換水する場合は、検査を省略することができる。」

幼稚園などの簡易プールなどが対象になります。

※学校環境衛生管理マニュアルは改訂される予定です。

プール水の検査で、水質に関しては使用日の30日以内毎に1回検査を行うことになっていますが、昨年度予算を用意していたにもかかわらず、2回目以降の実施されていないところが多いとのことで、計画するようにとのことでした。

私は、騒音測定時の軍用機等の通過の際の値は参考値として、検査結果に含んでいませんでしたが。併記してもよいそうです。

学校側と検査等実施計画をするために表にまとめてみました。

第1 教室等の環境に係る学校環境衛生基準			
	分類	検査項目	
換気及び保温等	(1)	二酸化炭素（年2回）	
	(2)	温度（年2回）	
	(3)	相対湿度（年2回）	
	(4)	浮遊粉じん（年2回）（温度、湿度又は流量を調節する設備を未使用な場合に省略可） （基準値の1/2以下の場合には、以後教室等の環境に変化が認められない限り、次回からの検査を省略可）	
	(5)	気流（年2回）（温度、湿度又は流量を調節する設備を未使用な場合に省略可）	
	(6)	一酸化炭素（年2回）（燃焼器具を未使用な場合に省略可）	
	(7)	二酸化窒素（年2回）（燃焼器具を未使用な場合に省略可）	
	(8)	揮発性有機化合物	ア. ホルムアルデヒド（年1回）（基準値の1/2以下の場合には、以後教室等の環境に変化が認められない限り、次回からの検査を省略可）
			イ. トルエン（年1回）（基準値の1/2以下の場合には、以後教室等の環境に変化が認められない限り、次回からの検査を省略可）
			ウ. キシレン（必要時：塗料、施工用接着剤等使用時など）
エ. パラジクロロベンゼン（必要時：含有のトイレ芳香剤、衣類防虫剤等使用時など）			
オ. エチルベンゼン（必要時：接着剤、塗料等使用時など）			
		カ. スチレン（必要時：防水塗膜、断熱材等施工時など）	
(9)		ダニ又はダニアレルゲン（年1回）	
採光及び照明	(10)	照度（年2回）	
	(11)	まぶしさ（年2回）	
騒音レベル	(12)	等価騒音レベル（年2回）（測定結果が窓を閉じているときは LAeq45 デシベル以下、窓を開けているときは LAeq50 デシベル以下の場合には、以後教室等の内外の環境に変化が認められない限り、次回からの検査を省略可）	
第2 飲料水等の水質及び施設・設備に係る学校環境衛生基準（水道水年1回、専用水道井戸水は別途）			
	分類	検査項目	

水質の検査	(1) 水道水の水質	ア. 一般細菌		
		イ. 大腸菌		
		ウ. 塩化物イオン		
		エ. 全有機炭素量 (TOC) の量		
		オ. pH値		
		カ～ケ. 味・臭気・色度・濁度		
		コ. 遊離残留塩素		
(2) 専用水道・井戸水等	給水栓水 (月1回)	業者への委託を検討		
	原水 (月1回)	業者への委託を検討		
	雑用水	ア. pH値、イ. 臭気、ウ. 外観、エ. 大腸菌、オ. 遊離残留塩素		
施設設備	飲料水	ア. 給水源の種類 イ. 維持管理状況等 ウ. 貯水槽の清潔状態		
	雑用水	雑用水の表示、誤飲防止構造・機能、表示、故障等の有無、清潔状態		
第3 学校の清潔、ネズミ、衛生害虫等及び教室などの備品の管理に係る学校環境衛生基準				
	分類	検査項目		
学校の清潔		(1) 大掃除の実施 (年3回) の確認	学校で計画立案し実施	
		(2) 雨水の排水溝など (年1回)	学校で計画立案し実施	
		(3) 排水の施設・設備 (年1回)	学校で計画立案し実施	
		(4) ネズミ、衛生害虫等 (年1回)	学校で計画立案し実施	
		(5) 無彩色黒板の色彩、明度 (年1～回)		
第4 水泳プールに係る学校環境衛生基準				
	分類	検査項目		
水泳プールの管理		1. 水質 (使用日の積算が30日以内ごとに1回行う) {(1) 遊離残留塩素 (2) pH 値 (3) 大腸菌 (4) 一般細菌 (5) 有機物等 (過マンガン酸カリウム消費量) (6) 濁度 (7) 総トリハロメタン (1週間に1回以上全換水する場合は、検査を省略可) (8) 循環ろ過装置の処理水 } (9) プール本体の衛生状況等 (年1回) (10) 浄化設備及びその管理状況 (年1回) (11) 消毒設備及びその管理状況 (年1回) (12) 屋内プール (年1回) {ア. 空気中の二酸化炭素 イ. 空気中の塩素ガス (検査官) ウ. 水平面照度 }		
		【文部科学省「学校給食衛生管理基準」による】学校薬剤師等の協力を得て実施 (定期及び日常の衛生検査の点検票参照)		
		分類	検査項目 {定期検査項目}	
		学校給食衛生管理		(1) 学校給食施設等の管理 (年1回) (第1票) {建物の位置・使用区分、建物の構造、建物の周囲の状況、日常点検の記録の有無 }
				(2) 学校給食設備等の衛生管理 (年3回) (第2票) {調理室の整理整頓等、調理機器・器具とその保管状況、給水設備、共同調理場、シンク、冷蔵庫・冷凍庫・食品の保管室、温度計・湿度計、廃棄物容器等、給食従事者の手洗い・消毒施設、便所、採光・照明・通気・照明、防そ・防虫、天井・床、清掃用具、日常点検の記録の有無 }
				(3) 学校給食用食品等の検収・保管の状況 (年3回) (第3票) {検収・保管等、使用水、検食・保存食、日常点検の記録の有無 }
				(4) 調理過程の定期検査 (年3回) (第4票) {献立作成、食品の購入、食品の選定、調理過程、二次汚染の防止、食品の温度管理、廃棄物処理、配送・配食、残品、日常点検の記録の有無 }
(5) 学校給食従事者の衛生・健康状態 (年3回) (第5票) {学校従事者の衛生状態、健康状態、日常点検の記録の有無 }				
(6) 検便結果処置票 (月2回以上) (第6票) {赤痢菌、サルモネラ、腸管出血大腸菌、血清型O157、その他 }				
(7) 学校給食における衛生管理体制及び活動状況 (年3回) (第7票) {衛生管理体制 }				

<参加報告2>



学校薬剤師 川満 亜希子

子供達が小学校に上がり、我が子がお世話になっている学校や子供達の為に何か出来ることはないかと考えていた矢先に、学校薬剤師をやってみないかと声をかけられました。

以前、病院に勤めていた時に、学校薬剤師の仕事に携わったことがあり、少し経験もあるからやってみようかと思い始めました。しかし、当時の業務とは異なり、主な職務が①学校保健計画・学校安全計画の立案に参与②学校環境衛生基準に基づいた学校飲料水、水泳プール、照明、空気、換気、騒音などの検査③学校環境衛生についての指導と助言④学校で使用する医薬品についての指導と助言⑤学校、地域社会における「薬物乱用防止の活動」、「喫煙、飲酒防止教育」、「アンチドーピング」、「医薬品の適正使用(くすり教育=薬育)」の啓発に協力(保健指導)⑥健康相談に医師・歯科医師とともに関わる職務も増え、かなり変わっていました。検査項目や基準、日常点検の実施項目については平成30年4月より学校環境衛生基準の改正がありました。

自分に出来るか不安になりましたが、新任研修会で学校薬剤師部会の先生方が学校薬剤師の役割や、点検の実際の方法や注意点の説明をしてくださり、不明な点があれば相談に乗っていただけると分かり安心しました。また、5月にも「学校環境衛生・安全管理講習会」が開催されるので、受講したいと思っています。

現在、学校の学習指導要領の保健体育の中に「くすり教育」という項目が追加され、保健体育教諭や養護教諭と連携を取りTT(チームティーチング)ということで学校薬剤師が授業にも参加していると伺いました。これからの学校薬剤師として、まずは子供達が安心安全に学校生活を送れるようにしっかりと検

査や助言・指導を行い、顔が見える学校薬剤師を目指し子供達の薬育にも携わっていかれたらと考えております。

<参加報告3>



学校薬剤師 鈴鹿 玲子

昨年度より学校薬剤師をさせていただき、今年度で2年目になります。業務に緊張をしながらも、やりがいを感じ、楽しくさせていただいています。しかしながら、まだまだ、心配になること、不安になることも多く今年も新人のつもりで参加させていただきました。

学校薬剤師の役割や仕事の内容については、副部会長知名先生より、実務については、検査センター小泉先生より説明を受けました。

1年間経験させていただいたこともあり、復習する感覚で聞くことができました。

平成30年4月より、学校環境衛生基準の改正があり、変更項目の説明がありましたのでご報告いたします。

- ①温度の基準 17℃～28℃以下であることが望ましい
- ②温度、相対湿度、及び気流の検査方法
- ③浮遊粉じんの検査方法の備考(基準値の1/2以下の場合省略可)
- ④照度の基準(コンピューター教室⇒コンピューター等を使用する教室)
- ⑤飲料水の水質(有機物等)の検査項目(全有機炭素計測定法)
- ⑥机、いすの高さの検査項目(削除)
- ⑦水泳プールの水質(有機物等)表現の変更
- ⑧水泳プールの水質(総トリハロメタン)の検査方法の備考の追加

以上、8項目の変更説明を受けました。

温度や湿度の検査方法がアスマン通風乾湿計から0.5℃目盛の温度計、乾湿球湿度計に

変更となり、簡易に計測できるようになったのではないかと思います。また、温度の基準も児童生徒が負担なく快適に過ごせる温度になったのではないかと思います。飲料水の水質検査（有機物）に関しては過マンガン酸カリウム消費量も可能でしたが、全有機炭素（TOC）量での測定が必要になりました。机、いすの高さの検査項目は削除となりました。座高を図っていないのに、机面の高さを求める式に座高が入っている矛盾を解消した形になっています。水泳プールの水質（総トリハロメタン）の検査方法の備考の追加は、プール水の浄化方法が水の入れ替えのみである場合は、総トリハロメタンの検査を省略するこ

とができることになりました。（塩素を使用しなければトリハロメタンも生成されないため）

変更に伴って、飲料水の採水容器はこれまでの2本から3本に変わるとのことでした。（有機物[TOC]測定用のガラス瓶が増える）

説明の後、質疑応答の時間をたくさん設けていただいたので、今回初めて学校薬剤師をされる方や、普段の業務を通じて感じている疑問の多くに答えていただけました。

まだまだ、経験も知識も不足しているのですが、子供たちが安全に安心した学校生活が送れるよう、業務に励みまた研修会などで研鑽を積んでいきたいと思

女性薬部会

女性薬剤師部会主催 第24回漢方講座報告

日時：平成30年5月27日（日）12:00～14:10
会場：沖縄県薬剤師会館 ホール



ハーブ薬局 つかざん店
友利 美佳

今回、女性薬剤師部会の漢方講座に参加し、「1日のライフスタイルから見た食生活と漢方」というテーマで佐賀県の清水医院の清水正彦先生に講演していただきました。

漢方では特に三食摂らない食生活だと治療の土俵から外れるので食生活の見直しから入ります。

午前中は交感神経が優位になることから、朝食を抜いたり早食いや血糖の上がりやすいバナナやパンのみを食べる、睡眠不足や腸内環境の乱れ等によって食後すぐに血糖値が通常より上昇しやすくなります。そしてインスリンが大量に分泌されるので低血糖になり体調が悪くなります。すると、血糖値を上げよ

うとAdやNAd、DAなどが大量に分泌されまた血糖値が上がり過ぎてしまうという悪循環に陥ることになります。このような血糖値の乱高下はフリーラジカルの上昇やイライラなどのストレスに繋がります。フリーラジカル上昇により5-HTの分泌が低下し精神不安に繋がります、また自然な睡眠を促すメラトニンは5-HTにMgが作用することで出来るので睡眠障害に繋がることにもなります。このように血糖値の乱高下は様々な体調の障害に繋がることになります。それを防ぐ為には、時間がない等でご飯のみを食べている場合は卵かけご飯にしてタンパク質と脂質を摂るようにする事がおススメのようです。これはベイスンを服用するのと同じような効果があるようです。果物は果糖が入り過ぎの為に空腹時にはNGで食事は野菜→肉・魚→炭水化物・果物の順で食べると血糖が上がりにくいそうです。朝食は血糖値上昇の他に、粗噛みによりタンパク質がアミノ酸までに分解されずアレルゲンとなることもあるのでよく噛むことが必要です。

食生活に問題がないのに漢方が効いてない場合には小腸の吸収過程に問題がないかを疑います。内分泌ホルモンや腸内細菌の乱れ、粘膜の浮腫みなどにより腸管粘膜のバリア機能を壊します。またそれにより全身性の炎症が起きます。

ホルモンはタンパク質がアミノ酸に分解されそれから生成されるのでタンパク質の摂取とタンパク質が分解されることが必要です。タンパク質は動物性も植物性も両方摂り様々な食材から摂ることが良いそうです。一つの食材のみからだアレルギーに繋がってしまうこともあります。

漢方で効果が出ない患者さんで胃酸分泌抑制薬を服用している場合は、タンパク質が分解しづらくなっているため減量できるのであれば胃酸分泌抑制薬を減量することで効果が出ることもあるようです。

腸管粘膜の浮腫みをとるにはヘム鉄やV.B群、タンパク質を含むお肉やお魚を摂ることが良くてV.Cがそれらの吸収をUPしてくれます。オススメのV.Cを多く含む食材はゴーヤーやピーマン、イエローではなくゴールドキウイだそうです。腸内環境を整えるには発酵食品や乳酸菌入りの物があるが乳酸菌のものは糖分が入っていることが多いのでそこは注意です。

パンを食べるときは中鎖脂肪酸が多いココナッツバターと一緒に摂るのがいいそうです。中鎖脂肪酸は吸収が良くすぐエネルギーとなるがその他に腸内細菌にプラスとなりまた腸粘膜にも易しいようです。漢方に効果のない患者さんでココナッツオイルを取り入れてみると効くようになったということがあったそうです。

油はEPAやDHA、 α -リノレン酸などのn-3系が良く、使い回しの油やn-6系のリノール酸であるマーガリンやマヨネーズ、ケーキやクッキー等に入っているショートニングは控えること、またタバコを吸っている人にはEPAやDHAが不足気味なので鯖やサンマの缶詰がオススメで油まで全部飲んだ方が良いとのことでした。

このような主に食生活についてわかりやすく講演していただきました。普段はここまで食生活について考えることは無かったのですが、様々なことに影響するという事で食生活の大事さについて改めて考えさせられ、大変面白かったです。

地区だより 第16回 北部地区薬剤師会定時総会報告

〔式次第〕

1. 出席人員確認・宣言	報告 第1号	平成29年度会務並びに事業経過報告
2. 開会の辞	第2号	平成29年度会計監査報告
3. 会長あいさつ	議案 第1号	平成29年度決算承認の件
4. 議長選出	第2号	平成30年度事業計画案の件
5. 議題	第3号	平成30年度予算案の件
6. 閉会の辞	第4号	平成30年度借入金最高限度額承認の件

平成30年6月23日（土）、19時よりホテルゆがふいんおきなわに於いて、第16回北部地区薬剤師会定時総会が行われ、平成29年度の事業経過報告・決算報告、平成30年度事業計画・予算案等の報告議案が審議されました。

冒頭では浅沼会長より、「昨年是一言で言うところ人材育成の1年でした。会営薬局に実務実習指導薬剤師を再び誕生させることができました。また、名古屋市立大学のアドバンスト実習（地域医療）の受け入れを会営薬局が中心となり会員薬局と連携して、北部地区で行いました。今年度も名古屋市立大学アドバンスト実習の継続に加えて、更に高崎健康福祉大学の学生の受け入れも予定しています。人材育成を行うことで慢性的なこの地域の人材不足の解消に繋がればと考えています。

また、古紙回収事業、廃棄医薬品回収事業、不動産ネットワーク事業等の会員支援事業も継続により会員の理解が深まってきたと考え、

対象の拡大を検討していきたいと考えます。

平成30年度の診療報酬改定では、かかりつけ薬剤師の推進、地域医療に貢献する薬局の評価、薬局における対人業務の評価の充実、効率的で質の高い在宅薬剤管理指導業務の推進、後発医薬品の使用促進、いわゆる門前薬局等の評価の見直し、に注目したものとなりました。薬剤師が地域の中でしっかりとその職能を発揮することが期待されています。北部地区の会員が、かかりつけ薬剤師として活躍する支援を薬剤師会としても、しっかりと取り組んでいく所存です。

まだまだ未熟な執行部で至らない点等もあるかと存じますが、一生懸命取り組んで参りますので、変わらぬご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます」と挨拶されました。

平成29年度事業経過報告では、これまで会員が地域医療の中で薬局・薬剤師の職能を通し地域貢献できるよう支援事業を行ってきた。



浅沼 健一 会長



成川 健一 副会長



屋嘉比 康作 副会長



知花 朝彦 監事



友寄 安彦 常務理事



医薬品備蓄供給として、面分業のための広域病院以外の処方箋応需に対する医薬品供給も併せて行った。更に、麻薬の院外処方増加を受け、麻薬小売業者間譲渡許可制度を利用し、急な麻薬処方に対しても円滑に患者へ提供する事ができた。次に、広報活動においては、ホームページで当会の概要や活動状況及び各会員薬局の情報を掲載し、薬剤師だけでなく一般市民に幅広く北部地区薬剤師会の事業を紹介することが出来た。前年に引き続き「北部地区薬剤師会公式 Facebook」を活用し情報発信に取り組んだ。継続して年2回、会報誌を発行し、当会会員や他地区の方にも活動状況を報告した。

平成30年度事業計画では、地域医療の中で活躍できるよう今年度も「備蓄センター運営」「学術研修会等の開催」「古紙回収事業」「廃棄医薬品回収事業」「不動産ネットワーク事業」等の会員支援事業を継続して行う。近年、薬剤師を取り巻く環境も変化してきているため、事業の継続だけに留まらず、新たな

支援事業の模索を行う。

会営薬局に再び認定実務実習指導薬剤師を確保することができた為、今年度は遂に会営薬局で2名の実務実習の受け入れを予定している。これにより、我々が描いていた会営薬局が中心となり、地区の薬局と連携取りながらの人材育成を行うという理想像に、また一歩近づいたと考える。

昨年度から始まった名古屋市立大学のアドバンスト実習（地域医療）の受け入れは、大学並びに学生からも大変好評を得ているため、引き続き今年度も受け入れを行う予定である。

なお、決議事項につきましては、審議の結果、議案の全て満場異議なしで承認されました。

また、総会終了後には懇親会が行われ、多くの会員の先生方が参加されました。なお、今回は長きに亘り当会に貢献した4名の職員に対し、永年勤続表彰が行われ、和気藹々とした雰囲気ですべての日程を終了しました。

(報告・写真提供：北部地区薬剤師会事務局)



月例相談会

第156回健康とおくすり相談会報告

日時：平成30年4月22日（日）10：30～13：30

場所：うるま市津堅島離島振興総合センター

担当：中部地区薬剤師会



ゆい薬局
新垣 むつ子

去る4月22日（日）、津堅島で行われた「健康とお薬相談会」に参加してきました。初めての経験だったので事前に薬剤師会で行われた説明会にも参加し、相談会の段取りや測定機器の扱い方等を諸先輩の先生方に教わって本番に臨みました。

相談会当日はあいにくの雨。平敷屋港からフェリーで約30分、目的地の津堅島に到着しました。ちょうど清明祭の時期とも重なっていたので、重箱や果物などのお供え物を持った乗客も多く見受けられました。

会場となる津堅島公民館までは徒歩で向かいましたが、余りの風雨の強さで、のどかな景色を堪能することはできませんでした。

そんな中、一番初めに来場したのは男性二人で、この相談会を楽しんでいたようで、待ち合わせをしてきたそうです。私は骨密度測定を担当しましたが、不慣れで緊張している私に対して「どこから来たの？東京から？」「今日、帰るの？」とか優しく声をかけてもらったので、リラックスして作業することが

できました。また、楽しみにしていた人は他にもおり、「主人は雨が降っているから家に居ると言ったけど、私一人だけでも来た」という健康意識の高い女性もおられました。この方を含め、特に女性の方は、骨密度を気にする方が多いように思われました。

今回は、時折、雷鳴響く悪天候と、特産のモズクの収穫期ということもあり、来場者数自体は少なかったのですが、終始アットホームな雰囲気の中行われた相談会でした。「ありがとう」と笑顔で帰る島民の方々を見て、薬学知識だけでなく、様々な相談に乗れる幅広い知識の習得が必要だと改めて感じさせられました。これからの薬剤師の在り方を追求するうえで、大変貴重な経験をさせて頂きました。

最後に、今回ご一緒頂いた諸先生、ご指導頂きありがとうございます。



健康とおくすり相談員（順不同・敬称略）

- | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| ○江夏 京子 | ○新城 光枝 | ○仲座 方利 | ○仲井間 清 | ○上間 秀子 |
| ○米倉 美帆 | ○藤原 明人 | ○新垣むつ子 | ○稲嶺まどか | ○笠原 大吾 |

月例相談会

第157回健康とおくすり相談会報告

日時：平成30年6月24日（日）13:00～16:00
 場所：サンエー那覇メインプレイス4階
 担当：那覇地区薬剤師会



すこやか薬局 宮城店
 砂川 美佳

去る平成30年6月24日、サンエー那覇メインプレイスにて健康とおくすり相談会が開催されました。今回は場所が沖縄県内でも有名なショッピングセンターであるため、どれだけの規模と人数で実施するのか不安と期待でいっぱいでした。しかし建物の4階？ということでメインステージではなく立体駐車場フロアの一角だったことが少し残念でした。

薬剤師、薬剤師会の方、そして実務実習中の薬学生の参加もあり総勢12名でイベントを盛り上げました。

血圧計、体成分分析装置、血圧脈波検査装置を設置し、それらの測定結果を元に健康相談や服用薬・サプリメント相談を行うという流れで取り組みました。

実習中の薬学生も積極的に機器の操作を手伝い、相談に来た方々とコミュニケーションを取り、しっかりと相談員としての役目を担っていました。

20代～80代までの買い物に来た老若男女の方々が訪れ、最終的に約30名と大盛況に終わりました。

測定結果としては、医療機関勧奨者が2～3名、運動勧奨をした方が多数いました。体

成分分析結果から全身の筋肉量、脂肪量、水分量のバランスが明確であり、食事指導・運動指導を積極的に行いました。中には大豆を積極的に摂りたいがどういう食べ方があるかという質問がありました。豆腐、豆乳、味噌、きなこなど美味しく食べてもらえるよう主食からおやつに至るまで、大豆を使ったレシピを紹介することが出来ました。

薬の知識だけでは答えられないこともたくさんあり、食事療法についてもっと学ばなければならぬと実感しました。

「いつもどこでこのイベントはしているの?」「どこに聞けば次の開催場所は分かるの?」と、このおくすり相談会を必要としている方がいるということが今回のイベントではっきりと分かりました。事前に開催場所・日時を地域の方にお知らせ出来るような手段があれば、この相談会が今まで以上に認知され、地域住民の健康に対する意識が向上し、健康をサポートする役目を大いに担えるのが薬剤師だ!と分かってもらえるのではないかと思います。



◆健康とおくすり相談員（順不同・敬称略）

- 川満 直紀 ○渡具知一枝 ○吉田 洋史 ○盛本 直也 ○金城 雄一
- 平良 栄子 ○砂川 美佳 他、薬学生4名

その他会務報告

沖縄戦殉職医療人之碑へ慰霊

平成30年6月23日（土）慰霊の日〔ひめゆりの塔構内〕

参拝当日の沖縄戦殉職医療人之碑には、毎年、本会と沖縄県医師会、沖縄県歯科医師会の供花が添えられています。

本会会員の長田紀昭先生（故久場トヨ先生の弟）におかれましては、御尊父の長田紀助氏（当会第2代会長）が合祀されていることから毎年ご参拝されております。体調不良のため、今年はいにくにご参拝できませんでしたが、ご子息である長田紀与志氏とご家族様

がご参拝されました。他に当会からは、神村武之相談役と吉田洋史理事が沖縄県薬剤師会としてご参拝、慰霊されました。（亀谷会長は、日本薬剤師会定時総会のため欠席）

今年は地元紙2社から取材も受けました。機会がございましたら、沖縄戦殉職医療人への慰霊、追悼に是非ご参拝下さい。

（文：事務局 大城 喜仁）

＜沖縄戦殉職医療人之碑＞

沖縄戦殉職医療人之碑は、昭和23年10月に沖縄医療団により建立され、ひめゆりの塔と並んで建てられている。沖縄戦で軍に協力し、住民の衛生、保健、治療に活動し、各地で戦死した医師、歯科医師、薬剤師、看護婦等、50余名を合祀している。戦時体制となった時、住民の生命を預かる医師の大半は日本本土へ疎開したが、自分たちの郷土は自分たちの手で守り抜こうと覚悟を決めた医師達は、郷土に踏み止まって住民の治療、衛生に努力したが、戦局は不利となり、日を追って増加する傷病者の治療、看護に疲れて倒れる者、さらに、敵陣に斬り込み、自決する者等、実に仁術を天命として尽くし、最後まで闘って戦没した。薬剤師は、県内・県外あわせて10人近くになると思われる。その内の1人、本会第2代会長の長田紀助氏（久場トヨ先生、長田紀昭先生の御尊父）は、厚生大臣任命で、佐官待遇の軍属として南部戦線に向かわれ、玉城村（現南城市）字糸数付近で戦没された。喜瀬乗垣氏（キセ薬局・故喜瀬乗惟先生の御令兄）は中国大陸の山野で没された。



地元紙2社から取材を受ける



薬事情報おきなわ No.250

2018年6・7・8月号 : Vol.33 No.3

薬事情報センター TEL : 098-963-8931

FAX : 098-963-8937

薬価基準追補収載品目

●新医薬品 平成30年5月22日付

区分	販売名 ()内は識別コードまたは製剤表示	規格単位	薬価	会社名	成分名:適応症・効能効果
内 用 薬	アジレクト錠0.5mg (GIL 0.5)	0.5mg1錠	512.10	武田薬品工業	ラサギリンメシル酸塩:パーキンソン病治療剤(選択的MAO-B阻害剤)(パーキンソン病)(新有効成分)
	アジレクト錠1mg (GIL 1)	1mg1錠	948.50		
	パルモディア錠0.1mg (@217)	0.1mg1錠	33.90	興和	ベマフィブラート:高脂血症治療剤(高脂血症(家族性を含む)(新有効成分)
	スー ज्याヌ配合錠 (JS 431)	1錠	263.80	MSD	シタグリプチンリン酸塩水和物/イブラグリフロジン L-プロリン:選択的DPP-4阻害剤/選択的SGLT2阻害剤配合剤(2型糖尿病 ただし、シタグリプチンリン酸塩水和物及びイブラグリフロジン L-プロリンの併用による治療が適切と判断される場合に限る)(新医療用配合剤)
	オルケディア錠1mg (KH601)	1mg1錠	280.70	協和発酵キリン	エボカルセト:カルシウム受容体作動薬(維持透析下の二次性副甲状腺機能亢進症)(新有効成分)
	オルケディア錠2mg (KH602)	2mg1錠	412.10		
	ガラフォルドカプセル123mg (A1001/A1001)	123mg1カプセル	142,662.10	Amicus Therapeutics	ミガーラスタット塩酸塩:ファブリー病治療剤(ミガーラスタットに反応性のあるGLA遺伝子変異を伴うファブリー病)(新有効成分)
	シベクトロ錠200mg (TZD/200)	200mg1錠	20,801.40	バイエル薬品	テジグリドリ酸エステル:オキサゾリジノン系合成抗菌剤(<適応菌種>テジグリドに感性的メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA) <適応症>深在性皮膚感染症、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、びらん・潰瘍の二次感染)(新有効成分)
	プレバイミス錠240mg (@591)	240mg1錠	14,379.20	MSD	レテルモビル:抗サイトメガロウイルス化学療法剤(同種造血幹細胞移植患者におけるサイトメガロウイルス感染症の発症抑制)(新有効成分)
ネイリンカプセル100mg (SATO 18)	100mg1カプセル	804.60	佐藤製薬	ホスラブコナゾール L-リシンエタノール付加物:経口抗真菌剤(<適応菌種>皮膚糸状菌(トリコフィトン属) <適応症>爪白癬)(新有効成分)	
注 射 薬	トレムフィア皮下注100mgシリンジ	100mg1.0mL1筒	319,130	ヤンセンファーマ	グセルクマブ(遺伝子組換え):ヒト型抗ヒトIL-23p19モノクローナル抗体製剤(既存治療で効果不十分な次の疾患 尋常性乾癬、関節症性乾癬、膿疱性乾癬、乾癬性紅皮症)(新有効成分)
	ヘルコニア椎間板注用1.25単位	1.25単位1瓶	81,676	生化学工業	コンドリナーゼ:腰椎椎間板ヘルニア治療剤(保存療法で十分な改善が得られない後縦靭帯下脱出型の腰椎椎間板ヘルニア)(新有効成分)
	シベクトロ点滴静注用200mg	200mg1瓶	28,084	バイエル薬品	テジグリドリ酸エステル:オキサゾリジノン系合成抗菌剤(<適応菌種>テジグリドに感性的メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA) <適応症>深在性皮膚感染症、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、びらん・潰瘍の二次感染)(新有効成分)
	プレバイミス点滴静注240mg	240mg12mL1瓶	17,897	MSD	レテルモビル:抗サイトメガロウイルス化学療法剤(同種造血幹細胞移植患者におけるサイトメガロウイルス感染症の発症抑制)(新有効成分)

* 識別記号の「@」は製薬会社のマークの代用としています。

区分	販売名 ()内は識別コードまたは製剤表示	規格単位	薬価	会社名	成分名・適応症・効能効果
注射薬	ヘムライブラ皮下注30mg	30mg1.0mL1瓶	376,006	中外製薬	エミシズマブ(遺伝子組換え) :抗血液凝固第IXa/X因子ヒト化二重特異性モノクローナル抗体 血液凝固第VIII因子機能代替製剤(○血液凝固第VIII因子に対するインヒビターを保有する先天性血液凝固第VIII因子欠乏患者における出血傾向の抑制)(新有効成分)
	ヘムライブラ皮下注60mg	60mg0.4mL1瓶	692,565		
	ヘムライブラ皮下注90mg	90mg0.6mL1瓶	989,990		
	ヘムライブラ皮下注105mg	105mg0.7mL1瓶	1,134,028		
	ヘムライブラ皮下注150mg	150mg1.0mL1瓶	1,552,824		
外用薬	ラパリムスゲル0.2%	0.2%1g	3,855.00	ノーバルファーマ	シロリムス :結節性硬化症に伴う皮膚病変治療剤(mTOR阻害剤)(結節性硬化症に伴う皮膚病変)(新投与経路)
内用	アイセントレス錠600mg (@242)	600mg1錠	1,553.60	MSD	ラルデグラビルカリウム :HIVインテグラーゼ阻害剤(HIV感染症)(新用量、剤形追加)

●報告品目・新キット製品 平成30年5月30日付

区分	販売名 ()内は識別コードまたは製剤表示	規格単位	薬価	会社名	成分名・適応症・効能効果
内用薬	メモリードドライシロップ2%	2%1g	406.10	第一三共	メマンチン塩酸塩 :NMDA受容体拮抗アルツハイマー型認知症治療剤(中等度及び高度アルツハイマー型認知症における認知症状の進行抑制)(再審査期間中の剤形追加)
	イクスタンジ錠40mg (イクスタンジ40)	40mg1錠	2,354.10	アステラス製薬	エンザルタミド :前立腺癌治療剤(去勢抵抗性前立腺癌)(再審査期間中の剤形追加)
	イクスタンジ錠80mg (イクスタンジ80)	80mg1錠	4,563.70		
注射薬	プレセデックス静注液200μg/50mLシリンジ「ファイザー」	200μg50mL1筒	5,212	ファイザー	デクスメドミジン塩酸塩 :α2作動性鎮静剤(集中治療における人工呼吸中及び離脱後の鎮静、局所麻酔下における非挿管での手術及び処置時の鎮静)(新キット製品)
	プレセデックス静注液200μg/50mLシリンジ「マルイシ」	200μg50mL1筒	5,413	丸石製薬	
	ワンパル1号輸液	800mL1キット	1,100	エイワイファーマ	アミノ酸・糖・電解質・ビタミン :高カロリー輸液用 糖・電解質・アミノ酸・ビタミン・微量元素液(経口、経腸管栄養補給が不能又は不十分で、経中心静脈栄養に頼らざるを得ない場合の水分、電解質、アミノ酸、カロリー、ビタミン、亜鉛、鉄、銅、マンガン及びヨウ素の補給)(類似処方医療用配合剤)
	ワンパル1号輸液	1200mL1キット	1,353		
	ワンパル2号輸液	800mL1キット	1,199		
	ワンパル2号輸液	1200mL1キット	1,501		
	イラリス皮下注液150mg	150mg1mL1瓶	1,480,264		
エタネルセプトBS皮下注用10mg「MA」	10mg1瓶	3,697	持田製薬	エタネルセプト(遺伝子組換え)[エタネルセプト後続1] :完全ヒト型可溶性TNFα/LTαレセプター製剤(既存治療で効果不十分な以下の疾患 関節リウマチ(関節の構造的損傷の防止を含む)、多関節に活動性を有する若年性特発性関節炎)(バイオ後続品)	
エタネルセプトBS皮下注用25mg「MA」	25mg1瓶	9,099			

区分	販売名 ()内は識別コードまたは製剤表示	規格単位	薬価	会社名	成分名:適応症・効能効果
注 射 薬	エタネルセプトBS皮下注25mgシリンジ 0.5mL「MA」	25mg0.5mL1筒	9,249	持田製薬	エタネルセプト(遺伝子組換え)[エタネルセプト後続1]:完全ヒト型可溶性TNF α /LT α レセプター製剤(既存治療で効果不十分な関節リウマチ(関節の構造的損傷の防止を含む))(バイオ後続品)
	エタネルセプトBS皮下注50mgシリンジ 1.0mL「MA」	50mg1mL1筒	18,134		
	エタネルセプトBS皮下注50mgペン 1.0mL「MA」	50mg1mL1キット	18,190	持田製薬	エタネルセプト(遺伝子組換え)[エタネルセプト後続1]:完全ヒト型可溶性TNF α /LT α レセプター製剤(既存治療で効果不十分な関節リウマチ(関節の構造的損傷の防止を含む))(バイオ後続品)
	ヒュミラ皮下注40mgペン0.4mL	40mg0.4mL1キット	62,596	アッヴィ	アダリムマブ(遺伝子組換え):ヒト型抗ヒトTNF α モノクローナル抗体製剤(既存治療で効果不十分な下記疾患・多関節に活動性を有する若年性特発性関節炎・関節リウマチ(関節の構造的損傷の防止を含む)・尋常性乾癬、関節症性乾癬、膿疱性乾癬、強直性脊椎炎、腸管型ベーチェット病、非感染性の中間部、後部又は汎ぶどう膜炎・中等症又は重症の活動期にあるクローン病の寛解導入及び維持療法(既存治療で効果不十分な場合に限り)・中等症又は重症の潰瘍性大腸炎の治療(既存治療で効果不十分な場合に限り)(再審査期間中の剤形追加)
	ヒュミラ皮下注80mgペン0.8mL	80mg0.8mL1キット	121,448	アッヴィ	アダリムマブ(遺伝子組換え):ヒト型抗ヒトTNF α モノクローナル抗体製剤(関節リウマチ(関節の構造的損傷の防止を含む)・関節リウマチ(関節の構造的損傷の防止を含む)・尋常性乾癬、関節症性乾癬、膿疱性乾癬、強直性脊椎炎、腸管型ベーチェット病、非感染性の中間部、後部又は汎ぶどう膜炎・中等症又は重症の活動期にあるクローン病の寛解導入及び維持療法(既存治療で効果不十分な場合に限り)・中等症又は重症の潰瘍性大腸炎の治療(既存治療で効果不十分な場合に限り)(再審査期間中の剤形追加)
	ミルセラ注シリンジ12.5 μ	12.5 μ g0.3mL1筒	3,504	中外製薬	エボチエンベータベゴル(遺伝子組換え):持続型赤血球造血刺激因子製剤(腎性貧血)(再審査期間中の規格追加)
	トラスツズマブBS点滴静注用60mg「NK」	60mg1瓶	13,683	日本化薬	トラスツズマブ(遺伝子組換え)[トラスツズマブ後続1]:抗HER2ヒト化モノクローナル抗体 抗悪性腫瘍剤(HER2過剰発現が確認された治癒切除不能な進行・再発の胃癌)(バイオ後発品)
	トラスツズマブBS点滴静注用150mg「NK」	150mg1錠	31,858		
	トラスツズマブBS点滴静注用60mg「CTH」	60mg1瓶	13,683	Celltrion	トラスツズマブ(遺伝子組換え)[トラスツズマブ後続1]:抗HER2ヒト化モノクローナル抗体 抗悪性腫瘍剤(HER2過剰発現が確認された治癒切除不能な進行・再発の胃癌)(バイオ後発品)
	トラスツズマブBS点滴静注用150mg「CTH」	150mg1錠	31,858		
	ヘパタバックス-II 水性懸濁注シリンジ 0.25mL	0.25mL1筒	2,176	MSD	組換え沈降B型肝炎ワクチン(酵母由来):ウイルスワクチン類(1.B型肝炎の予防 2.B型肝炎ウイルス母子感染の予防(抗HBs人免疫グロブリンとの併用) 3.HBs抗原陽性でかつHBe抗原陽性の血液による汚染事故後のB型肝炎発症予防(抗HBs人免疫グロブリンとの併用)(新キット製品)
	ヘパタバックス-II 水性懸濁注シリンジ 0.5mL	0.5mL1筒	2,417		
	アディノベイト静注用キット250	250国際単位1キット (溶解液付)	31,739	シャイアー・ ジャパン	ルリオクトコグアルファベゴル(遺伝子組換え):ペグ化遺伝子組換え血液凝固第VIII因子製剤(血液凝固第VIII因子欠乏患者における血液傾向の抑制)(新キット製品)
	アディノベイト静注用キット500	500国際単位1キット (溶解液付)	58,658		
	アディノベイト静注用キット1000	1000国際単位1キット (溶解液付)	108,410		
アディノベイト静注用キット2000	2000国際単位1キット (溶解液付)	200,359			
オルプロリクス静注用4000	4000国際単位1キット (溶解液付)	820,934	バイオベラティブ・ ジャパン		

区分	販売名 ()内は識別コードまたは製剤表示	規格単位	薬価	会社名	成分名・適応症・効能効果
注射薬	献血ヴェノグロブリンIH10%静注 0.5g/5mL	500mg5mL1瓶	4,559	日本血液製剤 機構	ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン : 血漿分画製剤(液状・静注用)人免疫グロブリン製剤(1.低並びに無ガンマグロブリン血症 2.重症感染症における抗生物質との併用 3.特発性血小板減少性紫斑病(他剤が無効で、著明な出血傾向があり、外科的処置又は出産等一時的止血管理を必要とする場合) 4.川崎病の急性期(重症であり、冠動脈障害の発生の危険がある場合) 5.多発性筋炎・皮膚筋炎における筋力低下の改善(ステロイド剤が効果不十分な場合に限り) 6.慢性炎症性脱髄性多発根神経炎(多発性運動ニューロパチーを含む)の筋力低下の改善 7.慢性炎症性脱髄性多発根神経炎(多発性運動ニューロパチーを含む)の運動機能低下の進行抑制(筋力低下の改善が認められた場合) 8.全身型重症筋無力症(ステロイド剤又はステロイド剤以外の免疫抑制剤が十分に奏効しない場合に限り) 9.天疱瘡(ステロイド剤の効果不十分な場合) 10.血清IgG2値の低下を伴う、肺炎球菌又はインフルエンザ菌を起炎菌とする急性中耳炎、急性気管支炎又は肺炎の発症抑制(ワクチン接種による予防及び他の適切な治療を行っても十分な効果が得られず、発症を繰り返す場合に限り) 11.水疱性類天疱瘡(ステロイド剤の効果不十分な場合) 12.ギラン・バレー症候群(急性増悪期で歩行困難な重症例)(再審査期間中の規格追加)
	献血ヴェノグロブリンIH10%静注 2.5g/25mL	2.5g25mL1瓶	20,525		
	献血ヴェノグロブリンIH10%静注 5g/50mL	5g50mL1瓶	38,547		
	献血ヴェノグロブリンIH10%静注 10g/100mL	10g100mL1瓶	77,245		
	献血ヴェノグロブリンIH10%静注 20g/200mL	20g200mL1瓶	154,188		
	ガドピスト静注1.0mol/L2mL	60.47%2mL1瓶	2,152	バイエル薬品	ガドプロール : 環状型非イオン性MRI用造影剤(磁気共鳴コンピューター断層撮影における下記造影・脳・脊髄造影・脳幹部・四肢造影)(再審査期間中の剤形追加)
外用	ドボベツゲル	1g	247.50	レオファーマ	カルシボトリオール水和物/ベタメタゾンジプロピオン酸エステル : 尋常性乾癬治療剤(尋常性乾癬)(再審査期間中の剤形追加)

* 識別記号の「@」は製薬会社のマークの代用としています。



Medical News

●シークワサーで尿酸減 オキハムが試験「ノビレチンが効果」(琉球新報7月5日)

沖縄ハム総合食品(読谷村)は4日、県産シークワサーに含まれるノビレチンに血清中の尿酸値を低下させる効果があると発表した。同社は生活習慣病の改善効果が期待されるノビレチンに着目し、2013、14年に県の補助事業を活用した試験で血中尿酸値の低減を確認、17年にはノビレチンを含んだ自社製品による研究を行った。尿酸値の平均値が7.22mg、成人男性10人に8週間、製品を飲んでもらうと、平均値で7%減の6.75mgまで低下したという。

●徐放剤を粉砕し血圧急低下～日本医療機能評価機構(薬事日報7月6日)

日本医療機能評価機構は、2018年1月～3月の医療事故情報を分析した報告書をまとめ公表した。その中で、カルシウム拮抗薬の徐放性製剤「ニフェジピンCR錠」を粉砕し、胃管から投与したところ、血圧低下を来した事例が報告されたことから、錠剤の粉砕に関連した3事例を分析。いずれも薬剤師の関与が難しい状況で投与が行われており、誤った投与方法を防げなかったことが明らかになった。今回、報告されたのは、徐放性製剤を患者が経口内服できないため粉砕して投与したところ、体内で急速に吸収されて影響が出たという事例。「ニフェジピンCR錠」による血圧低下が2件、癌疼痛治療剤「オキシコンチン錠」による意識レベルの低下や呼吸機能悪化が1件あった。

●風邪薬と間違え高血圧治療薬、8歳児入院 薬局が処方ミス(大分合同新聞7月10日)

大分市内の調剤薬局が小児用の風邪薬を処方するはずの男児(8)に誤って高血圧・狭心症の治療薬を出し、服用した男児が5日間入院する調剤事故を起こしていたことが9日、分かった。薬局はミスを確認している。両親は薬局に医療費や慰謝料など133万円の損害賠償を求め、大分簡裁に提訴した。訴状などによると、昨年10月せきが出るなどして医院を受診した男児に対し、医師が処方箋に記した抗生剤ではなく、血圧降下などの効果がある薬を手渡した。男児は帰宅後、翌朝までに2回服用。様子がおかしかったため母親が薬の説明書を確認し、別の薬だと気付いた。

●厚生労働省、免疫抑制剤3品目の禁忌解除 - 添付文書改訂を要請(薬事日報7月13日)

厚生労働省は10日、「シクロスポリン」など免疫抑制剤3品目の添付文書の「使用上の注意」を改訂するよう製造販売業者に要請した。胎児に先天奇形などを引き起こす恐れから、現在は妊婦・妊娠している可能性がある人に対する投与を禁じているが、海外では先天奇形の発生率が上昇したとの報告がないことなどを踏まえ、禁忌を解除する。改訂の対象は、免疫抑制剤のタクロリムス水和物、シクロスポリン、アザチオプリンの3品目。

●遠隔服薬指導に保険適用 愛知県など特区対象(共同通信7月19日)

厚生労働省は18日、テレビ電話やスマートフォンなどによる遠隔服薬指導について、対面指導と同様に公的医療保険を適用することを決めた。要件を満たせば、自己負担は1～3割になる。オンライン診療は既に認められているが、服薬指導が対面でしか受けられないのは不便だとして、厚生労働省が離島やへき地に限って認める方向で検討を進めている。それに先立ち、政府は2016年に国家戦

略特区法を改正。今年6月に愛知県の一部、兵庫県養父市、福岡市が特区として認定され、(1)離島やへき地に居住(2)オンライン診療を受診(3)対面指導が困難などの要件を満たせばオンラインでの服薬指導が可能となった。

●再生医療の実証へ フルステム、南部徳州会など幹細胞大量培養(薬事日報7月19日)

沖縄県那覇市のバイオベンチャー「フルステム」と南部徳州会病院、そばじまクリニック(大阪府)は、フルステムが開発した幹細胞の大量培養装置を使って再生医療の実証に乗り出す。県の委託事業として2018～21年度の4年間で実証に当たる。安全かつ低コストで幹細胞が作れるようになれば小規模な医療機関でも活用でき、多くの患者への普及が期待される。19年度に南部徳州会病院で皮膚潰瘍の治療開始を目指す。20年度はそばじまクリニックで変形性関節症、21年度には南部徳州会病院で尿失禁の治療を行う方針。

●女子駅伝、ドーピング違反で優勝取り消し 全日本実業団(共同通信7月20日)

昨年11月の全日本実業団対抗女子駅伝で優勝したユニバーサルエンターテインメントの元選手にドーピング違反が判明し、個人の成績が失効されたのを受け、日本実業団陸上競技連合は19日、チームの優勝を剥奪し、2位のパナソニックが繰り上がりで優勝すると発表した。日本アンチ・ドーピング機構(JADA)によると、ドーピング違反した選手は、レース当日から1年3カ月の資格停止処分が科せられた。JADAによると、レース後の検査で採取した検体から、たんぱく同化薬に該当し、筋肉増強効果がある禁止物質メテロンが検出された。大会の約2カ月前に、手術した婦人科系の病気の治療目的で受けた注射に含まれていたという。

●武田テバ・27成分48品目を販売中止 - 安定供給困難と判断(大分合同新聞7月23日)

武田テバファーマと武田テバ薬品は17日、製造販売しているジェネリック医薬品について、重複している16成分31品目を含み、27成分48品目の販売を中止すると発表した。昨年にも103品目の販売中止を発表していたが、製造の品質面で安定供給が困難と判断し、在庫消費をもって販売終了することを決定した。両社は、重複製品をまだ有している状況であり、今後も安定供給困難な製品があれば、販売の中止を検討するとしている。

●点滴濃度1千倍で死亡…元薬剤師2人を書類送検(読売新聞7月24日)

京都大医学部付属病院で昨年9月、適正濃度の約1000倍の注射薬を処方されて点滴投与した患者が死亡した医療事故で、京都府警は23日、同病院の薬剤師だった大学院生の男と無職の女性を業務上過失致死容疑で書類送検した。試薬の量を計測する際、mg単位をg単位と誤って調剤したのが原因とみられる。2人は昨年5月16日、病院内の製剤室で、微量元素「セレン」を含む注射薬を調合した際、試薬の量を間違えた疑い。処方を受けた女性が昨年9月下旬に自宅で点滴投与したところ、容体が悪化し、翌日に急性セレン中毒で死亡した。

●サプリメントの有効性研究-「治療目的」は法規制の可能性(薬事日報8月1日)

厚生労働省は、臨床研究法の施行等に関する質疑応答集の第4弾をまとめ、7月30日付で都道府県担当者に通知した。いわゆる「サプリメント」と称する食品やその成分を含有する製品について、疾病治療等が目的の研究に使用する場合は「医薬品」に該当するとし、未承認薬を用いた臨床研究として法規制の対象となる可能性があるとの見解を示した。質疑応答集では、サプリメントを患者に摂取させ、糖尿病、高血圧等の疾病の治療に対する有

効性を明らかにする目的で研究を行う場合、臨床研究法の規制対象となる可能性があるとの見解を示した。サプリメントが「食品」として販売されていても、疾病治療が目的とされていれば「医薬品」に該当するとの判断を示し、サプリメントを患者に投与して疾病治療の有効性を評価する臨床研究は、法規制を受ける可能性があるため留意が必要とした。

●危険ドラッグ問題は終息(薬事日報8月6日)

一般住民の医薬品使用を含めた薬物乱用の状況を調べたところ、大麻の生涯経験率が上昇し、国内で最も乱用されている薬物となったことが、厚生労働省研究班「薬物乱用・依存状況等のモニタリング調査と薬物依存症者・家族に対する回復支援に関する研究」の全国調査で明らかになった。これまで最も生涯経験率が高かった有機溶剤は大幅に減少し、代わって大麻の経験率が上昇。大麻使用に誘われる機会や大麻を容認する考えを持つ人も若年世代で増えている実態も判明した。一方、鎮痛薬の常用者が増えており、特に女性で上昇傾向が見られ、これまでで最も高い値となった。危険ドラッグは減少傾向にあり、ほぼ沈静化したと考えられた。調査は、一般住民の薬物使用の最新状況を把握すると共に、経年的な変化をモニタリングするため、1995年から隔年で実施されているもの。対象は15～64歳までの一般住民5000人。昨年9～10月にかけて無記名自記式の質問票調査により行われた。回収率は58.1%。

●薬過剰投与で患者死亡 国立関門医療センター(共同通信8月10日)

国立病院機構関門医療センターは10日、抗がん剤の過剰投与で70代の男性入院患者が死亡する医療事故があったと発表した。センターによると、男性は2月中旬に土手から転落して足を骨折し整形外科に入院。男性は他の病院で処方されていた脳腫瘍の抗がん剤を服用していたが、5日間連続して投与し23日間中断する周期で投与すべきところを、誤って1カ月以上毎日服用させた。口から出血するなどの症状があり、検査で過剰投与が分かった。男性は赤血球や白血球などが少なくなるなどの症状が出て感染症を起こし、6月上旬に死亡した。医師や看護師は休薬期間について知らず、確認もしていなかった。センターは再発防止策として副作用のリスクの高い薬について電子カルテ上などで注意喚起を徹底するようにした。

●多剤耐性菌検出、2人死亡 静岡市立病院(共同通信8月10日)

静岡市立静岡病院は10日、入院患者から多剤耐性アシネトバクターが検出されたと発表した。静岡県によると、4人が感染し、このうち3人が発症、2人が死亡した。2人のうち、1人は死亡と感染の因果関係が不明で、1人は感染が原因で死亡したとみられる。多剤耐性アシネトバクターは、多剤耐性菌の一つ。免疫力が弱っている場合に感染を引き起こす可能性がある。

●厚労省：健保「禁煙」連合体を支援 遠隔外来に補助金(毎日新聞8月16日)

日産自動車や富士フィルムグループなど大企業20社の健康保険組合がつくる禁煙共同実施のための連合体に、厚生労働省が初めて補助金を出して支援する。健保連合体は9月6日から、オンラインによる完全遠隔禁煙外来を始める。委託された健康支援企業「リンケージ」によると、スマートフォンなどを通じて医師が8週間以内に4回面談。その後、28週間は保健師らがメールで相談に乗り、禁煙継続を確認する。外来終了後も禁煙コミュニティーサイトを運営して体験を共有し、喫煙に戻らないよう支える。無料または半額補助で来年3月までに500人弱が禁煙外来を受ける見込み。

公益財団法人 日本医療機能評価機構



腫瘍用薬の総投与量の 上限を超えた投与

No.140 2018年7月

添付文書に記載された総投与量の上限を超えて腫瘍用薬を投与した後、患者に影響があった事例が2件報告されています(集計期間:2014年1月1日~2018年5月31日)。この情報は、第46回報告書「個別のテーマの検討状況」で取り上げた内容をもとに作成しました。

総投与量の上限を超えて腫瘍用薬を投与した後、患者に影響があった事例が報告されています。総投与量は、患者の生涯にわたって投与する累積量です。

成分名	販売名	添付文書に記載された総投与量	総投与量	患者への影響
ドキシソルピシン 塩酸塩	アドリアシン注用10	500mg(力価) /m ² (体表面積) 以下	620mg/m ²	心筋障害
	ドキシソルピシン塩酸塩 注射用		600mg/m ²	心筋障害

添付文書に総投与量の記載がある腫瘍用薬(一部)

副作用	成分名	販売名	記載箇所
心毒性	ドキシソルピシン塩酸塩	ドキシソル注20mg	警告
		アドリアシン注用10/50	用法・用量
		ドキシソルピシン塩酸塩注射液10mg/50mg	
		ドキシソルピシン塩酸塩注射用10mg/50mg	
	エピルピシン塩酸塩	エピルピシン塩酸塩注射液10mg/50mg	使用上の注意 (重要な 基本的注意)
		エピルピシン塩酸塩注射用10mg/50mg	
		ファルモルピシン注射用10mg/50mg	
		ファルモルピシンRTU注射液10mg/50mg	
	ピラルピシン	テラルピシン注射用10mg/20mg	
		ピノルピシン注射用10mg/20mg/30mg	
アクリルピシン塩酸塩	アクリルピシン注射用20mg		
	ダウノルピシン塩酸塩	ダウノマイシン静注用20mg	
肺毒性	プレオマイシン塩酸塩	プレオ注射用5mg/15mg	用法・用量
	ペプロマイシン硫酸塩	ペプロ注射用5mg/10mg	

PMDA「医療用医薬品の添付文書情報」より(2018.4.30現在)

※この他に、添付文書の使用上の注意(副作用)に総投与量について記載のある腫瘍用薬もあります。

医療事故情報収集等事業

医療
安全情報

No.140 2018年7月

腫瘍用薬の総投与量の上限を超えた投与

事例

2年前に子宮体癌の再発でAP療法を6コース実施した。1年前に癌が再発し腫瘍摘出術の施行後にAP療法を3コース実施した。この時点で、ドキソルビシン塩酸塩の総投与量は470mg/m²であった。医師はドキソルビシン塩酸塩の総投与量の上限が500mg/m²であることを知っていたが、正確な記録はなく、さらにAP療法を6コース実施した。その後、患者は心筋障害を発症し、ドキソルビシン塩酸塩の総投与量を調べたところ、620mg/m²であった。

事例が発生した医療機関の取り組み

- ・他院からの紹介状や患者からの情報などで過去の治療歴を確認し、記録する。
- ・電子カルテのシステムを改善し、医師が処方する際に添付文書の総投与量の上限を超えるとアラートが出るようにする。
- ・薬剤師は、レジメンのチェックリストに総投与量を記載し、確認する。
- ・患者へ情報を提供するために、お薬手帳に総投与量を記載し、説明する。

総合評価部会の意見

- ・腫瘍用薬の総投与量を把握する仕組みを医療機関内で検討しましょう。

※この医療安全情報は、医療事故情報収集等事業(厚生労働省補助事業)において収集された事例をもとに、本事業の一環として総合評価部会の専門家の意見に基づき、医療事故の発生予防、再発防止のために作成されたものです。

本事業の趣旨等の詳細については、本事業ホームページをご覧ください。 <http://www.med-safe.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。

※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。



公益財団法人 日本医療機能評価機構 医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル
電話：03-5217-0252(直通) FAX：03-5217-0253(直通)
<http://www.med-safe.jp/>



沖縄県薬剤師会・消費者くすり相談窓口
「おくすり相談室」受付事例から
消費者専用電話：098-963-8935

●医薬品一般●

[質問]昨日から鼻水と咳が出ているが、熱もなく食欲もあり元気である。かかりつけの耳鼻科で喉が赤いと言われた。薬はベネトリン錠、ツロブテロールテープ、ザイザル錠、カルボシステイン錠が10日分、セフジトレンピボキシルカプセルが4日分処方された。咳止めは出てないのですが、薬は飲んだ方がいいですか？（女性）

[回答] ベネトリン、ツロブテロールで気管支を拡げることで、咳の症状を和らげ、またザイザルで鼻炎症状を抑え、カルボシステインで痰を出しやすくする役割があるため、痰がらみの咳などの症状の改善を期待していると思われます。細菌感染の可能性もある場合には、セフジトレンピボキシルのような抗生物質が処方されます。担当医は、今回の症状改善にはこれらのお薬の服用が必要と診断されたものと思われます。

[質問]昨日、胃痛で薬を飲んだ。SM配合散という薬だけど、調剤日が3年前になっていた。1袋飲んで胃の調子は良くなっているけど、体の不調も全くない。大丈夫ですか？（女性）

[回答]お薬には使用期限があり、使用期限を超えたものは、品質の変化が起こり安全性にも問題が生じる恐れがあり、さらには効果が十分に現れない可能性があります。また、3年前の症状と今回は病状が異なっている可能性もあり、服用は勧められません。以上の理由から古いお薬は処分するようにしてください。胃の痛みに対するお薬はお近くのドラッグストアなどでもお求めになれますので、店頭の薬剤師に相談するようにしてください。

●安全性情報●

[質問]妊娠15週。お腹に圧迫感があり、はりどめといってズファジランという薬が処方された。赤ちゃんに影響がないのか心配。（女性）

[回答]妊娠中のお母さんが疲れたり、動きすぎたりすると、それが刺激となり子宮が収縮し、固くなって張りや圧迫感を感じる事があります。通常は問題ないのですが、切迫流産などの危険もありますので、医師の診断が必要となります。ズファジランは、緊張している子宮の筋肉を緩めて、子宮収縮を抑えます。古くからあるお薬で、安全性についても母体やお腹の赤ちゃんへの影響が少ないとされており、通常は妊娠12週以降16週未満の方に処方されています。指示通りにお薬を服用し、安静にすることが大切です。

[質問]血圧が178/113で高い状態が続いていたので、受診したところ、アムロジピン5mgが処方された。今日の血圧は130/93だったが、頭痛がしてだるさが出ているが、薬は止めた方がいいですか？（男性）

[回答]薬を飲んだことで、血圧は標準の値になったのでしよう。今は、急な血圧低下で体が慣れずに頭痛、だ

るさなどの症状が出ていると思われます。特に座った状態から立ち上がる時にめまいなどを起こす可能性もあるため、動作はいつもよりゆっくりとするようにしてください。気分不良が続くようでしたら、降圧剤の効果が強く出ている可能性もありますので、医師に相談することを勧めます。

[質問]「フルオール・ゼリー歯科用」の添付文書中の副作用の所に「本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。」と記載されている。これは、この薬が副作用を起こさないという、なんらかの根拠があって調査を実施していないのですか。（自治体）

[回答]フルオール・ゼリー歯科用」添付文書中の「使用成績調査等」（頻度に関する調査）については昭和42年9月の厚生省の基本方針制定以降のものであり、「フルオール・ゼリー歯科用」の承認は制定以前のため、その形式では実施していないという事です。ただ、「フルオール・ゼリー歯科用」の副作用に関しては、安全管理の基準に関する厚労省（GVP省令）を順守した調査・報告を行っています。過敏症などの副作用に関しては、医師や歯科医師がパッチテストなどを行い診断して断定されるものですが、これまで、副作用と診断された報告はないとされています。

●その他●

[質問]お茶が好きだけど、玄米にはカフェインは入っていますか？（男性）

[回答]お茶にはいろいろな種類がありますが、カフェイン量の多いものから、玉露、抹茶、ほうじ茶、ウーロン茶、玄米茶になります。玄米茶にも少量ですがカフェインは含まれています。最近是非ノンカフェインの玄米茶等も市販されています。

[質問]老人デイサービスの施設を開設するが、外部の薬局から薬を届けてもらう事になっている。薬剤師ではないスタッフが保管している薬を朝昼夕等分けたりする行為は、問題はないか。（男性）

[回答]自己管理のできない患者様へのご質問のような薬を服用時点で分ける行為は容認されています。しかしながら、平成26年10月1日に厚労省から施設における医薬品使用介助について、注意喚起の文書が出されています。有料老人ホームにおいて、厳格な安全管理が必要な医薬品を別の入居者に予薬した事案が発生したため、注意喚起されました。誤使用の防止策、また事故が起こった場合の連絡先など、施設で安全管理対策を講じておくことが大切です。

参考：老人福祉施設等における医薬品の使用の介助について（老人福祉施設等への注意喚起及び周知徹底依頼）：平成26年10月26日付厚生労働省通知

Medical Magazines titles

今月の特集・論文

*薬事情報センターで購読している雑誌の中より文献情報を掲載しました。

【今月の特集】

- ◇医薬ジャーナル 54巻 4号
*精神科領域における薬物療法の現状と薬剤師の役割
- ◇医薬ジャーナル 54巻 5号
*急性白血病の薬物療法のupdate ~最新の診断・治療戦略~
- ◇医薬ジャーナル 54巻 6号
*実臨床へ向けた時間医薬研究の新動向
- ◇医薬ジャーナル 54巻 7号
*神経難病と創薬
- ◇医薬ジャーナル 54巻 8号
*免疫チェックポイント療法の新潮流
- ◇月刊薬事 60巻6号
*危険なサインを見逃さない！いま知っておきたい薬剤性消化管障害
- ◇月刊薬事 60巻7号 (臨増)
*循環器疾患ガイドライン総まとめ
- ◇月刊薬事 60巻8号
*なるほど納得！リハ栄養とリハ薬剤
- ◇月刊薬事 60巻9号
*いま見直しておきたい！術後イベントの薬学的管理実践ポイント
- ◇月刊薬事 60巻10号
*外来・病棟でよくみる精神症状 対応マニュアル
- ◇月刊薬事 60巻11号
*医師・薬剤師協働による 患者中心のポリファーマシー対策
- ◇産科と婦人科 85巻4号
*女性アスリートのヘルスケア
- ◇産科と婦人科 85巻 (増刊)
*産婦人科関連 専門医・認定医ガイド
- ◇産科と婦人科 85巻5号
*エキスパートに聞く合併症妊娠のすべて
- ◇産科と婦人科 85巻6号
*婦人科医が注意すべき悪性腫瘍関連疾患
- ◇産科と婦人科 85巻7号
*産婦人科関連ホルモンの基礎を学びなおす
- ◇産科と婦人科 85巻8号
*感染症に強くなる
- ◇総合診療 28巻4号
*感染症外来診療「賢医の選択」 検査・経口薬・ワクチンをどう使えばいいんですか？

- ◇総合診療 28巻5号
*“一発診断”トレーニング問題集 懸賞論文「GM Clinical Pictures」大賞発表！
- ◇総合診療 28巻6号
*聴診・触診×エコーで診断推論！ Point-of-Care超音波 (POCUS) の底力
- ◇総合診療 28巻7号
*この薬だけは押さえておきたい！ 総合診療医のための Specialist Drug 40
- ◇総合診療 28巻8号
*80歳からの診療スタンダード Up to Date
- ◇調剤と情報 24巻 5号
*在宅患者への服薬支援
- ◇調剤と情報 24巻6号 (臨増)
*薬物治療・健康サポートに必ず活かせる！薬局のための栄養オールガイド
- ◇調剤と情報 24巻 7号
*疾患スクリーニングに活かす！簡易測定
- ◇調剤と情報 24巻 8号
*ベンゾジアゼピン, ちょっと待った！
- ◇調剤と情報 24巻 9号
*真夏の感染症を見極める
- ◇治療 100巻 4号
*お母さんを守ろう 家庭医は産前家族の応援団
- ◇治療 100巻 5号
*Point of Care超音波 部位別・症候別, これだけは外せない！
- ◇治療 100巻 6号
*抗うつ薬・抗不安薬の前にこの方剤！精神症状×漢方
- ◇治療 100巻 7号
*プライマリ・ケア臨床研究
- ◇治療 100巻 8号
*おとなのワクチン
- ◇日経メディカル 605号
*走り出した新専門医制度 1年延期でどうなった？
- ◇日経メディカル 606号
*あなたが防ぐ急性憎悪
- ◇日経メディカル 607号
*抗体医薬は医療に何をもたらしたか
- ◇日経メディカル 608号
*フレイル高齢者の上手な診かた
- ◇薬局 69巻4号 (増刊)
*病気とくすり2018

今月の特集・論文

*薬事情報センターで購読している雑誌の中より文献情報を掲載しました。

◇薬局 69巻5号

*所得格差時代の薬物治療

◇薬局 69巻6号

*かゆみ

◇薬局 69巻7号

*訪日外国人増加と輸入感染症

◇薬局 69巻8号

*衛生害虫対策

◇薬局 69巻9号

*精神科治療薬の多剤・大量・長期処方を整理する

【今月の論文等】

■薬物療法■

▶ 適応外使用の処方せんの読み方 (94) 好酸球性胃腸炎
月刊薬事60 (5) p.93

▶ 適応外使用の処方せんの読み方 (95) 遊走腎
月刊薬事60 (6) p.162

▶ 適応外使用の処方せんの読み方 (96) チック症・
トゥレット症
月刊薬事60 (8) p.166

▶ 適応外使用の処方せんの読み方 (97) 月経前不快気分
障害
月刊薬事60 (9) p.162

▶ 適応外使用の処方せんの読み方 (98) 耳鳴
月刊薬事60 (11) p.157

▶ 水虫にステロイドと抗真菌薬、同時処方の理由
日経ドラッグインフォメーション (246) p. PE021

▶ メマリーを低用量で長期間処方する理由
日経ドラッグインフォメーション (247) p. PE021

▶ 血圧が安定しているのにARBをCa拮抗薬に変えた理由
日経ドラッグインフォメーション (248) p. PE021

▶ 鎮咳薬が聞かない咳にトラネキサム酸を処方した理由
日経ドラッグインフォメーション (249) p. PE021

▶ 男性の骨粗鬆症の治療法は女性と同じ薬剤を用いてよ
いか?
日本医事新報 (4912) p.60

■新薬■

▶ 審査報告書から見る新薬の裏側 [15] ケブザラ[®]皮下
注 (サリルマブ (遺伝子組換え))
月刊薬事60 (5) p. 185

▶ 審査報告書から見る新薬の裏側 [16] マヴィレット[®]
配合錠 (グレカプレビル水和物/ピブレンタスビル)
月刊薬事60 (6) p. 166

▶ 審査報告書から見る新薬の裏側 [17] ネイリン[®]カプ
セル (ホスラブコナゾール-リシンエタノール不可物)
月刊薬事60 (7) p. 86

▶ 審査報告書から見る新薬の裏側 [18] ソフルーザ[®]錠
(パロキサビル マルボキシル)
月刊薬事60 (9) p. 156

▶ 審査報告書から見る新薬の裏側 [19] パルモディア[®]
錠 (ペマフィブラート)
月刊薬事60 (11) p. 86

■安全性情報■

▶ 逆流性食道炎に対するPPI長期投与中の副作用にどう
対処するか?
日本医事新報 (4906) p.57

▶ 副作用・薬物相互作用トレンドチェック 注目論文を
読み解く (72)

1. 妊娠中の高用量トピラマートの服用で口蓋裂リスク
が上昇

2. バレニクリンにより心血管系イベントのリスクが上昇

3. 妊娠中のアセトアミノフェン服用で女兒の言語発達
遅延

4. 軽度腎障害かつベラパミル併用でリバーロキサバ
ンの血漿中濃度は相加的に上昇

5. リファンピシン併用でアメナメピルの血漿中濃度が
顕著に低下

6. 糖尿病薬間におけるアドヒアランスの比較
医薬ジャーナル 54 (4) p.152

▶ 副作用・薬物相互作用トレンドチェック 注目論文を
読み解く (73)

1. 2型糖尿病患者ではスルホニルウレア薬よりもメトホ
ルミンで結核リスクが低い

2. 2型糖尿病高齢患者における過剰治療の現状

3. 五積散併用でセレコキシブの血漿中濃度が軽度に低下

4. ミコフェノール散モフェチル併用でタクロリムスの
血中濃度が上昇

5. 緑茶はフルバスタチンの薬物動態に影響を及ぼさない

6. エルピテグラビルの血漿中濃度は牛乳摂取時には軽
度しか低下しない
医薬ジャーナル 54 (5) p.160

▶ 副作用・薬物相互作用トレンドチェック 注目論文を
読み解く (74)

1. オピオイド鎮痛薬で侵襲性肺炎球菌疾患のリスク上昇

2. SGLT2阻害薬による糖尿病性ケトアシドーシスのリス
ク因子

- 3. 抗うつ薬21種に対する有効性と忍容性の比較
- 4. 慢性腎臓病合併の心房細動患者で抗凝固薬により虚血性脳卒中と出血のリスク上昇、死亡率は低下
- 5. 食事によりドロキシドパの血漿中濃度が低下
- 6. エピガロカテキンガレートによりナドロールの血漿中濃度が低下
医薬ジャーナル 54 (6) p.148
- ▶副作用・薬物相互作用トレンドチェック 注目論文を読み解く (75)
- 1. フルオロキノロン系抗菌薬で大動脈瘤リスク上昇
- 2. DPP-4阻害薬で炎症性腸疾患のリスク上昇
- 3. カルシウム拮抗薬で緑内障リスク上昇の可能性
- 4. バルプロ酸中止後にラモトリギンが正常状態に達するには14日間かかる
- 5. 閉経後ホルモン補充療法中止後1年以内は心血管系疾患による死亡リスクが上昇
- 6. 抗甲状腺薬により先天性奇形のリスク上昇
医薬ジャーナル 54 (7) p.148
- 薬剤師業務■
- ▶薬剤師外来開設後における薬剤が原因による手術延期症例の変化
医薬ジャーナル 54 (8) p.127

- 産科・婦人科■
- ▶妊婦とくすりの基礎知識…ステロイド (全身投与)
日経ドラッグインフォメーション (246) p. PE019
- ▶妊婦とくすりの基礎知識…てんかんと妊娠
日経ドラッグインフォメーション (247) p. PE019
- ▶妊婦とくすりの基礎知識…バルプロ酸ナトリウム
日経ドラッグインフォメーション (248) p. PE019
- ▶妊婦とくすりの基礎知識…カルバマゼピン、ラモトリギン
日経ドラッグインフォメーション (249) p. PE019
- ▶妊娠高血圧症候群の臨床診断、治療の展望
日本医事新報 (4905) p.57
- ▶妊婦さんが受診したら 薬の選び方
治療 100 (4) p.448
- 漢方薬■
- ▶漢方薬を用いたフレイルの予防・改善
新薬と臨床 67 (4) p. 447
- 服薬指導■
- ▶H2ブロッカーが中止になったパーキンソン病患者
日経ドラッグインフォメーション (247) p. 033
- その他■
- ▶クランベリーエキス摂取時の注意点
日経ドラッグインフォメーション (249) p. 029

医薬雑誌ひろい読み

Medical Magazines Browsing

アンチドーピングの基礎知識

～女性アスリートのヘルスケア～

産科と婦人科 4号

婦人科領域で使用される薬剤を中心に概説する。1. アロマターゼ阻害薬：アンドロゲンの産生が増加するために禁止。2. 抗エストロゲン薬：下垂体からFSH、LHが分泌されアンドロゲンの産生が増加するため禁止。3. 柔毛性ゴナドトロピンおよびLH及びそれらの放出因子：男性ホルモンの産生に関与するため、禁止物質である。女性においても禁止されるべき作用を有するが、ドーピング検査の分析結果によって妊娠や病気が見つかることによる社会的、精神的弊害が大きいことから、現在のところ、男性のみが禁止となっている。4. GnRHアゴニスト：FSH、LHおよびそれらの放出因子は禁止物質であるため使用禁止である。5. ダナゾール：テストステロン誘導体であり、アンドロゲン作用を持つため禁止物質である。6. 漢方薬：禁止物質が含まれていないと保証することができない。7. 低用量経口避妊薬：すべて禁止物質ではない。現行のルールでは、選手自身に全責任を問われるが、医療従事者側も規定について理解し、お互いで違反を回避できることが大切であると思う。

国立スポーツ科学センター
メディカルセンター
上東 悦子

胃食道逆流症に伴う慢性咳嗽の診断と治療

新薬と臨床 5号

近年増加していると言われる胃食道逆流症（GERD）に伴う慢性咳嗽の治療のポイント

1. 胃酸分泌抑制薬：食道症状は早期に改善することが多いが、咳の改善には2-3カ月要する場合があり、改善度も低い。難治例では最大量PPIの分2投与（ラベプラゾールのみ保険適用）や眠前のヒスタミンH2拮抗薬追加（保険適用なし）が推奨されている。ACCPガイドラインでは、食道症状を伴う患者ではPPIの効果は期待しうるが、伴わない患者にはPPIの単独治療は行うべきでない、としている。

2. 消化管運動機能改善薬：通常はPPIに併用され、上乘せ効果を発揮する。筆者はイトプリドや六君子湯を頻用している。ただし鎮咳効果のエビデンスは無作為化対照試験では報告されていない。

3. 保存的療法：単独での有効性のエビデンスはないがGERDの危険因子（肥満、喫煙、激しい運動、飲酒、カフェイン、チョコレート、高脂肪食、炭酸、柑橘類、トマト製品、各種薬剤）の回避はしばしば有効である。ACCPガイドラインでは食事療法、減量、逆流対策を薬物療法より優先させている。

名古屋市立大学大学院医学研究科
呼吸器・免疫アレルギー内科学
新実 彰男

Book Information

日薬幹旋図書のご注文は事務局(代表:098-963-8930)までお願いします。

※日薬幹旋図書は会員価格で購入できます。

※会員価格のない書籍については定価での購入となります。

★印は事務局カウンターまたは、情報センターに見本があります。

【日薬幹旋図書】薬効別 服薬指導マニュアル 第9版

【編・監】田中良子 【発行】じほう 【発行日】2018年6月

【版型/頁】A5判/1,184頁 【定価】6,912円(税込) 【幹旋価格】6,210円(税込)

70の薬効群ごとに、服薬説明に必要な情報を「患者向け」と「薬剤師向け」に対応して記載するとともに、主な副作用ごとの患者に確認すべき症状と対策、各薬剤の重大な副作用と妊婦・授乳婦への危険度に加え、副作用の防止や早期発見、薬剤管理指導業務など薬剤師にとって欠かせないスキルとなるフィジカルアセスメントのチェックポイントを副作用症状ごとに掲載。

【日薬幹旋図書】平成30年版 保険調剤 Q&A

【編集】日本薬剤師会 【発行】じほう 【発行日】2018年6月

【版型/頁】A5判/336頁 【定価】2,700円(税込) 【幹旋価格】2,300円(税込)

薬局の現場で生じる疑問や質問をもとに、調剤報酬上の解釈と算定の仕方をQ&Aにまとめた。平成30年度調剤報酬改定に対応し、調剤基本料の考え方ははじめ薬剤服用歴管理指導料、かかりつけ薬剤師指導料、地域支援体制加算、服用薬剤調製支援料などを取り上げている。

【日薬幹旋図書】平成30年版 保険薬局 Q&A

【編集】日本薬剤師会 【発行】じほう 【発行日】2018年7月

【版型/頁】A5判/256頁 【定価】2,376円(税込) 【幹旋価格】1,990円(税込)

処方せん受付、疑義照会、麻薬の取り扱い、後発医薬品や訪問薬剤管理指導など、薬局業務を行ううえで知っておかなければならない130を超えるポイントをQ&A形式にまとめた。

★【日薬幹旋図書】保険薬局業務指針 2018年版

【編集】日本薬剤師会 【発行】薬事日報社 【発行日】2018年7月

【版型/頁】B5判/約681頁 【定価】4,860円(税込) 【幹旋価格】4,350円(税込)

平成30年4月の調剤報酬の改訂内容、保険調剤に関する事項を中心に解説し、重要通知等も収載。レイアウトを見直し、Q&Aなどが見やすくなった。

【日薬幹旋図書】腎機能別薬剤投与量 POCKET BOOK

【監督】秋澤忠男、平田純生 【発行】じほう 【発行日】2018年6月

【版型/頁】B6変型判/384頁 【定価】3,456円(税込) 【幹旋価格】3,050円(税込)

現在市販されている1,500を超える薬剤の腎機能別推奨投与量を、GFR又はCCr5mL/min刻みの一覧表で掲載しており、「患者に投与したい薬剤・処方された薬剤の減量が果たして必要なのか?」「腎機能に応じた至適用量はどのくらいか?」が一目でわかる。

【幹旋図書】日本薬品集 医療薬 2019年版

【監督】日本薬品集フォーラム 【発行】じほう 【発行日】2018年8月

【版型/頁】B5判/3,600頁 【定価】14,040円(税込) 【幹旋価格】12,990円(税込)

【幹旋図書】日本薬品集 医療薬セット版 2019

【定価】24,840円(税込) 【幹旋価格】22,980円(税込)

Book Information

日薬幹旋図書のご注文は事務局(代表:098-963-8930)までお願いします。

※日薬幹旋図書は会員価格で購入できます。

※会員価格のない書籍については定価での購入となります。

★印は事務局カウンターまたは、情報センターに見本があります。

★【日薬幹旋図書】調剤報酬点数表の解釈 平成30年4月版

【発行】社会保険研究所 【発行日】2018年6月

【版型/頁】B5判/1,072頁 【定価】4,104円(税込) 【幹旋価格】3,490円(税込)

★【日薬幹旋図書】在宅医療で使う注射薬と特定保険医療材料 平成30年4月版

【発行】社会保険研究所 【発行日】2018年6月

【版型/頁】A5判/352頁 【定価】3,240円(税込) 【幹旋価格】2,790円(税込)

薬をもっと使いこなすための 添付文書の読み方・活かし方

【著者】野村 香織 【発行】じほう 【発行日】2018年6月

【版型/頁】A5判/232頁 【定価】3,240円(税込)

医療用医薬品の添付文書を見て、「なぜこう書いてあるのか」と疑問に思ったことはありませんか？添付文書は医薬品を扱ううえで必須の情報源ですが、どのようなルールや考えの下に作られているのか意外と知られていません。添付文書の各項目を一つひとつ取り上げ、その特徴や記載の根拠を紹介。添付文書以外の情報原や知っておきたい医薬品制度なども詳しく解説し、通読するだけで、医薬品情報の知識が格段にアップ。さらに新記載要領の添付文書の特徴も解説。添付文書の読み方がグッと深まる一冊。

平成30年度版 薬局薬剤師における在宅業務マニュアル

【監修】矢後 和夫 【発行】薬事日報社 【発行日】2018年7月

【版型/頁】B5判/212頁 【定価】4,104円(税込)

◎在宅訪問に必要な届出、訪問先では何をするのか、介護報酬の請求、多職種との連携など在宅業務のノウハウをまとめた。

◎実際の在宅訪問業務が映像でわかる「薬剤師による在宅訪問の実践」を収録したDVD付き。

◎作成文書の「各種書式」を専用ホームページよりダウンロード可能。そのまま資料作成に役立てて便利。

ポリファーマシー見直しのための医師・薬剤師連携ガイド

【編集】一般社団法人 日本老年薬学会 【発行】南山堂 【発行日】2018年6月

【版型/頁】B5判/209頁 【定価】2,592円(税込)

ポリファーマシーによる薬物有害事象の回避、服薬アドヒアランス改善などの薬物療法の適正化を、医師と薬剤師がどう連携して進めるか、見直しのポイントとその連携・対応についてまとめた。臨床現場ごとの使えるアクションチャート付き！

【幹旋図書】日本医薬品集一般薬 2019-20

【監督】日本薬品集フォーラム 【発行】じほう 【発行日】2018年8月

【版型/頁】B5判/1,300頁 【定価】10,800円(税込) 【幹旋価格】9,890円(税込)

薬事情報センターの利用のしかた

○業務内容

(1)医薬品情報の提供 (2)「薬事情報おきなわ」の編集・発行 (3)医薬品に関するお問い合わせ (4)県薬ホームページの制作・管理 (5)消費者薬相談業務「おくすり相談室」 (6)医薬品 PL センター窓口業務 (7)ドーピング防止ホットライン業務

○業務時間

(会員対象) 平日 午前：8時30分～12時 午後：1時～5時30分 (土・日・祝日休業)

(一般対象) 「おくすり相談室」・「薬剤師会ドーピング防止ホットライン」

平日(月～金) 午前：9時～12時 午後：1時～5時

※おくすり相談室及びアンチ・ドーピングホットラインの電話は 098-963-8935 になります。お気軽にご利用ください。

○会員の利用方法

医薬品等に関するご質問は、電話、ファクシミリで受付けています。また、情報センター所蔵図書の見学、文献調査、オンラインデータベース・インターネット利用等の目的で直接お越しいただく場合は、係の者が対応致しますので、なるべく事前にご連絡下さい。

TEL：098-963-8931 FAX：098-963-8937

沖縄県薬剤師会 薬事情報センター

研究を始める前に！

「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」

臨床・疫学研究の実施にあたっては、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」（平成29年2月28日一部改正）に則って進めることが求められており、薬剤師が活動する分野の研究においても、学会発表、論文投稿の対象となるものについては倫理審査が必要かの判断、並びに必要なものについては倫理審査を受けることが必須の状況にあります。倫理指針およびガイドラインについては、日薬HPにも掲載されており、その中で研究者等は、研究の実施にあたって、研究に関する倫理並びに当該研究の実施に必要な知識及び技術に関する教育・研修を受けることが義務づけられています。平成31年の日薬学術大会（山口県）からは一般演題が人を対象とする薬学系研究の範囲内であれば倫理審査が必要となります。

日本薬剤師会では、「生涯学習支援システム JPALS」のe-ラーニングシステムで、研究倫理に関する研修が行える以下のコンテンツの配信を行っております。JPALSにご登録がお済みの本会会員の方は無料で視聴可能です。是非ご利用ください。（研修修了証も発行されます）

○研究倫理 入門編（2016）

1. 「薬剤師と研究倫理を取り巻く現状と背景について」
2. 「『人を対象とする医学系研究に関する倫理指針』について」
3. 「薬剤師が行う研究とは～倫理指針と利益相反」

○研究倫理 入門編（2017-1）

「倫理審査が必要な臨床・疫学研究」

○研究倫理 入門編（2017-2）

「臨床・疫学研究の計画立案と倫理審査の実際」

○研究倫理 入門編（2017-3）

○研究倫理 更新講習（2018）：

「2017年人を対象とする研究倫理指針改正の概要と注意点」

県民の皆様へ

薬剤師会をご活用ください!

やくたっ
薬達ちゃーより

あまくま^{やくだ}薬立つ情報

➔ 健康とおくすり相談会

健康とおくすり相談会は、県内各地（離島も含む）の公共の施設や広場、デパート、ショッピングセンターにおいて、毎月開催！薬剤師がアドバイザーとして、直接、お薬や健康について無料で相談に応じています。また、相談会場では体成分測定機や動脈硬化度チェックなどの機器も備え、皆様の健康維持に役立つように取り組んでいます。（会場によっては、測定機器の内容が変わることがあります。）

開催日時や会場、相談会内容などについて、お気軽にお問い合わせください。

電話 098-963-8930

➔ おくすり相談室

県民の皆様からのお薬に関する疑問、質問にお答えしています。お気軽にご相談ください。（薬局・薬店で販売されているお薬や調剤されたお薬についてのご相談など）

電話 098-963-8935

➔ 試験検査センター

試験検査センターでは、薬事法施行規則第12条第1項に関する試験検査機関の登録機関として、医薬品等の検査を行っています。

薬局で調剤されたお薬について検査を行いたい時にご相談をお受けします。（検査の際は、調剤した薬局やその他の機関への協力を仰ぐことがあります。）

なお、当センター施設設備では対応が難しい場合がありますのでご了承下さい。

電話 098-963-8934

e-mail siken@okiyaku.or.jp

➔ 薬局情報・その他

沖縄県薬剤師会から県内の「薬局マップ」が得られます。禁煙サポート薬局や訪問服薬指導実施（在宅支援）薬局などの薬局情報もお知らせします。ぜひ、あなたの「かかりつけ薬局」をおもちになってください。（詳細は沖縄県薬剤師会ホームページを閲覧ください。）

沖縄県薬剤師会ホームページでは、「沖縄の薬草」や「サプリメント」などの情報も随時アップ
<ホームページアドレス <http://www.okiyaku.or.jp>>

第36回 暮らしの中の薬草学
身近な薬草を知ろう



女性薬剤師部会 狩俣 イソ

チデークニ：黄人參：シマニンジン

学名 Daucus carota subsp.sativus
科名 セリ科 Apiaceae
属名 ニンジン属 Daucus
使用部位 根、葉、
有効成分 カロテン・カルシウム、鉄分



＜ニンジンの特徴＞

ニンジンはアフガニスタン原産のセリ科ニンジン属の2年草。アフガニスタン周辺で東西に分岐し、世界各地に伝播した。オランダを経て西方へ伝来しながら改良が行われた西洋系(短根)、12～13世紀頃に中国を経て東方へ伝わった東洋系(長根)の2種類に分類できる。

日本へは16世紀に東洋系の伝来があり、葉も根と同様に食用としていた。江戸時代後期に西洋系が伝わり、明治時代以降に日本中に普及、一般に根のみを食べるようになった。現在でも地域によっては、間引きのため抜去された株が葉を食べる商品として出荷されている。東洋系は、栽培の難しさから生産量が減少し、現在は西洋系が主流になっている。

薬草として用いられるオタネニンジン(朝鮮人參・高麗人參)はウコギ科の植物で、植物分類学上ニンジンとは異なる植物である。

＜チデークニ：島ニンジンの特徴＞

チ(黄)+デークニ(大根)は、沖縄県特有の在来種のニンジンで、島ニンジンともいう。東洋系に属し、鮮やかな黄色で太さ約3センチ、長さ30～40センチとゴボウのように細長い。ほのかな甘味とさわやかな香りがあり煮崩れしにくい。収穫時期は11月～2月頃で、冬の寒い時期に市場に出まわる。栽培に適した土壌の条件が限られていること、収穫作業に手間がかかることなどから他のニンジンに比べると生産量が少なく、価格も通常のニンジンの3倍ほどで取引されている。

チデークニには抗酸化作用を持つカロテンが豊富に含まれている。カロテンは皮のすぐ下の部分に豊富に含まれているため、皮をむかずに丁寧に洗いそのまま調理するか、皮の部分をキンピラにするのも良い。また油と一緒に調理するとカロテンの吸収が良くなる。

＜チデークニの利用＞

チデークニは、沖縄では昔から薬膳料理に利用されてきた。よく知られているのが「チムシンジ」で、豚のレバーと一緒にチデークニを煮込んだ汁物で、風邪を引いて体力がない時や食欲の落ちている時、寒い冬に体をあたためるなどの滋養食として食べられている。煮物や炒め物などで食され、また最近ではチデークニの加工品も作られていて、ドレッシングやカステラなどの商品も販売されている。

参考 おきなわ伝統的農産物データベース KK青い海 weblio、旬の食材百科 野菜の図書館、なちゅらだま

＜ニンジンの特徴効果＞

ガン予防：アメリカ国立ガン研究所は、ガンを予防する食品としてニンジンとセロリを食

チデークニ100gの成分 (2002年 財団法人日本食品分析センター)

エネルギー	蛋白質	脂質	食物繊維	カロテン	ビタミンC	鉄	カルシウム
32kcal	1.1g	0.3g	3.2mg	80μg	21g	2.31mg	38.8mg
以下ニンジン100gの成分 根・皮つき・生 日本食品標準成分表 (七訂)							
ビタミンB1	ビタミンB2	αカロテン	βカロテン	カリウム	リン	葉酸	亜鉛
0.08mg	0.05mg	3300μg	6900μg	300mg	26mg	21μg	0.2mg

事に多くとり入れるよう提唱している。

動脈硬化予防：血中の脂質の酸化を防ぐ

脳卒中を予防（ハーバード大の疫学的研究結果）

目の健康保全：夜盲症・黄斑変性症などの予防

粘膜を正常に保つ：風邪や口内炎の予防

美肌効果：皮膚粘膜形成を助け肌の角質化防止

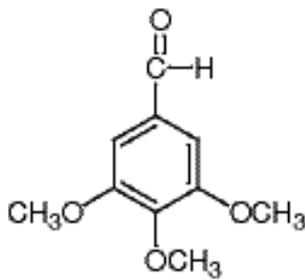
高血圧の予防：カリウムが、余分なナトリウムを体外に排出する

便秘解消：ペクチン(食物繊維として機能)含有

抗ウイルス作用と免疫向上作用：抗ウイルス成分インターフェロン α 2の発現を促進する

抗菌作用と下痢予防効果：ルテオリンが含まれ、抗酸化作用と抗菌作用を持ち、病原性細菌の発育を阻害する働きをもつ

抗炎症作用：ニンジンに含まれるトリメトキシベンズアルデヒド酸は炎症促進酵素COX-2を阻害する働きを持つ



トリメトキシベンズアルデヒド酸

<ニンジンの有効成分>

チデークニは、カロテン、ビタミンC、カルシウム、鉄分などを多く含み、貧血や眼精疲労の予防、体力増進にも役立つ。黄色の色素はキサントフィルで、活性酸素の障害から赤血球を守る機能成分である。ニンジンにはビタミンCを酸化させる酵素であるアスコルビナーゼが含まれている。加熱調理すると酵素が不活性化するため問題はないが、生の状態でビタミンCに富む野菜と一緒に食べる場合は、酢またはレモン汁を加えるとアスコルビナーゼの働きを抑制する。ニンジンは煮たり炒めたりしたほうが有効成分の量が増加する。

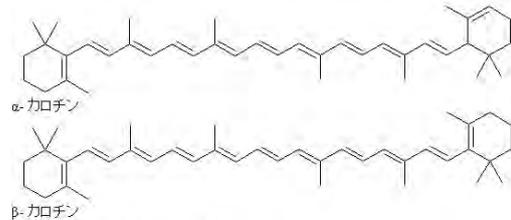
ニンジンの葉は、カリウム、鉄、カルシウム、ビタミンB群、E、C、K、カロテンなどを豊富に含む栄養価の高い緑黄色野菜である。

<カロテノイドの特徴>

カロテノイドを豊富に含む緑黄色野菜を摂取していると癌の発生率が低いという疫学調査での研究結果が報告されている。前骨髄性白血病の場合、ビタミンB群および β -カロテン、トコフェロールの投与により完全完解し β -カロテンに強い抗癌作用があることが分かった。また、肝癌患者への合成レチノイド(ビタ

ミンAの化学的総称)の投与で再発率の著しい低下が見られたことも報告されている。

α -カロテン・ β -カロテンは動物体内においてビタミンAに変換されうるプロビタミンAで、カロテノイド系色素に属する。プロビタミンA化合物は、ビタミンAへの変換が調節されているため、ビタミンAとは異なり過剰摂取による障害を示さない。



α -カロテンは、一方の末端が β 環でもう一方の末端が ϵ 環であるカロテンである。カロテンのうち、2番目に多く存在する。生物内では δ -カロテンから合成され、緑黄色野菜のみならず多くの植物にみられる。脂溶性の物質で、純物質は紫色をしている。抗酸化作用は β カロテンの10倍あると言われている。ビタミンAへの変換は β カロテンの半分程度である。

β -カロテンは、植物に豊富に存在する赤橙色色素の一つで、両末端に β 環を持つ最も一般的なカロテンである。テルペノイドの一つであり、水には溶けないが脂溶性は大きい。アルツハイマー型認知症の血中の抗酸化物質(ビタミンC、ビタミンE、 β -カロテン、リコピン、コエンザイムQ10)の濃度を調べると、ビタミンCと β -カロテン濃度が低いことがわかっている。

α -カロテンには肺癌・皮膚癌、 β -カロテンには脾臓癌、リコピン($\phi\phi$ -カロテン)には肝臓癌や乳癌の抑制効果がみられる研究報告もあり、カロテノイドの種類によって、抑制効果のある癌の種類が異なる事も明らかになっている。

<外用レチノイド>

外用レチノイド(ディフィリンゲル)は、ニキビ生成の過程に直接作用し、表皮の顆粒細胞が角質細胞へと変化する過程を抑制する。初期の白ニキビ、黒ニキビなどに効果が期待できる。

参考：ニキビ研究所、KK青い海・わかさの秘密・東京化成工業KK、Hryu co.lto、TCNの健康コラム



「いけますか？」



株式会社 薬正堂
すこやか薬局 新川店
新垣 優美絵

県外から沖縄県に来られた方の中には、聞き慣れない方言や独特の言い回しにコミュニケーションの行き違いを感じることもあるかと思えます。私自身、大学進学を機に県外へ出て初めて「え？この言葉って沖縄でしか通じないの?!」と驚くことがいくつもありました。逆もしかりで、聞き慣れない他県の独特の言い回しに出会うこともあります。

私は大学生活を四国にある徳島県で過ごしました。徳島の方言には心地よい抑揚があり、どこか懐かしい感じがしてとても好きでした。そんな私でも使えるようになった徳島の言葉の一つがあります。

それは、「いける」です。

おそらく、徳島県以外でも関西圏では使われる言い回しではないでしょうか。移動する＝「行く」とは違い、意味としては「大丈夫」とか「問題ない」というようなニュアンスで使われていました。

「あんたケガしているけど、いけるん？」

「うん、これぐらいはいけるよ～」

といった感じです。

しかし、最初は聞き慣れない言葉なので、「??」と一瞬頭がフリーズします。そんな「いける」に関しては、頭がフリーズした瞬間を今でも覚えています。

一人暮らしを始めて1か月と経たない頃、下宿先近くのスーパーマーケットで買い物をして帰る途中でした。慣れない自転車に乗っ

て、前のかごには食料品の入ったスーパーの袋を入れて、その日はヒールの付いたパンプスを履いていました。

加速するために自転車のペダルを踏みこんだ時です。その拍子に両足のヒールがペダルの隙間に入り込んでしまい、抜けなくなってしまったのです。自転車をこいだまま両足ともペダルに固定されてしまったことに気が動転してしまい、そのまま自転車と一緒に倒れてしまいました。すると、通りかかった車の窓が開いて、男性が声をかけてくれました。「いけますか？」

ペダルから足が抜けない怖さと、自転車と一緒に横転してしまったショックとで放心状態でいたところにかけてられた聞き慣れない言葉に頭が完全にフリーズしてしまったのです。

「はい・・・」

と、返事をするのがやっとでしたが、声をかけてくださった方のおかげで我に返り、少し正気を取り戻すことができました。

今思えば、パンプスだけ脱いでしまえばよかった話なのですが、

犠牲になった10個入りのパックの卵が悔やまれます。

しかしながら、徳島の方の優しさに触れられた出来事でした。

次号には、比嘉 朋子 先生がバトンを受けて下さいました。ご期待下さい！

薬連だより

本田あきこ オレンジ日記
安倍総理と災害対策等について対談



日本薬剤師連盟
副会長 本田 あきこ

私の全国訪問活動は、関東、東京、中国、近畿、大阪、東海ブロックを終え、また、7月末の岩手訪問を加えますと24都府県の支部訪問を行ったことになり、マラソンでいうと折り返し点にやっと到着したということになります。これまでお世話になりました皆様に、改めてお礼を申し上げます。

さて、7月に突然、安倍総理との対談という、驚きのお仕事をいただき、7月26日（木）の夕刻、山本会長とともに総理官邸を訪問させていただきました。大変緊張しましたが、山本会長が日本薬剤師会会長として、優しく見守ってくださったので、何とか役割を果たすことが出来ました。対談の様子は、日本薬剤師会雑誌9月号に掲載されると聞いています。

対談の内容ですが、私からは、今回の西日本を中心とする豪雨災害への対応、被災地における薬剤師の活動、モバイルファーマシーの動き等に加えて、熊本地震の際の私自身の経験等についてもお話をいたしました。そして、薬剤師の災害時の支援活動が円滑に進むことを期待して、日本薬剤師会が作成した「薬剤師のための災害対策マニュアル」についても紹介させていただきました。

このほかにも、これからの医療と薬剤師への期待、アベノミクスによる経済効果、地方創生の一つの柱が観光であること、最後に、人生100年時代における社会保障制度について等、総理からお話を伺うことが出来ました。お時間を作っていただいた総理にお礼を申し上げ、官邸を後にいたしました。

さて、7月は全国的に例年にない大変な猛暑と広範囲位に及んだ西日本豪雨がありました。猛暑の中、災害支援活動に汗を流されている薬剤師の先生方がいらっやいます。この夏をお健やかに乗り切られますよう、熊本からお祈り申し上げます。



1 本田あきこのホームページを開設しました。
右のQRコードから閲覧してください ⇒



2 Facebookページ「本田あきこの部屋」を公開しました。
右のQRコードから閲覧してください ⇒



3 本田あきこメールマガジンを開始しました。
右のQRコードから登録をお願いいたします ⇒



薬連だより

平成30年度 沖縄県薬剤師連盟評議員会報告

日時：平成30年6月17日（日）13：00～13：25

会場：沖縄県薬剤師会館 ホール

＜会次第＞	司会	副幹事長	石川恵市
○会長あいさつ		会 長	亀谷浩昌
○議題			
報告 第1号 平成29年度会務経過報告	幹事長		吉田久子
第2号 平成29年度会務並びに会計監査報告	監事		神谷朝雄
議案 第1号 平成29年度決算承認の件	会計担当		山里勇
第2号 平成30年度活動計画案の件	幹事長		吉田久子
第3号 平成30年度予算案の件	会計担当		山里勇

沖縄県薬剤師会定時総会に先立ち当連盟評議員会が開催され、司会進行は石川恵市副幹事長が務めた。

始めに亀谷浩昌会長からの挨拶では、現在、国会議員の中には医師21名、歯科医師6名、看護師6名がいる中、薬剤師は4名しかいない。この人数では、薬剤師職能をアピールするためには少なすぎである。調剤報酬を始め、私達の諸課題の解決には自助努力は当然だが、政治的な力も欠かせない。来年7月の参議院議員選挙においての日本薬剤師連盟の組織内統一候補者の本田あきこ氏を絶対に当選させなければならない。当連盟も本田氏の活動を全面的に支援し、地区薬剤師会および会員の皆様にも強力なお力添えを賜りたいこと等を述べた。

報告第1号 平成29年度会務経過報告では、吉田久子幹事長より、昨年度は、衆議院議員選挙や市町長選挙に対し積極的に活動した。また若手フォーラムも開催し、とかしきなおみ環境副大臣、日薬連盟の岩本研幹事長、小野春夫副幹事長、山川典二県議会議員を招いて講演を頂いたこと等が報告された。

次に報告第2号 平成29年度会務並びに会計監査報告を神谷朝雄監事が報告した。

沖縄県薬剤師連盟
事務局次長 山城 英人



議案に入り、議案第1号 平成29年度決算承認の件を山里勇会計担当が説明した。

議案第2号 平成30年度活動計画案は、吉田久子幹事長より、1. 県薬連盟及び支部の組織の強化。2. 次期参議院議員選挙の組織統一推薦候補者本田あきこ氏に対し、積極的に支援活動を行う。3. 若手・女性薬剤師の集いを開催し、薬剤師職能と政治の関わりについて、その重要性の啓発を行い、政治連盟への積極的な参画と活動を強化する。4. 薬剤師問題を理解し、活動してくれる議員および候補者への支援活動を行うことの4項目が提案された。

議案第3号 平成30年度予算案の件について山里勇会計担当より、今年度は11月頃に控えている県知事選挙、那覇市長選挙そして来年の参議院議員選挙に向けての活動費が予算化されていることが説明された。

各議案について満場一致で了承され、評議員会は終了した。

＜沖縄県薬剤師連盟評議員会 スナップ写真＞



司会
石川 恵市 副幹事長



あいさつ
亀谷 浩昌 会長



報告第1号、議案第2号
吉田 久子 幹事長



報告第2号
神谷 朝雄 監事



議案第1号・第3号
山里 勇 会計担当

薬連だより

国会レポート
通常国会閉幕

自由民主党組織運動本部本部長代理
参議院議員・薬剤師
藤井 もとゆき



1月22日に召集された第196回通常国会は、7月22日に閉幕しました。厚生労働省がこの国会に提出した7本の法律案のうち、「水道法改正案」を除く6本が可決・成立しました。

政府が最重要法案の一つと位置づけた「働き方改革推進関連法案」、長時間労働を解消するため、時間外労働の上限を定め、これを超えた場合の罰則が規定されました。また、金融商品開発業務、アナリスト業務、研究開発業務等、高度の専門的知識を必要とし、従事した時間と得た成果との関連性が低いと認められる業務に対し、「高度プロフェSSIONAL制度」が創設されます。医療分野の研究開発においても、時間をかければ必ず新医薬品・新医療機器の開発に結びつくものではありません。開発ターゲットを見極め、成功に導く優れた発想、試験結果を踏まえた戦

略見直し等、従事する者の能力に帰するところが多々あり、医療イノベーションの推進にも大きく寄与するものと期待しています。

「生活困窮者自立支援法等改正案」では、生活困窮者の一層の自立促進を図るとともに、医療扶助における後発医薬品使用を原則化する等の措置が講じられました。

受動喫煙を防止するための「健康増進法改正案」、学校・病院・児童福祉施設・行政機関等は敷地内禁煙、飲食店については原則として屋内禁煙となります。ただし、中小事業者が運営する100㎡以下の既存の飲食店への適用を猶予するなど、必ずしも十分とは言えませんが、喫煙可能な飲食店にはその旨の掲示が必要となり、望まない受動喫煙を避ける手立てが増えることは一歩前進と思います。

藤井もとゆきホームページ <http://mfujii.gr.jp/>

平成29年度 第8回理事会 議事概要

日時：平成29年10月14日（土）19：00～21：30

会場：沖縄県薬剤師会館 研修室

<出席者>

会 長：亀谷浩昌
副 会 長：前濱朋子、江夏京子
理 事：山里勇、笠原大吾、成川賢一、佐藤雅美、渡具知一枝、
新垣秀幸、上原卓朗、幸地良信、下地睦夫（宮古地区代理）、
我喜屋美香、荒井千春、吉富弓江、吉田洋史
監 事：神谷朝雄
欠 席：外間惟夫、西川裕、川満直紀、村田美智子
事 務 局：山城英人、大城喜仁、前原里江

議題

(1) 平成29年度沖縄県薬剤師会会長表彰について

<資料配布>

（山城次長）

各地区・部会より9名の推薦があり、表彰諮問委員会で検討した結果案として6名を候補にあげている。

（亀谷会長）

原則5名の枠があり、表彰委員会で検討した結果、高齢の方は会員歴も考慮した上で今回は6名を候補者として選出した。各地区薬の人数などにも配慮し、那覇地区においては枠を広げてはどうだろうか。今後検討していきたい。

異議なく承認された。

(2) 沖縄県薬剤師会学術大会懇親会来賓者について

<資料配布>

配布資料の通りで異議なく承認された。

(3) 会営薬局委員会の設置について

<資料配布>

（山城次長）

現在、会営薬局の運営等に関する委員会が存在しない。会営薬局に対して国が求めるかかりつけ薬局・薬剤師としての整備が必要であり、また調剤報酬改定等に対応した指導助言する委員会が必要である。慢性的な薬剤師等の不足による労務環境等の改善も必要である。職務内容は、調剤報酬改定等に対応した運営に関すること、会営薬局であることを意識した運営に関すること、会営薬局の労務環境に関すること、前記以外の会営薬局の運営全般に関すること。

（亀谷会長）

これまでは様々な事を薬局長に一任していたが、負担が大きいことに配慮しなければならぬと感じた。薬剤師会の将来を考慮した結果、委員会の設置の必要性があると判断した。委員のメンバーは各薬局の薬局長を中心にこれから選考したいと考える。

報告（会）

(1) 会営薬局の調剤保険料等について

＜資料配布＞

(2) 平成29年度第1回健康づくり推進協議会

8月15日（火）全国健康保険協会沖縄支部＜資料配布＞

（我喜屋理事）

参加者は大学・企業・県医師会など合わせて24名。7つの議題があり、そのうち①重症化予防事業、AUDITを活用した保険指導を行う。アルコールの飲む回数を減らす、目標より1回量を減らすという目標を設定し、成功。②データヘルス事業の目標・35才～74才の男性の中性脂肪を5%減らす。ハイヤータクシー協会と連携。モデル事業所11社にプログラムを遂行してもらう。（現在2年目・6クール中）③おきなわ津梁ネットワークの現在の参加について病院診療所150軒、薬局43軒、登録者28,940名→7,800人の増加。④ジェネリック使用割合81.3%（昨年78.5%）で沖縄1位。国の目標の80%を超える。

(3) 平成29年度日本薬剤師会学校薬剤師部会「学校環境衛生検査技術講習会」

9月9・10日（土・日）帝京大学板橋キャンパス

（上原理事）

2年に1度実施。2日間にわたり、講義とスモールグループディスカッションが行われた。

(4) 平成29年度第1回医薬分業対策委員会主催講演会

9月10日（日）県薬＜資料配布＞

（江夏副会長）

京都大学医学部附属病院の尾崎淳子先生をお招きして、『京大病院における院外処方せん疑義照会簡素化プロトコル～地域におけるチーム医療の実践』の演題で講演会を開催した。参加者は69名であった。同病院では医療現場間の連携、情報の共有化の推進が求められ、2013年9月に連携の重要なツールとして処方せんの検査値の印字を開始したとのこと。また、同年10月に外来医療におけるチーム医療を進めるために、医師および保険薬剤師の負担軽減になる病診薬連携の強化を考え、同プロトコルが近隣11薬局で開始されたとのこと（現在は34薬局）。疑義照会の方式は医師（病院）と保険薬局が合意書を交わして直接合意する方式で、長所は医師との協働であることが明確であること。短所はプロトコルに合意した保険薬局のみの適用であることとのこと。プロトコルの具体的なやり方は、①保険薬局と面談後、病院長と簡素化プロトコルの合意（書面及びスタンプの提供）、②調剤時に『プロトコル内容』を適用、③『京大病院長の合意による変更』とのスタンプを押し、変更内容を記載の上、疑義照会済みとして処方せんを京大病院薬剤部にFAX、④内容に基づき、処方内容修正（またはカルテに記載）、病院薬剤師が担当。その結果、医師への直接行う疑義照会が約3割減少しているとのこと。また、プロトコル実施の現在の問題点は、①残薬に対するプロトコル適応が増加し、処方箋修正が煩雑に（病院薬剤師の負担増）。②処方箋修正時に状況がわかるため、問題点や逸脱があっても事後対応になる。③残薬に対しても対応するため、その後の提案に繋がらない。④適時プロトコル見直しや状況の確認、保険薬局との勉強会を実施し、改善につなげる努力が必要。⑤トレーシングレポートを推進し、保険薬局薬剤師もチーム医療の一員として、顔の見える関係につなげていく。トレーシングレポートによる保険薬局、病院薬局、担当医師との連携も取れている。トレーシングレポート活用例として、喘息等の吸入指導をあげていて病院からの保険薬局への情報として医師が、吸入指導が必要な患者に対して吸入指導依頼を交付、病院薬剤師が練習用吸入器を使って初回吸入指導の際、吸入薬説明手順書・評価項目表に記載、保険薬局薬剤師が実薬を用いて吸入指導、吸入薬説明手順書・評価項目表に吸入評価や必要な情報を記載

し病院へFAX、病院薬剤師が保険薬局での吸入指導内容およびFAX情報についてカルテに記載し医師に報告。フィードバックができていたとのこと。その吸入指導外来の流れができていたことで、患者の状態の改善、アドヒアランス向上につながって薬剤師の評価になっているとのこと。医師、病院薬剤師、保険薬局薬剤師の連係が取れチーム医療として機能したことが患者の薬物治療に効果をあげたとのこと。最後に尾崎先生が、疑義照会簡素化は目的ではなく、業務負担軽減へのひとつの手段で、チーム医療として情報共有、責任ある提案を行っていくことが重要であると述べていた。

(5) 平成29年度医薬分業対策会議 9月10日(日) 県薬 <資料配布>
(江夏副会長)

アンケート等も取り、結果は会報に掲載予定。『疑義照会について』をテーマとしディスカッションを行った。

(6) くすりと健康フェアPR活動(那覇市自治会) 9月11・26日(月・火) なは市民協働プラザ(那覇市自治会)・FM沖縄
(山城次長)

10月20日県民公開講座のPRのための告知を行った。

(7) 沖縄県医療審議会 9月12日(火) 県庁 <資料配布>
(亀谷会長)

医療法人設立認可の可否について(3件)審議を行った。

(8) 平成29年度第3回地域保健委員会 9月12日(火) 県薬 <資料配布>
(笠原常務理事)

会議事項は、

1. 薬局薬剤師によるアウトリーチ型健康作り推進事業についての進捗状況の報告。
2. 平成29、30年度地域保健委員会委員について
3. 地域保健委員会事業計画について
4. なごみ会主催県民健康フェアについての反省と、来場者数とアンケート集計より、おくすり手帳の周知はされているが、かかりつけ薬剤師と健康サポート薬局についてはほとんど知られていない結果が出た。
5. 禁煙支援事業について
6. 地域ケア会議について
7. 自殺予防対策事業について

(9) 沖縄県保健医療部との情報交換会 9月12日(火) 県薬
(亀谷会長)

薬剤師の役割についての認識を深めていただくとともに、県と会との親睦を図ることを目的に行われた。

(10) 平成29年度第1回在宅医療委員会 9月12日(火) 県薬<資料配布>
(荒井理事)

委員は10名。顔合わせも兼て行った。平成29年度の事業計画は、

1. 在宅医療支援薬局の啓発活動・薬剤師会ホームページ掲載の充実、・医師会、看護協会、病院などの地域連携室への啓発・沖縄県医療計画(在宅医療、小児医療)について
2. 在宅医療推進のための講演会の開催・医療材料・重度心身障害児・緩和ケア
3. 無菌調製の実践講座の開催

4. 無菌調製共同利用施設の利用推進

- (11) 第2回 沖縄県在宅医療ワーキンググループ 9月13日(水) 沖縄県医師会<資料配布>
(荒井理事)

第7次沖縄県医療計画の11項目の中の1つ、第2回在宅医療ワーキンググループが開催された。これは五か年計画で、第6次まではほとんど薬剤師に関わる目標といったものが掲げられておらず、今回私が参加することで在宅医療のどのような数値目標が必要なのか提案した。

- (12) 個別指導・新規個別指導 9月14・21・28日(木) 那覇市第一地方合同庁舎

- (13) 九山大会事前各協議会 9月16日(土) シーガイアコンベンションセンター<資料配布>
(我喜屋理事)

実務実習調整機構総会の報告としては実務実習実施日程(原則)の件を立石委員(長崎国際大)が、「実習の順序は、薬局から病院の順を原則とする」における“原則”の解釈を九山として一致させておいた方がよいのではないかと提案があった。できれば100%に近づける方向で行いたいとの説明であった。1施設に病院を経験した学生と、薬局から初めて実習に入る学生がいた場合、進み具合が変わり大変等々の意見が出た。結果、実習施設マッチング時に柔軟に対応することを確認した。次に、薬局実務実習受入調整機関運営委員会の報告として、平成30年度認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップについて山口東京理科大が平成34年度(5年後)に120名を実習させたが、(ほとんどが地元での実習を希望している)あと16施設ほど実習施設を増やさなければならぬため、各県の参加人数を調整してほしいとの要請があった。そして、平成31年のテストマッチングを11月に行う予定。

- (14) 第78回九州山口薬学大会 9月17・18日(日・月) シーガイアコンベンションセンター
シンポジスト2名、座長1名派遣<資料配布>
(山城次長)

台風18号の暴風の中、大会は開催された。「薬剤師を生きる ~今、この瞬間~」の大会テーマで、沖縄県からの参加者も台風の影響で参加を見合わせた会員もいたが、延べ30名を超える参加者があった。本大会前日の各協議会からはじまり、本大会初日の薬学会総会では、厳正な審査より笠原大吾常務理事と琉球大学医学部付属病院薬剤部の鈴木毅先生に研究助成金が交付された。また、大会本会議において、神村武之相談役が九州山口薬学大会の名誉会員として推戴され、栄えある九州山口薬剤師賞には渡具知一枝先生と仲井間清先生が受賞された。シンポジウム5のシンポジストとして「院外処方せんへの検査値開示について」と題し西川裕常務理事、シンポジウム9のシンポジストとして「改訂モデル・コアカリキュラムへのトライアル」と題し実務実習受入委員会の宮城幸枝氏が発表した。また、シンポジウム6の「調剤報酬を取り巻く環境」で医療保険委員会の仲真良重委員長が座長を務めた。

- (15) 第2回 沖縄県小児医療ワーキンググループ 9月19日(火) 沖縄県医師会<資料配布>
(荒井理事)

第7次沖縄県医療計画の11項目の中のひとつ、第2回小児医療ワーキンググループが開催された。次回には数値目標が示されると思う。

- (16) 平成29年度第1回 地区薬剤師会会長会議 9月23日(土) 県薬<資料配布>
(山城次長)

毎年2回行われている。県薬と地区薬、そして地区薬同士の情報交換を目的としている。協議として、那覇地区薬より健康とお薬相談会で使用する健康測定器の借用順について議題が出た。以前は、各地区薬および部会などで月単位で振り分けられていたが、最近では活発に行わ

れるようになったこともあり、同じ日に重複して開催するケースが生じている。一旦、地区薬の状況を集約し整理した上で、今後の対応を検討していきたい。

(亀谷会長)

DEM事業についてもご協力願いたいと呼びかけた。

(17) 健康サポート薬局 A・B研修会

9月24日(日) 県薬<資料配布>

(笠原理事)

A研修(午前)に29名、B研修(午後)に28名の受講者が参加。去年と比較すると減少しているが、これまでの受講者を合わせると百数十名になる。アンケートを取り、集計の結果、実際に問題となっているのは健康サポート薬局になるための書類の書き方やOTC薬をどのように導入したら良いのか等であった。今後はこれらをテーマにし研修会を開催したい。

(18) 平成29年度第9回学校薬剤師部会役員会

9月24日(日) 県薬<資料配布>

(前濱副会長)

学校環境衛生アンケートの調査票についての記入漏れがないか等の確認作業を行った。

(19) 薬学生実務実習(学薬)

9月25日(月) 県薬<資料配布>

(我喜屋理事)

通常の実習の一環として学校薬剤師についての研修が実施された。

(20) 琉球大学医学部への薬学科設置の要望書提出

9月25・26日(月・火) 文部科学省・内閣府庁舎・財務省・厚生労働省<資料配布>

(亀谷会長)

資料にあるスケジュールに沿って要望書を提出。

(21) 平成29年度第2回広報委員会

9月26日(火) 県薬<資料配布>

(前濱副会長)

沖縄県薬剤師会創立100周年記念誌発刊に向けて、広報委員会にオブザーバー参加された神村相談役より、広報委員会を中心に、当会活動に尽力された熟年の先生方から情報を聴取して行ってほしいとの提案があった。この情報収集事業には情報源となる神村相談役からご指導を頂きながら進めていくことになった。薬と健康の週間の広報活動について、くすりと健康フェアの告知を我喜屋理事がパーソナリティーを勤めているラジオ放送(FMレキオ)にて告知。本会会員の盛本直也氏がパーソナリティーを勤めているラジオ放送(FM沖縄)にて告知。地元紙2社に訪問し告知(10月6日に薬事情報センターの吉田典子氏と前濱副会長が告知)。地元紙2社へは投稿も行った。いずれも「かかりつけ薬剤師、薬局を持ちましょう」をテーマに、琉球新報社は渡具知一枝理事、沖縄タイムスは上原卓朗理事が投稿することで決定。その投稿文の校正を行った。

(22) 平成29年度日本薬剤師会生涯学習担当者全国会議

9月27日(水) 日薬<資料配布>

(江夏副会長)

資料をご覧ください。詳細は外間副会長より次回説明予定。

(23) なごみ会主催県民健康フェア第6回実行委員会 9月27日(水) 沖縄県医師会館<資料配布>

(笠原理事)

今回のフェアで新しい試みとして協賛金を募ったところ54万5千円集まった。ステージイベントを最小限にしたことで、その分、各ブースで展開できた。薬剤師は相談員として40名の参加があった。

(24) 月次会計監査 9月28日(木) 県薬

(25) 平成29年度第1回青年薬剤師部会主催講演会・情報交換会 9月30日(土) 県薬<資料配布>

(上原理事)

今回は災害関連ということで3名の先生にご講演いただいた。参加者は63名で実習生や卸会社からも参加があった。

(26) 平成29年度 日本薬剤師会薬局実務実習担当者全国会議 伝達講習会 10月1日(日) 県薬<資料配布>

(我喜屋理事)

当日は25名が参加。講習を受ける必要のある方が病薬を含めると100人以上いる。

(27) 南部地区薬剤師会 糸満・豊見城・南風原支部会及び研修会 10月1日(日) 県薬

(28) 琉球大学医学部 石田肇医学部長・琉球大学医学部附属病院

藤田次郎病院長・中村克徳薬剤部長・熊谷事務部長訪問 10月3日(火) 琉大病院

(亀谷会長)

文科省・内閣府・財務省・厚生労働省へ琉球大学医学部への薬学科設置の要望書を提出した旨の報告のため訪問してきた。

(29) 沖縄県医師会 安里哲好会長 訪問 10月3日(火) 沖縄県医師会館

(亀谷会長)

報告事項(28)と同じ。

(30) 社会保険診療報酬支払基金より来訪 10月4日(水) 県薬

(亀谷会長)

会議前の事前説明であった。

(31) 平成29年度第3回学術研修委員会 10月4日(水) 県薬<資料配布>

(大城課長)

学術大会を目前にしての打ち合わせをメインに行われた。会員発表20演題の申し込みがあり、プログラムの作成を行った。

(32) 平成29年度第5回医薬分業対策委員会 10月5日(木) 県薬<資料配布>

(江夏副会長)

平成29年度DEM事業の実施について、10月2日～10月20日の練習期間を経て、調査実施・結果報告の11月1日～12月25日に向けて、より会員薬局への啓発に力を入れる。理事にも協力を求める。平成29年度沖縄県薬剤師認知症対応力向上研修は、第1回の研修会が10月15日(日)に開催される。申し込みは現時点で73名となっている。昨年度に続き、講師に中尾滋久氏が務める。研修内容は昨年度と同じで、テキストは若干の訂正あり。研修会ではテキストの訂正箇所の正誤表を配布する。平成29年度薬剤師生涯教育推進事業の実施について、日本薬剤師会は本年度、厚生労働省平成29年度薬剤師生涯教育推進事業の実施法人として採択を受け事業実施する運びとなった。当事業は、医療技術の高度化・専門分化が進展する中、より良い医療を患者に提供していくため、病院や地域におけるチーム医療に貢献する薬剤師を養成する等の生涯教育が重要であることから、その教育を担う薬剤師を育成することを目的とされている。この事業目的を受け、日本薬剤師会は、将来の病院や地域の指導的立場を担う薬剤師の研修事業を実施することになった。本事業は、「患者のための薬局ビジョン」にも示された、薬局・薬剤師が今後果たしていくべき地域医療における役割の実現や「健康サポート機能」など、今後よ

り必要とされる機能や能力のさらなる充実に向けて、まさに時宜を得た、非常に重要な事業であると位置づけている。具体的に、本事業において行う指導者研修で、地域におけるチーム医療に貢献する薬剤師養成の趣旨から、受講者に各都道府県薬剤師会の推薦枠を設けることとした。また、地域包括ケアシステムの実現（2025年目途）を見据え、地域の医療政策の変化や将来構想などの政策的背景を考慮した上で、地域の実情を踏まえた薬剤師業務の充実を牽引していただける指導者の育成という観点から、受講者は原則40歳代までとする。さらに、指導者研修を踏まえて地域でのチーム医療・薬薬連携の実践や、研修の企画・指導につなげることのできる人材育成を想定し、薬局及び病院の関係者から1名ずつ（計2名）推薦することになっており、薬局薬剤師として当委員会の西川裕委員長、病院薬剤師については潮平英郎氏（琉球大学医学部附属病院）を推薦することになった。健康サポート薬局に関する研修会については、健康サポート薬局である旨を表示しようとする薬局が満たすべき事項の業務手順書の作成や整備等に関する研修会を企画している。12月に1回目、来年2月に2回目を開催する。12月の研修会は、最初に沖縄県保健医療部衛生薬務課の大城由希子氏から同手順書の作成の注意事項、整備すべきこと、申請方法についてご講義いただくことになっている。次に、一早く健康サポート薬局になった、西川裕委員長（そうごう薬局新赤十字前店、門前・チェーン店）と大城恭子委員（薬局えぱーわ〜な〜、面・個店）より同手順書作成、整備事項、申請方法についてチェックシートを方式で具体的にご教示いただく発表内容を企画している。2月の研修会には、12月の研修会に準じるが、沖縄県保健医療部衛生薬務課の講義に代わって、東京都浅草に所在する健康サポート薬局であるケイ薬局の宮原富士子氏をお招きして、より具体的なご講義をしていただく予定である。

- (33) 平成29年度第3回薬学生実務実習受入委員会 10月5日(木) 県薬 <資料配布>
(我喜屋理事)

九州山口地区調整機関会議で、協議事項として、平成30年度実務実習マッチング（九州地区：12名）について話し合われた。「平成29年度日本薬剤師会薬局実務実習担当者全国会議」伝達講習会および更新講習会を2月に開催予定している。

- (34) 学校薬剤師部会主催「平成29年度薬物乱用防止指導員伝達講習会」
10月5日(木) 薬局えぱーわ〜な〜
(前濱副会長)

南部地区で行われた。11月には那覇・浦添地区、中部地区で開催予定。

- (35) 日本薬剤師会 都道府県会長協議会 10月7日(土) 東京国際フォーラム<資料配布>
(亀谷会長)

日薬ブロック会議が12月16日に鹿児島で開催予定。健康サポート薬局研修について等の説明があった。

- (36) 第50回日本薬剤師会学術大会
10月8・9日(日・月) 東京国際フォーラム・JPタワーホール&カンファレンス
(亀谷会長)

13,415名が参加。平成30年は金沢、平成31年は山口、平成32年は北海道での開催が決定。

- (37) 宜野湾健康支援センター創立20周年記念祝賀会 10月9日(月) ラグナガーデンホテル
(亀谷会長)

招待を受け出席した。

(38) 社会保険診療報酬支払基金 幹事会 10月11日(水) 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部
(亀谷会長)

毎月定例の会議。

(39) 平成29年度学校環境衛生・薬事衛生研究協議会

10月12・13日(木・金) ホテルメトロポリタン盛岡

(前濱副会長)

県の主催で行われる学校環境衛生安全講習会の講師として出向いてもらうので、その情報収集として参加した。

(40) 平成29年度調剤報酬請求業務講習会

10月12日(木) 宮古・10月13日(金) 八重山

(下地理事)

参加者は40名以上だった。

(41) 社会保険診療報酬支払基金との情報交換会

10月13日(金) 那覇市内

(亀谷会長)

顔の見える関係を築きましようということで申し出があり参加した。

(42) 平成29年度「薬と健康の週間」について

<資料配布>

(山城次長)

行事予定表にある通り各種事業を実施する予定。

(43) 薬剤師資格証発行に係る実務等について

<資料配布>

(山城次長)

9月6日に日薬で実務説明会が行なわれ、事務局の松堂が参加した。厚労省から日本薬剤師会が認可を受け資格証を発行しているが、薬剤師が資格証取得のために入力した申請書を都道府県薬に持ち込み本人確認等を行い、日薬に送付する。日薬で再チェックし受理されるという流れ。事務局には事務手数料として事業協力費が1000円/件支払われる。しかし、離島など遠隔地の場合の対応が懸念される。導入の時期は未定。

(44) 平成30年度事業計画案提出について(お願い)

(江夏副会長)

各委員会の委員長は提出期限を確認し、期限までに提出するように。

(45) 薬剤師の奨学金制度に対する経済支援についてのアンケートについて

<資料配布>

(大城課長)

行政からの依頼で、ニーズがあるのか把握するためのアンケートである。アンケート結果を参考に今後検討すること。結果次第では実現の可能性は強い。

(46) 学校薬剤師部会 試薬処理費支払い計画書について

<資料配布>

(前濱副会長)

役員会で試薬処理にかかる費用の金額の確認と、集まった寄付金額の確認を行い、理事会へ資料を提出。一旦、当会で立替後に残金は平成30年度と平成31年度で返済していく計画。

(47) 会営薬局うえはら、とよみの薬剤師の状況について

<資料配布>

(山城次長)

これまでは協力薬剤師の応援が6～8名程度あり業務をこなしていたが、10月末でパート薬剤師1名の退職が決まっている。さらに3月末で正職薬剤師1名が退職する予定。厳しい状況である。

(48) その他

(我喜屋理事)

先日、日薬の学術大会に参加した際、モバイルファーマシーのシンポジウムに出席し情報を得たので報告する。所持している県が増加し衛星電話を付けている。静岡県では県からの要請で衛星電話を持つように指示があり、県薬で所有しているそうだ。モバイルファーマシーは常に動かしておかないと機能に不具合が生じてくるとのことで、災害時ではない平時の場合は、お薬相談会や薬と健康の週間、くすり教育、在宅の分野で使用している県もあるそうだ。常に進化していると感じた。

(亀谷会長)

私の印象ではあまり効果的でないように感じた。保管場所の確保が困難であること等あげられる。

(我喜屋理事)

以前は高額であったが、必要最低限な機能を装備し、費用を抑えて導入が可能となっているのでないか。今後期待したい。

報 告 (薬連)

- | | |
|---------------------------------|---|
| (1) 平成29年度 臨時評議員会 | 9月27日(水) スクワール麴町 <資料配布> |
| (2) ミヤザキ政久選対本部事務所開き | 9月29日(金) ミヤザキ政久選対本部事務所 |
| (3) コクバ幸之助事務所開き | 9月29日(金) コクバ幸之助事務所 |
| (4) コクバ幸之助推薦状交付 | 10月2日(月) コクバ幸之助事務所 |
| (5) ミヤザキ政久推薦状交付 | 10月2日(月) ミヤザキ政久選対本部事務所 |
| (6) 比嘉なつみ選対本部事務所開き | 10月2日(月) 比嘉なつみ選対本部事務所 |
| (7) ニシメ恒三郎事務所開き | 10月2日(月) ニシメ恒三郎事務所 |
| (8) ニシメ恒三郎・比嘉なつみ推薦状交付 | 10月4日(水) 各選対本部事務所 |
| (9) コクバ幸之助女性部大会 | 10月5日(木) ダブルツリー byヒルトン那覇首里城
(2) ~ (9) <資料配布> |
| (10) 比嘉なつみ氏を支援する医療団体会議 | 10月6日(金) 比嘉なつみ選対本部事務所 |
| (11) ニシメ恒三郎後援会主催加藤厚生労働大臣との昼食懇談会 | 10月7日(土) ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー |
| (12) ニシメ恒三郎経済産業副大臣就任祝賀会 | 10月7日(土) ロワジュールホテル那覇 |
| (13) 衆議院議員選挙 公示日 各出陣式(予定) | 10月10日(火) 各候補者事務所・他 |

平成29年度 第9回理事会 議事概要

日時：平成29年11月11日（土）19:00～21:30

場所：沖縄県薬剤師会館 研修室

<出席者>

会 長：亀谷浩昌
副 会 長：江夏京子、外間惟夫、前濱朋子
理 事：山里勇、村田美智子、笠原大吾、川満直紀、西川裕
成川賢一、佐藤雅美、新垣秀幸、下地仁、幸地良信、我喜屋美香
荒井千春、吉田洋史、上原卓朗
幹 事：友利弘一
欠 席：吉富弓江、渡具知一枝
事 務 局：山城英人、大城喜仁、上原美也子

議題

(1) 会営薬局委員会委員の委嘱について

<資料配布>

設置については、10月の理事会にて承認済みとなっている。委員メンバーは、副会長の江夏京子と前濱朋子、会営薬局担当の川満直紀、財務の山里勇、医薬分業の西川裕、実務実習の佐藤雅美、会営薬局うえはら薬局長の仲真良重、会営薬局医療センター前薬局長の城間盛光、会営薬局とよみの管理薬剤師與世平千夏。

委員会委嘱について承認された。

(2) 組織強化委員会委員の委嘱について

<資料配布>

追加で沖縄県病院薬剤師会の中村克徳会長が委嘱された。

(3) 平成30年度日本薬剤師会有功賞(個人)推薦について

<資料配布>

表彰諮問委員会より推薦されている長嶺文子、金城孝有、宮里暁子の3氏が異議なく承認された。

(4) 平成30年1月幹事会の日程調整について

第1火曜日(1月2日)から、第2火曜日(1月9日)へ変更することで承認された。

(5) 平成30年3月幹事会、理事会の日程調整について

幹事会は、3月第1火曜日(3月6日)から2月最終火曜日(2月27日)へ、理事会は3月第2土曜日(3月10日)から3月第1土曜日(3月3日)へ変更することで承認された。

これは、3月第2土曜日(3月10日)に日本薬剤師会臨時総会が開催されるためである。

(6) 忘年会開催(12月理事会後)について

1年間の慰労を兼ね、沖縄県薬剤師連盟の役員(副幹事長以上)と合同で行うことで承認された。

報告(会)

(1) 会営薬局の調剤保険料等について

<資料配布>

(2) 平成29年度第1回薬剤師認知症対応力向上研修

10月15日(日) 県薬<資料配布>

(西川常務理事)

今年度の第1回目研修会は、10月15日(日)に開催され、59人の参加があった。講師は、基本知識分野は認知症サポート医、対応力については当会医薬分業対策委員会の中尾滋久委員、制度については沖縄県高齢者介護福祉課、認知症地域支援推進委員が担当し、講義が行われた。

- (3) 平成29年度第10回学校薬剤師部会役員会 10月15日(日) 県薬<資料配布>
(前濱副会長)

10月28日に熊本で行われた九州ブロック連絡会議に村田成夫学校薬剤師部会長と亀谷会長と3人で参加予定だったが、台風のため参加できなかったので協議内容は後日送ってもらうことになっている。また、沖縄県学校保健功労者表彰の推薦が3名となっており、真栄城玄一、山城専、垣花チェミの3氏を推薦した。

- (4) 薬祖祭 10月18日(水) 波之上本殿<資料配布>
(亀谷会長)

10月18日(水) 午前10時から例年通り沖縄県薬業連合会と沖縄県、那覇市で厳修された。

- (5) 第147回健康とおくすり相談会 10月20日(金) パレット市民劇場ロビー<資料配布>
(新垣理事)

くすりと健康フェアの一環で開催された同相談会は、相談員9名と実習生も多数参加した。相談者は30名が訪れ、測定者に対して実習生も一人ずつ対応し、話をしながら案内してもらった。

- (6) 県民公開講演会 10月20日(金) パレット市民劇場<資料配布>
(亀谷会長)

基調講演では、西川裕常務理事が“知らなきゃ損する「薬局の活用法」”と題して講師を務めた。特別講演は、「笑いは健康長寿の常備薬～人生は楽しく・美しく～」と題して、薬剤師・日本笑い学会理事の中井宏次氏が講師を務めた。参加者は170名であった。

- (7) 平成29年度女性薬剤師部会第23回漢方講座 10月22日(日) 県薬<資料配布>
(村田常務理事)

講師是那覇市立病院の友利寛文先生が行い、「緩和医療に役立つ漢方薬」というテーマで話してもらった。参加者は37名であった。

- (8) 平成29年度薬事功労者知事表彰式 10月23日(月) 県庁<資料配布>
(亀谷会長)

宮良善孝、姫野耕一、親泊康行の3氏に砂川靖保険医療部長よりそれぞれに表彰状が手渡された。

- (9) 株式会社ファミリーマートより来訪 10月24日(火) 県薬<資料配布>
(亀谷会長)

国家戦略特区における遠隔服薬指導を一様化したいとの提案があった。本会としては、対面販売を原則とすることから反対の意を申し入れた。

- (10) 健康おきなわ21 第2次中間評価 第2回「タバコ(COPD)」分野委員会 10月26日(木) 県庁<資料配布>

(笠原常務理事)

地域保健開局委員会の勝連貴子委員が出席し、企業への禁煙支援について報告した。

(11) 平成29年度第3回臨床薬理学研修会

10月26日(木) 県薬<資料配布>

(外間副会長)

今年度第3回となる同研修会は「睡眠障害と治療薬」のテーマで開催された。講師は学術研修委員会の阪本崇彰委員が務め、参加者は52人であった。

(12) 第2回臨床薬理学研修会 (DVD)

10月27日(金) 大濱信泉記念館<資料配布>

(幸地理事)

録画したDVD研修を開催した。参加者は4名であった。

(13) 「世界のウチナーンチュの日」制定記念祭

10月30日(月) ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー<資料配布>

(亀谷会長)

「沖縄の誇り心に刻もうひろげよう」をテーマに開催され、多彩なゲストだった。その中で、トークゲストの前原信一さんは印象的だった。

(14) 管理者会議

10月31日(火) 県薬

(15) 沖縄県医療保健連合(なごみ会) 幹事会・懇談会

10月31日(火) ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー<資料配布>

(亀谷会長)

県内医療機関17団体で構成されているなごみ会の幹事会が開催された。次年度の県民健康フェア開催の件が議題にあがり、8月19日(日) 沖縄コンベンションセンターでの開催が決定された。その後、懇談会が開催された。

(16) 第3回沖縄県医療費適正化計画検討委員会

11月1日(水) 県庁<資料配布>

(亀谷会長)

平成30～35年の6年間の計画になり高齢化の進展等による県民医療費の増加の適正化を図るため、良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制を確保するための計画を策定するための会議である。主に、①後記高齢者医療費の適正化、②受療行動の改善、③生活習慣病等の重症化予防、④特定健診等の受診率の向上、⑤将来のニーズに即した医療供給体制の整備、などに対する取り組みが課題となった。

(17) 第3回 在宅医療ワーキンググループ(沖縄県医療計画分野別ワーキンググループ)

11月1日(木) 県庁<資料配布>

(荒井理事)

沖縄県の第7次医療計画分野を策定するにあたっての会議である。医師、歯科医師、看護師の訪問についての指標が掲げられているが、薬剤師については全然触れられていない。指標として入れていたのに数値目標として入れられていない。国保連合、社会保険支払基金などに数値提供の依頼をしている。

(18) 平成29年度第3回沖縄県国民健康保険運営協議会準備会合

11月2日(木) 県庁<資料配布>

(川満常務理事)

平成30年度から国民健康保険の運営が市町村、各自治体で担っていたものを県で行っていくこととなる。目的として、本県国民健康保険の安定的な運営、負担の公平化、医療費の適正化を目指し、合わせて市町村が担う事務の標準化・効率化・広域化などを推進する。

(19) 薬事情報センター委員会小委員会（スポーツファーマシスト）

11月2日（木） 県薬＜資料配布＞

（笠原常務理事）

現状報告として、ドーピングホットラインの報告があった。また、11月4日開催の日本体育協会公認指導員養成講習会の打合せ会議だった。

(20) （公財）日本体育協会公認「指導員」養成講習会

11月4日（土） 沖縄セルラースタジアム那覇会議室＜資料配布＞

（笠原常務理事）

講師として笠原と吉田典子が、軟式野球の指導者を対象に、スポーツを安全かつ正しく、楽しみながら指導する、スポーツ指導者の資質及び指導力の向上を図る目的で講習会を行った。参加者は、27人だった。

(21) デンタルフェア「おしごとアドベンチャー」

11月5日（日） 浦添保健相談センター＜資料配布＞

（川満常務理事）

浦添市内の学童・児童・生徒対象に薬剤師の職業体験をしてもらった。

(22) 健康サポート薬局担当者全国会議

11月5日（日） TK田町カンファレンスセンター＜資料配布＞

（笠原常務理事）

医薬分業対策委員会の西川裕、上原卓朗と参加した。健康サポート薬局研修の研修実施要項に大きな変更点があったので説明があった。また、平成29年9月29日現在で全国の健康サポート薬局の届出は523件、そのうち沖縄県は3件であった。

(23) 「患者のための薬局ビジョン」実現に向けた担当者合同会議

11月6日（月） TK田町カンファレンスセンター＜資料配布＞

（西川常務理事）

医薬分業対策委員会の笠原大吾、上原卓朗、森本直也、事務局から大城課長の5名で参加した。患者のための薬局ビジョンを踏まえた日本薬剤師会の取り組みとして、①医薬品の供給拠点として目指すもの、②地域包括ケアシステムの中で機能する薬局を目指すこと、③かかりつけ薬剤師・薬局の普及推進について話し合われた。また、都道府県薬剤師会の取り組みについてはとても参考になった。

(24) 社会保険診療報酬支払基金 幹事会 事前説明

11月6日（月） 県薬

（亀谷会長）

支払基金の職員が訪れ、後日開催される監事会の説明があった。

(25) 薬学生実務実習（夜間救急）

11月6日（月） 会営薬局医療センター前

（我喜屋理事）

夜間実習、救急について、会営薬局医療センター前で学んだ。講師として城間薬局長が対応した。

(26) 学校薬剤師部会主催「平成29年度薬物乱用防止指導員伝達講習会」

11月8日（水） 沖縄市社会福祉センター・男女共同参画センター

(27) 個別指導・新規個別指導・集团的個別指導

11月9・10日（木・金） 宮古・八重山

(28) 組織強化委員会

11月9日(木) 県薬<資料配布>

(江夏副会長)

委員長、副委員長、書記が選任された。病院薬剤師の加入促進等について、他府県の事例を参考に、会費や入会に関する件でディスカッションされた。

(29) 平成29年度第3回沖縄県がん診療連携協議会

11月10日(金) 琉球大学医学部管理棟<資料配布>

(亀谷会長)

沖縄県第3次がん対策推進計画等について審議された。

(30) 秋の叙勲受章について

<資料配布>

(山城次長)

瑞宝双光章に吉田久子先生が受章された。

(31) 第31回沖縄県薬剤師会学術大会について

(大城課長)

320人余りの参加申し込みがある。20演題の発表があり、病薬が12演題、薬局その他関連が8演題ある。

(32) 会営薬局うえはら、とよみの薬剤師の状況について

報告(薬連)

<資料配布>

(1) 薬局訪問

10月16・17・18・19日(月~木) 那覇市・浦添市・宜野湾市・豊見城市・糸満市等

(2) 企業・団体合同実務者会議

10月16日(月) ミヤザキ政久選対本部事務所

(3) 各候補者総決起大会

ミヤザキ政久総決起大会

10月16日(月) 宜野湾市民会館

ニシメ恒三郎総決起大会

10月17日(火) 豊見城市公民館

コクバ幸之助総決起大会

10月18日(水) パシフィックホテル沖縄

比嘉なつみ総決起大会

10月18日(水) うるま市民劇場

(4) 第2回比嘉なつみ氏を支援する医療団体会議

10月16日(月) 比嘉なつみ選対本部事務所

(5) 平成29年度第2回全国会長・幹事長拡大会議

10月17日(火) スクワール麴町

(6) 本田あきこ中央後援会 第1回役員会

10月17日(火) スクワール麴町

(7) 藤井もとゆき君と語る会

10月17日(火) ホテルニューオータニ

(8) 各候補者 打上げ式

コクバ・こうめい 必勝打上げ式

10月21日(土) 県民広場前(パレット久茂地前)

必勝 比嘉なつみ こうめい 打上げ式

10月21日(土) 比嘉なつみ選対本部事務所

ニシメ恒三郎 Vロード&打上げ式

10月21日(土) ニシメ恒三郎選対本部

ミヤザキ政久 打上げ式

10月21日(土) 安波茶交差点

(9) 各選対事務所訪問

10月22日(日) コクバ幸之助事務所・ニシメ恒三郎会事務所

(10) その他

(山城次長)

去る衆議院選挙において、西銘恒三郎氏と國場幸之助氏が当選した。薬連役員、理事、職員が薬局訪問や各総決起大会等に積極的に参加し活動した。

平成29年度 第10回理事会 議事概要

日時：平成29年12月9日（土）19:00～21:50

場所：沖縄県薬剤師会館 研修室

<出席者>

会 長：亀谷浩昌
副 会 長：前濱朋子、江夏京子
理 事：山里勇、笠原大吾、川満直紀、佐藤雅美、渡具知一枝、西川裕、村田美智子、
成川賢一、幸地良信、新垣秀幸、上原卓朗、下地仁、我喜屋美香、荒井千春、
吉富弓江、吉田洋史、
監 事：友利弘一
欠 席：外間惟夫
事 務 局：山城英人、大城喜仁

議題

(1) 平成29年度パート職員冬季賞与について

<資料配付>

(山里常務理事)

資料に沿って説明。パート職員への賞与支給基準は、①勤務年数6ヶ月以上継続して勤務している者。②就業時間が週20時間以上勤務する者。③支給限度額を薬剤師6万円、事務職5万円とし、勤務成績を勘案して支給する。となっている。但し、20時間以上25時間未満については、勤務年数に関わらず固定で1万円とする。パート薬剤師には、6ヶ月から1年未満は3万円、1年から2年未満は4万円、2年から4年未満は5万円、4年以上は6万円となっている。パート事務職には、6ヶ月から1年未満は2万円、1年から2年未満は3万円、2年から4年未満は4万円、4年以上は5万円となっている。会営薬局の収益も良い方なので資料に列記したとおりに各パート職員に支給したい。

異議無く、承認された。

(2) 会営薬局への電子薬歴音声入力システムの導入について

<資料配付>

(山城次長)

入力作業の効率化を目的に、会営薬局に電子薬歴音声入力システム「AmiVoice」の導入を考えており、2社から見積もりをとっている。会営薬局とよみで現在、両社のシステムを仮導入しデモ運用しており、職員から好評である。特徴は、①使用者を選ばない、声の事前登録不要の不特定話者対応である。②医療専門用語を中心とした辞書を搭載している。③イントネーション、アクセント、話すスピードに影響されない認識技術（95%以上の認識率）となっている。見積もり内容は、A社は1台単価30万円、B社は68万円となっている。この差は、OTC医薬品やジェネリック医薬品等の医薬品検索、薬価比較、薬剤の画像確認などのオプション機能の充実によるものである。月の費用対効果は58,667円と算出されている。

(川満常務理事)

会営薬局とよみ職員からはできるだけ導入の検討をしてほしいと言われており、5台導入の要望がある。使い勝手が良い。

(我喜屋理事)

薬歴記入等の残業が少なくなるし、ストレス回避にもなる。薬剤師不足で悩んでいる会営薬局とよみの救世主になる。

(上原理事)

B社の薬価比較の機能は非常に良かった。

(亀谷会長)

会営薬局が会員のモデルとなることを考えると、最新システムを導入することは良いかと思う。

購入することで承認を得た。デモ期間中に各種機能が必要か否か判断し、次回理事会でどの会社のシステムを何台購入するか決定することとなった。

(3) 平成29年度薬事功労受賞者合同祝賀会チケット割当について

＜資料配付＞

(山城次長)

例年通り、医薬品卸業協会50枚、医薬品配置協議会10枚、医薬品登録販売者協会20枚、北部地区10枚、中部地区20枚、那覇地区25枚、南部地区15枚、学薬15枚、病薬20枚、当日販売15枚、合計200枚でチケットを割り当てたい。

異議無く、承認された。

(4) 琉球大学への薬学部（科）設置に関する署名活動の実施について

＜資料配付＞

(亀谷会長)

琉球大学への薬学部設置要望については当理事会にて承認後、琉球大学、沖縄県、沖縄県選出国會議員、関係省庁の大臣、副大臣へ要望書を提出してきた。また、和歌山県立医科大学に薬学部が平成33年4月に開学されることから、沖縄県保健医療部衛生薬務課とともに和歌山県、和歌山県薬剤師会、同医科大学を訪問・情報収集した。設置運動を進める上で重要なことは、県民を巻き込んで盛り上げることで国、県行政および大学側を動かす大きな力になることを教えていただいた。和歌山県薬剤師会が実施した県民を対象とした署名活動は効果的であったとのこと。本会においても早々に署名活動に取り組むことが必要と考えている。会員、薬局、患者、関係団体等に協力を依頼し、多くの署名を集めて設置の実現に向けて前進させたい。また、署名活動の前に県民への周知策として、県内新聞社2紙への投稿やその他あらゆる方法を用いて広報を行っていききたい。

(吉富理事)

目標の筆数は？

(亀谷会長)

和歌山県が約3万5千の筆数を集めたとのこと。目標5万筆を掲げたい。

署名活動を実施することで異議無く承認された。

(5) パート職員（医事）の日・祝出勤手当について

<資料配付>

（山里常務理事）

パート医事職員の欠員募集を行っているが、電話での問い合わせが数件あっただけで、面接にも至っていない状況。全県的に人財不足のようである。当会のパート職員のスタート時給が740円と沖縄県の最低賃金737円により近いものとなっていることと、会営薬局とよみについては年中無休で敬遠される要因となっていると考えられる。人員不足によって労務環境が改善されない状況では既存の職員への影響が懸念される。そこで、会営薬局とよみのパート医事職員を対象に、日曜・祝祭日に勤務した場合に、1回1,000円の支給をしたい。

職員のモチベーションの向上になるということで、異議無く承認された。

報告（会）

(1) 会営薬局の調剤保険料等について

<資料配付>

(2) 沖縄県薬剤師会学術大会・懇親会

11月12日（日） 沖縄県看護協会・県薬<資料配付>

（大城課長）

「健康長寿を取り戻せ 薬剤師の底力で！」をテーマに沖縄県看護協会館で開催された。今回は参加者が306名（県薬：176名、病薬：114名、薬学生：16名）と昨年に続き300名を超え、会員の学術活動に対する熱意が感じられた大会であった。会員発表の部では、琉球大学医学部附属病院の石井岳夫氏、ぴいぷる薬局の中尾滋久氏、ハーブ薬局の照屋勇人氏、浦添総合病院の浜元善仁氏が座長を務め、病院薬剤師関連から12演題、保険薬局関連から3演題、その他部会・委員会関連5演題の合計20演題の発表が行われた。大会奨励賞は、病院診療所部門ではおもろまちメディカルセンターの梅窪倫子氏による「当院におけるポリファーマシーの現状と薬剤部の取り組み」が、保険薬局・その他関連部門では学校薬剤師部会の上原卓郎氏の「専門性を活かした薬物乱用防止教室への取り組み」が選ばれた。ランチョンセミナーはアストラゼネカ株式会社との共催で、琉球大学医学部附属病院総合臨床研修・教育センター 特命准教授の原永修作氏を座長に、中頭病院副院長呼吸器内科の伊志嶺朝彦氏を講師として「喘息治療の話題と吸入指導」を講演いただいた。特別講演Ⅰでは、平成28年4月に県薬剤師会と県病院薬剤師会の連携を成し遂げた兵庫県薬剤師会の三宅圭一副会長から「病院薬剤師と薬局薬剤師の協働で拓く薬剤師の未来」とのタイトルで、県薬剤師会・県病院薬剤師会が更なる連携をとり組織を強化することにより、その先に期待されるものは何かを考察するといった内容を、ユーモアを交えながら講演いただいた。特別講演Ⅱでは沖縄県立中部病院感染症内科・地域ケア科医長の高山義浩氏が「沖縄県の地域包括ケアシステム構築と薬剤師への期待」と題して、高齢者のライフスタイル（健康観や死生観を含む）に合わせた最適な医療の選択に向けて地域に密着した医療職である薬剤師の役割が大きいこと、また病院医療に依存し過ぎず住み慣れた地域で安心して人生の最期を迎える環境整備に対しても薬剤師参画により地域包括ケアシステムの実効性が高まると、薬剤師への熱い期待を述べられた。その他、機器展示では7社の出展があり、最新の自動調剤ロボット機器や調剤支援技術ソフト等、展示・紹介があった。

会場を沖縄県薬剤師会館に移し、午後6時45分から懇親会が催された。砂川靖沖縄県保健医療部長が来賓の挨拶をされた。続いて、外間惟夫大会実行委員長より発表者全員に演題発表認定証が授与し、その後、優秀な発表者に大会奨励賞の授与が行われた。次に、沖縄県薬剤師会長表彰が執り行われ、本会に長年貢献された6氏に亀谷会長から賞状と記念品の授与が行われた。照屋

洋子氏、國吉直子氏、小那覇幸子氏、内田奈保美氏、与儀和子氏、佐久川さつき氏の6氏を代表して、与儀和子氏より受賞の喜びと感謝の言葉が述べられた。中村克徳大会副会長の乾杯の音頭、歓談が落ち着いた頃、懇親会までご出席いただいた特別講演講師の三宅圭一氏と高山義浩氏からご挨拶をいただいた。

(3) 健康とおくすり相談会

11月12日(日) 西崎総合体育館・沖縄セルラースタジアム

11月19日(日)健康福祉センターうるみん・11月26日(日)JTAドーム宮古島<資料配付>

(新垣理事)

南部地区薬剤師会として西崎総合体育館で行い、6名の相談員で50名の相談者を対応した。

(渡具知理事)

那覇地区薬剤師会は昨年続き、「なは健康フェア」の一環で参加した。沖縄セルラースタジアムで行い、9名の相談員で105名の相談者を対応した。

(佐藤理事)

中部地区薬剤師会は昨年続き、「健康フェスタinうるみん」の一環で参加した。うるま市健康福祉センターうるみんで行い、20名の相談員で102名の相談者を対応した。

(下地理事)

宮古地区薬剤師会は昨年続き、「宮古島市産業祭り」の一環で参加した。JTAドーム宮古島で行い、15名の相談員で112名の相談者を対応した。

(4) 薬学生実務実習(夜間救急)

11月13日(月) 会営薬局医療センター前

(我喜屋理事)

実務実習の一環で、夜間救急について会営薬局医療センター前で説明を受けた。

(5) 和歌山県立医科大学 薬学部設置に伴う和歌山県内関係機関訪問

11月15・16日(水・木) 和歌山県庁・和歌山県薬・和歌山県立医科大学<資料配付>

(山城次長)

和歌山県立医科大学への薬学部設置については、平成23年頃から和歌山県薬剤師会から話が出始めた。県議会議員をとおして議会等で薬学部設置について発言してもらっていた。平成26年頃から具体的になり始めた。県薬連盟総会には、地元選出の国会議員等を招待して参加してもらっているところ、それらの議員に連れられて自民党幹事長等を務めた二階俊博氏(和歌山県選出)が訪れた。その総会でも県立医科大への薬学部設置の話が出たところ、二階氏に賛同していただいた。その後、二階氏から直接和歌山県知事へ申し入れがなされ、副知事へ説明する機会を得た。トップダウンされた形となった。平成26年9月には、自民党県議団と県薬で、薬学部のある公立3大学を視察した。(岐阜薬科大学、静岡県立大学、名古屋市立大学) 県民に対して薬学部設置の気運を高めるために、会員、来局患者等からの署名活動を行った。3万5千筆の署名が集まり、和歌山県知事に手渡した。その際には、マスコミの力を利用し県民への広報を行った。(県外へのアピールも必要であることからNHKは欠かせない) 和歌山県議会、県立医科大役員への理解は順調であったが、問題は、県立医科大の教授陣からは、薬学部の必要性について理解が得られずに難航した。そこで、岐阜薬科大学学長の勝野眞吾氏(薬剤師)を招き、教授陣に薬学部の必要性について説いて頂き理解を得られた。薬学部設置場所については、和歌山市の協力により、和歌山市立伏虎中学校跡地を無料貸与させてもらうことになった。その際には、和歌山市に対して和歌山県薬剤師会、和歌山市薬剤師会で要望書を提出した(平成28年7月)。平成28年に議会の承認を得た。入学定員100人、収容定員600人。教員60人程度。薬学部設置費は約177億円。開学時期は平成33年4月。定員100人については公立としての採算ラインとみている。開学し6年後に

学生が揃うと黒字になるシミュレーションをしている。教員60人については、1講座で3人程の教員、20講座を予定している。教員確保に苦労している。開学までに30人程決定し徐々に増員していく。設置費の約177億円の内訳は、建設費150億円、備品その他で27億円を考慮。国からの補助金は約3億円の申請を予定。基本設計の段階でしっかり内容をつめる。実施設計に入ってからの変更は完成が延びてしまう。特別に周辺住民への薬学部設置の説明会は開催していない。

(亀谷会長)

和歌山県薬剤師会を参考に、早速、署名活動から行っていく。政治力がかなり働いたとも感じている。

(6) 平成29年度全国学校保健・安全研究大会

11月16・17日(木・金) 三重県総合文化センター<資料配付>

(前濱副会長)

村田成夫学校薬剤師部会長と亀谷会長の3名で参加した。

(亀谷会長)

初めて参加した。日本薬剤師会会長も参加していた。

(7) 集団的個別指導・個別指導・新規個別指導 11月16・30日(木) 那覇第一地方合同庁舎
12月7・8日(木・金) 宮古合同庁舎

(8) 第67回全国学校薬剤師大会・懇親会

11月16日(木) ホテルグリーンパーク津(三重県)<資料配付>

(前濱副会長)

前記の平成29年度全国学校保健・安全研究大会と同様に、村田成夫学校薬剤師部会長と亀谷会長の3名で参加した。

(9) 健康おきなわ21第2次中間評価 第3回「タバコ(COPD)」分野委員会

11月16日(木) 県庁<資料配付>

(笠原常務理事)

今回はCOPDについてであった。地域保健委員会の勝連貴子氏が出席した。COPDの認知度、禁煙外来の広告について話し合わせ、新聞、ラジオで沖縄お笑い芸人を使った広告作成が可能なら県長寿課が動いてほしいとのことであった。普及し始めた加熱式タバコについて、厚労省からまだエビデンス発表されていない。発表されれば早急に対応を要するとのことであった。

(10) 地域ケア会議 11月17日(金) 宜野湾市 / 11月22日(水) 浦添市<資料配付>

(笠原常務理事)

宜野湾市地域包括支援センターの地域ケア会議に参加した。また、浦添市地域包括支援センターの地域ケア会議には、すこやか薬局の石田浩氏が参加した。

(11) 第49回沖縄県公衆衛生大会 11月18日(土) 沖縄県看護協会

(前濱副会長)

知名繁夫氏が沖縄県知事表彰、美里千賀子氏が大会長表彰を受けた。

(12) 平成29年度第2回医薬分業対策委員会主催研修会 11月19日(日) 県薬<資料配付>

(江夏副会長)

日新製薬株式会社との共催。参加者は40名。津田沼中央総合病院内科医長・城西国際大学薬学部客員教授の佐仲雅樹氏を講師に迎えて、「やってみよう!薬局トリアージ:スタートアップの手引き『患者をみる力』~健康サポート・かかりつけ薬局~」という演題で開催された。重要なのは重症度と緊急度を見極める。病名診断ではなく、重症度と緊急度を判断して受診勧奨をして

いくつか。重症度、緊急度を見極めるためのトリアージシステムとして、まず初めに全身状態、次にレッドフラッグサイン、そして患者背景を確認すること。また、バイタルサインの測定やフィジカルアセスメントも不要で必要なのは「対面」と「会話」視診と問診が重要になるとのこと。薬局のトリアージを難しく考えていた部分もあったが、病名診断ではなく、重症度、緊急度、軽症の判断をすることで手際よく患者にとってよりよい判断ができると思った。日頃から患者の見た目、行動を観察していつもと違う感じ、直感を働かせ、問診して緊急度をトリアージしていく。それを続けていくことで患者から信頼され地域に根差した、かかりつけ薬局、サポート薬局になれるとのことであった。

(13) 平成29年度第2回薬事情報センター委員会

11月20日(月) 県薬<資料配付>

(吉富理事)

2020年東京オリンピック・パラリンピックへのボランティア薬剤師派遣について、来年までにスポーツファーマシストの認定資格がとれることが必須項目となっている。英語での服薬指導に関しては必須ではなく、通訳の要請も可能。10日程度の派遣でそれが可能な方を募っている段階である。平成28年度薬事情報センター実務担当者研修会における課題について、沖縄県薬剤師会としては「ホームページを通して、会員がDIリテラシーを上げるためのツールを紹介する」を選択した。信頼できる情報が得られる有用なサイトを紹介するリンク集をホームページに載せた。

(14) 平成29年度沖縄県学校保健功労者・学校保健優良団体表彰審査会

11月21日(火) 県庁<資料配付>

(亀谷会長)

薬剤師会からは3名の学校薬剤師が受賞することが内定している。真栄城玄一氏(鏡が丘特別支援浦添分校)、山城専氏(八重山商工高校)、垣花チェミ氏(開邦高校)。

(15) 平成29年度第3回医薬分業対策委員会主催研修会

11月23日(木) 県薬<資料配付>

(西川常務理事)

日本健康食品・サプリメント情報センター理事の宇野文博氏を迎えて「健康食品の本当のこと、そして医薬品との相互作用」と題して講演会を開催した。米国ギャロップ社の調査によると、米国の薬剤師が最も人気があり信頼される理由は、効果的なヘルスケアの情報提供者として健康食品を含めた服薬指導をしていることにあると言われている。「かかりつけ薬剤師指導料」の算定要件、「健康サポート薬局」の基準要件に組み込まれた「健康食品に関する知識」を深めることが急務となっている。健康食品の安全性は、一般には主に食経験で判断されているが、適量であれば健康に供すると思われる物であっても、大量摂取により死亡例まででている。「健康食品」のうち、国の表示制度として認められているのが「保健機能食品」であり、「特定保健用食品(トクホ)」「栄養機能食品」「機能性表示食品」の3つである。その他様々な名前の付いた食品が氾濫しているが、国が何ら制度化したものではない。「特定保健用食品(トクホ)」は「保健機能食品」の中で審査が最も厳しいと言われているが、消費者庁長官の許可を受けた後は事後チェックを受ける必要はないので表示成分が規定量含有されていない商品群も多々あるという。米国では「ナチュラルメディスン・データベース」で重症度と発生頻度、そしてエビデンスレベルにより高・中・低に危険度が分けられる確に迅速に注意喚起している。講演の中で日本版「ナチュラルメディスン・データベース」の紹介があり、医薬品の添付文書に記載されていない健康食品と医薬品の相互作用について「高」「中」「低」に分けて約2,600件の記載があり、自信を持って患者に伝えられる正しい情報として、総合的なお薬相談、服薬指導等に大いに役立つと思われる。今まで漠然と持っていた健康食品に対する「負のイメージ」をもっと科学的根拠に基づいて考えなければいけないと思知らされた講演会だった。

(16) 沖縄県科学技術振興課より来訪
(亀谷会長)

11月24日(金) 県薬

沖縄県科学技術振興課はOISTを担当している部署で、OISTが県民にあまり知られていないことから当会と協働して何かイベント等を開催したいとのことであった。

(17) 糖尿病と歯周病に関する研修会・意見交換会

11月26日(日) 沖縄県口腔保健医療センター<資料配付>

(大城課長)

昨年に続いて、会員の沖山尚美氏が出席した。沖縄県歯科医師会では沖縄県委託「平成29年度8020運動・口腔保健推進事業」の一つとして、糖尿病と歯周病に関する研修会を開催している。本事業を有効に活用し県民のために役立てるには、糖尿病と歯周病に関わる多職種との情報共有が必要と考え、講習会終了後に関係職種との意見交換会を開催している。

(18) 学校薬剤師部会主催「平成29年度薬物乱用防止指導員伝達講習会」

11月26日(日) 県薬<資料配付>

(前濱副会長)

標記講習会を各支部で開催した。南部支部は10月5日に薬局えぱーわーな〜で学校薬剤師部会副部会長の平良恭子氏を講師として開催し、参加者は5名であった。中部・北部支部は11月8日に沖縄市社会福祉センター・男女共同参画センターで学校薬剤師部会副部会長の知名博樹氏を講師として開催し、参加者は8名であった。那覇・浦添支部は11月26日に沖縄県薬剤師会館研修室で学校薬剤師部会の柴田忠佳氏を講師として開催し、参加者は17名であった。

(19) 琉大医学部事務部長訪問

11月27日(月) 琉大医学部

(山城次長)

薬剤師会として琉球大学に薬学部を創設したい旨を積極的に要望したが、沖縄県の強い要望が必要であり、今のところ沖縄県の動きが見えないとの厳しい意見であった。これを沖縄県の担当課に伝えた。基本設計を進めている段階であり遅いくらいである。沖縄県からの強い要望が必要であると実感した。

(20) 九州厚生局長 須田康幸氏来訪

11月27日(月) 県薬

(亀谷会長)

新局長の就任の挨拶であった。

(21) 平成29年度薬事功労者厚生労働大臣表彰伝達式

11月28日(火) 県庁 <資料配付>

(大城課長)

沖縄県保健医療部長室において表彰伝達式が執り行われ、亀谷浩昌会長が砂川靖保健医療部長から表彰状を手渡された。保健医療部・衛生薬務課関係者と和やかに会話される中で、亀谷会長は、薬剤師会を代表しての受賞であること、薬剤師の地位向上のために多種多様な取り組みをすること、県民へ薬剤師職能の理解を深めていくために更なる啓発活動をしていくことなど、今後の抱負と謝辞を述べられた。10月20日に厚生労働省講堂にて表彰式が開催されたが、当日、亀谷会長は那覇市内で行われた薬と健康の週間“くすりと健康フェア”の主権者登壇のため、欠席していた。今年の薬剤師会関係の受賞者は全国で48名であった。

(22) 沖縄県医師会訪問

11月28日(火) 沖縄県医師会館 <資料配付>

(亀谷会長)

宮里副会長と遠隔診療について話し合った。病気の早期発見、重症化予防、在宅療養者の安心感、受診継続率向上の取組みが医療費削減、健康づくり、生活の質向上に繋がるとして株式会社

ファミリーマートから提案がある。遠隔診療は待ち時間削減、交通費・通院負担削減、治療継続率向上が予想され、自宅・会社の近隣店舗で受け取り可能、調剤薬局が無くても受け取ることができる。24時間365日受け取りが可能。国家戦略特別区域法における医薬品、医療機器の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律の特例の措置がある。本特例は、国家戦略特区内で実証的に、離島、へき地に居住する者に対し遠隔診療が行われ、体面での服薬指導ができない場合に限り、テレビ電話等による服薬指導(遠隔服薬指導)を可能とするもの。遠隔服薬指導を行おうとする国家戦略特別区内の薬局は、予め都道府県知事等の登録を受ける必要があるほか、実施した場合には遠隔服薬指導の実施状況を記録保存・定期報告を行うこと等が義務付けられている。また、薬剤師による対面での服薬指導義務の特例がある。日本再興戦略に基づき、薬剤師による対面での服薬指導義務の特例として、国家戦略特区内で実証的に、①離島、へき地に居住する者に対して、②遠隔診療が行われ、③対面での服薬指導ができない場合に限り、④テレビ電話による服薬指導(遠隔服薬指導)を可能とする。しかし、医薬品医療機器等法では、人体への作用が著しい処方薬の服用は、重篤な副作用が生じるおそれがあるため、薬剤師による対面での服薬指導が義務づけられている。医師会は反対していること、薬剤師をないがしろにしているなど、意見が一致していることを確認した。

(23) 平成29年度第2回財務委員会 11月28日(火) 県薬 <資料配付>
(山里常務理事)

協議事項で説明済み。

(24) 平成29年度第3回在宅医療委員会 11月29日(水) 県薬 <資料配付>
(荒井理事)

来年3月31日に、薬剤師不足、患者へのアプローチ、在宅希望患者情報の入手方法、多職種連携、保険請求関係等を自らが課題とし実践してきた山口県薬剤師会理事・地域医療保健委員会委員長の戸田康紀氏を講師に迎えて研修会を開催する予定。

(25) 都道府県薬剤師会スポーツファーマシスト担当者研修会 11月30日(木) 日薬<資料配付>
(吉富理事)

薬事情報センターの吉田典子氏が参加した。各都道府県薬剤師会には公認スポーツファーマシスト制度運営に係る担当者「スポーツファーマシスト活動推進担当者」及び「ドーピング防止ホットライン担当者」が置かれ、地域のスポーツファーマシストの活動支援等を行っている。今回の研修会には都道府県薬剤師会の担当者78名、日本薬剤師会役員、ドーピング防止対策委員会委員15名の参加があった。「最新のアンチ・ドーピングに関する情報提供」「2018年禁止表国際基準2017年からの変更点」の講義があり、そして「都道府県薬剤師会SP担当者の役割について」と題し、参加者を5名ずつの小グループに分けてのグループ討論が行われた。

(26) オリブ山病院院長来訪 11月30日(木) 県薬 <資料配付>
(亀谷会長)

オリブ山病院では、精神科医の専門的診療が充分に行えずその必要性が高い離島への巡回診療を2010年より開始した。座間味、南大東、北大東、粟国など巡回診療を開始しているとのことである。

(27) アウトリーチ型健康づくり推進事業 健康とおくすり相談会

12月3日(日) ホテルドーム(久米島町) <資料配付>

(笠原常務理事)

那覇地区薬剤師会、久米島病院、久米島町と共催し、第16回久米島町産業まつりにて実施した。

参加薬剤師は11名、久米島病院から8名、久米島町役場から5名が相談員となった。来場者（相談者）は105名であった。

(28) 平成29年度第2回沖縄県薬業連合会代表者会議

12月4日(月) ダブルツリー byヒルトン那覇首里城 <資料配付>

(山城次長)

平成30年1月21日に開催される平成29年度薬事功労受賞者合同祝賀会・新年会について、薬事功労受賞者の氏名等の確認、招待者の確認、各団体のチケットの割当枚数の確認、式次第や余興の確認を行った。

(29) 平成29年度第3回医療安全対策委員会

12月4日(月) 県薬 <資料配付>

(吉富理事)

薬賠償における事故発生後の対処の流れ図について、調剤行為に起因する問題・事態が発生した際の対応マニュアルの『薬賠償における事故発生後の対処の流れ図』で、各関係団体等の連絡先を改めて確認し、変更事項は訂正した。訂正箇所は、①損保ジャパン日本興亜の連絡先が、サービスセンターから沖縄保険金サービス課になったこと、②宮古地区薬剤師会の連絡先が、地区会長の変更に伴い、川満正啓氏から下地睦夫氏に変更、掲載することとなった。また、前回委員会において、この対処の流れ図に指定代理店の掲載はなくてもいいのかとの意見があった。これについて日本薬剤師会に確認したところ、連絡先を一つにすることで迅速な対応ができることから、事故発生の際の連絡は損保ジャパン日本興亜沖縄保険金サービス課に集約し、同課から指定代理店へ連絡する仕組みであるので、同図には指定代理店の掲載はせずに同課のみの掲載とすることの指示を得た。前記訂正をふまえた最新版は、当会ホームページに掲載し、掲載したら、FAX一斉同報ウィークリーニュースで会員に周知の案内をすることになっている。

前回委員会で、調剤監査システムに関するアンケートをとることで全会一致し、アンケート内容のベースを中尾委員が作成し、各委員からの質問事項の提案、最終確認を経て、保険薬局・病院にFAX一斉同報することとした。

また、平成29年度医療安全講習会は平成30年2月4日に開催する。講師・講演内容については、数名の講師案が委員より提示されており、優先順位を決め、事務局大城が調整することになった。①澤田康文氏（東京大学大学院薬学系研究科教授）、②下平秀夫氏（帝京大学教授）、③岸本真氏（鹿児島県薬剤師会）、④栗原博之氏（NTT東日本関東病院）

(30) 院内医師会議「かかりつけ薬剤師について」の説明

12月5日(火) 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター

西川常務理事が説明した。

(31) 社会保険診療報酬支払基金幹事会

12月6日(水) 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部<資料配付>

亀谷会長が出席。

(32) 第1回健康サポート薬局県内100軒実現に向けての研修会

12月7日(木) 県薬<資料配付>

(西川常務理事)

「健康サポート薬局実現のための届出・申請について」をテーマに開催。「健康サポート薬局について」と題し、沖縄県保健医療部衛生薬務課の大城由希子氏にご講義いただき、次に健康サポート薬局を実現した2薬局からの事例を発表していただいた。2薬局は、私の薬局であるそうごう新赤十字前店と、薬局えばーわーな〜の大城恭子氏の発表。そのあと、健康サポート薬局届出申請に関するQ&Aのディスカッションを参加者で行った。参加者は57名であった。

(33) 平成29年度日本薬剤師会研究倫理に関する全国会議 12月8日(金) 日薬 <資料配付>
 外間副会長と大城課長が出席。次回理事会で外間副会長から詳細説明をする。

(34) 会営薬局とよみ薬剤師会議 12月8日(金) 会営薬局とよみ
 (川満常務理事)
 定例の会議を行った。我喜屋理事も参加した。

報告(薬連)

(1) 糸満市議選に伴う南部地区薬剤師会 新垣会長訪問 11月14日(火) 新垣薬局
 亀谷会長と山城次長が訪問した。

(2) 沖縄県知事就任3周年 オナガ雄志激励会 11月21日(火) 沖縄かりゆしアーバンリゾート・ナハ
 亀谷会長が出席した。

(3) 平成29年度組織強化に関する担当者全国会議 11月30日(木) スクワール麹町 <資料配付>
 (山城次長)

石川恵市副幹事長が出席した。会員増強、財政基盤強化、集票力強化を目的とした組織強化対策として開催されている。今回のメインテーマは「あい、きぼう、これからの医療と薬剤師」。本田あきこ氏は体調不良のため欠席であった。組織力を強化するための手順書を効率よく活用する。活動ステップ表Ⅰ・Ⅱがあり、活動時期によって使い分けるとのことである。

お知らせ

<県薬が会員に販売している印刷物等>

- | | | | |
|------------|--------------|--|--------|
| ○管理薬剤師業務日報 | 1年分 1冊 600円 | ○薬歴カード | 各1枚 5円 |
| ○処方せん | 100枚 1冊 160円 | (国保(本人・家族) 青色)
(社保(本人) 白色)
(社保(家族) 桃色) | |
| ○お薬手帳カバー | 1枚 22円 | | |

【改訂版薄手お薬手帳】表紙色(薄青色) 14ページ 価格 税抜き 12円

【現行リニューアル版】表紙色(薄黄色) 34ページ 価格 税抜き 22円

平成29年度 第11回理事会 議事概要

日時：平成30年1月13日（土）19:00～21:30

場所：沖縄県薬剤師会館 研修室

<出席者>

会 長：亀谷浩昌
副 会 長：前濱朋子、江夏京子
理 事：山里勇、笠原大吾、川満直紀、佐藤雅美、渡具知一枝、新垣秀幸、上原卓朗、
盛島明隆（宮古地区代理）、我喜屋美香、荒井千春、吉富弓江、吉田洋史
監 事：友利弘一
欠 席：外間惟夫、西川裕、村田美智子、成川賢一、幸地良信
事 務 局：山城英人、大城喜仁、長嶺勇作

議題

(1) 委員会委嘱について

<資料配付>

（大城課長）

広報委員会に1名委員の委嘱を了承いただきたい。

了承された。

(2) 国公立大学への薬学部(科)創設について

<資料配付>

（亀谷会長）

当初は“琉球大学への薬学部(科)創設について”のためのタイトルで活動を進めてきたが、いろいろな方からのアドバイスがあり、琉球大学へ薬学部(科)が創設できなかった場合に活動しにくくなるのではないかと予想される為、“国公立大学への薬学部(科)創設について”へタイトルを変更したが、これで進めていいか審議して頂きたい。

審議した結果、タイトルに「沖縄県内の公立」を追加し“沖縄県内の国公立大学への薬学部(科)創設について”で活動を進める事で了承された。

(3) TOC計の機器購入について

<資料配付>

（前濱副会長）

資料をもとに試験検査センターの機器の購入について説明があった。試験検査センターで使用している機器は平成9年に購入し、メーカーの保守メンテナンスも終了している。また、検査結果が表示されない、センサーが反応しないなど業務に支障がでていたので購入してもいいか了承いただきたい。現在、複数社から相見積もりをとっており値引き交渉もおこなっていく。

了承された。

(4) 平成30・31年度日本薬剤師会代議員選挙・補欠の代議員選挙の実施について <資料配付>

（大城課長）

資料をもとに選挙告示日、選挙期日の説明があった。当会からは代議員に亀谷会長と前濱副会長、補欠代議員には江夏副会長を選出したいので了承いただきたい。

了承された。

報告（会）

- (1) 会営薬局の調剤保険料等について <資料配付>
- (2) 平成29年度第11回学校薬剤師部会役員会 12月10日／1月7日(日) 県薬 <資料配付>
(前濱副会長)
資料をもとに報告された。
- (3) 医療機器販売等の営業所管理者・医療機器修理業の責任技術者に対する継続研修
～平成29年度 高度管理医療機器等継続研修会～ 12月10日(日) 県薬 <資料配付>
(大城課長)
研修会第1章は吉田理事に講師をしていただき、第2～4章はニプロ(株)から講師をしていただいた。参加人数は160名であった。
- (4) 試験検査センター委員会 12月11日(月) 県薬 <資料配付>
(前濱副会長)
カフェインの大量摂取が高校生の間で問題となっている為、ドリンク剤のカフェインの量についても量っていきけるようにしたい。また、ダニ・アレルゲン検査について、収益部門として一般向けにも実施していきたい。については、取り組みとして、調剤薬局、医療機関の待合室の量、絨毯などを対象に実施できることを、県薬会報誌等でPRしていきたい。
- (5) 職業インタビュー 12月12日(火) 八重瀬町立新城小学校 <資料配付>
(大城課長)
八重瀬町教育委員会より講師派遣依頼があった。新城小学校で学校薬剤師をしている大城晴子先生を派遣した。
- (6) 沖縄県医療推進協議会 12月13日(水) ロワジールホテル&スパタワー那覇 <資料配付>
(亀谷会長)
同協議会は県民の健康増進と福祉の向上を図るため、沖縄県内における医療・介護・保健および福祉行政の拡充強化を推進する事を目的としている。決議事項では、一、国民が将来にわたり必要な医療・介護を安心して十分に受けられるための適切な財源の確保。一、国民と医療機関等に不合理な負担を強いている医療等に係る消費税問題の抜本的な解決があがった。また、医療行為を行うための資材には消費税がかかっており、診療報酬等では補てんが充分ではない為、非課税にしていきたいと訴えた。
- (7) 平成29年度第4回学術研修委員会 12月13日(水) 県薬 <資料配付>
(大城課長)
学術大会の反省会をした。また、次年度の学術大会の開催は沖縄県薬剤師会通常総会です承されれば、10月28日(日)としたい。実務実習生も参加できるようにする。
- (8) 上期監事監査 12月14日(木) 県薬
(山里常務理事)
平成29年度9月までの全会計監査を行い問題なく終了した。
- (9) 試験検査センター技術研修会 12月14・15日(木・金) 日薬 <資料配付>
- (10) 個別指導・新規個別指導 12月14・21日／1月11日(木) 那覇市第一地方合同庁舎
- (11) 平成29年度第3回 地域医療支援病院運営委員会
12月14日(木) 豊見城中央病院 <資料配付>
(亀谷会長)
地域連携を強化するための会議であった。また、診療科紹介でスポーツ整形から、肩・肘部

分の専門医は日本がとても進んでいると報告があった。

- (12) 平成29年度第1回 BLS講習会 12月14日(木) 県薬 <資料配付>
(吉田理事)

今年度からBLS講習会は災害対策委員会の事業になった。講習会参加人数は、BLS用シミュレータの数の都合もある為、参加者は8名であった。

- (13) 第2回臨床薬理学研修会(DVD研修) 12月14日(木) シモジ薬局 <資料配付>
(盛島氏)

宮古地区では初めて実施した。参加者は10名であった。

- (14) 平成29年度第3回広報委員会 12月14日(木) 県薬 <資料配付>
(大城課長)

事業計画案に新しく“沖縄県内に薬学部創設に向けての広報活動”を追加した。また、沖縄県民は薬の飲み残しが多いので医薬分業対策委員会委員に新聞論壇を投稿する予定。

- (15) 平成29年度日本薬剤師会卸薬剤師部会研修会 12月15日(金) スクワール麹町<資料配付>
(吉富理事)

日本薬剤師会副会長の石井甲一先生より敷地内薬局の誘致について、医薬分業の方向性と敷地内薬局の方向性が逆行しているとの訴えがあり、敷地内薬局の誘致を求めている病院は官公立が多いということも疑問をなげかけていた。また、ハーボニー配合錠に関しては、偽造医薬品流通が発覚してからの厚労省の動きがとても速く1年で法改正があったとの報告があった。本田あきこ先生からは、熊本地震の時の話があり、環境衛生を分からない他職種の方が多いので薬剤師が積極的に環境衛生を整えてあげる事が重要と話していた。最後に、九州北部豪雨を経験した日本薬剤師会副会長の田尻泰典先生より当時の薬剤師活動について報告があった。

- (16) 平成29年度第1回会営薬局委員会 12月15日(金) 県薬<資料配付>
(川満常務理事)

委員長、副委員長、書記を決めた。会営薬局とよみは以前と比べると薬局の雰囲気がいいと報告があった。また、電子薬歴音声システムの導入により業務効率が上がっているとの事。会営薬局うえはらに関しては、健康サポート薬局へ向けてうごいている状況である。

- (17) 平成29年度第1回日薬九州ブロック会議 12月16日(土) 鹿児島中央ビルディング<資料配付>
(亀谷会長)

議題①薬剤師会を巡る最近の課題については、日本薬剤師会へ調剤報酬改定における医科1.調剤0.3を維持するように要請をしたと報告があった。議題②ICT化への対応について、レセプトオンライン請求はほとんど出来ている状況であるが、電子薬歴については4割程しか出来ていないとの事。また、電子お薬手帳の対応については2015年7月に日本薬剤師会よりリリースしており、各薬局において電子お薬手帳のQRコードを患者へ渡すことができると認識しているとの事。議題③では、かりつけ薬剤師・薬局の充実強化や地域ケア包括システムにおける薬局・薬剤師の活用に向けて努力していくと話があった。議題④その他では、薬剤師資格証について話があり、昨年度末から日薬副会長、常務理事へ発行しており次年度4月には理事及び担当委員会を対象を拡大したいと報告があった。

- (18) 日薬九州ブロック会議・日薬連盟九州ブロック協議会 懇親会 12月16日(土) ホテルグランセレッソ鹿児島
日薬ブロック会議に引き続き亀谷会長が出席した。

(19) 琉球大学への薬学部（科）創設に関する署名活動への協力依頼

12月18日（月）沖縄県歯科医師会／12月19日（火）沖縄県医師会＜資料配付＞

12月21日（木）沖縄県看護協会

（山城次長）

琉球大学へ薬学部（科）創設に向けて署名活動をする事を伝え、県医師会、歯科医師会、看護協会へ訪問し、三師会とも協力していく事で了承を得た。

(20) 薬局トラブルに関する会議

12月18日（月）県薬

(21) 浦添市医師会訪問

12月19日（火）浦添市医師会

（前濱副会長）

報告事項（20）とまとめて報告。患者様より処方箋発行元のドクターへ浦添市内の棒薬局へのクレームがあった。浦添市医師会より薬剤師会を通して指導注意していただけないかとの事だった為、某薬局薬剤師を薬剤師会へ呼び、当時の状況等を聞き取り指導助言した。12月19日に浦添市医師会を訪問し今後の対応等を報告した。

(22) 第4回沖縄県医療費適正化計画検討委員会

12月20日（水）県庁＜資料配付＞

（亀谷会長）

医療費の適正使用を検討する会議であり、各職種から15名の委員で構成されている。医療費適正使用について、薬剤師がどういう風にかかわっていけるかを具体的に伝えた。

(23) 地域ケア会議（浦添市）

12月20日（水）同仁病院＜資料配付＞

（笠原常務理事）

公務の為、みね薬局の大城博次先生に出席して頂いた。

(24) 薬学生U・Iターンガイダンス

12月20日（水）徳島文理大学／12月22日（金）北陸大学＜資料配付＞

（川満常務理事）

沖縄県出身の学生が県内に戻ってきて就職しているのは5割しかない状況がある。学生からは沖縄県内の就職状況が分からなく不安があると話があった為、薬剤師会に連絡すると薬局や病院の見学等が出来る事を説明した。また、ふるさと実習をしていない大学もあるため広めていきたい。

(25) 平成29年度国民健康保険関係功績者厚生労働大臣表彰伝達式

12月21日（木）ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー＜資料配付＞

（山城次長）

前会長の神村武之先生が受賞した。

(26) 平成29年度第2回沖縄県地域医療対策協議会

12月22日（金）県庁

（江夏副会長）

会長が公務のため代理で出席してきた。沖縄県の医療提供体制の方向性を協議する会議であった。報告としては、①国が定めているベッド数が沖縄県は超えているので制限をかけているとの事。②北部地区では、県立北部病院と北部地区医師会病院を統合し新たな基幹病院の整備と整えていく。③八重山では、県立八重山病院を開設し、施設の充実、医師の確保、診療体制の強化に取り組んでいくと事になった。④沖縄県の平均寿命について男性が36位、女性が7位と下がっている為、県民の意識を高めることが必要との事。また、沖縄県内の薬剤師数は全国平均最下位と伝え、県内に薬学部創設に向けて署名活動を行うので協力して頂きたい。

(27) 平成29年度第4回地域保健委員会

12月22日(金) 県薬<資料配付>

(笠原常務理事)

①平成30年度事業計画については、概ね変更なしであったが、文言変更等があったので後日作成する。②薬局薬剤師によるアウトリーチ型健康づくり推進事業については、12月3日に久米島で開催した。来場者は約100名で相談員数は全員で22名であった。今後は、2月4日に八重山地区と西表島、2月11日に那覇・中部地区と南大東島で開催する。

(28) 薬剤師のためのフィジカルアセスメント研修会・特別研修会

12月24日/1月7日(日) 県薬<資料配付>

(笠原常務理事)

病院薬剤師会と共催している。開局からの枠が5名程なので、毎年各地区薬剤師会から1～2名が受講している。

(29) 会報取材

12月25日(月) 宮盛薬局

(大城課長)

宮盛薬局に取材に行ってきた。毎年12月25日は店内を飾り付け、クリスマスイベントを行っている。1、2月の薬剤師会報で掲載予定。

(30) 管理者会議

12月26日(火) 県薬<資料配付>

(山城次長)

各部署、3会営薬局から現状報告や問題点が協議した。

(31) 平成29年度第6回医薬分業対策委員会

12月26日(火) 県薬<資料配付>

(大城課長)

①高度管理医療機器継続研修会について、6年に1度の更新で忘れがちなので薬局に必ず掲示をするように啓発した。また、毎年12月の第2日曜日に開催しているが、県医師会の学会と同日となっており、隣接の医療団体の駐車場が借りることができず問題である。今回も沖縄県立南部医療センターこども医療センターの駐車場を借用したが、100台以上が駐車した。次年度は平成30年11月25日(日)の開催とする。②DEM事業の実施方法について、今回は調査結果の報告期間が長かったため、やりやすかった。薬剤師会にも質問、やり方についての問い合わせも多かったため、報告件数も増加したと思われる。③健康サポート薬局県内100軒実現に向けての研修会について、第1回は行政からも講師を呼び、健康サポート薬局実現のための届出・申請について、第2回はOTC導入について、第3回はNPO法人HAP理事長の宮原富士子氏に講演していただく。④厚生労働省 平成29年度かかりつけ薬剤師・薬局推進指導者協議会について、毎年、「医薬分業指導者協議会」の名称で開催してきたが、今年度からは名称変更と共に、処方箋受取率の推移をふまえ、かかりつけ薬剤師・薬局を推進する指導者の養成を目的として開催される。参加者は、西川委員長、中尾委員に決定した。⑤その他、(1) 医師会からの薬局へのクレームが多くなっている。門前のDrを通してクレームが来ている。内容は疑義照会、薬局の対応が悪い等ある。地区薬剤師会とも情報共有し話し合いが必要である。(2) 日本イーライリリーの調査では、沖縄県は残薬と飲み忘れが全国ワースト1位であるとのこと。この調査報告が地元紙にも掲載されており、県民向けに啓発の為の地元紙への執筆、投稿を西川委員長が常務理事としてすることになった。

(32) 各関係団体・機関への新年のあいさつ

1月4日(木)

県医師会・県歯科医師会・県小児保健協会・県保健医療部・琉大病院・豊見城中央病院(亀谷会長)

亀谷会長と山城次長で各関係団体へ新年のあいさつ回りをした。

(33) 平成30年 沖縄県小児保健協会新年会

1月5日(金) ダブルツリー byヒルトン那覇首里城 <資料配付>

(亀谷会長)

多数の方との懇談がたくさんできたのでよかった。

(34) 沖縄県看護協会 受賞祝賀会・新年会

1月6日(土) ダブルツリー byヒルトン那覇首里城 <資料配付>

(亀谷会長)

華やかであり、叙勲の受章者が3名、厚生労働大臣表彰受賞者が5人いた。会員数の多さを実感した。

(35) 平成30年沖縄県医師会新年祝賀会・医事功労者表彰式

1月6日(土) ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー <資料配付>

(亀谷会長)

多数のドクターと懇談をした。また、薬剤師会が薬学部創設に向けて活動していることをかなりの人がしており賛同しているようであった。翁長県知事も出席していた。

(36) 平成29年度沖縄県災害医療コーディネート研修

1月6日(土) 沖縄産業支援センター<資料配付>

(山城次長)

沖縄県主催の研修会で災害対策委員会から姫野耕一先生が出席した。また、災害対策委員会の委員に伝達する。

(37) 第58回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ in 九州・福岡

1月7・8日(日・月) 第一薬科大学 <資料配付>

(佐藤理事)

とくりん薬局前田店の宇津野宣仁先生、すこやか薬局ライカム店の金谷智尋先生、ハーブ薬局の照屋勇人先生が参加した。

(38) 社会保険診療報酬支払基金 幹事会・懇談会

1月10日(水) 自治会館

(亀谷会長)

支払基金では回収不能債権の処理をすすめていく。また、1月20日には、沖縄県看護協会にて「保険診療と審査を考えるフォーラム」が開催される。当会、医療保険委員長の仲眞良重先生がパネリストとして登壇する。

(39) 平成29年度第4回薬学生実務実習受入委員会

1月10日(水) 県薬 <資料配付>

(佐藤理事)

実務実習のマッチングについて、現在、指導薬剤師は70人程いるが、半分ほどは実務実習を受入れきれない現状があり、委員の先生たちに外部実習の調整やマッチングをお願いしているが、委員の人数も不足している為、増員を検討している。また、大学側から薬局はどの程度の実習ができるかという実習施設アンケートがおこなわれた。ついては、来年度は九州山口地区以外の学生のマッチングが20名おり、各薬局に依頼中であることが報告された。

(40) 平成29年度第4回在宅医療委員会

1月10日(水) 県薬 <資料配付>

(荒井理事)

1月28日(日)に会営薬局うえはらで無菌調剤室共同利用に関する講習会と在宅医療のための無菌調製実践講座を開催する。講座は①～⑥まであり担当の先生に講義していただきメーカーにも協力してもらおう。また、どの医薬品、機器が必要なのかを検討して準備を進めていく。

(41) 沖縄県歯科医師会新年会並びに叙勲・大臣表彰等受賞合同祝賀会

1月11日(木) ザ・ナハテラス <資料配付>

(亀谷会長)

那覇テラスで開催され、表彰式の後に懇談会があった。歯科医師10数人のグループでバンドを披露していた。城間那覇市長と比嘉なつみ議員も出席していた。

(42) 平成30年沖縄県警察年頭視閲式

1月12日(金) 北谷町営駐車場 <資料配付>

村田常務理事が出席した。

(43) 会営薬局とよみでの電子薬歴音声入力システムの導入について

<資料配付>

(川満常務理事)

会営薬局とよみでは、電子薬歴音声入力システムを導入したことで業務の軽減につながっている。現在、(株)リレーションズと沖縄東邦のデモ機で比較している。また、会営薬局うえはらもデモ機で試している。

(44) 薬剤師に対する行政処分について

<資料配付>

(大城課長)

厚生労働省より、全国における薬剤師14名の処分通達があった。

(45) 偽造医薬品の流通防止に係る省令改正について

(吉富理事)

10月5日に偽造医薬品の流通防止に係る省令改正が公表され、施行日は一部を除き、1月31日となっている。また、医療用医薬品を売買する場合には相手方の資格を確認・記録しないとけなくなり、今後、各卸からも薬局薬剤師に対して資格の確認をされると思われるので協力して頂きたい。ついては、県薬ホームページでも告知している為、内容を確認し、体制を整えていけるように周知徹底をお願いしたい。

(46) 人事異動について(2/1付)

(山城次長)

会営薬局医療センター前で勤務している當山直樹が、2月1日付で会営薬局うえはらに異動が決定した。

報告(薬連)

(1) 平成29年度日本薬剤師連盟九州ブロック協議会

12月16日(土) 鹿児島中央ビルディング <資料配付>

(亀谷会長)

日本薬剤師連盟の活動状況、直近の政治課題、組織強化、次期参議院選挙について協議がされた。

(2) 八重瀬町長選挙に関する意見交換会

12月17日(日) ニシメ恒三郎後援会事務所

(山城次長)

1月28日に投開票があるので応援の協力依頼があった。薬剤師連盟の役員にも確認し推薦状の交付をする事になった。

(3) 二階俊博自民党幹事長を囲む新春懇談会

1月4日(木) ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー

(亀谷会長)

今年は統一地方選があり、応援の要請であった。

- (4) 2018公明党沖縄県本部賀詞交歓会 1月5日(金) パシフィックホテル沖縄
(江夏副会長)
南城市と八重瀬町と名護市はじめ年内の選挙の応援お願いであった。
- (5) 衆議院議員 経済産業副大臣ニシメ恒三郎2018年新春の集い 1月6日(土) 豊見城市立中央公民館
亀谷会長、神村顧問、吉田幹事長、事務局の宮城が出席した。
- (6) 衆議院議員 コクバ幸之助 平成30年新春の集い 1月8日(月) 自治会館
亀谷会長、神村顧問、山城次長が出席した。コクバさんは比例区で2回当選しているの
で3回目の比例区当選は党内の規則があり難しい。次回は選挙区で当選しないと報告が
あった。
- (7) 自由民主党沖縄県連新春の集い 1月10日(水) ロワジールホテル那覇
亀谷会長、神村顧問、山城次長が出席した。
- (8) 南城市長選挙候補者 古謝景春氏推薦状交付 1月12日(金) 古謝景春選対事務所
亀谷会長、名嘉紀勝先生、山城次長が現城市長へ推薦状の交付をし、南城市内の薬局を訪問
し協力依頼をした。

会報原稿募集のご案内

広報委員会



おきなわ薬剤師会報は皆様の会報です。
広報委員会では、会員の皆様からの原稿や
作品を多方面にわたり募集致します。活発な
御投稿をお待ち致しておりますので、是非、
御協力下さいませようお願い致します。

【会報表紙及びカット写真】

写真にタイトルを付けて奮ってご応募願
います。写真の採否、掲載月については広報委
員会に一任頂きますのでご了承下さい。表紙
写真はカラー、カットについては白黒印刷と
なります。

【会員からの意見箱】

皆様の質問、意見、主張を掲載します(薬
剤師会活動や社会に対する本音など何でも結
構です)。日常業務の中での疑問、薬剤師会
活動、賠償責任保険、医薬分業、一般薬販売
等について質問を受け付けます。

- ・誌上匿名は可能です。
- ・回答者を指名されても結構です。

【寄稿コーナー】

勤務薬剤師としての立場から見られた日常
業務、過去、現在の職場に対する長短所・要
望等。若い先生方からの御意見、御投稿をお
待ちしております。

同時にベテランの先生方からの店舗経営に
関する事、開業顛末記等、今後の進路を決め
る若い先生方へのアドバイス等についても募
集します。

【会員作品・趣味のコーナー】

会員からの作品・趣味等を随時募集して
おります(手記、随筆、紀行文、詩、短歌、俳
句、川柳、写真、絵画、毛筆等の作品、ス
ポーツ同好会や趣味の集い等の紹介や活動状
況報告など何でも歓迎します)。

☆原稿送付先(会報に関する問い合わせ)

沖縄県薬剤師会事務局 大城まで 〒901-1105 沖縄県島尻郡南風原町字新川 218-10
TEL 098-963-8930 FAX 098-963-8932 e-mail: kouhou@okiyaku.or.jp

平成29年度 第12回理事会 議事概要

日時：平成30年2月10日（土）19:00～21:30

場所：沖縄県薬剤師会館 研修室

<出席者>

会 長：亀谷浩昌
副 会 長：江夏京子、前濱朋子
理 事：村田美智子、山里 勇、川満直紀、成川賢一、佐藤雅美、渡具知一枝、新垣秀幸、
下地 仁、幸地良信、荒井千春、上原卓朗、我喜屋美香、吉富弓江、吉田洋史
監 事：神谷朝雄
欠 席：外間惟夫、笠原大吾、西川 裕
事 務 局：山城英人、大城喜仁、松堂恵美

議題

- (1) 平成30年度事業計画案（第77回臨時総会）について 最終締切 2/16(金) <資料配布>
(山城次長)

昨年より各地区、部会へ事業計画案の提出を依頼している。まだの方は早めに提出するようお願いしたい。

- (2) 第78回定時総会開催【平成30年6月17日(日)13:30～】について
(山城次長)

平成30年6月17日（日）13時より沖縄県薬剤師連盟評議員会、13時半より沖縄県薬剤師会の定時総会を開催したい。

定時総会開催日程について、提案日開催で承認された。

- (3) TOC計、濁度・色度計の機器購入について <資料配布>
(前濱副会長)

濁度・色度計については、前回の理事会での承認後購入済。同理事会にてTOC計購入についても承認を得ていたが、予定していた機器では税制措置が受けられないことが判明したため、別の機種に変更したい。また今年度中に購入しても運用実績がなければ税制措置を受けられないため来期購入し申請を行いたい。

見積り等をもとに検討した結果、全員一致で承認された。

- (4) 委員会委嘱について <資料配布>
(我喜屋理事)

薬学生実務実習受入委員会の委員については実務実習指導薬剤師を中心に選任していた。現在は更に各地区担当者を置くようになっている。しかし今八重山地区の担当者がいない状況である。また、中部地区のエリアが広いため現人数では対応が難しい。そこで今回中部地区へ1名委員を追加したいが良いか。

全員賛成で承認された。

報告（会）

- (1) 会営薬局の調剤保険料等について <資料配布>

(2) 沖縄県放射線技師会新年祝賀会 1月14日(日) パシフィックホテル沖縄<資料配布>
(亀谷会長)

報告(10)と同時報告。沖縄県放射線技師会及び沖縄県臨床検査技師会より、今回はじめて新年祝賀会の招待を受けた。当日は4師会から参加していた。臨床検査技師会では現会長になってから会員が300人増加したとのことである。

(3) 自立を支援する地域ケア個別会議の助言者研修 1月14日(日) 沖縄リハビリテーション福祉学院<資料配布>
担当理事欠席のため資料参照。

(4) 平成29年度第2回薬剤師認知症対応力向上研修 1月14日(日) 県薬<資料配布>
(大城課長)

担当理事欠席のため代理として報告。当日参加者は41名。中尾滋久先生が講師を務めた。来月石垣でも開催予定である。

(5) 平成29年度小児救急電話相談事業#8000に関する協議会 1月15日(月) 沖縄県医師会<資料配布>
(吉田理事)

救急外来受診の前に専門家の判断を仰ぎ受診の是非を判断することで医師の負担を軽減することを目的とした事業である。会営薬局医療センター前での件数は年間4～50件。次年度より沖縄県では子供医療費が現物給付になるため、今後受診が増え相談件数が増加する可能性がある。それを踏まえた上で対応していく。現在19時から23時までの対応となっているが、今後平日は19時から翌朝8時まで、土日は24時間対応を考えており、コールセンター業者の利用も予定している。

(6) 平成29年度第2回沖縄県後期高齢者医療制度運営懇話会 1月16日(火) 沖縄県後期高齢者医療広域連合<資料配布>
(江夏副会長)

後期高齢者の人口は1年で約3,000人増加している。沖縄県の入院費は全国4位、入院外46位であり、外来受診を控えて重症化してから入院するという特徴がみられる。健診受診者の実態として、どの項目も全国平均より悪い。沖縄県は一人当たりの医療費について国民健康保険被保険者では全国47位と最も低くなっているが、後期高齢者被保険者となると全国12位である。全国平均は入院外来ともに50%であり、まず平均値に近づくよう取り組んでいく。

(7) 平成29年度第4回広報委員会 1月16日(火) 県薬<資料配布>
(大城課長)

会報の編集を行い、平成29年度誌上ギャラリー大賞・優秀賞を選定。大賞に廣川直子先生撮影の「チンクエ・テッレ」、優秀賞には吉富弓江先生撮影の「ダイバー泣かせの貿易風」が決定した。また医薬分業対策委員会の西川裕先生が県民向け啓発として、地元誌へ糖尿病薬の飲み忘れについての記事を投稿、近日掲載予定である。今後の取材予定として、2月にぎのぞ薬局のほか麻薬探知犬についての取材を予定している。

(8) 平成29年度第4回都道府県会長協議会・新年賀詞交歓会 1月17日(水) 日薬・明治記念館<資料配布>
(亀谷会長)

薬局、薬剤師の不祥事等を受け、倫理規程に代わって行動規範が制定された。平成30年1月17日の日薬理事会承認を受け、日薬会報3月号に解説入りで記載される。

(9) 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部主催「保険診療と審査を考えるフォーラム」

1月20日(土) 沖縄県看護研修センター<資料配布>

(山城次長)

社会保険診療報酬支払基金主催でフォーラムが開催され、仲真良重先生がシンポジストとして講演した。

(10) 平成29年度 沖縄県臨床検査技師会受賞祝賀会・新年会

1月20日(土) ダブルツリー byヒルトン那覇首里城<資料配布>

(亀谷会長)

報告(2)と同時報告。

(11) 平成29年度女性薬剤師部会第3回「妊娠・授乳とくすり」研修会

1月21日(日) 県薬<資料配布>

(村田常務理事)

行政が実施している乳幼児健診への薬剤師の参加を目指しており、その基本研修として開催している。参加者は57人名で約1割が男性であった。

(12) 沖縄県薬業連合会 平成29年度薬事功労受賞者合同祝賀会・新年会

1月21日(日) ダブルツリー byヒルトン那覇首里城<資料配布>

(亀谷会長)

吉田久子先生を筆頭に約20名の方々の受賞をお祝いした。今回よりダブルツリー byヒルトン那覇首里城にて開催。吉田先生より謝辞を頂いた。会員の林弘子先生がオペラ組曲を披露したほか、県薬ホームページのメンテナンス担当者が所属しているジャズバンドの演奏もあり、大いに盛り上がった。

(13) 沖縄県医療審議会

1月23日(火) 県庁<資料配布>

(亀谷会長)

第7次沖縄県医療計画の策定について検討した。ほぼ策定の最終段階であり、医療従事者の養成・確保の項目で「薬剤師の養成校の設置に取り組む」ことや薬剤師数の目標値が明記された。

(14) 健康づくり「リーダー養成講習会」 1月24日(水) 石垣市健康福祉センター<資料配布>

(幸地理事)

沖縄県老人クラブ連合会主催の講習会で、今回は4年ぶりに石垣市で開催された。八重山地区薬がくすりの正しい使い方についての講演を行った。40人が受講した。

(15) 平成29年度学校薬剤師部会全国担当者会議

1月24日(水) 日薬<資料配布>

(上原理事)

平良恭子先生と共に参加した。次年度の学校環境衛生基準の改正についての講義があり、湿度の基準や飲料水の水質についての説明がなされた。

(16) 平成29年度 BLS講習会

1月24日(水) / 2月8日(木) 県薬<資料配布>

(吉田理事)

定員9名の限定で募集した。同様の内容で3回実施し合計26名が参加した。来期も継続していく予定である。

(17) 地域ケア会議(浦添市)

1月24日(水) 浦添市中央公民館<資料配布>

笠原常務理事が出席した。

(18) おきなわ津梁ネットワーク運営協議会 1月24日(水) 沖縄県医師会<資料配布>
(亀谷会長)

薬局の利用料金が改定され、5000円から3000円へ引き下げられる。薬局の利用件数が少ないことについて、情報として病名記載されていないのが大きな要因ではないか、と改めて申し入れた。来月22日に県薬ホールで説明会があるので参加して欲しい。

(19) 平成29年度沖縄県競技力向上対策研修会

1月25日(木) 沖縄県立総合教育センター<資料配布>

(江夏副会長)

薬事情報センターの吉田典子先生が参加した。

(20) 結核予防会より来訪 1月25日(木) 県薬

(亀谷会長)

公益財団法人結核予防会より挨拶に来られた。沖縄県内の離島に薬局展開を考えているとのことである。

(21) 日本経済新聞より電話取材 1月26日(金) 県薬

(亀谷会長)

沖縄県のジェネリック普及率の高さについて取材を受けた。いろいろあるだろうが薬剤師のこれまでの取り組みや薬局独自の努力なども理由として考えられると伝えた。来週掲載される予定である。

(22) 健康サポート薬局研修会(A・B) in 宮古 1月28日(日) シモジ薬局<資料配布>

(下地理事)

笠原常務理事と松本圭五先生が講師であり、長時間に亘る講演をして頂いた。また、宮古島市地域包括支援センターひららの盛島香氏より地域の取り組みについて聞いた。当日は8名の参加があり、充実した内容であった。

(23) 会営薬局うえはら無菌調剤室共同利用に関する講習会と在宅医療のための無菌調製実践講座
(荒井理事)

当日は10名参加があった。在宅医療委員会の委員が講師を務めたほか、メーカーにも協力してもらった。今後も引き続き開催していきたいと考えている。

(24) 薬剤師確保事業に関する衛生薬務課との打合会議

(大城課長)

4月1日施行にあたり、県の衛生薬務課と会議を行った。奨学金返還助成について、県薬が県の委託事業として行う。既卒者及び新卒者対象とし、全体で20名枠。平成30年度に募集をかける。助成額について県からは、県30000円、薬剤師会30000円で計60000/月という案が出されているほか、返金義務無しの方で考えている。また賛助したい薬局や病院を募って拠出してもらおう等、予算の捻出方法については今後会議を持ち財務委員会に諮る予定である。

(25) 九州ブロック各県薬会長懇談会

1月28日(日) 会営薬局うえはら<資料配布>

1月31日(水) 県庁<資料配布>

1月31日(水) 福岡県薬

1月31日(水) 福岡県薬・グランドハイアット福岡<資料配布>

(亀谷会長)

主に次期日薬会長選挙について話し合った。

(26) 平成29年度第1回薬局実務実習受入に関する九州山口地区ブロック会議・懇親会

(佐藤理事)

亀谷会長と一緒に参加した。平成30年度より、新コア・カリキュラムに基づく評価のトライアルが受入全薬局で実施される。今年アドバンスワークショップ（認定指導薬剤師対象）も開催され、新コア・カリキュラムの内容を盛り込む予定である。現在薬学生実務実習の受け入れは年に3期だが、平成31年度より4期となるため、31年度の1期は2月開始となる（30年度内にスタート）。実習の順番も必ず薬局が先で終了後（間をあげず次の期）病院で行うことになっている。新コア・カリキュラムでは代表的な8疾患に対する実習が必要となるため、全疾患を1薬局で網羅できるか懸念していたが、病院実習と合わせて全疾患できたらよいとのことであった。次年度の指導薬剤師養成ワークショップについて、沖縄県は6名枠。7月15, 16日（福岡開催）に4名、平成31年2月10, 11日（熊本開催）に2名参加予定である。

(27) 平成29年度第4回沖縄県国民健康保険運営協議会 2月1日（木）県庁<資料配布>

(川満常務理事)

現在国保は市町村単位で運営しているが、次年度より県主体での運営となる。保険料に関しては、平成30年度はこれまでと同じだが、状況をみて保険者については見直しをしていくことになる。また、沖縄県としてはジェネリック目標値80%を目指し、早急に達成してほしいとのことであった。

(28) 個別指導・新規個導 2月1・8日（木）那覇市第一地方合同庁舎

(29) 平成29年度第2回災害対策委員会 2月1日（木）県薬<資料配布>

(吉田理事)

1月6日に開催された「平成29年度沖縄県災害医療コーディネート研修会」に、姫野耕一先生が参加し、その報告を受けた。今後同研修会には、委員会の他のメンバーも順次参加していく予定である。また、次年度の事業計画についても協議を行った。

(30) 平成29年度第2回医療保険委員会 2月2日（金）県薬<資料配布>

(川満常務理事)

主に次年度の事業計画や診療報酬改定について話し合いを行った。調剤報酬改定等説明会は3月25日開催する。また宮古・八重山についても4月初旬には開催予定である。

(31) 第13回うるま市生涯学習フェスティバル 2月3日（土）うるま市民芸術劇場

(大城課長)

当日はうるま市教育委員会表彰の表彰式があり、学薬の筋初子先生と瑞慶山純子先生が受賞した。

(32) 第2回 健康サポート薬局県内100軒実現に向けての研修会

2月3日（土）県薬<資料配布>

(大城課長)

西川常務理事の代理として報告。「健康サポート薬局実現のためのOTC導入について」と題し、盛本直也先生が講師を務めた。40名参加の参加があった。当日はメーカー3社が参加し、各ブースにて相談・交渉が行われた。今月はNPO法人HAP(Healthy Aging Projects For Women) 理事長の宮原富士子先生を招いて講演会を予定している。

(33) 平成29年度医療安全講習会 2月4日（日）県薬<資料配布>

(吉富理事)

147名の参加があった。「医薬品の安全使用のため業務手順書作成術」と題し、鹿児島県薬剤師

会医療安全委員会の今出唯史先生に講演して頂いた。手順書の見直しについては、事件・事故が起きたタイミングで見直すべきとのこと。県薬ホームページに箱理め版と見本を掲載しているので、参考にしてほしい。

- (34) 平成29年度研究倫理に関する全国会議 伝達講習会 2月4日(日) 県薬<資料配布>
外間副会長が参加した。内容は「臨床および疫学研究等に関する倫理審査について」であった。

- (35) アウトリーチ型健康づくり推進事業 健康とおくすり相談会
2月4日(日) 竹富町離島振興総合センター<資料配布>
(亀谷会長)

相談会前日に八重山入りし、当日に向けての説明会を行った。現地では新聞に折り込みチラシを入れたり、役場の有線放送にて朝昼晩(2日間程)宣伝するなど、万全な周知活動がされていた。当日は相談員が14名、相談者は14名であったが皆さん熱心で、帰りの時間ぎりぎりまでかかったが何とか全員の相談を受けることができた。

- (36) 平成29年度かかりつけ薬剤師・薬局推進指導者協議会
2月5日(月) 厚生労働省講堂<資料配布>
(大城課長)

西川常務理事と中尾滋久先生が参加した。2025年の地域包括ケアシステムの構築に向けて、今回より協議会名が変更された(旧名称:医薬分業対策会議)。内容については添付資料を参照してほしい。詳細は厚労省ホームページに掲載されている。

- (37) 財務関係打ち合わせ会議 2月6日(火) 県薬<資料配布>
(山里常務理事)

現在、県薬事務局及び会営薬局において欠員補充の求人をしているが、応募がない状態で業務に影響が出ている。ハローワーク担当者からは時給が低いとの意見があった。そこで県内求人状況を参考に、時給を740円から770円に上げて募集をかけることにした。

- (38) 平成29年度第2回沖縄県自然環境保全審議会 2月6日(火) 県庁<資料配布>
宮城敦子委員が参加した。

- (39) 平成29年度第3回薬事情報センター委員会 2月6日(火) 県薬<資料配布>
(吉富理事)

今回、医師から薬剤師に対する苦情があり、疑義照会の内容について勉強不足との指摘等を受けた。次年度の事業計画案としては県薬HPの「便利なリンク集」の管理や小児救急でんわ相談「#8000」の紙データのデータ管理を追加した。また地区のお薬相談会での質問記録を薬事情報センターの「おくすり相談室」の業務に反映させたいと考えている。そこで、相談のデータを提供して頂けるか各地区で検討をお願いしたい。

- (40) 社会保険診療報酬支払基金 幹事会 2月7日(水)
社会保険診療報酬支払基金沖縄支部<資料配布>
(亀谷会長)

1月20日に開催された「保健診療と審査を考えるフォーラムin沖縄」や調剤報酬金額の推移について報告を受けた。また、基金からは保険者の資格確認を徹底してほしいとの依頼があった。

- (41) 第17回沖縄県健康教育研究大会 2月8日(木) 豊見城市立中央公民館
(亀谷会長)

本会会員の受賞は沖縄県学校保健功労者表彰が3名、学校保健及び学校安全文部科学大臣表彰(伝達表彰)が1名であった。

(42) 第6回おきなわ津梁ネットワーク運営実行委員会 2月8日(木) 沖縄県医師会<資料配布>
(吉田理事)

今年度は、中核病院の参加を促すためにハードウェアの充実をはかった。参加薬局はまだ28軒であり、22日説明会の申し込みも少ない状況である。

(43) 平成29年度第4回沖縄県がん診療連携協議会 2月9日(金) 琉球大学医学部<資料配布>
(亀谷会長)

学生及び生徒から応募のあったガン予防に関するポスターコンテストの審査があり、3作品が選ばれた。この作品は今後1年間牛乳パックに印刷・掲載される予定である。

(44) 火災保険について <資料配布>
(山城次長)

以前契約した火災保険の内容が現状に良く対応していないため見直しをしている。現在、相見積もりを取って検討中である。

(45) 薬学部(科)創設に関する署名活動について <資料配布>
(山城次長)

署名用紙(4師会名入り)を作成、署名活動を開始した。年度末を締め切りとし目標は5万筆である。様々な機関・団体に協力願いを行っているが、今後もいろいろな形で多方面に呼びかけていきたいと考えている。理事の方々もぜひご協力をお願いしたい。

(46) 第7次沖縄県医療計画(案)について <資料配布>
(亀谷会長)

県から最終的な意見を求められているので、一度目を通し意見があれば上げてほしい。

(荒井理事)

小児医療と在宅医療のワーキンググループに参加したが、同医療計画の第7章「医療従事者の養成・確保」や第5章の「医療施策」の中の小児医療・在宅医療の項目では薬剤師がうたわれている。今後6年間で目標達成できるよう在宅委員会でも活動できるよう考えていきたい。

(47) 代議員立候補届等の受理について(通知) <資料配布>
(大城課長)

前回の理事会で承認された立候補者3名(代議員:亀谷会長、前濱副会長、補欠:江夏副会長)の立候補届と履歴書を日薬選挙管理委員会に提出し、受理された。2月9日に立候補者公示をした。他に立候補者がなく、無投票当選となり3氏が当選した。

(48) 会営薬局の状況について <資料配布>
(川満常務理事)

今日会営薬局とよみで薬剤師会議を行った。先日よりアミボイス使用している。入力を重視したいとのことで効率は良いようだ。また、動線を考え調剤室のレイアウトを変更したが、そこでも効率がだいぶよくなったと思う。現在は薬剤師のみでの会議をしているが、今後事務職員の見解を聞く場も設けたいと考えている。

(49) その他

(我喜屋理事)

昨年末におもろまちメディカルセンターにて、薬(向精神薬)の盗難事例があった。亀谷会長には報告済である。

(我喜屋理事)

大学の恩師より、「健康サポート薬局の質に影響を与える要因に関する質的研究」への協力

願いがあった。3月21日には「健康サポート薬局の質とは何か?」と題して日豪共同ワークショップを開催するそうである。亀谷会長は協力することを承認、沖縄県のサポート薬局の3薬局が取材を引き受けてくれた。

報告（薬連）

- (1) 島尻あい子 新春祝賀会 1月15日(月) 自治会館
- (2) 沖縄振興に関する「政策懇談会」 1月16日(火) パシフィックホテル沖縄
- (3) 岸田文雄 自民党政調会長を囲む懇親会
1月16日(火) ANAクラウンプラザ沖縄ハーバービューホテル
- (4) 衆議院議員 塩谷立自民党選対委員長各推薦団体会議
1月17日(水) コジャ景春選対本部事務所
- (5) 沖縄県薬剤師連盟 総務会 1月18日(木) 県薬
(山城次長)
1年半後の本田あき子氏選挙についての会議である。今後の行動計画ができていますので、今後地区まで周知し、協力をお願いしていく予定である。
- (6) 八重瀬町長選挙 新垣安弘氏推薦状交付 1月19日(金) 新垣安弘選対事務所
- (7) 薬局廻り（八重瀬町長選挙） 1月19日(金) 八重瀬町内
- (8) 名護市長選挙に伴う藤井もとゆき参議院議員・日薬連安東副会長来沖 1月23日(火)
名護市長選挙候補者 渡具知武豊氏への推薦状交付・薬局廻り
- (9) 名護市長選挙に伴う渡嘉敷奈緒美環境副大臣来沖・薬局廻り 1月31日(水)
- (10) 名護市長選挙対策 緊急団体幹部会合
2月1日(木) ANAクラウンプラザホテルハーバービュー
- (11) 名護市長選挙に伴う打上げ式 2月3日(土) 名護十字路

訃報

生前のご功績を偲び、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

金城 保景 先生（享年94歳） 平成30年6月6日ご逝去



会員にかかる弔事に関する薬剤師会への連絡について

会員及び一親等の親族のご不幸は、沖縄県薬剤師会へ御一報下さい。

（香典・生花等の手配があります）

※各地区、各支部及び、友人、知人の方、御一報よろしく申し上げます。

【連絡先】 県薬事務局（前原・大城）：098-963-8930

平成30年5月

- 2水○那覇地区学校保健会より来訪 県薬会長室 亀谷会長、新垣紀子氏
- 5土○ラジオ放送(琉球大学への薬学部(科)創設に関する署名協力について) 亀谷会長(出演)
- 7月○平成30年度第1期薬学生実務実習受入開始(5/7～7/22) 各受入薬局
- 薬学生オリエンテーション 県薬研修室 亀谷会長、佐藤理事、宮城幸枝氏、上間秀子氏
- 8火○沖縄県立精和病院より来訪 県薬会議室 亀谷会長、江夏副会長、仲真良重氏、山城次長、大城課長
- 平成30年度第2回幹事会 県薬会議室
- 9水○社会保険診療報酬支払基金幹事会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部 亀谷会長
- 平成30年度第1回九州山口地区薬剤師会薬局実務実習受入調整機関運営委員会 福岡県薬剤師会館 佐藤理事
 - 一包一話集発刊のお祝い 琉球放送株式会社 亀谷会長、神村相談役、前濱副会長、新垣正次氏、神山朝喜氏、池間記世氏、城間盛光氏、宮城敦子氏、鈴木一徳氏、大城課長
- 10木○平成29年度下期監事監査 県薬会議室 亀谷会長、友利・神谷両監事、山里常務理事、山城次長、事務局前原・上原
- 平成30年度第1回学術研修委員会 県薬会議室 亀谷会長
 - 第二回中部地区OACS(おきなわ喘息コントロールセミナー)講演会 中頭病院 共催：アステラス製薬株式会社
- 11金○沖縄県医師会会長訪問 ハートライフ病院 亀谷会長、山城次長
- 会営薬局うえはら賃貸契約(継続) 公証人役場 亀谷会長、山城次長
- 12土○平成30年度第2回理事会 県薬研修室
- 13日○第1回薬剤師のための緩和ケア研修会 都久志会(福岡県)
- 14月○平成30年度第1回会営薬局移転検討特別委員会 県薬会議室
- 15火○平成30年度沖縄県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会 サザンプラザ海邦 前濱副会長
- 16水○日本薬剤師会意見交換会 日薬 亀谷会長
- 平成30年度第1回都道府県会長会議 日薬 亀谷会長
 - 九州厚生局沖縄麻薬取締支所より来訪 県薬会議室 中村章弘氏、大城課長
 - 健康サポート薬局研修会ABに関する会議 県薬会議室 笠原・西川常務理事、上原理事、盛本直也氏、松本圭五氏、大城課長、事務局宮城
- 17木○平成30年度学校環境衛生・安全管理講習会 沖縄県立総合教育センター 講師：新垣紀子氏
- 沖縄県の糖尿病治療を考える会 ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー 共催：武田薬品工業株式会社
- 18金○日本スポーツ振興センターより来訪 県薬会長室 亀谷会長、大城課長
- 20日○那覇地区薬剤師会総会 県薬ホール
- 那覇地区薬剤師会特別講演会 県薬ホール
 - 平成30年度第2回学校薬剤師部会役員会 県薬部会室
- 21月○平成30年度第1回財務委員会 県薬会議室 亀谷会長
- 22火○平成30年度第3回幹事会(臨時) 県薬会議室
- 23水○琉球大学学生来訪(学生新聞「琉大ジャーナル」取材) 県薬会長室 亀谷会長、大城課長
- 24木○新規個別指導 那覇第一地方合同庁舎 社会保険医療担当：仲真良重氏・川満常務理事

- 24木○平成30年度患者のための薬局ビジョン推進事業打ち合わせ会議 県薬会議室 西川常務理事、山城次長、大城課長、事務局長嶺
- 24木○中部地区COPD講演会～息切れを意識したCOPDの診断と治療～ 中部地区医師会
- 25金○琉球新報社新本社ビル落成記念式典・祝賀会 琉球新報社新本社ビル 亀谷会長
- 八重山地区研修会アブレーション周術期における抗凝固療法 ANAインターコンチネンタル石垣レポート
- 25金○在宅医療委員会主催研修会 in 八重山(DVD研修) 大濱信泉記念館
- 26土○平成30年度第3回理事会(臨時) 県薬研修室
- 27日○平成30年度女性薬剤師部会総会 県薬ホール 亀谷会長
- 女性薬剤師部会主催第24回漢方講座 県薬ホール
 - 宮古地区薬剤師会総会 シモジ薬局 神村顧問
- 28月○九州山口地区薬剤師会薬局実務実習受入調整機関評議員会 福岡県薬剤師会館 亀谷会長、前濱副会長
- 平成30年度第1回九山代表者会議 福岡県薬剤師会館 亀谷会長、前濱副会長
 - 日薬九州ブロック代議員予備会議 福岡県薬剤師会館 亀谷会長、前濱副会長
 - スポーツファーマシスト委員会 県薬会議室
- 29火○未来の産業人材育成事業(講師派遣) 多良間小学校 講師：松尾はつよ氏
- 平成30年度健康サポートのための多職種連携研修会講師への説明訪問 訪問看護ステーションはえばる 笠原常務理事、大城課長
 - 平成30年度第51回定時総会(沖縄県青少年育成県民会議) 豊見城中央公民館 亀谷会長
 - 心不全と医療連携を考える 沖縄県医師会館 共催：日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社
 - 平成30年度第4回幹事会(臨時) 県薬会議室
- 30水○月次会計監査 県薬会議室 仲程みちの税理士、事務局前原・上原
- 31木○新規個別指導 沖縄県庁 社会保険医療担当：仲真良重氏・川満常務理事
- 平成30年度健康サポートのための多職種連携研修会講師への説明訪問 沖縄県社会福祉協議会 笠原常務理事、大城課長
 - 平成30年度沖縄県警察官友の会役員会(総会) サザンプラザ海邦 村田常務理事
 - 第3回吸入支援OkinaWa 沖縄県医師会館 共催：杏林製薬株式会社

平成30年6月

- 1金○平成30年度第1回表彰諮問委員会 県薬会議室 亀谷会長
- 糖尿病におけるアドヒアランスを再考する会 ザ・ナハテラス 共催：武田薬品工業株式会社
- 2土○平成30年度学校薬剤師九州ブロック連絡会議 宮崎県薬剤師会 亀谷会長、前濱副会長、村田学校薬剤師部会長
- 3日○北部地区薬剤師会学術研修会 ホテルゆがふいんおきなわ
- 認定実務実習指導薬剤師養成・更新講習会 県薬研修室
- 4月○社会保険診療報酬支払基金幹事会事前説明 県薬会長室 亀谷会長
- 未来の産業人材育成事業合同会議 沖縄県社会福祉協議会 大城課長
- 5火○平成30年度第1回沖縄県自然環境保全審議会 沖縄県庁 宮城敦子氏
- 東日本大震災支援協力会議解散総会 沖縄空手会館 亀谷会長

- 5火○ 第9回沖縄動脈硬化予防研究会 ダブルツリー byヒルトン那覇首里城 共催：バイエル薬品株式会社
- 平成30年度第5回幹事会 県薬会議室
- 6水○ 社会保険診療報酬支払基金幹事会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部 亀谷会長
- 「沖縄子どもの未来県民会議」平成30年度第1回総会 沖縄県庁 山城次長
 - 臨床及び疫学研究等に関する倫理審査の体制づくりについての協議会 琉球大学医学部附属病院薬剤部部長室 外間副会長、中村克徳氏、潮平英郎氏、中尾滋久氏、宮城幸枝氏、吉田典子(DI)、大城課長
 - なごみ会主催県民健康フェア第3回実行委員会 沖縄県医師会館 笠原常務理事、松本圭五氏、事務局長嶺
- 7木○ 薬剤師研修協議会連絡会 日本消防会館 外間副会長、山城次長
- 個別指導・新規個別指導 沖縄県庁 社会保険医療担当：仲真良重氏・宮城幸枝氏
 - 平成30年度第1回スポーツ医・科学委員会 沖縄県体協スポーツ会館 笠原常務理事、吉田典子(DI)
- 8金○ リウマチ膠原病最新治療研究会 ラグナガーデンホテル 共催：小野薬品工業株式会社
- 那覇整形外科リウマチセミナー ザ・ナハテラス 共催：ファイザー株式会社
- 9土○ 会営薬局とよみ薬剤師会議 会営薬局とよみ 川満常務理事、山城次長
- 平成30年度第4回理事会 県薬研修室
 - 青年部会情報交換会 那覇市内
- 10日○ 平成30年度医療通訳ボランティア育成講座 沖縄県国際交流・人材育成財団 講師：阪本崇彰氏（学術研修委員会）
- 平成30年度第3回学校薬剤師部会役員会 県薬部会室
 - 平成30年度第1回青年薬剤師部会主催実践薬学講演会 株式会社アトル沖縄営業部 亀谷会長
 - 中部地区薬剤師会総会 ちゃたんニライセンター 亀谷会長、大城課長
- 11月○ 琉球大学への薬学部創設を求める署名の提出についての事前打ち合わせ 琉球大学本部 山城次長・大城課長
- 沖縄県立精和病院との打ち合わせ 沖縄県立精和病院 西川医薬分業担当理事、荒井在宅医療担当理事、山城次長、大城課長
- 13水○ 平成30年度日本薬剤師会薬局実務実習担当者全国会議 慶応義塾大学芝共立キャンパス 佐藤理事、平田崇氏
- 琉球大学への薬学部創設を求める署名の提出 琉球大学 亀谷会長、江夏・前濱・外間各副会長、山城次長、大城課長、事務局花城
 - 平成30年度第1回おきなわ津梁ネットワーク運営実行委員会 沖縄県医師会館 吉田理事
- 14木○ 個別指導・新規個別指導 那覇第一地方合同庁舎 社会保険医療担当：仲真良重氏・川満常務理事
- おきぎんIR説明会～お客さまふれあいミーティング～ ロワジールホテル&スパタワー那覇 山城次長
 - 平成30年度第1回地域医療支援病院運営委員会 豊見城中央病院 亀谷会長
 - 平成30年度在宅医療委員会主催研修会（宮古開催） シモジ薬局
- 15金○ 未来の産業人材育成事業（講師派遣） 那覇市立石田中学校 講師：松尾はつよ氏
- 薬と健康の週間打ち合わせ 那覇市保健所 山城次長

- 15金○パーキンソン病講演会 ザ・ナハテラス 共催：大塚製薬株式会社
- 17日○**沖縄県薬剤師会第78回定時総会・懇親会** 県薬ホール・研修室
- 18月○平成30年度「健康づくり支援事業」第1回推進委員会 沖縄県総合福祉センター 渡具知理事
- 18月○平成30年度第1回在宅医療委員会 県薬会議室
- 19火○平成30年度健康サポートのための多職種連携研修会講師への説明訪問 沖縄県健康長寿課
笠原常務理事、大城課長、事務局宮城
- 沖縄県薬業連合会監事監査 県薬会議室
 - 会営薬局医事会議 県薬会議室
- 20水○沖縄県薬業連合会代表者会議 ダブルツリー byヒルトン那覇首里城
- 実務実習（学校薬剤師について） 県薬研修室 講師：知名博樹氏（学校薬剤師部会副部長）
- 20水○宮古地区研修会高齢者医療を考える会～心房細動と認知症について～ ホテルアトールエメラルド宮古島
- 21木○第85回那覇地区薬剤師会臨床講座 県薬研修室
- 臨床薬剤師育成研修会 株式会社琉薬
- 22金○八重山地区医師会学術講演会 アートホテル石垣島
- 23土○日本薬剤師会第91回定時総会（24日迄） ホテルイースト21 亀谷会長・前濱副会長
- 沖縄戦殉職医療人之碑へ慰霊** ひめゆりの塔構内 神村相談役、吉田理事、大城課長
 - 北部地区薬剤師会総会 ホテルゆがふいんおきなわ
- 24日○**第157回健康とおくすり相談会** サンエー那覇メインプレイス 担当：那覇地区薬剤師会
- 平成30年度沖縄県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動6.24ヤング街頭キャンペーン 県内各所
- 27水○月次監査 県薬会議室 仲程みちの税理士、事務局前原・上原
- 第17回心身医学学術講演会 ザ・ナハテラス 共催：Meiji Seika ファルマ株式会社
- 28木○個別指導 那覇第一地方合同庁舎 仲真良重・川満常務理事
- 第63回沖縄県薬業連合会理事会・総会及び懇親会** ダブルツリー byヒルトン那覇首里城 亀谷会長、山城次長
 - 糖尿病療養支援実践セミナー第18回コメディカル勉強会 中頭病院
- 29金○職業紹介責任者講習 中野サンプラザ（東京） 大城課長、事務局宮城
- 豊見城中央病院訪問 豊見城中央病院 亀谷会長、川満常務理事、山城次長
 - トータルケアセミナー in 八重山 インターコンチネンタル石垣リゾート

平成30年7月

- 3火○平成30年度第6回幹事会 県薬会議室
- 4水○平成30年度沖縄県病院薬剤師会精神科分科会勉強会 ダブルツリー byヒルトン那覇首里城
共催：大塚製薬株式会社
- 平成30年度第1回医療安全対策委員会 県薬会議室
 - なごみ会主催県民健康フェア第4回実行委員会 沖縄県医師会館 松本圭五氏、事務局長嶺
- 5木○個別指導 那覇第一地方合同庁舎 社会保険医療担当：仲真良重氏・宮城幸枝氏
- 平成30年度健康サポートのための多職種連携研修会講師への説明訪問 沖縄県消費生活

センター 笠原常務理事、事務局宮城

- 5木○ **第4回臨床薬理学研修会** 県薬ホール 講師：阪本崇彰氏（学術研修委員会）
- 6金○ 中部地区研修会糖尿病講演会 ～心腎連関について考える～ 中部地区医師会
- 7土○ 日本禁煙科学会主催第11回子どもの禁煙研究会 県薬ホール
- 8日○ **認定実務実習指導薬剤師養成・更新講習会 in 宮古** オリーブ薬局 病院前店 佐藤理事
 - **平成30年度新任新人薬剤師研修会** 県薬ホール
- 9月○ 大城琉球大学学長、宮崎政久氏との打ち合わせ会議 彦 本店 亀谷会長、江夏・前濱両副会長、山城次長、大城課長
- 10火○ 平成30年度第1回沖縄県地域医療対策協議会 沖縄県庁 亀谷会長
 - 平成30年度第1回地域保健委員会 県薬研修室
 - 健康サポート薬局関連研修会の打合せ会 県薬会議室 笠原・西川各常務理事、上原理事、盛本直也氏、松本圭五氏、山城次長、大城課長、事務局宮城
- 11水○ 日本薬剤師会意見交換会 日薬 亀谷会長
 - 平成30年度第2回都道府県会長会議 日薬 亀谷会長
- 12木○ 日本薬剤師会有功賞伝達表彰 金城薬局 金城孝有（受賞者）、大城課長
 - 平成30年度沖縄県学校保健会 南部合同庁舎 亀谷会長
 - 平成30年度学校保健及び学校安全表彰（文部科学大臣表彰）審査会 南部合同庁舎 亀谷会長
 - 南部地区臨床薬学セミナー 2018 豊見城中央病院 共催：小野薬品工業株式会社
 - 平成30年度第2回広報委員会 県薬会議室
- 14土○ 平成30年度沖縄県認知症疾患医療連携協議会 沖縄県医師会館 中尾滋久氏
 - 第6回琉球整形外科フォーラム パシフィックホテル沖縄 共催：中外製薬株式会社
 - 平成30年度第5回理事会 県薬研修室
- 15日○ 第60回認定実務実習ワークショップ(薬学教育者ワークショップ) in九州・福岡(16日迄) 福岡大学薬学部棟 上川畑 剛氏、藤原明人氏、古堅恵利氏、宮城友寛
 - **第11回 熟年の集い** ダブルツリー byヒルトン那覇首里城
 - **在宅医療委員会主催研修会(16日迄)** 県薬ホール
- 16月○ **第46回沖縄県薬剤師会学校薬剤師部会総会** 県薬研修室 亀谷会長
 - **平成30年度第1回学校薬剤師部会講習会** 県薬研修室 亀谷会長
- 17火○ 平成30年度健康サポートのための多職種連携研修会講師への説明訪問 沖縄県地域包括・在宅介護支援センター協議会 笠原常務理事、事務局宮城
 - テレビ3分間番組「がんじゅうタイム」メッセージ撮影 県薬会長室 亀谷会長
 - 中部地区研修会中部循環器懇話会 中部地区医師会
- 18水○ 平成30年度第1回沖縄県後期高齢者医療制度運営懇話会 沖縄県後期高齢者医療広域連合 江夏副会長
 - 会営薬局とよみ家主宅訪問 亀谷会長、山城次長
 - 平成30年度第1回琉球大学漢方医学研究会 琉球大学医学部附属病院クリニカルシュミレーションセンター
- 19木○ 沖縄県病院事業局局長訪問 沖縄県庁 亀谷会長、山城次長
 - 五者事務担当者(基金・三師会・協会けんぽ)打合わせ会 那覇市内 事務局長嶺
 - 平成30年度中部地区医師会糖尿病医療ネットワーク委員会 第1回勉強会 中部地区医師会

- 19木○平成30年度第1回薬学生実務実習受入委員会 県薬会議室
- 20金○第5回沖縄県身体・精神疾患研究会 沖縄県医師会館 共催：MSD株式会社
- 糖尿病と慢性腎臓病(CKD)～新しい展開～ ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー 共催：大塚製薬株式会社
 - 平成30年度沖縄県公務員薬剤師会退職者激励会・懇親会 ホテルパームロイヤルNAHA 亀谷会長、山城次長
- 21土○第15回沖縄小児内分泌研究会 ダブルツリー byヒルトン那覇首里城 共催：JCRファーマ株式会社
- 22日○平成30年度第2回健康サポート薬局に係る研修AB 県薬ホール
- 23月○第2回九州山口各県薬代表者会議 福岡県薬剤師会館 亀谷会長、前濱副会長
- 25水○沖縄県自殺対策トップセミナー 沖縄県市町村自治会館 亀谷会長、村田常務理事、事務局長嶺
- Okinawa Health Promotion Academic Meeting 沖縄県医師会館 共催：武田薬品工業株式会社
- 26木○なごみ会主催県民健康フェアPR 琉球新報・沖縄タイムス 笠原常務理事、事務局長嶺
- 那覇地区薬剤師会研修会 県薬研修室
- 28土○沖縄県病院薬剤師会HIV分科会第11回沖縄抗HIV薬勉強会 P'Sスクエア
- 29日○平成30年度女性薬剤師部会第25回漢方講座 県薬ホール
- 第158回健康とおくすり相談会 多良間村コミュニティ施設 担当：宮古地区薬剤師会、笠原常務理事・盛本直也、事務局長嶺
- 30月○新血管病セミナー～これからの脂質異常症治療へ～ 沖縄県医師会館 MSD株式会社
- 31火○月次会計監査 県薬会議室 仲程みちの税理士、事務局前原・上原

沖縄県薬剤師連盟会務報告

平成30年5月

- 2水○衆議院議員西銘恒三郎氏との打ち合わせ 県薬会議室 亀谷会長、前濱総務、山城次長／西銘恒三郎氏、秘書
- 14月○元衆議院議員 宮崎政久氏との打ち合わせ 宮崎政久後援会事務所 亀谷会長、山城次長
- 17木○平成30年度第1回全国会長・幹事長拡大会議 主婦会館 亀谷会長、前濱総務
- 17木○本田あきこ中央後援会第2回役員会 主婦会館 亀谷会長、前濱総務
- 19土○第2回那覇市長選挙選考委員会 パシフィックホテル沖縄 亀谷会長

平成30年6月

- 6水○沖縄県薬剤師連盟総務会 県薬研修室
- 11月○桑江朝千夫沖縄市長二期就任激励会 沖縄市体育館 亀谷会長・江夏副幹事長
- 17日○沖縄県薬剤師連盟評議員会 県薬ホール

平成30年7月

- 28土○衆議院議員コクバ幸之助対話集会 コクバ幸之助後援会 亀谷会長、神村顧問、山城次長

閉店の霹靂

晴天の霹靂と言う言葉がある。雲ひとつない青空が突如として霹靂（雷）とゲリラ豪雨になる。一昔前までは予測がつかず、大いに困惑したのだが、今日では気象衛星が打ち上げられ、予報科学の進展で早いうちから対策が取れるようになった。しかし人間が作り出す晴天の霹靂が何と多いことか。

政治の世界では「森友学園」「加計学園」の一連の問題である。証拠となっている文書、期日、場所、登場する人物の名前の記載した文書を突きつけられても、知らない、覚えがない、解釈の違いだとはねつける。責める側にも迫力に欠ける。そう言えば、嘘でも100回つけば真実（ホント）になるのを地で行くつもりかな。またスポーツの世界でも発生した日大アメフト部による悪質タックル。監督、コーチの指示で実行した選手は、自分の心の弱さを告白したが、2人はこれを否定する。しかし、これは社会が許さない。一連の事件は落着にはまだ時間がかかることだろう。

長い間生きていると社会的な霹靂を見聞きし、自分自身の上にかかる小さな霹靂も経験するのである。

小生の薬局の周りでここ数年の間にダイエーが閉店し、続いてデパート山形屋、三越が閉店したのである。どうしてあのお客さんが多い老舗が、と大いに驚いたものである。以前に商工会議所から回ってきたパンフレットに、商店・会社の平均寿命は35～40年くらいであると記されていたように記憶している。会社や商店は立ち行かなくなる原因には社会的変化がある。特に今日はITの目覚ましい進歩・価値観の変化による購買傾向の移り変わり、過度の販売競争があり、その狭間で小さい商店は後継者の問題もある。三越は大きく変わる社会の多様化する消費者のニーズに適切に対応する力が足りなかったと述懐したので覚えているのである。

小生が叔父から薬局を引き継いだ頃は、薬は定価で売るのが当たり前であった。大阪で

中内功氏が戦地から帰還して家業の薬局を継ぐことになった。まず疑問に思ったのは、薬が定価で売られている事だったと言う。安売りの始まりだっただろう。主婦の店ダイエーがスタートした。同じ商店、同じ品質の物は1円でも安く買いたいという消費者の心情を鷲掴みにした。「我が安売り哲学」という著書もある。氏は全国の小売業者を敵に回したが、消費者・大衆を味方にし、あつという間に全国展開をし、地盤を築いた。価格破壊の時代と言われた。

このダイエーが1975年に沖縄に進出したのである。沖映通りにダイナハという名前だった。当初、地元の小売業者組合は戦々恐々だったが、大衆に支えられたスーパーには抗し難く共存共栄を模索したのである。時間と共にダイナハは地元にしっかりと定着したのである。そんな流れがあって薬局・薬店でも他より安くしてお客さんを増やしたいと欲が出る。今までは無風状態だったここでも価格の崩れが始まった。乱売といったものである。それに対抗する者達は差別化として相談薬局を目指し、漢方専門薬局とか皮膚病専門薬局とか専門性をアピールした。そのような同志の者が集まり、JPSとか薬局協励会と言った研究グループが出来たのであった。

さて、こんな流れの中で国の方針、日本薬剤師会の努力、県薬剤師会の頑張りをバックグラウンドにして各地でマンツーマンの調剤薬局が増えてきた。そんな中で、平成8年に県立那覇病院が院外処方箋の発行に踏み出した。そこで那覇市薬剤師会では患者さんのために待たさない調剤・ゆとりのある調剤をスローガンに、備蓄センターを兼ねた「よぎ薬局」を設立した。勿論、経営維持の処方箋を確保した上で、それ以上の処方箋はFAXコーナーを通じて各薬局に応需してもらったものである。また、分業が進んだ大きな一歩であった。

小生の薬局もこのような経過を辿って調剤

薬局となっていた。長い間には色々なエピソードが生まれる。こんな事があった。

朝、出勤するとシャッターに鍵がかかっている。ハッとする。案の定、店内が荒らされている。現金と高額ドリンク剤がごっそり、更に前日にもらった法事のお返しの米がない。生活臭を漂わせた泥棒さんである。平成2年には漏電から火事になった。知らせで駆けつけると消火の最中である。水浸しとなった店舗、黒いススと焼け臭い、もうこれで終わりかと思った。お隣近所の方々、関係者の方々に大いに迷惑をお掛けしたものである。エピソードというにはあまりにも悲しい話である。

十数年前にもう1つの薬局に移籍してからは、投薬の済んだ患者さんの対応を妻が引き受けたのである。帰る患者さんに声をかけ短い世間話をすると、この人なら話せると心を許すのだろうか。独り暮らしの寂しさ、高齢者の悩み、メンタルの不調の人、人間関係での疲れなどを話しかけてくる。妻は時間をかけて聞いてあげる。人に聞いてもらう、人に話すと心のわだかまりが軽くなって気分も晴れるのだろう。このようなお客さんが多くなり相槌を打つのも疲れるといふ。どうだね「聞き家」の看板を出したら…と言ったものである。

さて、我が薬局も色々な事情もあり、また、会社・商店の平均寿命に達したので、ここで閉局しようと思った。しかし、「聞き家」のお客さん達の事を考えると、つい2年くらい引っ張ってなかなか実行ができなかった。しかし、平成29年11月30日を閉店と決め、直近の3ヶ月の患者さんに『閉店のお知らせ』のハガキを発送したのである。早速、電話があったり、顔を見に来たよ！と手を握った。対応に忙しくなった。いきなりハガキをもらった人にとっては晴天の霹靂、イヤ、閉店の霹靂だったのだろう。50年近い歴史は重みがあり、片付けには時間がかかる。妻が頑張ってくれた。

最後にチリ一つなくガランとした店の真ん中で2人並んで長い間、心と生活を支えてくれたことに感謝を込めて深々と頭を垂れた。不思議と清々しい気持ちである。壁についたシミは年輪である。

橋の下



転載記事

平成30年5月20日(日) 琉球新報

琉球新報 2018年5月20日

吉田 洋史 県薬剤師会理事



薬をただ渡すだけではなく理解し正しく安全に飲んでもらって、効果を最大限発揮できるようなお手伝いするのが薬

日本薬剤師会が今年新たに「薬剤師行動規範」を制定しました。日々の薬剤師業務を行うに当たつての規範です。薬剤師職能の基本原則に立ち戻り、その社会的使命、責任などを踏まえ、薬剤師の在りようを指し示しています。「患者の自「決定権の尊重」「差別の排除」「学術発展への寄与」「職能の基準の継続的な実践と向上」「国民の主體的な健康管理への支援」「医療資源の公正な配分」という項目も盛り込まれました。現実はまだまだ努力が足りていないということなのでしょう。薬をただ渡すだけではなく理解し正しく安全に飲んでもらって、効果を最大限発揮できるようなお手伝いするのが薬

理想に向かう薬剤師 東風

薬剤師の本来の使命です。服薬情報の一元的な把握、薬学的管理、24時間対応、在宅訪問、医療機関との連携を行う「かかりつけ薬局・薬剤師」としての役割があります。十分に力を出し切れずに、沖縄は人口当たりの薬剤師数が全国一少なく、調剤をこなすだけでマンパワー不足なのです。

また、地域の身近な存在として健康の維持・増進に関する相談を幅広く受け付け、適切な専門職種や関係機関に紹介し、率先して地域住民の健康サポートを実施していく役割など、薬剤師の活動は広がりを見せています。県内に薬学部創設を求める署名活動を行い、3カ月間で当初の目標5万をはるかに上回る10万筆を集めることができました。皆様の活動へのご理解、ご協力に心から厚く感謝申し上げます。ありがとうございます。この多くの県民の思いを国へ伝え、県内で優秀な薬剤師が育成されるよう、水準の向上に貢献していくは、さらなる取り組みに邁進してまいります。

1973年大阪府出身。宮古島の病院を経て独立し、吉田薬局はんだがわ店管理薬剤師。県薬剤師会理事で災害やITを担当。県薬物乱用防止指導員、学校薬剤師、在宅訪問、お薬相談を行う。2015年7〜12月に「南風」執筆。

◆このコラムは「南風」執筆者のOB・OGが担当します。

※発行元が記事利用を許諾しています。

転載記事

平成30年6月26日(火) 沖縄タイムス

従軍の祖父思い追悼

糸満 殉職医療人碑で参拝

【糸満】沖縄戦で犠牲にな

った医師、薬剤師ら50人がまつられる市伊原の沖縄戦殉職医療人之碑。23日、第2代県薬剤師会長の故長田紀助さんの孫紀与志さん(66)らが参拝した。

紀助さんは沖縄戦当時、軍命で本島南部の戦闘に薬剤師として従軍した。任務は詳しく分かっていないが、玉城村(現南城市)系数付近で亡く

祖父長田紀助さんがまつられる沖縄戦殉職医療人之碑に献花する紀与志さん(23日、糸満市伊原

なったという。

祖父に会ったことがない紀与志さんにとって、親戚から聞く紀助さん像は「日本が必



ず戦争に勝つと信じた人間」だった。「疑問も抱かず、懸命に任務を果たしたのだろう。自身も耳鼻科医として働く医療人。紀与志さんは碑に手を合わせ、戦場にいた祖父と自分を重ねて思いを寄せた。

参拝した県薬剤師会の神村武之相談役(70)は「先輩方は、医療人として一人でも多くの命を救いたいと願っていたと思う」と話した。

平成30年6月25日(月) 琉球新報

薬剤師や医師ら 殉職医療人追悼

沖縄戦、軍属として従軍

県薬剤師会と県医師会、県歯科医師会は23日、糸満市伊原のひめゆりの塔近くの「沖縄戦殉職医療人之碑」に献花し、戦没者を追悼した。県薬剤師会によると、沖縄戦では県内外出身者の約10人の薬剤師が軍属として従軍した。



沖縄戦殉職医療人之碑の前で追悼する関係者ら(23日、糸満市伊原)

県薬剤師会の神村武之相談役は「医療を担う者として、これからも職務ができ

るよう見守りくださいと祈った」と語った。軍属として南部で戦没した県薬剤師会2代目会長・長田紀助さんの孫で、医師の長田紀与志さん(66)は「那覇市には祖父は『日本は勝つ』と考え、一生懸命働いていたと聞いている」と述べ、手を合わせた。

沖縄戦殉職医療人之碑は1948年に建立され、毎年関係者が慰霊している。

※発行元が記事利用を許諾しています。

転載記事

平成30年4月29日(日) 琉球新報

後発薬、沖縄使用1位

下位都道府県は重点地域

価格の安いジェネリック医薬品（後発薬）の普及を目指す厚生労働省が、後発薬の使用が進んでいない都道府県を「重点地域」として指定する。膨張する医療費に歯止めをかける狙い。今夏までに10都道府県を選び、啓発活動などの実施を促す。沖縄は使用割合が80・4%で全国一高い。

厚労省、医療費抑制狙う

後発薬は、新薬の特許が切れた後に同じ有効成分を使って製造された薬。研究開発のコストが抑えられるため、新薬の半額程度の価格で販売されている。高額な新薬が次々と登場し、医療費の中でも薬剤費の伸びが目立つ。政府はこの費用を抑制するため、2020年9月までに後発薬の使用割合を80%とする目標を掲げ、使用促進に力を

入れてきた。その結果、17年の後発薬の使用割合は約66%と、約33%だった05年の2倍に。厚労省の推計では、15年度は後発薬使用により約9400億円の医療費が削減された。

厚労省はさらなる普及のため、10都道府県を重点地域として指定し、改善を促す。使用割合の低さだけでなく、人口の多さや医療費の規模の大きさも考慮す

る。

厚労省は本年度予算に約9千万円を計上、指定した都道府県に補助金を交付する。なぜ普及が遅れているか問題点を調査し、後発薬への理解を深めてもらうためのポスター作成や、医師と薬剤師が連携する仕組み作りなどに取り組む。同省の担当者は「各地の実情に応じたアプローチで使用を促してほしい」と話している。

医療費の伸びと薬剤費、高齢化などの影響で医療にかかる費用は膨らみ続けている。2015年度の医療費総額（国民医療費）は42兆4千億円。06年度からの10年間で9兆円超増え、約1・3倍となった。その中でも薬にかかると費用の伸びが顕著

順位	都道府県	使用割合
1	沖縄	80.4%
2	鹿児島	77.3
3	岩手	75.9
4	宮城	74.6
5	青森	74.2
38	神奈川	68.0
39	香川	67.3
40	広島	67.2
41	京都	66.8
42	大阪	66.6
43	大和歌山	66.5
44	東京	65.2
45	高知	64.4
46	山梨	63.6
47	徳島	61.3

※厚生労働省調査 2017年9月時点
ジェネリック医薬品使用割合の上位と下位

薬の価格を引き下げたりして抑制に取り組んでいる。

※発行元が記事利用を許諾しています。

平成30年3月13日(火) 沖縄タイムス

消費者トラブル相談室

- 消費者ホットライン ☎188(いやや、泣き寝入り)
- 那覇市消費生活センター ☎098(862)3278
- 沖縄市消費生活センター ☎098(929)3140
- 宜野湾市消費生活センター ☎098(893)4136
- うるま市消費生活センター ☎098(973)5692
- 沖縄県消費生活センター ☎098(863)9214

Q 健康に関する講話が開ける催しに誘われ、糖尿病や高血圧など健康上の不安があったので参加した。講話後、健康食品の販売があり内容にも関連がある商品だったので半年分を購入した。服用していたが体にかゆみが出たので開封していないものは返品したい。(70代男性)

A 事例は訪問販売に当たりますが、クーリングオフ期間を過ぎていたので、かゆみが出たため服用し続けられないことを理由に返品

健康食品を服用 体に合わず返品

希望を申し出たところ、未開封の商品の返品と返金に応じてもらえました。

健康への関心は年齢を問わず高く、事例のような販売方法以外にも、インターネット通販やテレビショッピングなどでさまざまな健康食品を購入することができ、効果を期待させるような広告もあふれています。

健康食品は通常の食品よりも「健康に良い」などの表現で売られています。法律での規制がある「医薬品（薬）」とは違い、法律で定められた定義はなく、あくまで食品（加工食品）なので効能・効果をうたうことはできません。ただし特定保健用食品（トクホ）、栄養機能食品および機能性表示食品については限られた範

利用前に医師・薬剤師へ相談

囲で特定の保健機能や栄養機能を表示することが認められています。

健康食品の中にはサプリメントと呼ばれる、特定の成分が凝縮されている錠剤やカプセルもあります。効果を期待して取りすぎたりすると健康障害を起こす可能性もあります。サプリメントを含む健康食品の成分によっては「医薬品（薬）」の効果を弱くしたり、副作用を強くしたりすることがあるので、病院で処方された薬を飲んでいる人は、健康食品を利用する前に医師や薬剤師に相談しましょう。もし体に不調を感じたら、すぐに飲むのをやめ、かかりつけの医師の診察を受けましょう。(沖縄市消費生活センター)

※発行元が記事利用を許諾しています。



誌上ギャラリー
(会員作品)
お気軽にご投稿下さい。